平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

会 期 日 程

平成31年第1回伊仙町議会定例会会期日程表

平成31年3月7日開会～3月20日閉会 会期14日間

月	日	曜	会議別	日 程	備 考
3	7	木	全員協議会	○全員協議会	
			本会議	○開会 ○会議録署名議員の指名 ○会期の決定 ○諸報告 (1) 諸般の報告 (議長の動静) (2) 行政報告 (町長) ○同意 1件 (提案理由～質疑～討論～採決) ○議案 6件 (提案理由～質疑～討論～採決) ○補正予算 7件 (提案理由～質疑～討論～採決) ○平成31年度施政方針 ○当初予算議案上程 7件 (提案理由の説明) ○当初予算審査特別委員会設置、付託の説明・一問一答	
〃	8	金	本会議	○一般質問 (樺山議員、前議員、清議員、西議員、佐田議員 5名)	
			全員協議会	○全員協議会 (保健センター説明)	
〃	9	⊕	休 会		
〃	10	⊕	休 会		
〃	11	月	特別委員会	○当初予算審査特別委員会現地調査	
〃	12	火	特別委員会	○当初予算審査特別委員会 (補足説明～質疑)	
〃	13	水	特別委員会	○当初予算審査特別委員会 (補足説明～質疑)	
〃	14	木	特別委員会	○当初予算審査特別委員会 (討論～起立採決)	
〃	15	金	休 会		

3	16	⊕	休 会		
〃	17	⊖	休 会		
〃	18	月	休 会		
〃	19	火	休 会		
〃	20	水	全員協議会	○全員協議会・常任委員会（委員長報告検討・閉会中の継続審査について）	
			本会議	○平成31年度予算審査特別委員長報告～質疑～討論～起立採決 ○議員の派遣について（議決事項） ○閉会中の継続審査・所管事務調査（議運・総文厚・経建委員会） ○閉会	

平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

第 1 日

平成31年 3 月 7 日

平成31年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第1号）

平成31年3月7日（木曜日） 午前10時05分 開議

1. 議事日程（第1号）

- 開会の宣言
- 開議の宣言
- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸報告
- 日程第4 同意第1号 教育委員の選任（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第5 議案第1号 伊仙町立西公民館の指定管理者の指定（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第6 議案第2号 伊仙町課設置条例の一部を改正する条例（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第7 議案第3号 伊仙町税条例の一部を改正する条例（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第8 議案第4号 伊仙町医師修学資金貸与条例の制定（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第9 議案第5号 伊仙町義務教育就学児医療費の助成に関する条例の制定（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第10 議案第6号 伊仙町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第11 議案第7号 平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第12 議案第8号 平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第13 議案第9号 平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第14 議案第10号 平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第15 議案第11号 平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算（第5号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第16 議案第12号 平成30年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算（第4号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）

- 日程第17 議案第13号 平成30年度伊仙町上下水道事業会計補正予算（第4号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）
- 日程第18 平成31年度施政方針
- 日程第19 議案第14号 平成31年度伊仙町一般会計予算（提案理由説明～当初予算審査特別委員会付託）
- 日程第20 議案第15号 平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算（提案理由説明～当初予算審査特別委員会付託）
- 日程第21 議案第16号 平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算（提案理由説明～当初予算審査特別委員会付託）
- 日程第22 議案第17号 平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算（提案理由説明～当初予算審査特別委員会付託）
- 日程第23 議案第18号 平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算（提案理由説明～当初予算審査特別委員会付託）
- 日程第24 議案第19号 平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算（提案理由説明～当初予算審査特別委員会付託）
- 日程第25 議案第20号 平成31年度伊仙町上水道事業会計予算（提案案理由説明～当初予算審査特別委員会付託）

1. 出席議員（13名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	杉山 肇 君	2番	牧本 和英 君
3番	西 彦 二 君	4番	佐田 元 君
5番	清 平 二 君	7番	牧 徳久 君
8番	上木 千恵造 君	9番	永田 誠 君
10番	福留 達也 君	11番	前 徹志 君
12番	明石 秀雄 君	13番	樺山 一 君
14番	美島 盛秀 君		

1. 欠席議員（1名）

6番 岡林 剛也 君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 穂 浩一 君

事務局書記 元原 克也 君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	大久保 明 君	副町長	稲 隆 仁 君
総務課長	池田 俊博 君	未来創生課長	久保 等 君
税務課長	名古 健二 君	町民生活課長	福司 銀二郎 君
保健福祉課長	澤 佐和子 君	経済課長	仲島 正敏 君
建設課長	松田 博樹 君	耕地課長	上木 正人 君
きゅらまち観光課長	佐藤 光利 君	水道課長補佐	徳永 正大 君
農委事務局長	元田 健視 君	教育 長	直 章一郎 君
教委総務課長	水本 斉 君	社会教育課長	稲田 良和 君
学校給セ所長	伊藤 勝徳 君	ほーらい館長	重村 浩次 君
選挙管理委員会書記長	喜 昭也 君	総務課長補佐	寶 永英樹 君

△開 会（開議） 午前10時05分

○議長（美島盛秀君）

ただいまから平成31年度第1回伊仙町議会定例会を開会します。

これから、本日の会議を開きます。

△ 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（美島盛秀君）

日程第1 会議録署名議員の指名をします。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、牧本和英君、西 彦二君、予備署名議員を佐田 元君、清 平二君を指名します。

△ 日程第2 会期の決定

○議長（美島盛秀君）

日程第2 会期の決定について議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日3月7日から3月20日までの14日間としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

異議なしと認めます。したがって、本定例会の会期は、本日3月7日から3月20日までの14日間と決定いたしました。

なお、会期日程につきましては、お配りしてあります日程表のとおりです。

△ 日程第3 諸報告

○議長（美島盛秀君）

日程第3 諸般の報告を行います。

初めに、議長より平成30年第4回定例会以降、本定例会までの諸般の報告を行います。

議長の動静等報告については、皆様方のお手元に配付してあります。したがって、主な項目についてだけご報告いたします。

平成31年第1回伊仙町議会定例会においての諸般の報告をいたします。

12月20日、災害復旧支援要望提出書のために県知事と県議会議長に町長と一緒に県庁へ陳情に行きました。

1月2日に平成31年度の成人式には一らい館に出席いたしております。

1月4日に消防出初式、時間がございませんので、お手元に配ってある諸般の報告、主なものについて説明をいたします。

1月9日、大島郡正副議長研修会に奄美市でありまして研修に行きました。今後の町村議会のあり方と、あるいはまた、今後の議会議員としての活動等についての研修を県の事務局のほうから研修をさせていただきました。実りある研修でありまして、議員の皆さんにはその要項等をお配りしたところであります。

26日には、徳之島観光連盟の新年会がほーらい館でありまして、参加をいたしました。今後の徳之島の観光について、世界自然遺産登録に向けての今後の取り組みについて、真剣に議論を交わしたところであります。

我々伊仙町議会としても今後この世界自然遺産に向けての取り組みについて、もっともっと学習しなければならない点があるのではないかと思ったところでありました。

31日には、奄美・やんばる広域圏交流推進協議会が名護市のほうでありました。やはり、奄美・やんばる広域圏というのは、奄美と似たようなところでありまして、1市12町村からなる広域連合であります。今後、奄美沖縄ホッピングルートも開設されておりまして、奄美・やんばるとの交流をこれからも盛んにして、観光地沖縄のお客さんが徳之島にも流れてこられるような、今後取り組みを行っていかなければならないのではないかという思いをしてまいりまして、さらには名桜大学でございまして、伊仙町出身の講師の方が名桜大学にいらっしやいまして、また、奄美大島や徳之島町、天城等の数名の生徒さんが参加をして交流を求めることができました。

この奄美・やんばる広域というのは、やはり、私たち奄美にとっては身近な広域活動ができる場ではないかという思いをいたしたところでありまして、またさらに、この広域圏には名護市は農業を主体とした事業が進んでおりまして、なごアグリパークという素晴らしい施設が29年度に完成をいたしまして、視察をしたところでありますので、今後、我々も農業振興にはもっと力を入れて、観光につながる農業政策を考えなければいけないのではないかという思いをしたところであります。

2月に入りまして14日に徳之島3町議会議員大会が天城町のほうでありまして、徳之島3町が抱えるいろいろな課題について議論を交わしたところでありました。3町の町長を初め、県議会議員が参加をいたしました。また、さらには、今年は地域協力隊員の皆さんが参加をして、それぞれの町の活動内容等を報告していただき、また、今後の島における、各町における課題等を発表していただきまして、素晴らしい議員大会が行われたのではないかと感じております。

16日に保岡興治先生の叙勲の祝賀会に参加をいたしました。47年間、国政に携わってきたということでありまして、政治家保岡興治の本物の姿を見た感じをしたところであります。

21日に鹿児島県町村議会議長会の総会が奄美市で8年振りだったのですか、に行われたということで、県下の議長が参集いたしまして、県下のそれぞれの町村における課題等が議論されたところでありました。

24日には第7回“とくの島”観光・物産フェア in 東京が、代々木公園で開催されました。副議長と一緒に参加をいたしました。2万5,000人以上の方がいらっしやっていたということで、回っていますと、もう何十人という島出身、徳之島出身の方々や知り合いの方々に会えることができ、

いろいろ意見交換をする機会がありました。やはり、関東にいる郷友会の皆様方ともさらに交流を深め、懇親を深めて、島の発展のために、そして郷友会の皆さんの今後の活躍のために頑張っていかなければいけないのではないかという思いをして、帰ってきたところでありまして、素晴らしいこういうお祭りが東京でも行われているということを感じて帰ってまいりました。参加をしたところであります。

以上で諸般の報告を終わります。

伊仙町監査委員より、定期監査及び2月までの毎月出納検査の結果、事務事業及び予算執行において改善すべき点が見受けられるとの報告がなされております。閲覧を希望される方は、事務局に常備いたしておりますので、ご確認ください。

次に、町長から行政報告の申し出がありますので、これを許します。

○町長（大久保明君）

おはようございます。町長の行政報告を行ってまいりたいと思います。

まず、これちょっと抜けておりましたけれども、12月17日にカムイヤキシンプोजウムが平成14年以来、16年振りに開催されまして、その間のこのカムイヤキの研究調査が飛躍的に進んで、そして国の指定を受けることもできたという、町にとっては大変な誇りでございました。12月18日には環境省の勝俣政務官が来島いたしまして、自然遺産に対する取り組みの報告がございました。

12月21日には、沖縄におかれまして世界自然遺産の連絡会議がございまして、この中で、環境省も今回は背水の陣で臨むという強い決意をしておりました。伊仙町にある国立公園、これは鹿浦川、阿権川などの溪谷などが自然遺産とともに高く評価されるような発言がございました。

1月6日は、石井国土交通大臣が急遽、奄振の説明員と意見交換会のために奄美市に来島いたしました。

1月10日には、地方創生に関する市町村等の意見交換会がございまして、これは鹿児島県の地方創生顧問になられた増田顧問との意見交換会ではありますが、増田氏は、元総務大臣、前岩手県知事は地方消滅というセンセーショナルな本を書きまして、人口減少、地方消滅を国に6年前にアピールしました。5年間を経過いたしまして、東京一極集中はますます予想以上に進み、地方の人口減少は予想以上に進んでいるという、大変厳しい調査結果を発表しました。

1月21日には、鹿児島大学が全国の地方創生の拠点大学として国から指定を受けまして、その最大の理由は、多くの島嶼、島々を有している南北600kmのキャンパスがあるということでありました。私は、県の市町村会を代表いたしまして、その中で地方創生の奄美群島での取り組み等について説明をしてまいりました。

先ほど、議長からも報告ありましたが、観光連盟新年会におきまして徳之島に起業いたしましたモスク、そして徳之島ビジョンの方々も観光連盟のほうでも非常に前向きなアピールをしておりました。このモスククリエイションの広告は、観光連盟においてもかなり評価を受けておりますので、今後、人員もふやしていくというふうなことになります。

1月29日には全市町村会の事務総長等が大和村と伊仙町に現地視察という形でやってまいりました。これは、内閣府の地方創生のいろんな会議に出席する中、どうしても徳之島のことが話題になるということでの参加で、訪問でございました。

1月30日に、サトウキビ春植え出発式がございまして、目標300haとうことであります。この良質のキビが少ないということで、この春植えも今苦慮している状況でございます。

1月31日には、先般、報道でもありましたように、東京オリンピック、パラリンピックのホストタウンという形で、伊仙町は旧ユーゴスラビアの一部であるボスニアヘルツェゴビナとホストタウンの今協議をしている状況の中で、体振課のほうに地方創生のかたがた等訪問いたしまして、このオリンピックが終了後に約10人を伊仙町に招聘して交流をするということと、今年中に2人ないし3人が伊仙町に来島して交流をしていくと。いろんな子供たちの交流などをやっていきたいということで、ボスニアを選択した理由は、闘牛文化がもともとあって、最近になってその大会の回数などもふえてきたということで、これは内閣府があえてこのことを評価していただきまして、パラリンピックホストタウンということにさせていただきました。

2月13日に行政運営調査会を開催いたしまして、百菜の指定管理の件、公共施設の説明、東部の認可保育所の状況などの説明をいたしました。14日の3町議員大会においては、伊仙町の地域おこし協力隊の宮出さんがコーヒーについてかなり世界的なコーヒーの状況、そして、徳之島のコーヒーの価値とそれから多くの方々を含めた国産コーヒーのシンポジウム等についての研究発表をしていただきました。

2月19日には、県の農政部との農業農村整備事業の推進協議会の会長として、この推進をさらにやっていかなければならないということでの意見交換会が市長町長と県との間で行われました。徳之島ダムに対する地元の取り組み、そして県の期待というものは大変大きい状況であります。

先ほど、議長からもあったように、この第7回目の徳之島観光物産フェアは年々規模が大きくなっております。今回は5tが搬入いたしまして、この大会のときは1kg60円前後でしたけれども、1kg350円でほとんどが完売した状況でありまして、この利益がこのフェアの運営に当たっている状況でございます。

島のエネルギーが本当にこれほどこの、全国の地域にもまねのできないようなエネルギーを東京のほうで発揮している状況は大変頼もしい状況でございました。

翌25日には、アパマンの会社を訪問いたしまして、いろんな営業活動を行いました。同時に財務省等もいろんな要請活動を行っております。

2月28日には、徳之島保健所において、いわゆる精神障害者の地域移行、いろんな雇用等についての意見交換会がございました。

3月1日には、「みんなで考える徳之島のごみ処理の明日」というシンポジウムを開催いたしまして、この講師として日置市の職員等を招聘して、約2時間半にわたって熱心な議論が行われました。

きのうの区長会においてもこのごみ問題をどうしていくかという話が、議論がかなり出てまいりました。その中で、分別をしっかりとしていくためみは、名前を書くべきだとか、いろんな意見が出ておりますので、ごみ問題は多くの町民の共通の課題で、ますます重要になってくると思いますし、この生ごみを燃料として使用するというこの日置市の取り組みは今後、徳之島でもそういう方向でやっていくことができたというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（美島盛秀君）

以上で諸般の報告を終わります。

△ 日程第4 同意第1号 教育委員の選任

○議長（美島盛秀君）

日程第4 同意第1号、教育委員の選任について議題といたします。

提出者より提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

平成31年第1回伊仙町議会定例会に提案いたしました同意第1号についての提案理由の説明をいたします。

同意第1号は、伊仙町教育委員の任期が平成31年2月26日までとなっているため、今議会において選任いたしたく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定により議会の同意を求めるものであります。

ご審議賜りますよう、よろしく願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

補足説明があればこれを許します。

○教委総務課長（水本 齊君）

教育委員の選任について補足説明を行います。

教育委員の選任は、伊仙町教育委員として、氏名、吉田隆光氏、住所は、伊仙町大字崎原1370番地、生年月日は、昭和31年6月10日。任期につきましては、西暦2023年2月26日まででございます。学歴、職歴等につきまして、お手元にお配りしてあるとおりでございます。

ご審議賜り、同意いただきますよう、よろしく願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

これから、同意第1号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

同意第1号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、同意第1号、教育委員の選任について採決します。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。本件を同意することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、同意第1号、教育委員の選任は同意することに決定しました。

△ 日程第5 議案第1号 伊仙町立西公民館の指定管理者の指定

○議長（美島盛秀君）

日程第5 議案第1号、伊仙町立西公民館の指定管理者の指定についての1件を議題といたします。

提出者より提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

西公民館の指定管理者の指定について、伊仙町公の施設における指定管理者の指定の手続き等に関する条例第4条の規定により提案しております。ご審議賜われますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

補足説明があればこれを許します。

○社会教育課長（稲田良和君）

議案第1号、伊仙町立西公民館の指定管理者の指定について補足説明をいたします。

施設名、伊仙町立西公民館、団体名、鹿児島県大島郡伊仙町大字犬田布778番地3、社会福祉法人青松福祉わかば保育園、代表者、松永晶子、指定期間、平成31年4月1日より平成36年3月31日までとするものであります。

審議賜わり、指定いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第1号について質疑を行います。

○2番（牧本和英君）

西公民館のことなのですが、今までどおり、集落の年行事など、そしてまたPTA活動における行事等など、また利用今後ともよろしくお願いいたしますというのと。

グラウンドのほう、本当に年寄りなんかゲートボールをしたりグラウンドゴルフしたりしていたのですが、今もすたれてきている状態なのですよ。もうできない状態であるということを報告

するとともに、またその代替地などを検討していただくような方向にお願いしたいと思います。

以上です。

○社会教育課長（稲田良和君）

その利用については、協定書の中のほうに町行事、集落行事、PTA行事、盛り込まれております。グラウンドに関しては、また今後協議を進めて、対応していきたいと思います。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

○10番（福留達也君）

これは、社会福祉法人の方がやられるんですけど、ここを保育所として使っていくということでのあれですか。

○社会教育課長（稲田良和君）

保育所とではなく、空いている時間に保育をするということになっています。で、先ほど言いましたように、行事等が入りましたら、それを優先ということになります。

○10番（福留達也君）

保育所としてまた使うのかなと思って聞いたのですが、そうなった場合に、またあそこは耐震補強とかそういったのが必要になってくるのかなと思ったのですが、そういったことはないのですか。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

○5番（清平二君）

今、西公民館の利用ですけども、地域住民の方々から、地域住民が使用する場合には、何か非常に時間がかかるということで言われていますので、これを簡潔に利用できるように指導していただきたいと思います。

よろしくをお願いします。

○社会教育課長（稲田良和君）

利用についてですが、事前申請ということで行っておりますので、そこのほうも協議していきたいと思います。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第1号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第1号、伊仙町立西公民館の指定管理者の指定について採決します。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第1号、伊仙町立西公民館の指定管理者の指定は原案のとおり可決することに決定しました。

△ 日程第6 議案第2号 伊仙町課設置条例の一部を改正する条例

○議長（美島盛秀君）

日程第6 議案第2号、伊仙町課設置条例の一部を改正する条例についての議題をいたします。提出者より提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第2号は、伊仙町課設置条例の一部を改正する条例について、地方自治法第96条第1項第1号の規定により提案してあります。

ご審議賜われますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

補足説明があればこれを許します。

○総務課長（池田俊博君）

議案第2号、伊仙町課設置条例の一部を改正する条例について、補足説明をいたします。

今回、税務課、町民生活課、保健福祉課、ほーらい館、保健センターの業務再編を行い、くらし支援課、地域福祉課、子育て支援課、健康増進課とするものであります。

課の再編を行う意義といたしまして、国の子育て関連制度改正に沿って母子保健法に基づき、市町村が子育て世代包括支援センターを設置するもので、保健師等の専門スタッフが妊娠、出産、子育てに関するさまざまな相談に対応し、妊娠期から子育て期にわたり、切れ目のない支援を一体的に提供するものであります。

これまで多くの課にまたがっていた子育て支援関連業務を一元化し、福祉部門、健康増進部門と事業の流れを一課で統一することで、これまで以上に町民のニーズを拾い上げ、全ての町民が主役のまちづくりに向けて、子育て支援の充実、若年層の創生対策、元気高齢者の育成など、長寿、子宝の町の強みをさらに生かすことができます。

また、子育て支援関連業務の一元化と並行し、窓口業務を一元化することで、町民の窓口対応の負担軽減、サービス向上が見込まれます。

以上、ご審議賜われますよう、よろしくお願ひいたします。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第2号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第2号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第2号、伊仙町課設置条例の一部を改正する条例について採決します。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願ひます。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第2号、伊仙町課設置条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決することに決定しました。

△ 日程第7 議案第3号 伊仙町税条例一部を改正する条例

○議長（美島盛秀君）

日程第7 議案第3号、伊仙町税条例一部を改正する条例について議題といたします。

提出者より提出理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第3号は、伊仙町税条例一部を改正する条例について、地方自治法96条第1項第1号の規定により提案してあります。

ご審議賜われますよう、よろしくお願ひいたします。

○議長（美島盛秀君）

補足説明があればこれを許します。

○税務課長（名古健二君）

議案第3号、伊仙町税条例一部を改正する条例の補足説明をいたします。

第81条の2中の救急用のものに対しては、軽自動車税を課さないに新たに、巡回診療または患者の輸送の用に供するもの、血液事業の用に供するもの、救護資材の運搬の用に供するものなど、4項目を加えるものであります。

ご審議賜われますよう、よろしくお願ひいたします。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第3号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第3号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第3号、伊仙町税条例の一部を改正する条例について採決します。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第3号、伊仙町税条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決することに決定いたしました。

△ 日程第8 議案第4号 伊仙町医師修学資金貸与条例の制定

○議長（美島盛秀君）

日程第8 議案第4号、伊仙町医師修学資金貸与条例の制定について議題といたします。

提出者より提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第4号は、伊仙町医師修学資金貸与条例の制定について、地方自治法第96条第1項第1号の規定により提案しております。

ご審議賜われますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

補足説明があれば、これを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

議案第4号、伊仙町医師修学資金貸与に関する条例について補足説明を行います。

この条例は、伊仙町の医療機関に従事する医師の確保を図り、地域医療の充実に資するため、将来、医師としてその業務に従事しようとする者に対し、就学に要する資金の貸与を行うことを目的に、島内他町の条例を参考に、医師修学資金の貸与に関する必要な事項を定め、制定するものであります。施行期日は、平成31年4月1日からであります。

ご審議のほど、お願い申し上げます。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第4号について質疑を行います。

○13番（樺山 一君）

伊仙町の医師修学資金貸与条例について質疑を行います。

これは、この資金を使いたいという方がいらっしゃいますか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

樺山議員の質問にお答えいたします。

現在のところ、そういった対象の方はいらっしゃいません。

○13番（樺山 一君）

いいことだとは思いますが、ぜひこれを使って、この奨学資金を使っていきるお子さんがいたらいいと思えますけども、予算が伴っていないので、そういう具体的なのははないと思ったんですけども、ぜひ条例をつくるのでしたら、ぜひそういう方を利用できるような形に進めていってもらいたいと思います。

以上です。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

ありがとうございます。当初予算のほうに3カ月、すみません、載せてあります。まだそういう対象がいらっしゃいませんので、もしいらした場合には対応できるように、とりあえずは3カ月分、15万円の3カ月、組んでございます。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

○12番（明石秀雄君）

この貸与してもし卒業したら、その方はどこへ行って勤務してもいいということになりますか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

勤務に関しては、条例の中に書いてありますけれども、伊仙町に帰ってきて、大学を進学期間にこの貸しつけ貸与されますと、医師になりまして2年、大学卒業して2年後、研修等を積んで伊仙に帰っていらっしゃって、伊仙の医療機関、もしくは島内医療機関のほうで従事し、貸与を受けた期間と同期間、勤務したら免除されるということになっております。

○12番（明石秀雄君）

伊仙町には医療機関と言えるのは伊仙クリニックだけですよね。そうすると、島内どれでも、もしかすると、島内でなくても、その期間を過ぎればほかどこに行ってもいいという制度ですよ。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

その貸与を受けた期間はいらっしゃっていただければ、その後はないです。あと、島内です。医療機関に関しましては、今住民の方々、島内の医療機関どこも行かれますので、その辺に関しては大丈夫かと思えます。

○12番（明石秀雄君）

できれば、伊仙のやっぱり町の診療所でもあればいいんですけども、一般の法人ですので、あえてする必要もないかなと思うのですが、それも伊仙町に寄与することが多くなれば、恐らく島内に全部力は寄与されると思いますので、いいことだと思います。

以上で終わります。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第4号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第4号、伊仙町医師修学資金貸与条例の制定について採決します。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第4号、伊仙町医師修学資金貸与条例の制定は、原案のとおり可決することに決定しました。

△ 日程第9 議案第5号 伊仙町義務教育就学児医療費の助成に関する条例の制定

○議長（美島盛秀君）

日程第9 議案第5号、伊仙町義務教育就学児医療費の助成に関する条例の制定についてを議題といたします。

提出者より提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第5号は、伊仙町義務教育就学児医療費の助成に関する条例の制定について、地方自治法第96条第1項第1号の規定により提案しております。

ご審議賜われますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

補足説明があればこれを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

議案第5号、伊仙町義務教育就学児医療費の助成に関する条例の制定について補足説明を行います。

この条例は、現行の乳幼児医療給付及び助成事業の対象年齢を就学前から中学生までを対象とし、児童の健康の保持増進を図り、もって子育ての支援に資することを目的に、義務教育就学時医療費の助成にかかわる必要な事項を定め、制定するものであります。

施行期日は、平成31年4月1日からであります。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第5号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第5号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第5号、伊仙町義務教育就学児医療費の助成に関する条例の制定について採決します。この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって議案第5号、伊仙町義務教育就学時医療費の助成に関する条例の制定は、原案のとおり可決することに決定しました。

△ 日程第10 議案第6号 伊仙町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例

○議長（美島盛秀君）

日程第10 議案第6号、伊仙町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例についてを議題といたします。提出者より提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第6号は、伊仙町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例について、地方自治法第96条第1項の規定により提案しております。ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

補足説明があれば、これを許します。

○建設課長（松田博樹君）

伊仙町道路占用徴収条例の一部を改正する条例の補足説明をいたします。今条例改正案は、県の改定に伴う改正案となっております。ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第6号について、質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第6号について、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第6号、伊仙町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例について採決します。この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第6号、伊仙町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決することに決定しました。

- △ 日程第11 議案第7号 平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）
- △ 日程第12 議案第8号 平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）
- △ 日程第13 議案第9号 平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）
- △ 日程第14 議案第10号 平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- △ 日程第15 議案第11号 平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算（第5号）
- △ 日程第16 議案第12号 平成30年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算（第4号）
- △ 日程第17 議案第13号 平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算（第4号）

○議長（美島盛秀君）

日程第11 議案第7号、平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）、日程第12 議案第8号、平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）、日程第13 議案第9号、平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）、日程第14 議案第10号、平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）、日程第15 議案第11号、平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算（第5号）、日程第16 議案第12号、平成30年度伊仙町簡易水道特別会

計補正予算（第4号）、日程第17 議案第13号、平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算（第4号）の7件を一括して議題とします。提案理由の説明を一括して求めます。

○町長（大久保明君）

議案第7号は、平成30年度伊仙町一般会計、議案第8号は、平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計、議案第9号は、平成30年度伊仙町介護保険特別会計、議案第10号は、平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計、議案第11号は、平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計、議案第12号は、平成30年度伊仙町簡易水道特別会計の規定の予算に変更が生じたので、地方自治法第218条第1項の規定により提案しております。議案第13号は平成30年度伊仙町上水道事業会計の規定の予算に変更が生じたので、地方公営企業法第24条の規定により提案しております。ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

議案第7号、平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）について、補足説明があれば、これを許します。

○総務課長（池田俊博君）

議案第7号、平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）について、補足説明をいたします。

予算書をお開きください。第1条、規定の歳入歳出予算の総額74億4,408万円から、歳入歳出それぞれ5,398万円を減額し、歳入歳出予算の総額を73億9,010万円とするものであります。

予算書7ページをお開きください。まず、歳入歳出補正予算事項別明細書により、歳入についてご説明いたします。

11款分担金及び負担金、補正前の額5,428万円から市立保育所広域入所者負担金、保険衛生費健診個人負担金62万円を減額し、5,366万円とするものであります。

13款国庫支出金、補正前の額13億7,632万3,000円から7,966万3,000円を減額し、12億9,666万円とするものであります。主なものとして、国庫負担金で港湾施設災害、公立学校施設災害復旧費の確定に伴う減、国庫補助金で教育費関係事業地方創生推進交付金の減、及び災害等廃棄物処理事業補助金の事業採択による増等によるものであります。

14款県支出金、補正前の額5億4,885万円に3,108万円を増額し、5億7,993万円とするものであります。主なものとして、県負担金で重度心身障害者医療費助成金の減、県補助金で農業次世代人材投資事業補助金等補助額決定に伴う減、及び農産物輸送費助成事業、奄美群島防災関連施設整備事業の増、台風被害対策として被災者生活支援事業の採択、県委託金において海岸漂着物地域対策推進事業の事業確定に伴う減等によるものであります。

15款財産収入、補正前の額1,243万9,000円から教員宿舍貸し付け収入、日本エアコミュニティー株主配当金247万7,000円を減額し、996万2,000円とするものであります。

16款寄附金、補正前の額7,600万1,000円に企業版ふるさと寄附金400万円を増額し、8,000万1,000円とするものであります。

17款繰入金、補正前の額4億2,280万4,000円から2,361万9,000円を減額し、3億9,918万5,000円とするものであります。主なものとして、災害関連繰り出しに係る財政調整基金へ2,336万1,000円、きばらでえ伊仙応援基金事業確定による25万8,000円の繰り戻しであります。

19款諸収入、補正前の額7,197万4,000円に131万9,000円を増額し、7,329万3,000円とするものであります。主なものとして、農地中間管理事業の減、地方創生推進交付金多世代交流施設機能拡張事業、平成28年度体育館室内遊具備品未納に係る損害賠償責任額382万4,280円の増であります。

20款町債、補正前の額11億8,096万8,000円に、事業費確定に伴い1,600万円を増額し、11億9,696万8,000円とするものであります。歳入合計74億4,408万円から5,398万円を減額し、73億9,010万円とするものであります。

次に、歳出についてご説明いたします。予算書は8ページでございます。お聞きいただきたいと思っております。

1款議会費、補正前の額8,836万7,000円から人権費等分20万6,000円を減額し、8,816万1,000円とするものであります。

2款総務費、補正前の額10億5,570万円に1億394万5,000円を増額し、11億5,964万5,000円とするものであります。主なものとして、人件費、地方創生推進事業地域おこし協力隊推進事業等の事業確定に伴う減、伊仙町公共施設総合管理基金への積み立て、航路・航空路運賃軽減事業の増、国の第二次補正予算に伴う地方創生拠点整備事業の増によるものであります。

3款民生費、補正前の額14億5,160万円から2,550万4,000円を減額し、14億2,609万6,000円とするものであります。主なものとして、事業費確定に伴う人件費、繰入金等の減、私立保育所の広域入所保育所運営負担金の減、被災者生活支援事業として生活支援金扶助の増によるものであります。

4款衛生費、補正前の額4億8,823万7,000円から2,766万6,000円を減額し、4億6,057万1,000円とするものであります。主なものとして、人件費の減、合併浄化槽設置補助、予防費、健康増進事業、水道事業会計繰入金等事業費確定に伴う減によるものであります。

5款農林水産業費、補正前の額9億8,560万6,000円から4,685万1,000円を減額し、9億3,875万5,000円とするものであります。主なものとして、人件費、環境にやさしい農業総合推進事業、農業次世代人材投資事業、農地中間管理事業、奄美農業創出支援事業、特定地域振興生産基盤整備事業、離島漁業再生支援推進事業等の確定に伴う減、及び農林水産物輸送コスト支援事業費の増であります。

6款商工費、補正前の額3,713万3,000円から、消費者行政推進等事業費確定に伴う186万円を減額し、3,527万3,000円とするものであります。

7款土木費、補正前の額7億1万6,000円から1,968万2,000円を減額し、6億8,033万4,000円とするものであります。主なものとして、人件費、過疎対策事業、公営住宅建設事業等の事業費確定による減であります。

8款消防費、補正前の額2億7,869万2,000円に7,904万2,000円を増額し、3億5,773万4,000円と

するものであります。主なものとして、事業費確定に伴い、消防団員報酬等の減、奄美群島防災関連施設整備事業8,000万円の事業料の増であります。

9款教育費、補正前の額6億1,112万1,000円から1,902万3,000円を減額し、5億9,209万8,000円とするものであります。主なものとして、事業費確定に伴う人件費、修繕費等の減によるものであります。

また、予算書33ページをお開きください。先ほど歳入において、19款諸収入において、平成28年度体育館室内遊具備品未納に係る損害賠償責任額382万4,280円の歳入を計上してありますが、その歳入によるものを財源とし、社会教育費、社会教育総務費の中において、23節償還金利子及び割引料の中に、過年度国庫補助金生産返納金として246万8,000円を計上してございます。

また、予算書のほうに、8ページのほうにお戻りいただきたいと思っております。

10款災害復旧費、補正前の額8億5,727万3,000円から9,420万8,000円を減額し、7億6,306万5,000円とするものであります。漁港施設災害復旧費、港湾施設災害復旧費、公立学校施設災害復旧費の補助額確定による減等によるものであります。

11款公債費、補正前の額8億8,533万4,000円から196万7,000円を減額し、8億8,336万7,000円とするものであります。歳出合計74億4,408万円から5,398万円を減額し、73億9,010万円とするものであります。

次に、予算書をお開きください。第2表地方債の補正についてご説明いたします。

- 1、過疎対策事業債、限度額6億170万円を5億7,950万円とするものであります。
- 2、辺地対策事業債、限度額5,710万円を5,220万円とするものであります。
- 3、公営住宅施設整備事業債、限度額1億2,110万円を1億1,540万円とするものであります。
- 4、緊急防災・減災事業債、限度額2,790万円を5,990万円とするものであります。
- 6、学校教育施設等整備事業債、限度額9,540万円を1億150万円とするものであります。
- 7、災害復旧事業債、限度額1億4,610万円を1億2,810万円とするものであります。

いずれの事業債におきましても、起債の方法、利率、償還の方法についての変更はございません。

新規起債といたしまして、8、一般補助施設整備事業債、限度額2,650万円。12、減収補填債、限度額220万円を計上してあります。いずれの事業債においても、起債の方法で証書借入れまたは証券発行、利率として3%以内。ただし、利率見直し方式で借り入れる政府資金及び地方公共団体金融機構資金について、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の利率。

償還の方法として、政府資金については、その貸し付け条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協議するところによる。ただし、町財政の都合により、繰り上げ償還することがあるとするものであります。

次に、予算書6ページをお開きください。地方自治法213条第1項の規定により、繰り越しして使用できる経費として、第3表繰越明許費についてご説明いたします。

2款総務費1項総務管理費、地方創生拠点整備事業5,854万1,000円。

3 款民生費 4 項災害救助費、災害救助事業2,006万2,000円。

5 款農林水産業費 1 項農業費、特産品加工工房キビ搬入口上屋改修170万円、園芸振興被災者向け経営体育成事業200万円、畜産基盤再編総合整備事業1,300万円、畜産振興被災者向け経営体育成事業3,000万円。

7 款土木費、2 項道路橋梁費、社会資本総合整備交付金事業費9,564万3,000円、防災安全社会資本整備交付金事業7,446万1,000円。

8 款消防費、1 項消防費、防災まちづくり事業奄美群島防災関連施設整備事業8,000万円。

9 款教育費、1 項教育総務費、学校 I T 環境整備事業2,367万2,000円、2 項小学校費、小学校設備事業 1 億1,606万4,000円、3 項中学校費、中学校設備事業1,597万5,000円、4 項幼稚園費、幼稚園設備事業709万5,000円。

10 款災害復旧費 1 項農林水産施設災害復旧費、漁港施設災害復旧費 2 億300万円、農地災害復旧費 5,760万円、2 項公共土木施設災害復旧費、道路橋梁災害復旧費5,291万円、港湾施設災害復旧費 2 億 2,794万9,000円、河川災害復旧費4,000万円、3 項文教施設災害復旧費、公立学校施設災害復旧事業 3,049万8,000円、5 項その他公用施設災害復旧費、庁舎等災害復旧費200万円でございます。

以上、平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）について、補足説明をいたしました。ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第7号について質疑を行います。

○8番（上木千恵造君）

平成30年度一般会計補正予算（第5号）について質問いたします。

歳入の11ページをお願いいたします。款19諸収入目 1 雑入について質問をいたします。弁償金として382万4,000円が計上されていますけれども、この詳しい内容についてご説明をお願いいたします。

○総務課長（池田俊博君）

先ほども、歳入の説明のところで少し申し上げましたが、平成28年度地方創生推進交付金多世代交流機能拡張事業の平成28年度体育館室内遊具備品未納に係る損害賠償責任を、伊仙町監査委員のほうから勧告を受けましたので、その勧告を町といたしましては真摯に受けとめ、これを弁償金として予算を計上してございます。

○8番（上木千恵造君）

差し支えなければ、この弁償金について、例えば誰が幾らぐらい弁済するのか。何人で弁済するのかお伺いをいたします。

○総務課長（池田俊博君）

ただいま書類をとってまいりますので、しばらくお待ちいただければと思います。

○議長（美島盛秀君）

しばらく休憩します。

休憩 午前 11 時 27 分

再開 午前 11 時 35 分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

○総務課長（池田俊博君）

先ほどの上木議員の質問にお答えいたします。

平成30年8月17日、伊仙町監査委員により勧告を受けて、その主文にありますとおり、伊仙町長、伊仙町の副町長、教育長、平成29年3月30日時点の社会教育課長、社会教育課長補佐、社会教育課主事、この6名により382万4,000円の損害賠償責任を負う勧告を受けており、この金額を計上してございます。

○8番（上木千恵造君）

わかりました。契約が不履行になっている382万4,000円については、今、おっしゃった皆さんで分割して、それぞれ分配して弁償するというご理解でよろしいですか。

それでは、今、この契約不履行になった業者さんから、月々幾らかの金をいただいているような話を聞いていますけども、この金額については今後どうなるのか。例えば382万円を弁償すれば、その金額はだぶったりしないのですか。その辺のところのご説明をお願いいたします。

○総務課長（池田俊博君）

今の件に関しましては、平成30年8月1日、この業者と確約書を結んでおり、毎月4万円ずつの支払いを受けているところであります。これを継続して、今のところはこの賠償額、請求を業者のほうに町としてはやっていきたいと考えております。

○8番（上木千恵造君）

そういたしますと、先ほどもお話ししましたけれども、金が二重払いというか、二重になってくるわけですね。その金は将来、380万円は皆さんが弁償すれば、今、業者からいただくお金についてはどういう処理をするのか。恐らく雑入か何かで入れるのだらうと思いますけれど。その余分にもらったお金については、まだ6人の皆さんで分配して、またそれぞれ返納するのが可能なのかどうか。

○総務課長（池田俊博君）

この件で、業者から確約をもらっている金額と合わせまして、少し余裕等があると思いますが、この件に関しましては、また伊仙町の監査の方々に相談・協議をしながら、どういう会計処理をすればいいのかということ、またこれから協議を重ねていきたいと思っております。

○8番（上木千恵造君）

では、またいい方向に向かって進んでいただきたいと思います。

それでは、ちょっと戻ります。6ページをお願いいたします。6ページの繰越明許費の款7土木費の社会資本総合整備交付金事業の9,564万3,000円のおくれた理由と事業内容について、説明をお願いいたしたいと思います。

○建設課長（松田博樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。

この事業は、阿権・馬根線の改良工事等ではありますが、用地取得に、交渉のときに相続問題が発生し、用地取得に不測の日数を要したため、工事発注がおくれたのが理由であります。

○8番（上木千恵造君）

続きまして、その下のほうの防災安全社会資本整備交付金事業、この7,446万1,000円についても、同じく理由と事業内容の説明をお願いいたします。

○建設課長（松田博樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。

台風等の影響により、鹿浦橋護岸工事がおくれ、上部工の発注がおこなわれているためであります。

○8番（上木千恵造君）

これは、鹿浦橋の基礎は、橋脚部分は完成して、この金額については上の橋梁の橋の部分ということですか。

○建設課長（松田博樹君）

はい。

○8番（上木千恵造君）

わかりました。

○建設課長（松田博樹君）

次の9款の教育費、項2の小学校管理費の1億1,606万4,000円、この同じくおくれた理由と事業内容の詳細説明をお願いいたします。

○教委総務課長（水本 斉君）

ただいまの質問にお答えいたします。

この事業内容は、各小学校のブロック塀の再生整備工事費、あと教室の空調設備の工事です。この事業に関しましては、12月に空調設備の工事につきましては、12月に補助申請がございまして、そこから今現在、各教室、その電気工事などの調査を進めているところであります。申請が12月だったために、工期が間に合わずに繰り越しするものであります。

○8番（上木千恵造君）

わかりました。ブロック塀の補修費と空調整備事業費ということですね。このブロック塀と空調設備費の内訳がわかれば、空調が幾ら、ブロック塀が幾らというのがわかれば、お答えいただきました。

いと思います。

○教委総務課長（水本 齊君）

小学校のブロック塀再生工事費がおよそ4,200万円、教室空調設備工事費が7,300万円でございます。

○8番（上木千恵造君）

わかりました。それでは、歳出の15ページをお願いいたします。

11の企業版ふるさと納税事業費が財源組替に、その他から一般財源に組替になっているようですが、この理由を説明していただきたいと思います。

○未来創生課長（久保 等君）

企業版ふるさと納税事業の財源組み換えであります。1,000万円の財源の地方創生の寺子屋、それから学習支援、町の施設のグランドデザインの検討委託料に組み替えてあります。

○8番（上木千恵造君）

わかりました。ちょっとさか上ります。11ページをお願いします。

款19諸収入の目2違約金及び延納利息が7万5,000円計上されていますけれども、これはどういう事業なのかお伺いいたします。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらは、昨年度、離島漁業再生支援事業の中で、釜の代金が未納の件がございましたけれども、そちらのほうは9月に、先ほど説明いたしましたとおりに、確約書並びに漁業集落の代表には同意書をいただきまして、そこから月々、業者さんから月々1万5,000円の、今、お金を返していただいておりますので、その予算を計上したところでございます。

○8番（上木千恵造君）

わかりました。もう終わります。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

○7番（牧 徳久君）

6ページをお願いします。先ほど上木議員が質問しましたが、土木費の中の防災安全社会資本整備交付金事業についてであります。あそこの橋を撤去してから、もう3年以上になるということで、漁民の方、船を持っている伊仙の出身の方は、ぜひあそこを通っていきたいということで、長年にわたり迂回路をしているわけですが。

この前、ようやく台風災害の港湾内の土砂撤去をしていただきまして、1隻、2隻と船を下ろしている状況ですが、なんせこの橋が完成しないと、当たり前の船の係留ができないということになりますので、これらの進捗はどうなっているのかをお伺いしたいと思います。

○建設課長（松田博樹君）

ただいまの質問にお答えします。現在のところは護岸工のほうを入れておりまして、平成31年度

中に上部工をし、31年度中には完成する予定であります。

○7番（牧 徳久君）

ということは、今年度、31年度内には、その道路は開通するという事によろしいでしょうか。

○建設課長（松田博樹君）

そのように取り組んでいきたいと思っております。

○7番（牧 徳久君）

ぜひ漁業振興のためにも、早急にこの道路・橋・橋梁を、開通をおくらせないように頑張っていたいただきたいと思います。

それと、28ページをお願いします。28ページの5の農林水産業費の中の負担金補助及び交付金、離島漁業再生支援事業補助金として812万円ほど落としてございますが、今年はいろいろ何か問題があって、漁業集落の活動ができなくて、何もなかったわけですが、私もその組合員になっております関係上、今後、来年、当初予算のほうに、この予算が措置されておりますが、来年においては、この離島漁業再生支援事業補助金を活用した魚まつりとか、いろいろな行事ができるということですから、またこれが可能かお伺いしてみたいと思います。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらの件につきまして、今年度執行ができなかったことは本当に申しわけなく思っております。ただいま、先ほど全員協議会のほうでもご説明しましたとおり、今、事業実施主体の漁業集落より報告書を出していただきまして、そちらのほうで解決をした暁には、事業を執行できるというようなことで、県のほうに問い合わせた結果は、返事をいただいているところでございます。

○7番（牧 徳久君）

ぜひこれについても、漁業振興のために来年度は予算を獲得しまして、頑張っていたいただきたいと思います。よろしくをお願いします。終わります。

○議長（美島盛秀君）

他に質疑はありませんか。

○5番（清 平二君）

平成30年度一般会計補正予算（第5号）について質問をいたします。

先ほど上木議員のほうからありましたけれども、11ページの諸収入、3雑入、節2の7万5,000円ですけれども、漁業集落支援事業違約金として7万5,000円をしてありますけれども、これは何を基準としてやったのか基準を教えてください。

○経済課長（仲島正敏君）

一般、議会で答弁いたしましたとおり、確約書をいただいております、その中で月々1万5,000円ずつ返済していくということでございましたので、そちらをもとに、今入っている分プラス今月分を入れて、7万5,000円を計上させていただいております。

○5番（清 平二君）

これは確約書ということでありまして、今後もこういうことがないようにするためには何か第三者委員会を立ち上げてやるべきではなかったかと思うのですが、そのあたりのことはどうお考えでしょうか。

○副町長（稲 隆仁君）

ただいまの件でありますけれども、漁協組合、そしてさらに社会教育の問題等含めて確かに議員のご指摘のとおりであります。若干対応がおくれたことは申しわけないと思っておりますけれども、今後二度とないような形ということを職員全員肝に銘じて対応していくということで、職員内においてもいろいろと指導しているところでございます。

○5番（清 平二君）

やはりこれは確約書を基準としているということでありまして、やっぱり今後、防止のためにも第三者委員会等を立ち上げて意見を聞いてやるべきじゃなかったかなと思っておりますけれども、その辺のところは何を基準としたのか、本人がただ確約だけしているのか、その辺のところと、それから歳入が7万5,000円ですけれども、いつまでとるのか、これは。

○副町長（稲 隆仁君）

基準というよりも損害を与えた金額を全額回収する予定ではありますけれども、今現在、当人がこれだけの支払いしか能力がないということで、ただ、ゼロよりは少しでも納めていただくという確約のもとで履行しているわけでありまして、ただだらだらといつまでもこの金額だけで済ますわけではなくて、本人の都合がつき次第早期の回収を目指しているというところでありまして。

○5番（清 平二君）

そういう80万円のあれですから、釜代のこれは弁償だと思いますけれども、もし釜代の弁償だったらこの7万5,000円じゃなくて釜代の金額を上げるべきだと思いますけれども、どうでしょうか。

○副町長（稲 隆仁君）

そこのとり方には歳入のとり方、調定の立て方にはいろいろありますけれども、全額調定として入った分だけの歳入をとるといってもありますけれども、その都度の納入の仕方というのもまた会計上ございますので、この件についてはその都度の料金を歳入に繰り込んでいくというところがございます。

○5番（清 平二君）

やはり業者に一括して80万円をお支払いしながら、もらうときは1万5,000円ずつもらう、これ何年かかりますか。そして、これは誰が補償するのか、その後は。次、人事異動等いろいろあった場合には幾ら残っているというのがわからなくなる可能性がありますけれども、その辺のところはどう解決するのか。

○副町長（稲 隆仁君）

この確約は伊仙町に対する確約でありますので、個人が変わったとしてもその後の履行について

は滞ることなく対応してまいりたいと思っているところです。

○5番（清 平二君）

個人が滞るとかではなくて、やはり私たちにわかるように、あと何年したらこれが支払い完了しますというようにしないと、1万5,000円ずつ毎月支払いしていくとあと10年するのかなど、ちょっと私たちには見にくいので、やはりこれは調定額をとるべきじゃないかと思えますけど、その辺のところはどうでしょうか。（「議長、質問が3回目です」と呼ぶ者あり）

○議長（美島盛秀君）

議長が許可している以上はできます。（発言する者あり）

暫時休憩します。午後1時から再開します。

休憩 午前11時56分

再開 午後 1時00分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○副町長（稲 隆仁君）

清議員の質問にお答えしたいと思います。

地方自治法171条の6の規定にありますけれども、損害賠償金または不当利得等による返還金に係る債権について、債務者が当該債務の全部を一時に履行することが困難であるときには分割分納を可能とすると認めているところでありますけれども、これをいつまでも議員指摘のとおり少額でだらだらと年数を引っ張るのはいかがなものかと思えますので、今後、当人と協議をしながらなるべく早い段階で完納していただけるように努力してまいりたいと思っているところです。

○5番（清 平二君）

これは今調定をとっているのでもわかりましたけども、やはり一番問題なのは一括払いして分割するのはどうかと思います。町民の町税に対しては延滞利息とかとっていますけども、これはどういふぐあいに考えているのでしょうか。

○総務課長（池田俊博君）

その点に関しましては、一応、確約でその総体の金額でそれを毎月金額で割っていますので、その金額自体ですのでそこら辺のところは履行期限を十分守っている場合においてはそのままの形で歳入として受け入れている状態でございます。

○5番（清 平二君）

ちょっとまだ私に理解できないのだけれども、次のページ、12ページの農林水産業貸付金収入とありますけれども80万円、これは80万円入ってきてあとどれだけ残っているのか。いつまで払えばいいのか。

○経済課長（仲島正敏君）

ただいまの清議員の質問にお答えをいたします。

百菜の運営貸付金ということで以前に500万円貸し付けをしたのを今段階的に返済していただいております、今現在、360万円、あと残っております。

○5番（清 平二君）

残り360万円残っているということですがけれども、以前これは業者に管理委託、そういうのをすると聞いたけど、この360万円全部支払ってからするのか、それとももう4月からどこか運営会社に委託するのかお尋ねします。

○副町長（稲 隆仁君）

ただいまの質問でありますけれども、百菜の運営については今協議、協定書を作成している途中でありますけれども、4月1日からは新しく収支、予算的なもので、3月31日までの分につきましては現在整理をしているところでありますので、その整理がつき次第、全委託になるというところで目指しているところでございます。

○5番（清 平二君）

では、360万円残っているというのは宙に浮いた形で4月1日からするということですか。運営をさせるということですか。

○副町長（稲 隆仁君）

我々の捉え方は4月、5月において整理をするという努力して取り組んでいこうとしているところでありますけれども、出納閉鎖というふうな感じの捉え方でいいのではないかなと思っています。

○5番（清 平二君）

500万円貸し付けして、80万円歳入があり、残り360万円、これ4月、5月で残り360万円支払う能力があるのかどうか。やはりこういうのを全部整理させて運営をさせたほうが健全じゃないかと思っておりますけれども、どうでしょうか。

○副町長（稲 隆仁君）

今、まだその過程でございますので、結論としての答弁は控えさせていただきたいと思っております。予算上の質問でひとつお願い申し上げたいと思っております。

○5番（清 平二君）

ぜひ健全化運営をしていただきたいと思います。

次に、15ページ、企業版ふるさと納税事業と組み替えをしてありますけれども、当初予算で図書購入費として750万円、18の備品で図書購入費として250万円、1,000万円組んでありましたけれども、そのうちの企業版ふるさと納税が入って来ないから組み替えを一般財源からしたと思うんですが、これはもう執行されたのかどうか。

○未来創生課長（久保 等君）

ただいまの質問であります、企業版ふるさと納税は30年度におきまして実績として11ページの寄附金企業版ふるさと納税が400万円プラスになっているのですが、今年の実績としましては1,400万円の寄附金がございます、図書購入費、そしてそれから備品購入で使った残りを、これは学習支援という目的のもと寄附されているお金でありますので、寺子屋の運営、学習支援、それから図書館の設立に向けた、今、グランドデザインの策定中でありますので、その財源に組み替えをしたということであります。

○5番（清 平二君）

企業版ふるさと寄附金というのが400万円入って、1,000万円も入っているということですが、私の見方がどうかわかりませんが、ここで、その他財源で904万7,000円落ちて、一般財源で904万7,000円組んであるので、ちょっとその辺のところはわかりづらいのですが、再度お願いします。

○総務課長（池田俊博君）

この企業版ふるさと納税に関しましては先ほど説明があったように、当初予算では1,000万円、そして今現在400万円入って1,400万円もう既に歳入済みでございます。今、この事業自体の中身では今使われている金額的なのが大体300万円ほどで、もうこれは事業が多分終了になってくるということで、今ここでは歳出のほうの減額は、今はしてはいないところでございますが、その分も含めまして財源の振り替を行ったということでございます。この中で企業版ふるさと納税事業の中で今使用したのは本棚とかそういうのを買ったという形なのを今使用しています。また、その他には書籍等を購入予定でしたが、その部分に関して余り購入しすぎると置く場所がないということで今現在のところはそれのところは少し減額をこれから先またやっていくということでございます。

○5番（清 平二君）

最終決算あたりでその辺が出て来ると思います。

次に、16ページ、地方創生拠点整備事業というのがありますけれども、5,800万円組んであります。地方債と一般財源でしてあるのですが、なぜ今ごろになってこうするのか。これは当初予算あたりで出てくる問題じゃないかなと思うのですが、それとこれはどこをするのか。備品購入に600万円組んでありますけれども、何の備品を購入するのか。

○未来創生課長（久保 等君）

ただいまの質問にお答えいたします。

12月議会の中で現地もちょっと視察をしていただいたのですが、そこで平家の改修、空き施設の改修ということで1,200万円を計上してあったのですが、その分で空き家が全て改修されるかというところにおきまして、新たに地方創生の拠点整備事業というものが一番適しているのではないかと、これは国の30年度の補正予算で決定するものでありまして、今回このように補正で上げてそのまま先ほど繰り越しの事業費の説明でもあったのですが、そのまま繰り越しをするという形のものであります。

この箇所なのですが、関係人口、交流人口の拠点整備ということで前回現地視察をしてもらいました平家とあと地域サロン拠点整備事業としまして下検福の公民館、あと観光資源を生かした拠点整備事業としまして西犬田布の公民館という形になっております。

○5番（清 平二君）

では、これは今から地方創生事業でやるということで、国の補助金で今から交付申請とかしてやるということでしょうか。

○未来創生課長（久保 等君）

1月の段階でこの応募をしたところ、9件の事前協議というものがあつたのですが、その中で地方創生拠点整備事業にふさわしいということで、この3件が選ばれているところであります。

この決定が来週の15日に内示がおりる予定であります。今回、その補正予算で上げておかないと15日の決定を待っていると予算が組めないということで、今回あらかじめ平家と下検福、それから西犬田布の拠点整備をするということで計上してある項目になります。

○5番（清 平二君）

各集落の公民館を整備すると非常にいいこととありますので、31年度においては計画があるのかどうか。

○未来創生課長（久保 等君）

今回申請しまして、各集落の拠点を、地域サロンを目指して拠点整備しようとしたのですが、この採択に向けては町にそれだけ必要あるのかという目線もあつてとれなかった分もあります。ですから、他の事業、奄振事業を活用した防災拠点、避難場所等、集落にそういうものがあつたほうがいいということで他の事業も組み合わせて早い段階で全集落の公民館が改修できるように取り組んでいきたいと考えております。

○5番（清 平二君）

ありがとうございます。私にもちょっとわからなくていろいろ質問したのですが、以上で、私の質問を終わります。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

○13番（樺山 一君）

平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）について質疑をします。

ちょうど今の地方創生予算の件で、清議員の質問の追加でお聞きしますが、結局この事業は、地方創生拠点整備事業は申請の段階ですので、2,650万円地方債で使った、そしてその補助金が決定すれば、これが国、県の支出金に変わるということによろしいでしょうか。

○未来創生課長（久保 等君）

この分が決定になると、地方創生の推進交付金と同様、特別交付税措置されるということになります。

○総務課長（池田俊博君）

ただいまの質問にお答えいたします。

この事業は9ページ……すみません、一応そのとおりです。

○13番（樺山 一君）

これが本当にその交付金にならないと、私はてっきりこの予算を見たときに、またみんな町負担であるのかなと思って、この間、阿権で、現地で説明して地方創生整備しますとあって、また100%町負担であるのか疑問に思ったのですが、今予算で申請する段階で地方債が2,650万円ということでよろしいということですよ。ぜひ地方創生で事業をうたっているわけですので、50%は国、県の補助金がとれるようにしていただきたいと思います。

それから、20ページ、目3の私立保育所費、負担金及び交付金の広域入所保育所運営負担金1,012万9,000円落ちていますが、これを説明お願いいたします。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

今回ここで広域入所保育所運営負担金、これは対象者が今年はいなかったということで減額をいたしました。

○13番（樺山 一君）

対象者がいなかったということで落としましたということですが、予算を計上するときにはやはりこれがもう少し少なかったら納得もできるのですが、1,000万円といえなかなかの予算ですので、やっぱり予算措置等の誤りがないようにこれから気をつけていただきたいと思います。

私は以上です。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

○10番（福留達也君）

24ページお願いします。

目4農業総務費、節19の負担金補助金及び交付金です。環境に優しい農業総合推進事業補助金188万円、これはどういった事業であって、なぜ落としたのか理由をお願いします。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらは堆肥センターの有機物の投入により単収の引き上げ及び品質向上を図ろうという事業でございましたけれども、当初600tほどの堆肥を予算計上してございましたけれども実績が318tということで実績に伴いまして、この188万円を減額したところでございます。

○10番（福留達也君）

ですから、なぜその600t予定していたのが300tぐらいに、半分です、そうなったのか。その理由をお願いします。

○経済課長（仲島正敏君）

広報等をしたのですけれども、そちらに対しての農家からの申し込みが少なかったのだと思います。

○10番（福留達也君）

農家の方からの購入希望がなかったということでわかりました。

25ページ、お願いします。目12の農業次世代人材投資事業費です。青年就農給付金、これも落ちていますけども全然希望者がいなかったということなのですか。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらのほうの農業次世代人材投資事業費なのですけれども、なかなか認定要件のハードルが高くて三親等以内の方がやっている作物とかでなく新しい作物をつくらないといけないということで、徳之島の場合、大体の農家の方がサトウキビであったり畜産であったりバレイショをされているもので、それ以外のものを新しく考えるとなるとなかなか難しいということで担当のほう、かなり頑張って今相談を受けたりしているのですけれども、その部分でなかなかクリアができないということで、今回、このような形で減額になってしまった次第であります。

○10番（福留達也君）

来年度も同じような事業があると思うのですけれども、その要件はまた今年と同じような感じで厳しくて、ほぼこういう感じになりそうなのですか。要件の緩和というのか、そういった要望等はしておりますか。

○経済課長（仲島正敏君）

その部分に関しては厳しいのですけれども、実はそれ以外にも平成30年度までは土地は3年以内に必ず次世代のお金を受給される方に土地の登記も直さないといけないという部分があったのですけれども、こちらのほう、九州農政局のほうに現地調査があった際に役場のほうからなかなか土地の登記というのは島の場合、難しいという話を担当がしました。また、多分他の自治体も同じような件があったのかなと思われるのですけれども、31年度からは利用権の設定でもその部分だけは緩和になったということで、今後も引き続き県並びに九州農政局のほうにはその緩和のほうはやはり農家の実情に合った形でお願いできないのかというのは要請をしまいたいと思っております。

○10番（福留達也君）

そうですね。国の目標とするそういったあれもありますけれども、今、ここに合った、実情に合ったそういったことを要望してなるべくこういったこれを流さずに青年がどんどん就農して豊かになっていけるようにやっていただきたいと思います。

28ページ、お願いします。

一番上の離島漁業です。けさの全協でも説明があったようにいろいろ問題があって、予算を切られたりもしていましたが、これはやはりけさの話でもあったんですけれども、当初、漁協集落が事務的なことができないということで役場がいろいろ担当したはいいけれども、補助金をきちんと受

け取る漁協集落にきちんと管理させるようにして、それができないようなところは切るべきだという意見もあったんですけども、やはりそれぐらい厳しくしないとよかれと思ってやって、結局いろんな責任を投げられて町がアップアップしていると、そういったことがないように今後きちんとそういった線引きというか、自分たちでできる部分はきちんとしてもらいたいとこれが要望であります。

以上で終わります。

○4番（佐田 元君）

25ページ、お願いします。

奄美農業創出支援事業費192万5,000円が落としてありますが、これの説明をお願いしたいと思います。

○経済課長（仲島正敏君）

こちら奄美農業創出支援事業は、園芸のほうのポテトハーベスターの入札をした際の今回2台導入をしたのですけれども、そちらの入札の執行残になります。

○4番（佐田 元君）

ハーベスターを2台支援する予定でできなかったということですが、このようにやっぱり予算計上する中では計画性のある予算を組んでいただきたいと思います。

その次、26ページですか。

○経済課長（仲島正敏君）

入札したらその分安くなって2台分でこの200万円安くなったということでございます。

○4番（佐田 元君）

そうですか、わかりました。失礼いたしました。

次のページの農業支援センターの運営費、これも352万2,000円、新規就農研修事業補助金、講習会負担金が落とされていますが、これの説明をお願いしたいと思います。

○経済課長（仲島正敏君）

ただいまの質問にお答えをいたします。

19番の負担金補助及び交付金ですけれども、こちらのほう新規就農者の研修ということで支援センターのほうで募集をかけていたのですけれども、現地で一度お目にかかってもらったと思うんですけど、1名の方の応募しか今年度なく、それに伴いまして他の人の分の研修費が執行されなかったということでの減額でございます。

○4番（佐田 元君）

1名しか講習を受ける人がいなかったということですが、これは今年度も募集はする予定ですか。

○経済課長（仲島正敏君）

引き続きカリキュラムなどを充実させながら募集をしてまいりたいと思いますし、またなかなか農業支援センターのことがまだ完全には町内の皆様に知れ渡ってないのかもしれないので、重ね

て広報のほうも頑張ってもらいたいと思っております。

○4番（佐田 元君）

この農業支援センターのほうですが、いろいろ世間のうわさを聞いてみますと、やっぱり農業支援センターの機能が十分発揮されていないような話が聞こえますが、この点に関して支援センターのほうで十分機能を発揮されていると考えていますか。

○経済課長（仲島正敏君）

何分にも始まったばかりでなかなか所長が決まって約1年、今経済課とも力を合わせながら、あといろんな備品等も先般来、議会で承認をいただいておりますのでそこらをうまく組み合わせながら新しくカリキュラムを組んでまたそのような世間の不安を払拭できるように頑張ってもらいたいと思っております。

○4番（佐田 元君）

質問が3回ですのでこれで終わりますが、最後に、最初の計画どおりこの支援センターの運営、最初の話の中ではバレイショの植えつけをされてというような話をしておりましたが、今その農場といいますか畑にそういうバレイショの植えつけをされて研修が行われていますか。

○経済課長（仲島正敏君）

最初、バレイショという話でしたけれども、やはり葉物の今の時期になったらブロッコリーとかエンドウとか、そういうのを今いろいろと挑戦をしているところでございます。

○4番（佐田 元君）

最初の計画どおりやっぱりやるのが農業支援センターの仕事じゃないかなという思いです。その場、その場で変更してするとやっぱり研修を受ける方も自分の希望するのが受けられなくて支援センターの都合で、野菜をつくるということで研修を受けようと思った方が他のものに行ったりしたりすると、やっぱり研修を受ける方も戸惑うと思いますので、今後は一つ計画どおりにやってもらいたいと思います。

以上で終わります。

○議長（美島盛秀君）

他に質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第7号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第7号、平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）について、採決します。こ

の採決は起立によって行います。お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第7号、平成30年度伊仙町一般会計補正予算（第5号）は原案のとおり可決することに決定しました。

議案第8号、平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）について補足説明があれば、これを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

議案第8号、平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）について、ご説明いたします。

既定の歳入歳出予算の総額10億3,330万9,000円に歳入歳出それぞれ944万3,000円を増額し、歳入歳出予算の総額10億4,275万2,000円とするものでございます。

予算書は4ページ、歳入歳出補正予算事項別明細書、歳入についてご説明いたします。

2款一部負担金については、保険者による診療費個人負担分の徴収金として科目存置のため1,000円を計上していましたが、減額しゼロ円とするものであります。

3款分担金及び負担金については、30年度特定健診受診者の個人負担金を500円と30年より減額したため実績見込みにより補正前の額69万2,000円から37万4,000円を減額し、31万8,000円とするものであります。

4款使用料及び手数料については、実績見込みにより督促手数料の10万円を減額し、補正前の額30万円から10万円を減額し20万円とするものであります。

6款県支出金につきましては、補正前の額8億1,416万3,000円に1,139万円4,000円を増額し、補正後の額を8億2,555万7,000円とするものであります。

詳細につきましては、予算書6ページをお開きください。

1項県補助金1目保険給付等交付金1節普通交付金を424万4,000円増額し、2節特別交付金において特調交付申請仮算定額との差額として894万3,000円を増額し、歳出予算額の財源充当先として一般管理費を2万8,000円増額し、一般被保険者医療給付費分納付金917万5,000円を増額し、一般疾病予防経費を実績により26万円減額するものであります。また、県繰入金（2号分）として県特調交付申請仮算定額との差額に基づき60万7,000円を減額し、充当先として賦課徴収経費を12万9,000円減額し、医療費適正化対策費を実績により47万8,000円減額するものであります。さらに、特定健康診査等負担金を実績見込みにより118万6,000円減額するものであります。

予算書戻りまして4ページをお開きください。

10款繰入金1項他会計繰入金につきましては、補正前の額1億359万9,000円から156万8,000円を減額し、1億203万1,000円とするものであります。主なものとして、1目一般会計繰入金において

職員給与費等繰入金を44万7,000円減額し、被保険者出生数の減少により出産育児一時金繰入金を112万円減額するものであります。

12款諸収入については、補正前の額774万9,000円に9万2,000円を増額し、784万1,000円とするものであります。主なものとして、一般保険者延滞金として7万5,000円を増額し、30万円とするものであります。

4項雑入におきまして、一般保険者第三者納付金を2万円増額し、72万1,000円とするものであり、一般保険者返納金として6,000円を増額し、5万8,000円とするものであります。歳入合計、補正前の額10億3,330万9,000円に994万3,000円を増額補正し、10億4,275万2,000円とするものであります。

次に、歳出は予算書9ページをお開きください。

主なものとしまして、1款総務費1項総務管理費1目一般管理費においては実績見込みにより減額するものであり、2項徴収費、3項運営協議会費につきましては出席等の実績により減額するものであります。

予算書10ページになります。

2款1項療養諸費を給付状況により19節負担金補助及び交付金について、1目一般被保険者療養給付費を3,138万2,000円増額し、退職被保険者等療養給付費を420万3,000円減額、3目一般被保険者療養費を97万6,000円減額、4目退職被保険者等療養費3万円を減額、5目審査支払手数料を19万1,000円減額するものであります。

同款2項高額療養費におきましての主なものとして、給付状況などにより、1目一般保険者高額療養費19節負担金補助及び交付金を135万6,000円減額、2目退職被保険者高額療養費を58万4,000円減額するものであります。

同款4項出産育児諸費についても、実績見込みとしまして168万円を減額し、504万円とするものであります。

予算書12ページからになりますが、6款1項保健事業費につきましても、実績見込み等により、2目疾病予防経費を62万7,000円減額し、497万2,000円とするものであり、3目医療費適正化対策経費として124万6,000円を減額し、548万2,000円とするものであります。主な理由としましては、7節賃金におきまして、栄養士賃金等の減額や保健事業に関連する11節需用費の減額などによるものです。

また、6款保健事業費2項1目特定健康診査等事業費につきましても、375万円を減額し、811万4,000円としております。主な理由は、実績見込みに伴います7節賃金の減額や、13節委託料におきまして健康診査委託料108万4,000円の減額などによるものです。

近年、特定健康診査受診者数は減少しており、29年は国が目標としております60%に届きませんでした。30年度におきましては、初めて年明けてからの再度の巡回健診を行ったことから、60%は超える見込みとなっておりますが、健診を受診せず、医療機関から情報提供数が今増加しております。なるべくは健診を受けていただき、適切な保健指導を受けたり、健診データによる生活習慣改善を

図り、重症化予防につなげていけるよう図っていきたいと考えています。

7款1項基金積立金については、1目準備基金積立金25節積立金につきましては、386万9,000円を減額し、年度内積み立てが困難な状況から減額とするものであります。

以上、ご審議賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第8号について、質疑を行います。

○5番（清 平二君）

9ページ、総務費の一般管理費の12役務費、レセプト点検事務手数料とありますけれども、実際にどのぐらい縦覧点検で少なくなっているのか。

それと11ページ、移送費2万円、当初で組んでありますけれども、減額2万円ということでゼロになっていますけれども、この移送移島は町民にしっかり知れわたっているのかどうか、その辺のところの答弁をお願いします。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

ただいまの質問にお答えいたします。

実績、ちゃんとしたものは、後ほどお示ししたいと思いますけれども、毎月、レセプト点検、役場のほうでも行っておりまして、月によっては違うと思いますけれども、146万ぐらいあったかと思えます。すいません、また詳しい数字は、資料を後ほどお示ししたいと思います。よろしいでしょうか。

それと、移送費に関しましては、そういった事案が起きた場合には対応するようにしますが、主に広報とかで、移送に関しては今のところ広報はしておりませんので、していません。

○5番（清 平二君）

レセプト点検で月に140万ぐらい、年間にすると大体1,800万ぐらいですかねということですが、そういうのをやっぱり十分に点検して、国保の給付費の減額をしていただきますようお願いいたします。

それから移送費については、やはり緊急な場合は、徳之島から鹿児島に行く飛行機や、あるいは向こうでの運賃、そういうのが高くなりますので、そういう対象者が出たら速やかにそういうのを出していただき、やはり町民が国保に入っていてよかったなど言えるように運営していただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

○議長（美島盛秀君）

答弁要らないの。（「いいです」と呼ぶ者あり）終わり。

他にありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。ここで質疑を終わります。

議案第8号について、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第8号、平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）について採決します。この採決は、起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第8号、平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）は、原案のとおり可決することに決定しました。

議案第9号、平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）について、補足説明があれば、これを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

議案第9号、平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）について、ご説明いたします。予算書をお開きください。

既定の歳入歳出予算総額9億9,187万3,000円に、歳入歳出それぞれ4,465万円を減額し、歳入歳出予算の総額9億4,722万3,000円とするものでございます。

予算書3ページ、歳入歳出補正予算事項別明細書、歳入についてご説明いたします。

2款国庫支出金、補正前の額3億377万3,000円から2,098万3,000円を減額し、2億8,279万とするものであります。主な理由といたしましては、実績見込みに伴い、1項国庫負担金1目介護給付費負担金1節介護給付費負担金現年度分において、施設介護サービスが350万円の減額、居宅介護サービスが1,044万1,000円の減額となるものであり、2項国庫補助金1目調整交付金現年度分が474万4,000円減額、地域支援事業交付金、日常生活支援総合事業現年度分について93万円の減額、4目地域支援事業交付金、日常生活支援総合事業以外で220万1,000円の減額を行い、5目保険者機能強化推進交付金については、実績評価により72万5,000円を増額するものであります。

3款1項支払基金交付金においても、実績見込みに基づき、1目介護給付費交付金において936万9,000円減額、2目地域支援事業支援交付金1節現年度分において125万6,000円の減額とするものであります。

同様に、4款県支出金1項県負担金1目施設介護サービスにおいて175万円の減額、居宅介護サービス分において308万8,000円の減額とするものであり、2項県補助金2目地域支援事業交付金、日常生活支援総合事業現年度分が58万2,000円の減額、3目地域支援事業交付金、日常生活総合事業以外が110万1,000円の減額とするものであります。

5款繰入金1項一般会計繰入金1目介護給付費繰入金においては、1節介護給付費繰入金として

483万8,000円を減額し、2目地域支援事業費繰入金におきましては、地域支援事業交付金、日常生活支援総合事業現年度分が58万2,000円減額、地域支援事業交付金、日常生活支援総合事業以外が110万1,000円減額とするものであります。

歳入合計を、補正前の額9億9,187万3,000円から4,465万円を減額補正し、9億4,722万3,000円とするものであります。

歳出につきましては、予算書7ページをお開きください。

平成30年度の実績見込みに応じて、2款保険給付費1項介護サービス費1目居宅介護サービス給付費は1,000万円の減額、3目地域密着型介護サービス給付費は850万円の減額、5目施設介護サービス給付費も1,000万円の減額とするものであります。

また、同款2項介護予防施設介護サービス給付費も1,000万円の減額とするものであります。

また、同款2項介護予防サービス等諸費におきまして、1目介護予防サービス給付費を620万円減額するものであります。

3款地域支援事業1項介護予防生活支援サービス事業費1目サービス事業費13節委託料において、短期集中リハビリ委託料を82万7,000円の減額、訪問型サービス委託料を19万円減額するものであり、19節負担金補助及び交付金において、通所介護負担金を150万円減額し、訪問介護負担金を130万円減額するものであります。

予算書8ページ、同款2項1目一般介護予防事業費についても、ほーらい館における介護予防教室や地域サロン事業などの実績見込みにより69万6,000円を減額し、759万3,000円としております。

同款3項包括的支援事業任意事業費において、予算書8ページから9ページになりますが、1目総合相談事業費については119万8,000円を減額し、497万4,000円とするものであり、減額の主なものとしましては、看護師賃金等の減額によるものであります。4目任意事業13節委託料において、実績見込みに伴い、配食サービスの食の自立支援事業委託料を120万円減額するものであり、同様に20節扶助費において、家族介護用品扶助費を60万円減額するものであります。その他の目内事業についても、同様に実績見込みに伴う減額であり、3款3項包括的支援事業任意事業においては、全体として補正前の額2,236万6,000円から540万6,000円を減額し、1,696万円とするものであります。

認知症を初め、さまざまな介護にかかわる窓口の相談は増加しており、訪問による相談支援も増加しています。今後も特に予防と重度化防止の観点から、家族やご本人に寄り添いながら適切な支援ができるよう、関係機関と連携を図り、事業の適正化と介護保険料の徴収、収納率の向上に、より一層努力し、健全運営を図っていきたいと考えております。

以上、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第9号について質疑を行います。

○5番（清平二君）

今、待機介護者が何人ぐらいいらっしゃるのか。それと、これに居宅介護サービスが1,000万、そ

れから介護施設サービスが1,000万落ちていますが、この辺の原因は、やっぱり待機者がいて減額なのか、待機者がいなくてそうなのか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

介護の待機者といいますか、施設介護待機者ということでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）介護に関しましては、介護が必要な方が申請をいただきまして、認定を受けた方が介護度が決まりますので、それに合わせた事業給付がされます。ですので、施設介護給付、必要な方には施設介護として給付はされておりまして、そちらと、施設の待機者とかは、ちょっと関係ないかと思います。必要な方には施設のほうでしたりとかに入っていますので、現在のところ、介護給付費の待機者というのはいないと思います。

○5番（清 平二君）

介護認定を受けての待機者はいないということですね。認定を受けて、施設に入りたいんだけど、そういう方々の把握はしているのかどうか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

介護認定を受けます。で、ケアマネジャーさんをつけますので、ケアマネジャーさんと、あと家族のほうに施設に関しましては申請をしまして、そちらのほうでとなりますので、希望の施設に入れないということはあるかもしれませんが、サービスに関しては、必要なところに、必要なところといいますか、介護度に応じたところでサービスを受けていただいていると思います。

○議長（美島盛秀君）

よろしいですか。

○5番（清 平二君）

終わりです。

○議長（美島盛秀君）

他にありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

ないですね。質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第9号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第9号、平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）について採決します。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第9号、平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算（第4号）は、原案のとおり可決することに決定しました。

議案第10号、平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について、補足説明があれば、これを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

議案第10号、平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について、ご説明いたします。予算書をお開きください。

既定の歳入歳出予算総額1億8,837万円に、歳入歳出それぞれ470万3,000円を減額し、歳入歳出予算の総額1億8,366万7,000円とするものでございます。

予算書3ページ、歳入歳出補正予算事項別明細書、歳入についてご説明いたします。

1款後期高齢者医療保険料につきましては、申告や生活保護受給者等による保険料の改定による調定額の変更等により、補正前の額3,770万3,000円から75万円を減額し、3,695万3,000円とするものであります。2月末現在での徴収率は、特徴は100%ですが、普通徴収が93.51%、滞納分が40.25%となっています。今後も夜間徴収や収納相談などを実施し、収納率向上に努めます。

3款繰入金、補正前の額1億4,642万9,000円から378万5,000円を減額し、1億4,264万4,000円とするものであり、主なものとしては、実績見込みに伴い、一般会計繰入金において、療養給付費繰入金を338万5,000円減額するものであります。

5款諸収入、補正前の額373万5,000円から16万8,000円を減額し、356万7,000円とするものであり、実績見込みに伴う2項1目保険料還付加算金10万円の減額や、4項1目保健健康診査事業収入において、10万6,000円を減額するものであり、システム改修に伴い交付される高齢者医療制度円滑運営事業補助金として6万2,000円を増額するものであります。

歳入合計を、補正前の額1億8,837万円から470万3,000円を減額補正し、1億8,366万7,000円とするものであります。

歳出につきましては、6ページをお開きください。増減の大きいものについて、ご説明いたします。

2款1項1目後期高齢者医療広域連合納付金19節負担金補助及び交付金について、補正前の額1億8,320万円から療養給付費を、負担金の確定に伴い338万4,000円減額するものであり、あわせて被保険者保険料特別徴収分を37万2,000円減額、普通徴収分を11万5,000円、滞納繰越分26万5,000円を減額し、補正後の額を1億7,907万1,000円とするものであります。

3款保健事業費1項健康保持増進事業費1目健康診査事業費については、長寿健診受診者実績見込みにより10万6,000円を減額し、4款諸支出金1項償還金及び還付加算金については、実績見込みより10万円を減額するものであります。

以上、ご審議賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第10号について質疑を行います。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第10号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第10号、平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について採決します。

この採決は、起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第10号、平成30年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）は、原案のとおり可決することに決定しました。

議案第11号、平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算（第5号）について、補足説明があれば、これを許します。

○ほーらい館長（重村浩次君）

それでは、平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算（第5号）の説明をいたします。1ページ目をお願いします。

既定の歳入歳出予算額、総額1億3,525万5,000円に、歳入歳出それぞれ184万3,000円を減額し、歳入歳出の総額を1億3,341万2,000円とするものです。

3ページをお願いします。

歳入、款2繰入金、補正前の額6,806万円に184万3,000円を減額し、6,621万7,000円とするものです。

歳入歳出合計1億3,525万5,000円に184万3,000円を減額し、1億3,341万2,000円とするものです。

5ページ、お願いします。

繰入金の184万3,000円の減額は、運営繰入金、職員給与繰入金の職員給与の繰入金です。

6ページをお願いします。

款1総務費、項1総務管理費、目1一般管理費の7賃金の90万円については、スタッフが2名途中で退職したからです。

以上、新規、よろしく申し上げます。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第11号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第11号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第11号、平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算（第5号）について採決します。

この採決は、起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第11号、平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算（第5号）は、原案のとおり可決することに決定しました。

議案第12号、平成30年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算（第4号）について、補足説明があれば、これを許します。

○水道課長補佐（徳永正大君）

議案第12号、平成30年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算（第4号）について、補足説明いたします。予算書をお開きください。

既定の歳入予算総額5億1,529万7,000円に、歳入歳出それぞれ1,059万5,000円を減額し、歳入予定の総額を5億470万2,000円とするものでございます。

7ページをお開きください。

1款使用料及び手数料1項使用料及び手数料1目水道使用料、補正前の額5,887万7,000円に260万4,000円を増額補正するものでございます。この増額は、調定実績の増額によるもので、滞納分の103万円については、収納実績の減少によるものでございます。

次に、3款繰入金1項繰入金、補正前の額8,182万8,000円に1,199万円9,000円を減額するものでございます。これにつきましては、一般会計からの繰入金の減額でございます。

次に、6款町債1項町債2目公営企業債補正額の1億3,880万円に120万円を減額するものでございます。

次に、8ページをお願いします。歳出の説明をいたします。

1 款水道事業費 1 項一般管理費 1 目一般管理費、補正前の額4,302万2,000円に366万6,000円を減額し、3,935万6,000円とするものでございます。主たるものとしては、職員手当の減額によるものでございます。

次に、1 款水道事業費 2 項原水浄水費 1 目原水浄水費、補正前の額3,585万5,000円に478万3,000円を減額し、3,107万2,000円とするものでございます。これにつきましては、主に需用費、電気代、修繕費の減によるものでございます。

次に、3 項配水給水費 1 目配水給水費516万1,000円に90万7,000円を減額し、425万4,000円とするものでございます。これにつきましては、量水器取替費の減額によるものでございます。

次に、3 目東部地区基幹改良事業費 3 億5,568万7,000円に93万4,000円を減額し、3 億5,475万3,000円とするものでございます。これにつきましては、事務費賃金の減によるものでございます。

次に、2 款公債費 1 項公債費 2 目利子、補正前の額1,153万7,000円に30万5,000円を減額し、1,123万2,000円とするものでございます。これにつきましては、償還金利子利率の見直しによるものでございます。

次に、3 ページにお戻りください。地方債の補正でございます。

起債の目的、辺地対策事業債、これにつきましては、補正前、補正後の変更はございません。(2) 公営企業債、補正前の限度額 1 億3,880万円を、変更後、限度額 1 億3,760万円に減額するものでございます。起債の方法、利率償還の方法については、変更はございません。

次に、4 ページお願いします。第 3 表繰越明許費でございます。

第 1 款水道事業費 3 項配水給水費、事業名、東部地区基幹改良事業、金額、6,430万3,000円を繰り越しているものでございます。

以上、ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第12号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第12号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第12号、平成30年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算（第4号）について採決します。

この採決は、起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第12号、平成30年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算（第4号）は、原案のとおり可決することに決定しました。

議案第13号、平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算（第4号）について、補足説明があれば、これを許します。

○水道課長補佐（徳永正大君）

議案第13号、平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算（第4号）について、補足説明をいたします。1ページをお願いします。

収益的収入及び支出の補正の収入のほうから説明させていただきます。合計額のみ説明させていただきます。

第1款水道事業費、既決の予定額1億2,748万円に485万1,000円を減額補正し、1億2,262万9,000円とするものであります。これにつきましては、主に一般会計からの繰入金の減によるものです。

次に、支出の説明をいたします。

第1款水道事業費1億1,505万5,000円に485万1,000円を減額し、1億1,020万4,000円とするものでございます。これにつきましては、原水費の中の修繕費、動力費の減、または総係費の賃金等の減によるものです。

続きまして、資本的収入及び支出の補正について説明いたします。

まず収入について、第1款資本的収入の4,446万7,000円に95万6,000円を減額し、4,351万1,000円とするものでございます。これにつきましては、一般財源からの支出金の減額によるものでございます。

次に、支出でございます。第1款資本的支出については、増減はございません。

次に、議会の議決を経なければ利用することできない経費でございます。1、職員給与1,996万4,000円に91万5,000円を減額し、1,904万9,000円とするものでございます。

以上、ご審議のほう、よろしく申し上げます。

○議長（美島盛秀君）

これから、議案第13号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第13号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第13号、平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算（第4号）について採決します。

この採決は、起立によって行います。

お諮りします。本案を原案のとおり決定することに賛成の方の起立を願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第13号、平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算（第4号）は、原案のとおり可決することに決定しました。

△ 日程第18 平成31年度施政方針

○議長（美島盛秀君）

日程第18 平成31年度施政方針について説明を求めます。

○町長（大久保明君）

平成31年第1回伊仙町議会定例会の開会に当たり、車の両輪である伊仙町議会の議員の皆様と町民の皆様に対しまして、平成31年度の町政運営にかかわる所信を申し上げ、ご理解とご賛同を賜りたいと思っております。

本町では、生涯活躍の町づくり、「すべての町民が主役のまちづくり」を掲げ、地方創生を推進してまいりました。日本一の高い合計特殊出生率と並んで、長寿者が多い町として、平成最後を迎える本年は、地方創生を柱とした施策をさらに推進し、「健康長寿、子宝日本一」という強みを生かし、全町民の力で、さらに大きく飛躍する年にしていきたいと思います。

世界自然遺産については、国際自然保護連合による登録延期の勧告を受けましたが、今年2月の世界自然遺産登録の再推薦を受けて、関係機関との連携をより一層強化し、確実な世界自然遺産登録の実現に向け、取り組んでまいります。

施政方針につきましては、本町の現状を踏まえた上で、平成31年度に取り組むべき各分野における主要施策について、施政方針の中で述べてまいります。

今回の施政方針は、まず大きく、財政、防災、地方創生、生活環境・産業、保健福祉・医療・介護、環境・観光及び教育の7つの分野に分けまして、それぞれの分野で「すべての町民が主役のまちづくり」の実現に向けた57項目の施策を具体的に掲げ、提案させていただきます。

財政分野においては、財政再建を喫緊の課題と捉え、常にコスト意識を持ちながら、職員一人一人が職務に遂行することで歳出削減に努め、財源の確保に取り組んでまいります。

防災分野においては、昨年の9月に襲来した台風24号により甚大な被害が発生しましたが、これを教訓として、各集落における自主防災組織を育成し、全集落での避難訓練を実施します。また、公民館・生活館等において、避難施設としての防災機能を強化することで、災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

地方創生分野においては、特筆すべき政策として「集中から分散」をテーマに、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域包括ケアシステムを、さらに深化させるため、各集落が取り組む「地域さわやかサロン」の拠点となる公民館機能の維持強化に向けた拠点施設整備を実施し、高齢者のIターン・Uターンを受け入れ、中核を担う徳之島交流ひろば「ほーらい館」と連携した町民の健康長寿を推進しています。また、農高跡地の利活用及び庁舎を含めた公共施設の再編に取り組んでまいります。

生活環境・産業分野においては、農用地施設の適正化、長寿命化を行う維持管理体制の強化や農業用水の安定供給、施設災害の未然防止のために老朽化が進む施設の改修が課題となっています。本町の経済を支える基幹産業の充実に向け、安定した生産基盤の確保のため、インフラ整備を推進してまいります。

農業生産額50億の持続的な達成に向けて、サトウキビ生産農家には、夏植え、春植え新植に対する助成事業を継続します。また、バレイショ生産農家には、輸送コスト支援を初め、共同利用機械の導入による労力の軽減、生産コストの削減を図り、生産面積拡大に取り組めます。

畜産農家には、繁殖雌牛の増頭や品質向上を図るため補助金を交付し、繁殖雌牛頭数の確保に取り組めます。農業人材の育成支援については、伊仙町農業支援センター青緑の里における一般農家向けの研修を実施し、後継者不足の解消に向けて、中核となる農業人材を育成していきます。

生活環境においては、重要な社会基盤である町内の町道・橋梁を順次、整備してまいります。公営住宅においては、入居待機者の解消に向け、長寿命化計画に沿って、順次、整備を行ってまいります。あわせて、水道事業においては、順次、老朽管の更新を進め、適切な管理のもと、安全で良質な水の安定供給を図り、健全な運営に努めてまいります。

保健福祉・医療・介護分野においては、特定健診受診率を維持することで自分自身の身体状況を把握し、生活習慣の改善や疾病の重症化予防が図られるように支援を行います。また、高齢者がみずから健康を保ち、身近な地域で介護予防活動ができるように努めてまいります。

子宝の町として、子育て世帯の負担軽減を図るため、子ども医療費の助成を拡充し、中学校卒業までの子ども医療費の無償化に取り組めます。

障がい者（児）の支援については、障がい福祉サービスの向上と関係機関との連携を充実させ、障がいのある人も、その家族も安心して暮らせるよう支援する体制づくりに努めてまいります。

子育て支援については、関係機関との連携により、東部地区への認可保育所設置を進めていきます。

環境・観光分野においては、世界自然遺産の登録に向けて、エコツアーガイドの育成やトレイルコースへの観光客向けガイドの育成、既存の観光施設の現状や課題の整理が必要です。世界自然遺産登録を目指す地域として、課題解決に取り組み、魅力ある観光地づくりを進めてまいります。

環境保全については、ノイヌ・ノネコ対策として、飼い猫の適正な飼養及び管理に関する条例も視野に入れ、アマミノクロウサギ保護に向けて取り組めます。また、生活排水による水質汚染を防

止するため、合併浄化槽設置への転換を推進します。

教育分野においては、変化の激しい社会で「生きる力」を備え、生まれ育ったふるさと徳之島を誇り、愛し、島の自然・歴史・文化・基幹産業である農業を守り育てる人材の育成と、本町の未来のつくり手となる子供たちを育成するため、教育のIT化の推進、漢検・英検補助事業、新学習指導要領実施に伴う小学校外国語教育、プログラミング教育を推進することで、教育の充実、発展に取り組んでまいります。

また、学校外での子供たちの学習環境を充実されるため、「いせん寺小屋」におけるキャリア教育の充実、地域資源を活用した人材育成に取り組めます。

以上が、平成31年度の主な施政方針の概要であります。施策の実現に向けて、職員が一丸となって全力で取り組んでまいります。

伊仙町議会並びに町民の皆様におかれましては、平成31年度における施策の実現と町勢発展のため、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

これで、平成31年度施政方針についての説明を終結します。

- △ 日程第19 議案第14号 平成31年度伊仙町一般会計予算
- △ 日程第20 議案第15号 平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算
- △ 日程第21 議案第16号 平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算
- △ 日程第22 議案第17号 平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算
- △ 日程第23 議案第18号 平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算
- △ 日程第24 議案第19号 平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算
- △ 日程第25 議案第20号 平成31年度伊仙町上水道事業会計予算

○議長（美島盛秀君）

日程第19 議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算、日程第20 議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算、日程第21 議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算、日程第22 議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算、日程第23 議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算、日程第24 議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算、日程第25 議案第20号、平成31年度伊仙町上水道事業会計予算の7件を、一括して議題とします。

提出者より一括して提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

提案理由を説明いたします。

議案第14号は、平成31年度伊仙町一般会計予算、議案第15号は、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算、議案第16号は、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算、議案第17号は、平成31年

度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算、議案第18号は、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算、議案第19号は、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算、これらの予算につきましては、地方自治法第96条第1項第2号の規定により提案しております。

議案第20号は、平成31年度伊仙町上水道会計予算を、地方公営企業法第24条第2項の規定により提案しております。

以上、ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

ただいま提案理由の説明があった議案第14号から議案第20号までの7件については、後ほど、当初予算審査特別委員会に付託する関係上、1回1項目の質疑をお願いいたします。

これから質疑を行います。

○3番（西彦二君）

一般会計予算書104ページ、款教育費、項高等学校費、目高等学校総務費、節負担金補助及び交付金の離島高校生修学支援費の453万円について、説明をお願いいたします。

○教委総務課長（水本 斉君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

離島高校生修学援助費は、高等学校が設置されていない伊仙町から徳之島町にあります県立徳之島高校へ進学する生徒の通学区に要する交通費に対し、補助する事業です。

補助額は、定期券購入額の半額です。国の支出金が半分ございます。

○議長（美島盛秀君）

これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第14号から議案第20号までの7件については、議長を除く13名の議員によって構成される当初予算審査特別委員会を設置し、付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

異議なしと認めます。したがって、議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算から、議案第20号、平成31年度伊仙町上水道事業会計予算までの7件は、議長を除く13名の議員によって構成される当初予算審査特別委員会を設置し、これに付託することに決定いたしました。

これから、当初予算審査特別委員会の正副委員長の互選を行っていただきます。

ここでしばらく休憩いたします。

休憩 午後 2時33分

再開 午後 2時40分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

当初予算審査特別委員会の委員長に牧 徳久君、副委員長に前 徹志君が互選されましたので、ご報告いたします。

以上で、本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会いたします。

次の議会は、3月8日午前10時より開会します。議事日程は一般質問であります。

お疲れさまでした。

散 会 午後 2時42分

平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

第 2 日

平成31年 3 月 8 日

平成31年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第2号）

平成31年3月8日（金曜日） 午前10時02分 開議

1. 議事日程（第2号）

- 日程第1 一般質問（樺山 一議員、前 徹志議員、清 平二議員、西 彦二議員、佐田 元議員）5名

1. 出席議員（13名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	杉山 肇 君	2番	牧本 和英 君
3番	西 彦 二 君	4番	佐田 元 君
5番	清 平 二 君	7番	牧 徳久 君
8番	上木 千恵造 君	9番	永田 誠 君
10番	福留 達也 君	11番	前 徹志 君
12番	明石 秀雄 君	13番	樺山 一 君
14番	美島 盛秀 君		

1. 欠席議員（1名）

6番 岡林 剛也 君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 穂 浩一 君 事務局書記 元原 克也 君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	大久保 明 君	副町長	稲 隆 仁 君
総務課長	池田 俊博 君	未来創生課長	久保 等 君
税務課長	名古 健二 君	町民生活課長	福司 銀二郎 君
保健福祉課長	澤 佐和子 君	経済課長	仲島 正敏 君
建設課長	松田 博樹 君	耕地課長	上木 正人 君
きゅらまち観光課長	佐藤 光利 君	水道課長補佐	徳永 正大 君
農委事務局長	元田 健視 君	教育長職務代理者	直江 宏晃 君
教委総務課長	水本 斉 君	社会教育課長	稲田 良和 君
学校給セ所長	伊藤 勝徳 君	ほーらい館長	重村 浩次 君
選挙管理委員会書記長	喜 昭也 君	総務課長補佐	寶 永英樹 君

平成31年 第1回伊仙町議会定例議会一般質問通告一覧表

順位	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
1	樺山 一 (議席番号13)	1. 決算の認定について	平成28年度伊仙町一般会計歳入歳出決算審査において、平成28年度多世代交流機能拡張事業が完了していないにもかかわらず決算書を虚偽作成し、監査委員に監査を付し、また平成28年度伊仙町一般会計歳入歳出決算審査で議会に認定させた件について問う。	町 長
		2. 環境行政について	「一般廃棄物の収集及び運搬業の許可取消し請求事件」について結審した事案、係争中の事案、また裁判には多額の公費（弁護士費用・旅費等）が支出されているが、その詳細について問う。	町 長
2	前 徹志 (議席番号11)	1. 徳之島交流ひろば「ほーらい館」運営について	①ほーらい館を運営していくために必要な資格はどのようなものか。また、その資格を持った職員が退職したあとは補充が必要となるのか問う。	町 長
			②ほーらい館利用者が少なくなっているように感じられるが、利用者を増やすためにどのような取組みを行っているのか。トレーナーによる専門的な教室や指導を行うなど、魅力をもっとアピールすべきではないか問う。	町 長
			③ほーらい館の施設管理や会費等の管理体制は万全か問う。	町 長
3	清 平二 (議席番号5)	1. 働き方改革について	2019年4月より働き方改革に関連する法律が施行されますが、伊仙町での対応について問う。	町 長
		2. 災害に強い町づくりの推進について	以前にも質問したが、町内のいたる所に落石注意箇所や倒木注意箇所が散見されるが、早急な対応が必要と思われる。これらについて把握をし、対処していく予定があるのかを問う。	町 長
		3. 町民の健康増進と介護予防について	厚生連の肺がん検診車による検診が近年行われていないようであるが、今後の実施予定はないのか。また、若年層の早世対策や各種検診の受診率向上対策について問う。	町 長

4	西 彦二 (議席番号3)	1. 農業政策について (糖業振興)	①2年続きの台風被害を受け、平成30年度産操業が始まり、平均基準糖度も厳しく、手取り価格も下落し生産農家にとっては大変厳しい製糖期となっている。この深刻な現状を受け、町として今後どのような支援対策を考えているのか問う。	町	長
		(園芸振興)	②今期の春植え推進計画の実施計画について、町としてどのような支援策を考えているのか問う。	町	長
			①今期のバレイショ取引価格も昨年同様に低水準となっており、生産農家は赤字経営を余儀なくされ、大変困窮している。町としてどのような支援策を考えているのかを問う。	町	長
		2. 教育関連施設について	町内の学校施設及び集落内の通学路等の危険箇所に関し、安全性を考慮した定期的な点検活動が行われているのか問う。	教 育	長
5	佐田 元 (議席番号4)	1. 災害復旧工事の進捗状況について	木之香ゴルフ場横の町道(木之香糸木名線)の路肩が6ヶ月余りも工事をせずに危険な状態であるが、放置している理由を問う。	町	長
		2. 施政方針について	平成31年度施政方針の中で、「重要な社会基盤である町内の町道を順次整備していく」と述べられているが、木之香糸木名線も早急に整備できないのか。また、整備するにあたり優先順位などを決めているのか問う。	町	長
		3. 指名競争入札について	①町内業者において、指名願いを出さない業者はいるのか問う。また、指名を受けていない業者はいるのか。あればなぜ指名しないのか問う。	副 町	長
			②町公共工事等に関し、指名競争入札・随意契約のみで行っている理由を問う。また、町内業者に限っても、一般競争入札にすることはできないのか問う。	副 町	長

△開 会（開議） 午前10時02分

○議長（美島盛秀君）

ただいまから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 一般質問

○議長（美島盛秀君）

日程第1 一般質問を行います。

初めに、樺山 一君の一般質問を許します。

○13番（樺山 一君）

おはようございます。13番、樺山でございます。ただいま議長より許可がありましたので、平成31年第1回伊仙町議会定例会において一般質問を行いたいと思います。

通告順に従って質問をしていきます。

平成30年第3回定例会の平成29年度決算審査特別委員会でも触れましたが、平成28年度の伊仙町一般会計歳入歳出決算において質問していきたいと思います。

地方自治法233条には、決算認定の制度を次のとおり規定している。会計管理者は、決算を毎年度8月31日までに町村長に提出しなければならない。町村長は決算の内容を検討した上で監査委員の審査に付さなければならない。町村長は監査委員の審査意見書を熟読し、参考に受けとめながら、その意見書を添えて議会の認定に付さなければならない。議会に決算を提出するに当たっては、町村長はその年度の主要施策の成果説明書を初め、所定の書類を提出しなければならない。

では、質問に入りたいと思います。

決算の認定について。

平成28年度伊仙町一般会計歳入歳出決算審査において、平成28年度多世代交流機能拡張事業が完了していないにもかかわらず、決算書を偽装作成し、監査委員に審査を付し、また平成28年度伊仙町一般会計歳入歳出決算審査で議会に認定させた件について、町長の考え方を伺います。

続きまして、環境行政について。

質問の前に、平成26年10月に一般廃棄物処理計画を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律の適正な運用の徹底について、環境省から通知文の中の最高裁判決の趣旨について紹介します。

最高裁判決の趣旨。平成26年1月28日の最高裁判決は、「廃棄物処理法において、一般廃棄物処理業はもっぱら自由競争に委ねられるべき性格の事業とは位置づけられていないものと言える」としており、「一般廃棄物処理計画との適合性に係る許可要件に関する市町村長の判断に当たっては、その申請に係る区域における一般廃棄物処理業の適正な運営が継続的かつ安定的に確保されるよう、当該区域における需要の均衡及びその変動による既存の許可業者の事業への影響を適切に考慮することが求められる」との考えに基づき判断されたものである。

したがって、仮に市町村長が一般廃棄物処理計画を踏まえた既存業者への事業の影響等を適切

に考慮せず、一般廃棄物処理業の許可処分または許可更新処分を行った場合には、既存業者からの訴えにより当該許可処分は取り消される可能性があるということになる。これは新たな許可処分に限定されるものではないことも留意する必要がある。

当該判決は、これまで6.19通知等により周知してきた廃棄物処理法の目的及び趣旨に沿ったものであることから、これを機に、一般廃棄物処理を市町村以外の者に委託し、また許可を与えて行わせる場合も含め、廃棄物処理法の目的及び趣旨を改めて認識の上、一般廃棄物処理計画の適正な策定及び運用をなされたい。

この通知を無視して、新規の一般廃棄物収集運搬業許可をしたことで、一般廃棄物の収集及び運搬業の許可取消請求事件が発生していると思われませんが、結審した事案、係争中の事案、また裁判には多額の公費が支出されていますが、その内容について、詳細に伺います。

これで1回目の質問を終わります。

○町長（大久保明君）

おはようございます。樺山 一議員の質問にお答えいたします。

まず、平成28年度の決算書が虚偽作成ということでもありますけれども、これは地方自治法、そして地方自治法施行令に従って決算書を作成してありますので、詳しくは総務課長のほうから答弁をしていただきますので、決して虚偽作成ではないというふうに思っております。

2番目に関しましては、また自席のほうから答弁をしていきます。

○議長（美島盛秀君）

町長をお願いします。町長は、その決算書を確認して、認定をして、議会に承認を得ているということでもありますので、その内容について、もう少し詳しく説明をしていただきたいと思えます。

○町長（大久保明君）

私は樺山議員の質問に答えておりますので、議長の今の質問に答える必要は全くないと思えます。

○議長（美島盛秀君）

内容がちゃんとしてないからです。

○町長（大久保明君）

今から答弁します。

○議長（美島盛秀君）

町長がわからないで。

○町長（大久保明君）

総務課長が詳しく答弁すると今答えました。

○総務課長（池田俊博君）

ただいまの樺山議員のほうの質問に、補足で説明させていただきたいと思えます。

地方自治法第208条第1項に、普通地方公共団体の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。第2項で、各会計年度における歳出は、その年度の歳入をもって充てる

という、会計年度及びその独立の原則を示しております。地方自治法施行令第166条第1項に、普通地方公共団体の決算は、歳入歳出予算についてこれを調製しなければならないと規定されており、歳入歳出予算が具体的に執行されたものが決算となるものであります。

その決算は、予算執行の結果である収支が完結した後でなければ確定することができません。この収支は、会計年度の終了によって締め切られるべきものと言えます。が、地方公共団体の出納は、地方自治法第235条の5に、普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖するとの規定を設けてあります。この日以後の一切の現金の移動はできないものが原則となっております。

したがって、決算は5月31日をもって確定するものであり、当該多世代交流施設機能拡張事業、平成28年度、体育館、室内遊具、備品購入事業の未納が発見されたときは、既に出納閉鎖後であり、その決算は動かしがたいものであると認識しております。

○13番（樺山 一君）

私がなぜ偽装と言うかといいますと、伊仙町長が鹿児島県の総務部市町村課長のほうに顛末書を出しているときに、顛末書の中に、今回の交付金不適切予算執行の経緯は、発注済み備品が納入されていないにもかかわらず、当該年度内に事業が完了した形式を整えるために、検査調書を納品済みであるように偽装し代金を支払ったことが発端でありますと書いております。

そして、今、総務課長の認識では出納閉鎖、5月31日の出納閉鎖内でないので偽装ではないということをお話しておりますが、6月6日に社会教育課長より町長に契約業者が備品を納入していないということを報告し、そしてそのときに私は、年度内にはもちろんなかったかもしれませんが、8月31日には会計管理者が町長に出して、それを町長が、8月31日までに町村長に会計管理者が決算書を出す。そして、町村長は決算の内容を検討した上で監査委員の審査に付すわけですので、そのときに町長は、6月9日に契約業者と協議を行い、早急に納品するよう忠告するとありますが、納品をしていない、2カ月もたっているわけですので、ここで契約不履行による契約の解除、それから支払い済み金額の返還請求、そしてそれと並行で地方創生補助金の実績報告書の修正を行い、また契約に係る指名停止措置要領に従って指名停止を行うなど、そういうことをすべきだったと私は思います。

6月9日、決算を出すときに、それが履行されていないということがわかっていたと私は思います。その点について、どう考えていますか、町長。

○町長（大久保明君）

この報告を受けたときに、私も本当に大変なことだという認識はありました。そのとき、課長、そして本人ともお会いして、早急に納入して、その金額を払うように話をしていました。その業者が必ず払うということでありましたので、そのことを期待していたというのが、そのときの状況でございます。

○13番（樺山 一君）

私が偽装決算書と言って、はい、偽装でしたと答えるわけにはいかないと私は思うんです。しか

し、偽装に値すると私は思っています。6月6日に知りながら、それから会計管理者から決算書が町長に出てきたり、そして町長が監査委員に決算を付託したりするのは。だから、私は、大体知っているということで、こういう形になったと私は理解しております。

そして、指名停止要綱等は伊仙町にありますか。

○議長（美島盛秀君）

暫時休憩します。

休憩 午前10時17分

再開 午前10時19分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○総務課長（池田俊博君）

その規則に関しては、規則制定しております。

○13番（樺山 一君）

先ほども質問しましたが、経過として契約の不履行による契約解除、そして支払い済みの金額請求、そしてそれと並行して地方創生補助金の実績報告の修正を行い、また指名停止措置等をするべきだったとは思っておりますか。

○総務課長（池田俊博君）

今回の交付金の不適切予算の執行の経緯でありますけど、その時点におきましては、町といたしまして、物品の納入のほうを促すということに重視し、事の重大さに気づいておらず、このようなことで住民からの監査請求も受け、監査のほうからも地方自治法第243条の2、職員の賠償責任に該当する重大な過失があり、それを履行する勧告を受ける結果となりました。町としては、監査委員からの損害賠償責任を負う勧告を真摯に受けとめ、これを全面的に受け入れることを決定しました。

町として、伊仙町不適正事務処理方針を策定し、各職員、管理職が基本的な職務規程にのっとり、基本に立ち返った上で、一地方自治体としてなすべき全ての事務執行に関し、地方自治法、地方公務員法を熟知し、適切な事務執行に努める。また、それを統括する組織倫理も法令遵守を基本としたものに構造的に改め、二度と繰り返すことのないようチェック体制、管理体制を強化し、伊仙町の信頼回復に努めてまいりたいと思っております。

○13番（樺山 一君）

平成29年度の4月あたりから、まとめてみますと、物品納入契約をして納品せず、29年4月3日に支払い、4月7日に地方創生交付金事業実績報告、4月25日、交付金の交付、6月6日、町長への報告、6月9日に教育長に報告、正常な自治体であれば、教育長と町長がまさに逆だと私は思いますけど、9月22日、平成28年度伊仙町一般会計歳入歳出決算審査、11月15日に平成29年度離島漁業再生支援交付金事業、物品が納品されず支払いだけする事案が発生。適切な手続をとってれば、

離島漁業再生交付金事業のこの事案は、私は起こらなかったと思いますが、どう思いますか、執行部は。

○副町長（稲 隆仁君）

ただいま樺山議員がご指摘の、まさにそのとおりで思っております。先ほど総務課長のほうからご説明がありましたけれども、金額的においては歳入の補助金、国庫補助金ともども歳入、そして歳出に対しましても、不適切ではありましたけれども、一応支払いという形式でお金の収支は出ておりましたので、この金額の訂正はできないということで、決算をそのまま提出したというところでもありますけれども、しかし、議員ご指摘のとおり、それまでに対する対応は、我々も前代未聞のことであり、先ほど総務課長からもありましたけれども、ただ納品、納入を促すということに全力を傾けたということが事実でございます。指摘のとおり、我々の対応がまずかったことは確かでございます。

○13番（樺山 一君）

わかりました。次に、離島漁業再生支援事業交付金を活用したオニヒトデやサメなど、駆除作業実績報告書でも疑義が生じている。また、離島漁業再生支援交付金事業予算のベースともなる漁業集落の構成員の数にも疑義が持たれている。この件について、町長はどのように認識しておりますか。

○町長（大久保明君）

これは通告にはない状況でありますので、私のほうからではなくて、担当課長のほうから、答える必要があれば、答えるべき点があれば、答弁をしていただきたいと思います。（「あんたらがわかっているのだったら答弁すればいいし、全然わかりませんでしたら、わかりませんでもいいです」と呼ぶ者あり）

○経済課長（仲島正敏君）

ただいまの樺山議員の質問にお答えいたします。

先般、議会の全員協議会で説明したとおりでございます。

○13番（樺山 一君）

全員協議会で説明したとおりに説明していただきたかったのですが、これは次の機会にしたいと思います。

決算書の着眼点として、決算審査に当たって最も力点を置かなければならないことは、予算が議決した趣旨と目的に従って適正に、そして効率的に執行されたかどうか。それによってどのような行政効果が発揮できたか。それから見て、今後の行財政運営において、どのような改善、工夫がなされるべきであるか。また、国や県の補助金も歳入の中で大きなウエイトを占めている。補助金を予算どおりに確保できるかどうか、その事業の施行と町の財政運営全体に直接重大な影響を与える。

平成28年度の多世代交流機能拡張事業、平成29年度の離島漁業再生支援事業、予算が適切に執行

されたとは言えないし、また、その他地方創生交付金事業では、補助金が確保できず、多額の一般財源で予算執行し、補助金を予算どおりに確保できたとはいえない。山積した課題を解決して、町民の信頼を取り戻せるようここで希望して、この件については質問を終わります。

○町長（大久保明君）

2番の一般廃棄物の収集及び運搬業の許可取消請求処分についての件に関しまして、詳細な弁護士費用、旅費等については、経時的に担当課長のほうから答弁をしていただきます。

先ほど平成28年ですか、一般廃棄物の新しい政令が出たという、その内容を議員のほうから発表していただきました。これはまさにそのとおりだと思います。私たちは、伊仙町の既存の業者が長い間、町の委託を受けてやってきたということは、これはその業者に対しましては敬意を表したいと思います。

そして、時代が大きく変わって、廃棄物に関するいろんな制約がかなり強くなってまいりました。そういった大きな時代の発展の中で、伊仙町における浄化槽の管理が不十分じゃないかというふうな意見が出てまいりましたし、町としても合併浄化槽をどんどん推進していく中で、県下においても浄化槽設置率が県下最下位、ないしは今最下位からワーストツーになっていますけども、それは県のほうからも常に指摘を受けておった中で、町民の方々から、10年ほど前から、その辺に関しまして、これは一業者の力では足りないのではないかというふうな意見等があって、またそのような署名、要望書なども出てまいりました。

そのことに関して、伊仙町議会の中でも、ほとんどの方がそのことを評価して、賛同していただいたという流れの中で、伊仙町は新たな伊仙町にし尿処理、そして浄化槽に対応できる方々が要望してまいりましたので、そのことを受けて、今回の裁判を伊仙町が申請を認めて、28年、認めて、そしてそれを許可いたしました。

少し経過を述べてみますので、28年度は、伊仙町の浄化槽の計画が不備であるということで、私たちはこの裁判を取り下げました。そして、その計画書を新たに作成して、29年度の申請を許可して、また既存業者のほうから許可取り消しということで裁判が始まりまして、このことが今係争中で、一審においては、伊仙町に未管理の浄化槽が約700あるということを一審のほうでも認めていただきました。そしてこれを適正に住民が浄化槽管理をできるためには、新たな業者も必要であるというふうな結果でありました。

二審は、つい1カ月ほど前、福岡高裁の宮崎支部で判決がありまして、この判決文を熟読した中で、700基の未管理の浄化槽があるということは認めております。

一つは、700ある浄化槽の年次的な計画が、数値的に記載していないということが一つありました。もう一つは、これは私も課長も含めて、口頭弁論に二度ほど傍聴した中で、既存業者が今のままでは会社が倒産してしまうだろうということが、向こうの弁護人の、弁護士の主張の主たるものであり、そして計画書が過去になかったということなど、いろいろ具体的な話をしていましたけど、大まかに言えば、既得権益というものが守らなければならないということでもあります。それは先ほど

の政令にあったとおりであります。

ですから、伊仙町のこれからも新築、新たなる浄化槽の必要性がありますので、2社はどんなことがあっても必要であるということは、私たちが認識しているし、その最高裁の上告を今行ったところでもありますので、その中でも今後、いろんな諮問機関等を置いて上告審をしていくこととなりますので、いろいろ具体的な裁判費用などは、最高裁で決定することになりますので、そのことも含めて、伊仙町の住民が1社でありますと、いろんな弊害も生じてまいります。

今の既存業者の人員では、とても伊仙町の浄化槽の処理はできないということは、それは裁判所のほうも認める状況でありますので、そういうことなどを含めて、約1年以上かかると今聞いておりますので、それを私たちは静観をしてみたいと思っておりますので、そのことを今日議会で榊山議員のほうから質問があったことに対して、また最初の多世代交流施設機能拡張事業なども、私自身も、これは1問目の答弁ですけれども、そのことに関しては、こういうことが起こるとは想定もしていなかった中で、何とか業者の方に払うようには、何回も何回も催告していた中での経過でございますので、法的に先ほど総務課長が答弁したとおり、これは違法の状況でないわけですから、そのことはそうですけれども、今後、こういうことのないように町職員、私も含めて心新たに、今後、こういうことのないように、全力で取り組んでいかなければならないと思っております。

○総務課長（池田俊博君）

榊山議員の一般質問にお答えいたします。

一般廃棄物の収集及び運搬業の許可取消請求事件に支出した経費といたしまして、裁判に関する資料等の通信運搬費7,432円、裁判への参加、弁護士との打ち合わせ旅費として9件39万3,460円、弁護士経費、委託料として支払った経費として184万6,800円、あと賠償金として7万9,978円、合計で232万7,670円でございます。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

町長のほうから裁判の内容については詳しく説明いたしましたけれども、結審した事案と係争中の事案の経緯を報告させていただきます。

まず、判決の言い渡しのあった事件でございますが、福岡高等裁判所宮崎支部で平成30年（行コ）第2号、一般廃棄物（し尿・浄化槽汚泥）の収集及び運搬業の許可取消請求控訴事件及び執行停止申立却下決定に対する即時抗告事件でございますが、これは先ほど町長からも言われましたように、平成29年3月16日付で伊仙町環境株式会社を与えた許可分で、伊仙町が鹿児島地裁で勝訴し、既存会社より控訴された事件でありまして、原告、既存会社、そして被告は伊仙町ということで、第1回目が平成30年4月4日に福岡高等裁判所宮崎支部において、双方の主張しております。そして、2回目が平成30年10月31日の日に結審いたしまして、判決の言い渡しは平成31年2月13日に、この本案を取り消すという決定がなされました。

それにおいて最高裁に向けて、31年2月18日に和田法律事務所と訴訟委任を締結いたしまして、31年2月25日に裁判所に、最高裁に向けて再上告しているところであります。

それと次に、係争中の事案でございますが、これは鹿児島地方裁判所で係争中の事件、鹿児島地方裁判所平成30年（行ウ）第8号、一般廃棄物（し尿・浄化槽汚泥）の収集及び運搬業の許可の取消請求事件、これは30年度に与えた分であります。

これは第1回目が31年2月12日に双方主張しておりまして、2回目の次回が31年3月26日となっております。今現況、既存会社より本案について、31年2月19日に鹿児島地裁に執行停止の確定、本案が確定するまで執行停止の申し立てが提出されているのが、今現状でございます。

以上です。

○13番（樺山 一君）

わかりました。最高裁の判決趣旨を私、質問で読み上げましたが、そのポイントは、みずから自由競争に委ねられるべき性格の事業とは位置づけられていない。そして2つ目が、新しい許可に際しては、既存の許可事業への影響を適切に考慮することとあります。

町長は、当議会において、かねがね競争させることでサービス向上すると発言してはばからないですが、もし町職員が町長発言を付度し、認識して、許可処分の業務に携わっているとしたら、町が許可を出し、既存業者から許可取消請求の提訴がされ、そして町は裁判に負け、許可取り消し判事されるということが永遠に繰り返されることとなります。それは訴訟の経緯を見ると一目瞭然であると私は思っております。

そこで伺います。許可申請があった場合、町長及び町の職員は、審査に当たって、どのようなことを重視しながら審査されているのかを伺います。

○町長（大久保明君）

自由競争を私は進めているわけではございません。何よりも町民の環境状況を改善するためにはどうしたらいいかということでございます。そのことに関しましては、既存業者が長い間に、これ私の感覚ですけども、長い間に既得権益があつて、そして浄化槽の変化、対応、社会の変化をしつかりと見抜いて、そしてそれに対応していくということがないために、多くの町民の方々が不満を持っていたということでもあります。

決して競争してということではなくて、それができないのであれば、どんなことがあつてももう一社、必要だろうということでございますので、継続的に、安定的に、町民がこれからますます厳しくなっていく環境問題に対応していくかということでもありますので、このことは私が、町長が自由競争を進めているからということじゃなくて、職員の多くの方々、多くの町民の方々がそのように思っていると私は確信して、今やった状況でございますので、余り、例えば独占というのが世の中にはよく、独占禁止法というのもあります。

ただ、このことだけが聖域である時代ではないと思います。ただ自治体がすべきことを委託してやっている業者、大変な努力をしてやってきた全国の自治体の、その方々の歴史的な価値、そして意義を評価しているのが、この前の、先ほど議員が発表した記事だと思います。

私は、このことをしたときに、環境協会の方々と両町の清掃組合の方々が来て、これをふやすと

自分たちは協力しないという話を聞いたときに、後でわかったのですが、一自治体で一業者が何らかの理由で倒産した場合は、緊急的に周囲の自治体が行うというふうになっているようであります。

ですから、そういうことまではならないけれども、今のこの時代に長い間の既得権益というのに守られているということ、そしてそれを政府も、国の政令ですか、この前の、さっきの新聞、そのことを金科玉条のようにもっていくという仕組みが本当に今の時代に合っているかどうか、私は疑問に今感じました。

これは伊仙町の状況を見て、鹿児島県内における伊仙町の浄化槽の非常におくれている点、これはもちろん町が業者に委託しているわけですから、町も指導もしなければならぬし、業者も責任を持って職員をふやして伊仙町の浄化槽をどんどんどん適正な管理をしていくというのが私からの主張であります。

○13番（樺山 一君）

町長の考え方はわかりました。しかし、無管理浄化槽が多くなった。私はその責任は市町村にあると思います。一般廃棄物の処理の統括的責任は市町村にあると、廃棄物処理法や最高裁判決環境省通知からも明白であります。町がなすべきことをなしてこなかった、まさに町行政が適正に機能していなかったと思います。

また、一般廃棄物処理基本計画等に無管理浄化槽が多いことを踏まえ、住民の意識高揚を図っていくとありますが、その方策として生活排水の適切処理について住民に周知するため、関係機関団体と連携して研修会の実施、パンフレットの配付、広報紙、ホームページ等の啓発文書の掲載等を行うとありますが、町においては具体的に実施してきた啓発活動の状況の詳細があればお示ししていただきたいと思います。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

ただいまの質問にお答えいたします。

これに対しましては、広報紙等に載せたりいたしまして、汚水人口をふやすように努力はしているところであります。

以上です。

○13番（樺山 一君）

後ほど、その具体的に実施した啓発活動の状況を資料として提出をお願いいたします。

○町長（大久保明君）

町が業者に委託しているわけでありまして、そして、いろんな資料等は業者にももちろん県の環境協会から行っているわけでありまして、そしてこの7、8年前からそのような署名活動があったということは、まさに住民と町は今の一業者では足りないということは議会の中でも述べてきた状況でありますので、パンフレットを作成して具体的にやったかどうかはこれは町の広報等を調べればわかると思いますので、これは恐らくその管理をしっかりと既存業者にしていくような契約にもな

っているしそれを確認して、それを守ってなかったとしたら既存業者の怠慢であるかもしれません。

○13番（樺山 一君）

それを、その怠慢を勧告して是正させ、私はこの法律にうたわれているように既存業者に委託する、そしてその既存業者の欠点を言うということは、やはりおのずと市町村の指導力、それに私は返ってくると思います。その業者の委託管理のそれを私はそう考えております。

そして、じゃ次に移ります。こういう、今結審した事案について損害賠償の請求もこれから出てくるのではないかなと私は思います。そして、損害賠償を受けた場合は町が損害賠償請求を受けるわけです。そしたら多額の公費を支出する可能性があります。

5、6年前まで、伊仙町内には既存業者により円滑にし尿くみ取り、浄化槽維持管理は遂行されていたと私は思っております。町長がそこで特定の会社に許可を出し続けて、まぎれもなくこれは町長及びこれを取り巻く特定の職員であることは明らかであります。町職員がみずから町長と協力し、あるいはまた町長の大きな権威に逆らえず指示に従ったのは現時点では不明ですが、今後の問題でもあると思います。

いずれにしても、町民の血税をもって損害賠償をすることは言語道断だと私は思っております。よって、町が損害をせねばならなくなった時点におきましては、速やかにその原因者町長と特定の職員への損害賠償請求をすることになると思います。そこできゅらまち観光課長に伺います。許可審査に付度はあったか、答弁を求めます。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

ただいまの質問にお答えいたします。

新規業者に対しましては、申請書が届きましてそれから申請をきちんと精査しながら、総務課長、町長の起案をとって申請を上げている次第であります。

○13番（樺山 一君）

もちろん、許可申請の書類が全て整っていたので許可を出したということは私もわかります。それがそろってなかったらやはり要許可ですのでそれはわかりますが、やはり上司に対する付度はあったかどうかということです。私が聞いているのは。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

これは私自身にも言えることではありますが、指示があればやはりせざるを得ない状況であります。

○13番（樺山 一君）

わかりました。じゃあ、最後に町長にお尋ねします。2月17日の奄美新聞によりますと、控訴審の逆転判決を受けた4日後、最高裁への上告について、弁護士と相談して100%上告すると決断され、実際に最高裁に上告したとありました。

ご承知のように、最高裁で判断するのは憲法判断、法律の重要解釈の判断のみで事実関係の調べ直し、差し戻しあるいは却下というのが一般的といわれています。許可の取消判決を受け、他にもう1件許可取消請求裁判を争っています。

そのような状況下で最高裁上告です。最高裁で却下された場合は、政治家としての責任をとる覚悟はありますか。お伺いします。

○町長（大久保明君）

最高裁の判決は、私は真摯に受け取り、そのときにしっかりと判断をしていきます。

○13番（樺山 一君）

進退問題には触れないということによろしいですか。

○町長（大久保明君）

ですから、その最高裁の判断、もちろん私はほぼ間違いなく今の状況では上告して、最高裁では勝利することを確信しております。そうでない場合は、そのときはまたいろいろ状況を見ながら判断をしていくことになります。

私は、この裁判を始めたことは、これは、このことが本当に全国いろんな自治体で環境問題は手を出すことのできない間違っただけの聖域になっております。ですから、それやっぱり崩していかない限り伊仙町の将来の発展はないと信じて今裁判している状況でございます。

○13番（樺山 一君）

全国で今行われていることを町長は崩していくという、それぐらいのやはり意気込みがあれば、退路を断つぐらいの覚悟がなければ私はできないと思いますよ。議論はここで終わりますけども、一般廃棄物の適正な処理の継続的かつ安定実施が確保されるよう事業の許可運用を行うことが重要であると環境省通知、または最高裁の判決趣旨を参考にしても述べられておりますが、廃棄物処理法の目的及び趣旨を改めて認識の上、一般廃棄物処理計画の適正な策定及び運用されることを希望し、私の一般質問を終わります。

○議長（美島盛秀君）

これで、樺山 一君の一般質問を終了します。

次に、前 徹志君の一般質問を許します。

○11番（前 徹志君）

おはようございます。11番、前 徹志です。ただいま議長より一般質問の許可が出ましたので、平成31年度第1回定例会において一般質問を行ってまいります。

それでは、徳之島交流ひろばほーらい館の運営についてであります。

①ほーらい館を運営していくために必要な資格はどのようなものか。また、その資格を持った職員が退職した後は補充できているのか伺います。

②ほーらい館利用者が少なくなっているように感じられるが、利用者をふやすためにどのような取り組みを行っているのか。トレーナーによる専門的な教室や指導を行うなど、魅力を持ってもっとアピールすべきではないか伺います。

③ほーらい館の施設や会費等の管理体制は万全か伺います。

これで第1回目の質問を終わります。2回目からは自席にて質問をいたします。

○町長（大久保明君）

前議員の質問にお答えいたします。

ほーらい館が10年を経過いたしまして、当初いろんな心配をした状況の中で、会員数も今安定はしてきていますけども、大きな運営資金はないと。変わったことは、スイミングスクールが独立して今いい状況で経営化しているという状況の中で、大きな問題点は資格を何年かの間に取得したほーらい館のいろんなインストラクターが、いろんな報酬の問題等で町職員採用試験を受けて、今町職員となっているという流れみたいのが出てきた中で、ほーらい館の職員の給与を今町職員並みに上げて来て、そのことをとめなければならないというふうには考えております。

補充された職員は、また今おる経験のあるインストラクターなどの指導で資格を順次取得しているような状況ではないかと思っておりますので、詳細についてはほーらい館長のほうからまた答弁をしていただきます。

○ほーらい館長（重村浩次君）

前議員の質問にお答えします。

まず1番目の、ほーらい館を運営していくために必要な資格はどのようなものが、またその資格を持った職員が退職した後補充を考えているかとお答えいたします。

現在、ほーらい館は健康増進施設として運営を行っております。厚生労働省の認定で、健康増進施設として認定有効期限が34年の3月31日までとなっております。申請時に出している人員配置が職員の異動によって変わっているのが現状です。

必ず必要とされる資格は、健康運動指導士、健康運動実践者が現状はまだいるため認定施設として認められています。今後両資格者とも異動、退職などの可能性があるため、資格認定講習会の参加、資格取得に努めていきます。

○11番（前 徹志君）

それでは、まだ資格を持った職員はいないということですか。

○ほーらい館長（重村浩次君）

現在、健康運動指導士が1名、あと健康運動実践者が1名とあとインストラクターが1名、3名です。

○11番（前 徹志君）

その後の、後継ということはまだ講習などそういうのはできてないのですかね。

○ほーらい館長（重村浩次君）

現在31年度に講習会の参加を1名希望しております。講習会の参加をするに当たっていろんな事前の講習とか、あと現在持っている資格がないと受けられないということなので、まずは健康運動実践者のほう取らせたいと考えております。

○11番（前 徹志君）

やはり給与が安いというか給与が十分でない若い人たちも長続きしないので、そこら辺のとこ

を、資格を取らせたり、そういうことをして若い職員が長続きするような環境で運営をしていただきたいと思います。

そしたら次お願いします。

○町長（大久保明君）

今ほーらい館の例えばサウナとかそれからトレーニングジムのほうもいろんな、水泳の一流の選手とか、陸上、プロ野球のキャンプで来た方々も頻りに利用している状況であります。

そのことを今後、館長もまた私たちも、今前議員がこれからの運営、審議会の会長をしていますのでその中でどンドン議論を進めていくことが重要ではないかと思っておりますので、詳細についてはまた館長のほうから答弁をしていただきます。

○ほーらい館長（重村浩次君）

それでは、2番目のほーらい館利用者が少なくなっているように感じられるが、利用者をふやすためにどのような取り組みを行っているか、トレーナーによる専門的な教室や指導を行う魅力をもっとアピールすべきでないか、この件に関しましては、現状1日平均利用者が350名から400名前後、そのうちプール、健康づくりプログラムに参加している人が200名程度です。あとの残りの方は入浴のみの利用となっております。多く利用している時期と大きな差はないですが、差があるとすると先ほど町長がおっしゃったようにスイミングスクールが独立したためです。

健康づくりプログラムの現状として、包括支援センター事業が4教室、会員専用教室13教室、保健センター事業教室が1で、毎月700名程度の利用があります。

現在、スタッフの人数では教室をふやす余裕がないのが現状です。スタッフの入れかわりも多く、専門的知識を身に着けることに時間がかかり、そのため健康運動士のもと日々実践研修を行っている状況でございます。

○11番（前 徹志君）

町長がさっきおっしゃったように、運営審議会の会長が私でありまして、運営審議会で協議議論しても町民の皆様には周知されていないような気がしまして、この場を借りて質問やら要望やらをしているわけではありますが、利用者が少なくなっているとの答弁であります。これは天城町のバス、徳之島町のバスが軽減されたせいもあるのですか。

○ほーらい館長（重村浩次君）

天城町のほうのバス利用者の利用がなくなったのが現状でございます。まず、ほーらい館の会員数の年度ごとのを申し上げますと、一番多い平成26年が824、そして27年が835で28年が803、29年は510、30年度が449ということで、29年からスイミングスクールのほうで独立しまして、この会員さんが約300名ということなんです。

29年、510から449というのが、天城町のバス利用者が約30名と、あと子供たちのズンバ教室というのをしていたのですが、これがインストラクターのほうで産休に入りまして、昨年の6月からレッスンをしていないのがあって、これで60名の減ということで、現在449名ということになっております。

す。

○11番（前 徹志君）

インストラクターの産休で減ったというのはちょっとあれですが、そのかわりに、だからさっきから言っているでしょ、2名3名交代要員を準備してちゃんとすれば60人の減は防げるわけですから、そういう考えを持ってしていただきたいと思います。

それと、300人から400人毎日人が集まるとは、ほーらい館しか徳之島にはないと思います。それで、伊仙町の職員、会員になっている数はどれぐらいかわかる範囲でお願いします。

○ほーらい館長（重村浩次君）

町の職員なのですが、今のところ把握はしておりません。調べてまた報告いたします。

○11番（前 徹志君）

私は毎日行っていますが、この中に顔を見られるのは数名しかいません。もっと、これが民間の企業、普通の企業だったらこういうわけにはいかないと思います。だから、町長も無理には言えんですけど、私が議会でこうすればちょっと言いやすくなるのではないかなという気持ちでして私は質問しているわけですが、その辺を課長の皆さんも、800人いた会員数が現在半分440人ですかねそういう感じですので、職員がみんな入ればあと100名、550になって、区長会とかそういうのも利用して、もっと職員全員がほーらい館館長に任さんで、それは、ほーらい館の問題じゃないか。という気持ちじゃなくて、町の財産また伊仙の財産である徳之島交流広場ほーらい館が、あと10年20年、未来永劫続きますように、皆さんが全職員で一丸となって運営に協力していただきたいと私はこのように思いますが、町長どうですか。

○町長（大久保明君）

以前、若い職員からその会員になるのにも、若い職員、若い地域の方々からあったのは、自分たちが会員になるのは非常に厳しいと。厳しいというのは、やっぱり料金が低いということでありますので、平均したら本土のこういう施設の半分もない値段設定していますけれども、それはそういうある程度裕福な方々が本当に相当いるわけであります。

ですから、伊仙町においてはそうでない方々がどのようにして参加するかということは、これは若い人たちの割引とか、職員も割引とかそういうことをしっかりとやっぱり断行していくことが、そうすると今度は高齢者からだけ何で割引しないのかということにもなりますけれども、それはそれで今伊仙町は特に高齢の方々若い子育て世代に対しては非常に寛容でありますので、そういうことなども可能性があるかもしれませんが、また運営審議会などで協議しながら、またほーらい館職員が本当にここでずっとやっていくという気持ちになれるような、そういう希望が持てるような職場にやっていくことは十分に可能であると思いますので、審議会の委員ともしっかりと協議をして前向きに考えていきたいと思っています。

○11番（前 徹志君）

町長がおっしゃったように、最初は何か抵抗があってみんな、何と言ったらいいかな。抵抗があ

って行きづらいような気がするのですが、そこら辺のところをほーらい館の職員の皆さんで払拭して、無料券とかそういうの保健福祉課長、何ですかねメタボを軽減した人には無料券をやるとかそういう知恵を働かして、会員をふやすようにできないものですか館長。

○ほーらい館長（重村浩次君）

今現在会員をふやすために、学校の夏休み期間とか期間を設けて半額にするとか、学生割引とかそういうのをしています。あといろんな実業団のほうにも来られた方にまたアピール等もして、一応今年は日本トライアスロン協会のご利用もいただいているような状況です。

○11番（前 徹志君）

じゃ、そのようによろしく願いまして、3番目お願いします。

○ほーらい館長（重村浩次君）

それでは、3番目のほーらい館の施設や会費等の管理体制は万全か問うについてですが、会費については昨年度変更し運営を行っております。現状、フロントシステムも10年を超えちょっとたまに故障することがあるので、今入れかえ時期に来ているのかなと考えております。

また、売上のほうに関しましては、遅番スタッフのほうでレジの売上台帳日報と照らし合わせて金額を確認し、金庫のほうに投入しています。この金庫を翌朝事務職員が開けて確認をし、再度投入したスタッフに金額の確認をさせ、その後また事務職員と私のほうで金額を確認して納入しております。

設備のほうは、現在10年たって古くなってきていますので、委託業者のほうで1時間おきの点検を行っている状況です。

○11番（前 徹志君）

会費の管理とかはちゃんとできているということですね。私がなぜこのような質問をするかというと、戸締りがちゃんとできてないというのも聞きますし、鍵の管理もちょっと去年あたりあったという話を聞いたものでこのような質問したのですが、ちゃんとできてればこれはこれで結構ですが、戸締りはたまに施錠がされてないとかそういう問題がありますので、終わりにはちゃんとした確認をしていただけるようにしてください。

以上で終わります。

○議長（美島盛秀君）

これで、前 徹志君の一般質問を終了します。

ここでしばらく休憩します。1時からやります。

休憩 午前11時23分

再開 午後 1時00分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、清 平二君の一般質問を許します。

○5番（清 平二君）

こんにちは。ただいま議長の許可を受けました。平成31年度第1回定例会において一般質問をいたしますので、町当局の明朗簡潔なご答弁をお願いいたします。

まず1番目に、働き方改革についてであります。2019年4月から、働き方改革に関する法律が施行されますが、伊仙町での対応についてお伺いします。

2番目は、災害に強いまちづくり推進とありますけども、町内には落石注意箇所や倒木注意箇所があります。早急に対応する必要があります。これを把握しているのかを問います。

3番目に、町民の健康増進と介護予防について、私は今年、肺がんで友人を1人失いました。このようなことがないように、各種検診の受診率の向上を高め、早期発見早期治療で、伊仙町が本当に長寿の町としていえるような政策をしていただきたいのです。

厚生連の肺がん検診による胸部CT検査が近年行われてないようですが、今後は予定があるのか、また若年層の早世対策や各種検診の受診率向上対策について問います。

2回目以降は自席にて質問しますのでよろしく申し上げます。

○町長（大久保明君）

清議員の質問にお答えいたします。

伊仙町における働き方改革につきましては、課長のほうから詳細について述べていただきます。

今、日本の企業、例えば最近においてはコンビニが24時間をかえていくのではないかと、ブラック企業とかいろんな社会問題が出ております。その中で、この伊仙町が働き方改革の中でこれを有効に生かしていこうということで、一つはサテライトオフィスですね、東京の通勤時間の長くなる企業等をこの暖かい通勤が余りかからない町に来てもらおうということなどもやっていきたいと思うし、また都会でいろいろ介護難民が出てくるときに、それは大変な医療機関の仕事がふえていくのを地方に分散していこうなどということも考えております。

また、これ総務課長が答弁しますけれども、今正規、非正規の枠がなくなっていると、伊仙町においても正職員、臨時職員のもうほとんど境界がなくなっていくということなどを取り組んでいきたいと考えております。

そしてまた、女性の働く機会をふやしていくために、産休育休などもどんどん推進していきたいと思っております。

今日は清 平二議員の奥様も来ておりますので、やっぱりそういった男女の機会均等などもしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

○総務課長（池田俊博君）

それでは、清議員の質問に町長の補足をいたしたいと思います。

働く方々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現する働き方改革を総合的に推進するため、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、雇用形態にかかわらず公正

な待遇の確保等のための措置として、一億総活躍社会の実現に向けて働き方改革に関連する法律が平成32年4月から施行されます。

このような働き方関連法の改正に伴い、地方公共団体においても地方公務員の臨時非常勤職員は、総数が平成28年4月現在で約64万人と増加しており、また教育、子育てとさまざまな分野で活用されていることから、現状において地方行政の重要な担い手となっています。このような中、臨時非常勤職員の適正な任用、勤務条件を確保することが求められており、今回の改正が行われたものがあります。

地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の内容は、一般職の会計年度任用職員制度を創設し、任用服務規律等の整備を図るとともに、特別職非常勤職員及び臨時的任用職員の厳格化を行い、会計年度任用職員制度への必要な移行を図るものであります。

従来は制度が不明確であり、地方公共団体によって任用義務条件に関する取り扱いが個々でありましたが、今般の改正によって統一的な扱いが定められ、今後の制度的な基盤を構築しようとするものであります。

今般の改正で、臨時非常勤職員を任用する全ての地方公共団体において、臨時非常勤職員の実態の把握、臨時非常勤職員の全体の任用根拠の明確化、適正化、特別職非常勤職員の任用の適正確保、臨時的任用の適正確保、臨時非常勤職員の職の再設定、会計年度任用職員の制度の整備、任用勤務条件等の設定、職員団体等との協議等、条例規則等の制定、改正を実施する必要があります。

改正法の施行日である平成32年4月1日に速やかに移行できるよう、国の示しているガイドラインや近隣市町村の状況を見ながら、平成31年9月議会までの条例制定に向けて検討を重ねてまいります。

○5番（清 平二君）

4月からは、正社員と非正規労働者の不合理な待遇を認めない同一労働同一賃金、正社員と非正規労働者で仕事内容が同じなら、賃金や休暇といった待遇を同じにすることが義務づけられます。

労働者から格差の理由の説明を求められたら企業は応じなければなりません。現在、職員給与の格差はないかどうかお伺いします。

○総務課長（池田俊博君）

今現在においては、臨時的任用と一般職員の給与においては、それは相当な隔たりは有するものと思っております。

○5番（清 平二君）

来年4月からは臨時職員にも同一賃金を与えなくちゃいけないのですが、伊仙町のほうでは財政的にはどのようなものでしょうか。

○総務課長（池田俊博君）

今そこら辺のところを町のほうで精査しております。また、現在県のほうにおいてもこのような地方公務員法等の制度改正によって、会計年度職員の任用等に関する条例等作成を県議会のほうに

提案しているとのことを聞いております。

また、そういうところ等も制定等されましたらそれに準じながら、また近隣市町村、各奄美群島12市町村の動向等を鑑みながら、伊仙町においてもそのような条例等制定をしていきたいと思っています。

○5番（清 平二君）

今、役場の中にも臨時職員が100何十名といますけども、こういう方々への、説明がきちんとして、今後の対応をどうするのか。お願いします。

○総務課長（池田俊博君）

今の伊仙町においては、課長会議、毎週行われておりますが、その場の中においても、各課において、職員、臨時職員の方にも、そういうような説明をするように、課長のほうにも、また指示はしております。また、根幹法制改革の関係で、第一法規のほうから、この会計年度任用職員制度に関する説明会等の開催等も要請してございますので、また、そのときに関しては、管理職、補佐、係長あたりまで、1日通して、この制度の改正と、また運用等を説明してまいりたいと考えております。

○5番（清 平二君）

やっぱり、働き方改革は労働者が働きやすい環境をつくるということで政府が求めていますので、非常に、今後、職員のこの給与関係、難しくなってくる。財政的にも圧迫されて難しくなってくると思いますので、その辺のところは、きちっと行政改革をして、やはり、職員の研修といいますか、そういうのをしっかりやっていただきたいと思います。

現在、課長いらっしゃいますけども、この方々も3年から5年を経験したら、6級に渡りをするとか、このように職員の給与格差の是正が必要だと思っておりますが、いかがでしょうか。

○総務課長（池田俊博君）

清 平二議員の提言は、本当、職員にとってはうれしい次第ではございます。また、しかし、片方において、これから先、給与の関係で町の財政が厳しくなる。そういうような矛盾の考え方もございますが、そこら辺のところは、また、しっかりと精査しながら、給料は上げるところは上げ、また、そこを抑えるところは抑えるような方向で、調整を進めてまいりたいと思います。

○5番（清 平二君）

伊仙町は非常に職員給与も県下では、ラスパイレス指数が、現在何%、80、（発言する者あり）86%ですか。やっぱり、低いほうですので、やはり、この職員の働き方改革を通じて、財政の改革をしていかないといけないと思っておりますが、職員の定数関係にはどう考えているのでしょうか。

○総務課長（池田俊博君）

今、伊仙町の職員の定数は160名でございます。この会計年度任用制度に伴って、臨時的任用という形になりますが、これは定数のほうには換算されないこととなっております。今の職員の160名定数、これは堅持していきたいとは考えております。

○5番（清 平二君）

定数160名ということですが、やはり、類似町村と比較したら、どういう割合でしょうか。

○総務課長（池田俊博君）

類似町村との比較というのは、最近見たことはないのですが、それほどの格差というか、定数の差はないものと思います。また、これから先に関しましては、類似町村ということよりも、あと、職員数、町民の数とかいう、そこら辺のところでも、また比較をしていながら検討していきたいと思います。

○5番（清 平二君）

これについては、しっかりと財政計画等を立てて、私たち議会のほうにも示していただきたいなと思います。

働き方改革については、これで終わります。次に、災害に強いまちづくりと町長はおっしゃっていますけども、施政方針の中に、防災・安全社会資本交付金事業を活用し、老朽化の著しい町道の整備を行いますとあります。

○議長（美島盛秀君）

清君、町長に答弁させてから。

○町長（大久保明君）

特に、去年の台風24号の後のいろんな避難の問題とか、それから、倒木、農業における大変な被害などを受けまして、伊仙町においても、災害に強いということで、今、区長の方々とも話をして、防災訓練を実施していくということになっております。

落石、倒木等については、また、担当課長のほうから答弁をしていただきます。

○議長（美島盛秀君）

2回以降は自席でいいですから。

○建設課長（松田博樹君）

落石注意箇所や倒木注意箇所については把握しております。危険箇所については、随時対応しているところであります。

○耕地課長（上木正人君）

清議員のご質問にお答えをいたします。

落石箇所、倒木箇所につきましては、把握をいたしております。農地パトロール、農道パトロールをしながら、危険箇所につきましては、随時対応しているところでございます。

○5番（清 平二君）

把握しているということですが、町内に何カ所ぐらい、落石あるいは倒木の箇所があるのか。教えていただきたいと。

○建設課長（松田博樹君）

急傾斜危険箇所ということで、23カ所。（「落石ですか」と呼ぶ者あり）落石になります。倒木

危険箇所が19カ所となっております。

○耕地課長（上木正人君）

倒木箇所が、東部、中部、西部と分けまして、東部地区に関しましては、これは広い範囲で、ちよっと囲ってありまして、大まかに2カ所、喜念の新田神社の近辺と喜念畑総の近辺、東側沢沿いということと、あと、中部に関しましては、3カ所、阿三のカムイヤキ周辺、土地改良区の8工区、9工区、あと、牧原地区。西部地区に関しましては、大体5カ所です。木之香ゴルフ場近辺、木之香阿権地区、あと、阿権の第1阿権地区、鹿浦川沿い、阿権川沿い一帯、それと犬田布団地、これは国営糸木名団地になります。あと、八重竿団地、阿権から八重竿へ抜ける道路と、馬根から阿権へ抜ける道路、そして、上晴地区、小島の展望台から小島の集落へ抜ける海岸沿い一帯です。

落石箇所に関しましては、喜念地区に1カ所、検福地区に1カ所ずつ確認してございます。

○5番（清 平二君）

これらの解消する計画等がありますか。

○建設課長（松田博樹君）

今現在、解消する計画等はありませんが、注意喚起のための看板を設置しました。それと、伐採に必要な講習を職員に受けさせて、講習修了証書をもらったりはしております。

○耕地課長（上木正人君）

ただいま建設課長の答弁の中にございました、伐採における必要なチェーンソーの講習を職員の方々に受講をさせていただいております。

また、31年度予算で、撤去に係る重機借り上げ料といたしまして、38万円を計上してございます。

○5番（清 平二君）

今、建設課長は、落石箇所や倒木の箇所、注意喚起ということですけども、これは、注意喚起だけでよろしいでしょうか。町長、どう思いますか。

○町長（大久保明君）

前日も清議員の質問にあった、明眼のほうは、いろいろ調査をしたりしていますし、あと、注意喚起といいますか、看板等もあると思います。それから、具体的にどうしていくかということに関しましては、通行、注意喚起が必要だし、通行止めとか、そういうものは、台風時とか、そういうときには必要であると思っておりますので、この倒木に関しましては、今後いろんな補助事業を受けながら計画的に伐採をしていくことになると思っておりますので、落石箇所、例えば、これは急傾斜地事業というものは、他の町では、下に家があるなど、そういうところがあって、補助事業がやっている状況ですけども、伊仙町においては、そこに適応するような場所がほとんどないというふうには聞いておりますので、ほとんどが道路に対する落石をどう対応していくかということは、今後、国・県とさまざまな交渉しながら、補助事業が出てくれば、それを獲得してやっていくことは可能だと思います。

○5番（清 平二君）

補助事業で解消していくとありますけども、施政方針の中に、防災・安全社会資本交付金事業を活用し、老朽化の著しい町道の整備を行いますとあります。この施政方針と危険箇所、これは、私は、最優先課題は、この落石箇所や倒木の箇所の解消だと思いますけども、優先順位についてはどうお考えでしょうか。

○建設課長（松田博樹君）

防災・安全交付金事業ですけど、その中に落石関係の採択事項が、採択事項が厳しくて、該当するようないところがないので、路面性状等をしているところであります。

○5番（清 平二君）

その路面等とその落石関係や倒木、その整備の重要性について、私は聞いているのですけども。

○建設課長（松田博樹君）

整備の重要性はわかりますが、その採択要綱に載ってないといけないということでもあります。

○5番（清 平二君）

補助事業に頼ってするのではなくて、やっぱり、伊仙町民の生命を守るというのであれば、一般財源を使ってでも危険箇所はやるべきじゃないかなと思いますけども、ただ、補助事業に頼って対応するのじゃなく、一般財源を使ってでも町民の生命と命を守ると、事故があってはならないと思いますけども、いかがでしょうか。

○建設課長（松田博樹君）

ですので、一般財源を使って町道の伐採と、あと、危険箇所の注意喚起等をしているところあります。

○5番（清 平二君）

注意喚起だけして、それで事故が防げますか。私は、注意喚起だけでは、いつ倒木するか、わからないのに、それを早く解消する方法が先じゃないでしょうか。

○建設課長（松田博樹君）

注意喚起だけじゃなく、実際に回って、危険なところは撤去しております。

○5番（清 平二君）

先ほど質問した中に、計画はないということでありましたけども、実践しているなら、実践しているということを報告していただきたいと思います。計画はない。危険箇所はあるけど、計画はないというじゃなくて、危険箇所があるのだったら、あります、そこは優先順位を決めて解消していきますという、私は答弁が欲しかったのですけども。もしここで、あってはならないことですが、もし、ここで、町民にこういう事故があつたら、伊仙町はどういうぐあいに責任をとりますか。

○町長（大久保明君）

今、事業をあらゆるものを、優先順位をつけてやっている中で、人命は最も大事であります。そのことも踏まえて、また、町政をどのように発展させていくかということも含めて、人の命をどう

救うかということになれば、これは、どこで線を引くかということなど、非常に難しい状況でもあります。万が一ということを考えれば、これは際限なく伊仙町内全域をそのような対応をしなければならない。極端なことを言えば、そういうのになりますので、現時点では最大限の努力をしていると。今後、防災訓練を行っていくと。そういうときに、危険箇所などは住民の方々にしっかりと自分の通勤場所などを熟知してもらって、危険箇所という看板等をしっかり設置していくということも、一つの大きな方法であると考えておりますので、先般明眼の森もいろいろ調査して、あれは、あそこの岩石を調査するだけでも3,000万の予算がかかるということなどを考慮していけば、他の例えば、さらに安全な道路を確保して迂回路をつくっていくとか、いろんな方法があると思いますので、これは、例えば、ガードレールがない道とか、そういうことも相当ありますので、それは優先順位をつけて、順次やっている状況でありますので、万が一、事故が起きたら、それは誰の責任かということになります。これは、高齢者が崖から落ちたら、それは町長の責任になるのかという、いろんな難しい判断をしなければなりませんので、これは、危険な松の木が落ちて事故が起きるような倒木対策は、今、町単独でもやっているわけですから、そのようなところは、清議員が話しているように、細心の注意を払って、最大限の努力をやってまいりたいと思います。

○5番（清 平二君）

ぜひ、これは、安全対策会議、安全対策委員会とでも申しましょうか、何かそういうのをつくって調査をし、順次計画を実施していく。実施してもらいたいと思いますけど、前回も私はこういう質問しましたけども、前回も、そういう計画はないかという話がありましたけども、危険箇所があり倒木箇所があるのだったら、やっぱり、そういう委員会等を立ち上げてやる必要があると思いますが、どうでしょうか。

○建設課長（松田博樹君）

先ほども答弁したとおり、危険箇所については随時対応しております。回っております。回って危険だと思われるところは、伐採しておりますし。

○5番（清 平二君）

落石箇所についてはどうですか。

○建設課長（松田博樹君）

落石箇所についても、落ちそうなやつは落としていきます。

○5番（清 平二君）

やはり、建設課長1人で判断するのではなくて、当局の中において議論をして、ここはもう最も危険だと思われるなら、そこをどう対策するか。明眼の話になりましたけども、あの石を調査するのに3,000万かかるかという話がありますけども、3,000万かかるのだったら、3,000万の調査費用じゃなくて、迂回路の、用地購入をして迂回路したほうが安くなるのではないかなと思うのです。そういうのを立ち上げて答弁してほしいと思います。どうでしょうか。

○建設課長（松田博樹君）

用地購入して、新しく道をつくるとなると、3,000万ではきかないと思います。

○5番（清平二君）

明眼の話をしていると思いますけども、やはり、そういうのを、委員会をつくって、立ち上げて、その委員会の中で議論していただきたいと思うのですけども、そういう委員会をつくる必要があると思いますか、ないと思いますか。町長はどうお考えでしょうか。（発言する者あり）

○議長（美島盛秀君）

どうですか。

○町長（大久保明君）

これは、この前、防災訓練をするというふうにしておりますし、区長の方々とも、そういう災害対策をやっている中で、そういうことは議論をしていけるし、課長会の中においても、そういうことは随時対応していますので、安全対策会議という委員会をつくる必要かもしれませんが、現時点の中では、十分にそういう議論はなされていると思います。

○5番（清平二君）

議論がされているということでもありますので、そういう危険箇所の計画的な解消を次の議会あたりまで、提出していただきたいと思います。

災害に強いまちづくりについては、このぐらいにして、次は、3番目、お願いします。

○町長（大久保明君）

この定期健診に関しましては、課長のほうから詳細に答弁書がありますけれども、一つ、特定健診は、伊仙町、当初から課長を中心に頑張っております。以前、早世ということが問題になりましたけれども、まだまだ若い方々の飲酒、喫煙、肥満というものは、まだまだであります。そういった中で、一つ、肺がんの検診に関しましては、これは県の委員会の中で、検診の委員になっておりますので、そのときに、胸部レントゲンと、それから、CTの話は何回も検診でするように勧めております。

また、例えば、バリウム透視ですね。胃だけじゃなくて、食道のバリウム透視などについても、これは明らかにカメラのほうで、確率が高いということになっておりますけども、胸部CTを撮る検診車の移動とか、台数が少ないとかいうことで、この検診はいろんな保険がきかないことになっておりますので、その辺も大きな課題であります。そのことは、再来週も、また、そういう委員会出ますけども、県全体でできるようには強力で推進をして、今まで以上に推進をしていきたいと考えております。

細かいことに関しましては、課長のほうから答弁していただきます。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

清議員の質問にお答えいたします。

肺がん検診車による検診の実施状況についてであります。

本町におきましては、健康増進法にのっとり各種がん検診を行っています。地域保健報告などで実績報告を行う健康増進法にのっとり行うがん検診としましては、胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がん、肺がん検診などがあります。これらの検診につきましては、1人でも多くの方が受診しやすいように、自己負担の軽減を図るよう検診受診の助成を行っております。

現在、健康増進法における肺がん検診は、胸部のレントゲン撮影と喫煙指数による喀痰検査と問診票によるものです。専門医が二重読影で行って、結核検診よりはチェックが厳しくなっていますが、おっしゃるように、精度的には、エックス線写真よりCT検査のほうが高くなると思います。

しかし、厚生連の肺がん検診車につきましては、肺がん検診実績としては報告ができないこと、また、以前、伊仙町でも厚生連検診での肺がんCT検査を行っていましたが、受診料が、今年も検診料7,710円となっており高額であります。また、精度が高過ぎて精密検査が必要と言われる割合が高く、精神的な負担が強くなり受診しなくなったなどの意見もあり、近年は実施を控えていたようです。肺がんCT検査の実施状況につきましては、平成23年から28年まで毎年実施しており、29年、30年、この2年間で実施しておりません。受診者数は23年が164人、24年が103人、25年が69人、26年が91人、27年が71人、28年が49人となっております。

清議員におかれましては、昨年の3月議会で肺がん検診車でのCT検査の受診について、受診料の助成についてなど、建設的なご意見をいただきました。まずは実施に向けて、徳之島3町でも話し合いを持ち、31年度につきましては、3町とも厚生連の肺がん検診車によるCT検査は実施を計画しています。

これまで、7月、8月に厚生連検診を実施していましたが、今年は5月に1週間、8月に3日間の実施になります。

肺がんCT検査につきましては、配車の点から、5月は検診車が来れないとのことで、実施は8月の3日間だけになります。

続きまして、若年者の早世対策と各種検診の受診率向上についてであります。以前、本町の、先ほど町長からもありましたけれども、早世率は県内でも大変高く、対策としまして、21計画の推進や国保のヘルスアップ事業、脳卒中対策プロジェクト事業など、さまざまな補助事業をとり、まずは受診率の向上を進めることが重要だということで、特定健診受診率の向上と要指導者に対する保健指導に努力してきました。

健診受診率につきましては、昨年度は60%を切ってしまいましたが、何とか、30年度はクリアしそうです。

健診は受診するようになり、特定保健指導実施率も県内でも上位にありますが、健診データを見ますと、県内の他市町村と比較して、喫煙率が高く、多量飲酒者が多い。依然とメタボ出現率が高い。女性に関しても肥満率が高く、脳卒中はやや軽減、減少してきたものの、介護要因として、心筋梗塞などが増加しております。まだまだ早世対策が進んでいるとは言えません。現在、糖尿病の重症化予防に力を入れていますが、育休中の職員も多く、保健センターの体制が厳しい状況となっ

ております。

この4月から、こうした状況に対し、町民の健康増進を図るため、保健センターとほーらい館を再編して健康増進課を設置します。ほーらい館の機能を高め、体制も強化しながら、早世対策他健診受診などについても再編はしますが、今後も、地域福祉課、子育て支援課、教育部局などとも連携を強化し、町民の健康増進に努力していきたいと考えています。

また、検診の受診率向上につきましては、平成30年度の健診受診率は、2月末時点で、胃がん検診が20.1%、肺がん検診が9.3%、大腸がん検診が33.8%、胃がん検診が24.6%、乳がん検診が30.6%となっています。

がん検診の受診率については、国は受診率の目標値を50%と定めています。

特定健診については、国の目標値に達していますが、がん検診については低い状況です。

また、検診を受診しても精密検査に行かない方もいて、こちらについても注力していきたいと考えています。

がん検診を多くの方に受けていただけるよう、31年度は、試行的にこれまで実施していました、3月の検診申し込みをせずに、受診対象者全員に受診通知をすることにしました。これに対する補助事業として、新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業を申請し、当初予算に乗せております。早期発見で早期に医療につなぐこと。それ以前に、がんを生活習慣病の一つであります。喫煙や多量飲酒、塩分過多、過度なストレスなど生活習慣を見直していけるよう、住民への啓発やメタボ対策としての運動習慣の定着や食生活の見直し、また、高齢者については、認知症対策に加え、フレイル対策としての低栄養などに対する施策を強化していきたいと考えております。

○5番（清 平二君）

CT検査が23年から28年まで来ている。23年から28年までであると、非常に受ける方々の人数が少なくなってきた。また、このCT検査をするための検診車は、伊仙町だけでは実現できるものではありません。やっぱり、3町が一緒になって、運賃の是正とか、均等割にしないと、伊仙町だけではとても持てるものじゃないと思いますので、3町できちっと連絡をして、検診料も、1人7,750円ですか。非常に、この肺がん検診だけでも高いです。今現在、31年度予算に各検診の負担料が573万3,000円あります。こういうのを無料化にして、検診率を高めるということは可能か、どうか。伊仙町でそのような計画はあるのか、どうか、お伺いします。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

ただいまの清議員のご質問にお答えいたします。

今、無料化というお話がありました。財政が豊かなところは、それもありかもしれませんが、伊仙町におきましては厳しいと思います。実際、特定健診の健診個人負担率をこれまで1,000円でしたが、30年度は500円に下げまして実施しました。それで受診率が数名はふえたかもしれませんが、それほど変わりはないかなと思っております。防災でも、ですけども、やっぱり、自助が基本だと思いますので、もちろん豊かであれば、充てていただけるのはありがたいんで

すけども、少ない財政をどう生かしていくかという中で、やはり、検診は、自分で健康は守るものだと思いますので、ある程度の負担はご自分で支払いしていただいて、自分の健康管理をするというのが大事じゃないかなと思っております。

○5番（清 平二君）

他の検診と一緒にして、自分の健康は自分で守るというのがありますけども、やっぱり、肺がん検診と一緒にすると、1人1万2、3,000円ぐらいになりますか。この財政がないということですけども、伊仙町には、たばこ税が4,732万円、31年度に計上されております。これを町民に還元するという意味で、こういうのを還元して、町民の健康を守るということをしていただきたいと思っておりますけど、いかがでしょうか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

たばこ税のお話、去年の3月にもお話をいただきまして、その点で課長会の中でも、ちょっと話題にしたことがあるのですが、先ほど申しましたように、大腸がん、胃がんとかの検診につきましては町のほうで負担をしております。そういったものも、たばこ税とか、そういう交付税の中で対応しているところはあります。ですので、全てたばこ税がこういう検診の無料化にできるかというのは、ちょっと難しいというのは、私も勉強させていただきました。もありますので、他の市町村と比べて、検診の自己負担料はそんなに大差ないと思っておりますし、安くしてもらっている分もあると思っております。

肺がん検診は、確かにCTで撮ったほうが精度は高くなりますので発見率が高くなると思えます。こういう伊仙町の財政を見たときに、他に手段としては、鹿児島県の低線量、CT検査ということで、29年度までは3,150円だったのですが、昨年から5,250円にはなっていますが、島内でしたら、徳洲会病院と宮上病院で受診ができるようになっています。そういったものもありますので、まずは、無料化というところよりも、まず自分の体は自分で守るということで、ある程度、検診料の負担はいたし方ないのではないかなと思っております。

○5番（清 平二君）

やはり、保健師としての考え方があると思えますけども、やっぱり、町民の負担も見た場合、たばこ税がこれだけ入っているのだから、これを町民に還元してほしいと私は思います。さらに、このたばこ税を利用して、老人クラブやら、ゲートボール協会、あるいは、グラウンドゴルフ協会、こういう団体に200万ぐらいの補助をしたら、増額したら、その団体が非常に活性化し、医療費と介護予防の抑制につながると思えますが、どうでしょうか。

○町長（大久保明君）

たばこ税は、たばこ税をふやしていくということは、たばこを、喫煙を推進しているようではないと思えますけれども、たばこの、これはいろいろ調査した結果、あちこちで出ていますけれども、喫煙と非喫煙での肺がん、舌がん、食道がんの発生率は、もう完全に差があるわけですから、それに対する治療費のほうがはるかに大きいわけですから、たばこ税はそういう健康維持のために使っ

てもいいとは思いますが、たばこ税が大きな財源として期待するのは、少し矛盾はしているような気がしますので、それは、4,000万はなかったと思いますけど、それを、「あるよ。4,700万ありますよ」と呼ぶ者あり）ちょっと喫煙者が多くなったのですかね。そういうことも含めて、税源の有効活用ということでもありますので、何よりも自己管理、しっかりした人は血圧の管理、そして、糖尿病にならないとか、肥満にならないとかいう、自分自身で健康増進を進めていくという啓発活動もさらに重要だと思っておりますので、これは、今、肺がんも胸部レントゲンも見逃しがないように二重、三重でチェックするようになってきているし、胸部レントゲンの精度も高くなっているというふうなこともなっておりますので、今後いろいろ、県の健康増進のセンターの委員、毎年2回出ています。いろんなことを地方の状況などを説明、訴えてまいりましたけれども、今後、肺がんと喫煙の関係、そして、県内におけるたばこ税の活用の仕方なども研究して対応してまいりたいと思っております。

○5番（清 平二君）

今、私が質問したら、たばこを勧めているような、ちょっと勘違いと思うのですが、そうじゃなくて、愛煙家の皆さんが町内でたばこを買ったら、たばこ税が高くなるわけです。私がちょっと調べただけで、伊仙町が4,700万ぐらい。天城町が5,500万ぐらいかな。徳之島町が1億3,000万ぐらい、たばこ税が来ています。これは、伊仙町の方が行って、徳之島町でたばこを買ったり、天城町で買ったり、その市町村でたばこを買うと、その市町村にしか、たばこ税落ちないのですよ。たばこを勧めているわけじゃなくて、こういうぐあいに、たばこ税があれば、目的をちゃんと、どういうぐあいに使いますよとやれば、まだまだ町内で買う方がふえて、たばこ税が多くなるものと思います。

こういう、たばこ税を町民に還元し、あるいは、また、子供たちも、この学校予算、教育予算として還元してもらいたいと思っておりますけども、たばこ税を一般財源化して何に使っているかわからないじゃなくて、ちゃんと、こういうものに使っていますよという町民にわかるような政策をしてほしいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○総務課長（池田俊博君）

清議員の意見、それはもっともなこともあると思います。しかし、今、たばこ税は一般財源化して、予算に計上はしてございます。それで、たばこ税とその税額によって教育予算のほうにも配分してございます。健康増進の部分にも配分してございます。子育ての部分にも配分してございます。全てにおいてこれがたばこ税でやりましたというような形ではありません、一般財源というのはそういうことで、全て町民の福祉のためにこの財源たばこ税を含む町税、法人税、全てにおいてそのような形で町民の福祉のために活用をさせていただいているところであります。

○5番（清 平二君）

たばこ税だけこういういろいろ話したのですが、やはりこういうことを議論することにおいて、伊仙町にまだまだこの伊仙町町外からたばこを買う方が少なくなり町内で買う方が多くなり、町が

潤うと思いますので、その辺のところをしっかりと広報したり、広報紙に載せたり、あるいはまた、その職員等も含めてですけども、広報し、しっかりとした財政運営をしてほしいと思います。

以上3つのことを質問いたしました。まず1番目、現在、伊仙町役場は働きやすい職場なのかどうか、もっともっと働きやすい職場づくりに努めてほしい。2番目は、やはり、町民の事故等がなく安全なまちづくりにしてほしい。3番目は、健康で長寿のまちとして、どれも生命が基本であるということを訴えてまいりました。

税、安全・安心のまちづくりにより一層邁進されることを期待し、私の一般質問を終了します。

○議長（美島盛秀君）

これで、清平二君の一般質問を終了します。

次に、西彦二君の一般質問を許します。

○3番（西彦二君）

3番、西彦二です。ただいま議長より許可を受け、平成31年度第1回定例会によって一般質問を行います。

1、農業政策について、農業振興、①2年続きの台風被害に受け、平成30年度産創業が始まりました。平均基準糖度も厳しく、手取り企画も希薄し、生産農家にとっても大変厳しい製糖期となっています。この深刻な状況を受け、町として今後どのような支援対策を考えているか伺います。

②今期の春植え推進計画の実施計画について、町としてどのような支援策を考えているか伺います。

園芸振興、①今期のバレイショ取引価格も昨年同様に低水準となっております。生産農家は赤字経営を余儀なくされ、大変困惑しております。町としてどのような支援策を考えているか伺います。

2、教育関連施設について、町内の学校施設及び集落内の通学路等など危険箇所に関し、安全性を考慮し、定期的な点検活動が行われているか伺います。

1回目の質問を終わり、2回目から席に戻って行きます。

○町長（大久保明君）

西彦二議員の質問にお答えいたします。

去年の台風24号、25号はこの徳之島全島において過去生産量が最低を記録いたしました。14万t代ということで、糖度も一時は期待されましたけれども、思ったようには上がっていない状況でございます。

そういった中で、去年もそうでしたけれども、去年は干ばつもかなり強かったのですけれども、国が緊急にセーフティネット事業を発動いたしまして、今年もまたサトウキビ増産基金事業が発動されます。

そういった中で、このいろんなサトウキビに関しましても品種27号がかなりいいという話もありましたけれども、定数が伸びないとかいろんな台風への対応なども今後は考えていかなければならないし、この面積確保が去年の春植え、夏植えと思ったように進みませんでした。今年も春植えを推進していくということですが、いかにせん苗が足りないという状況になっています。その

辺も考えて、今後とも三町一体となって、サトウキビ生産振興大会などでいろんな対策を講じてまいりたいと思っております。

○経済課長（仲島正敏君）

ただいまの西議員の質問にお答えいたします。

今町長からもありましたとおり、昨年度の台風24、25号の影響を受けまして、昨年来2つのサトウキビの増産事業というか、国の事業が発動となっております。町といたしましては、この2つの事業を活用し、新植の春植えに対しまして、堆肥であったり肥料であったり、並びに除草剤であったり耕運作業、埋立て作業などを計画し、助成をただいま行い、サトウキビ農家の栽培意欲、低下防止と反収向上へ努めてまいるところでございます。

○3番（西 彦二君）

キビ農家は、2年続きの台風被害を受け、大変厳しい製糖期となっておりますが、先日、徳之島サトウキビ生産対策本部より18年、19年度産の生産見込みが出され、開始当時は16万3,544 tと約1万4,000 t下回る14万9,000 tと、下方修正したとありましたが、我が町では前年度5万7,000 tに対し4万6,500 tと、1万 tの減を見込まれております。

基準糖度帯も当初より0.42度高い12.47度と13度の基準糖度には満たないと出ていますが、どのように見られていられるでしょうか。

○経済課長（仲島正敏君）

ただいま議員のおっしゃるとおり、当初見込んでいた数字よりも実際に収穫を始めますとなかなか畑の中のほうでキビがないというのと、また重さが軽いというのを、また思いの他糖度も上がっていないというところで、今後どうしていけばよいのかなということで、今、糖業振興会部会等を通じて今、お互いに議論を重ねているところでございます。

○3番（西 彦二君）

31年度施政方針にも上げられていますが、夏植え、春植えに対して助成事業と継続して生産拡大に努めるとありますが、どのような考えを持たれて 있습니까。

○経済課長（仲島正敏君）

基本的に今、31年度の当初予算にもありますとおりに、糖業のほう、メリクロン苗の助成であったりとか、環境にやさしい農業総合推進事業ということで堆肥の投入事業であったりとか、緑肥の助成、野草対策、ハリガネムシ防除、チンチバック防除、サトウキビ増産推進事業ということで、いろんな事業を今、とり行っているところでございます。

あと、先ほど町長からもありましたとおり、今後、すみません、町長答弁しておりませんでした、すみません。

今後、糖業振興会におきましては、春植えですと伸びたときにちょうど、伸び初めの成長期に台風にぶつかるということで、今後できましたら、先ほどありました27号等を通じまして、夏植えのほうにできるだけシフトをしていただけないかなということで、夏植えを推進してまいりたいなど

思っております。

こちら夏植えいたしますと期間は長くはなるのですけれども、台風が来るころにはかなり成長もしているということと、また収量も多いということ、あと比較的、若干干ばつに弱い部分があるかもしれないのですけれども、収量も多いということを含めまして、夏植え推進に向けてまた取り組みをしてみたいと思っております。

○3番（西彦二君）

2番目に、今期の春植え推進計画に300haとなっておりますが、12月議会のほうで出されたt当たり1,000円の町特別対策費の計上を期待していましたが、計上できなかったようですが、支援策として百菜及び商工会の商品券を計上できないか伺います。

○経済課長（仲島正敏君）

商品券につきましては、今期、春植えは、今は助成をしているのではないかと思っておりますけれども、次年度の予算におきましては、糖業部会等で話し合いをした結果、今の段階なのですけれども、畝立てとかの要望が特にございましたので、今年度は商品券でなくそちらのほうをという話にはなっております。ただ、今要望がありました商品券ということは、また即答はできないですけれども、部会等で協議をしてみたいなと思っております。

○3番（西彦二君）

支援策として商品券を計上いたしますと、また町の活性化並びに商工会の活性化になると思いますので、よろしく願いいたします。

今、農家の高齢化、人材不足も厳しい状況と思いますが、今回もセーフティネット基金が出されています。基金の活用で農家への経費削減や反収の向上、適期管理促進や生産量の確保とともに、及び作付面積の回復を図られると考えられます。

また、これ以上、生産量の低下が続きますと、製糖工場の2工場が1工場になることも考えられますが、今後、ピンチをチャンスにかえて、今一度、生産量の回復と島全体として考えていかなければならないと思いますが、どう思われますか。

○経済課長（仲島正敏君）

議員ご指摘のとおり、やはり徳之島は農業の島で、特にサトウキビは基幹作物でございますので、関係機関協力をして、推進をしてみたいと思います。

○議長（美島盛秀君）

町長はないですか。今の。

○町長（大久保明君）

南西糖業の社長さん、今の田村様は、毎年何回か来島して、このサトウキビ推進を国のほうにも強く要望している方であります。その方がどんなことがあっても2工場にするための努力はしているということでありますので、地元の我々が雇用問題、これサトウキビ産業の収量の利益の5倍近い経済効果があると言われておりますので、そのことも含めて、2工場維持の最低生産量は17万と

か18万tと言っていますので、それを今年も去年も下回った状況の中で、いかにして反収アップに努めていくかと、面積確保に努めていくかということの中で、反収格差が非常に顕著になってまいりました。その土地の有効活用は中間管理機構が中心となっていますけれども、これも土地に対する住民の、島民の方々の理解となかなか土地を県に貸すといっても、もう没収されるような心配をしているのをいかに解消するかということが最も重要で、反収アップのためには重要であると思いますので。

それから、長期的に、先ほど課長が言ったように、県のほうも夏植えを推進しております。これ例えば5年単位でみますと、そんなに大きな収穫の機会、チャンスはほとんどかわらない状況になりますので、そのことも1年以上でしっかりしたサトウキビをつくっていくということも大事であると思うし、あらゆる品種改良の中で、伊仙町にあったサトウキビというものもしっかりと選別していかなければならないと思います。

それから、ハーベスタの管理とか、それから共同利用、そしてハーベスタの移動をいかに少なくしていくかという、個々の個人的な人間関係、友人であるとかそういうことなどもありますけれども、各集落でしっかりと集落でやっていくことをもっと強力にしていくなど、こういう機会におきた課題が見えてまいります。先ほど、ピンチをチャンスにかえるとおっしゃいました。そういうところをしっかりと分析していくと。今まで3町で反収向上委員会というのが南西糖業主導でありましたけれども、これもなぜすまないかと思ったら、責任がどこにあるかわからないと。課長が参加していないということなど、後から言われまして反省もしましたけれども、その確固たる組織を、組織というか、これは組織というよりも逆にスリム化です。糖業関係の委員会が工場中心、JA中心、それから各町が中心であると、重なった部分をいかに一つにして、その中での会議の密度と、そして決定力をいかにしていくかなど、やるべき課題はたくさんあると思いますので、そのことも含めて考えていかなければならないし、他の島でかなり夏植えに移行しておりますので、その島の状況などもしっかりと確認をしながらやっていけたらと思っております。

○3番（西彦二君）

今現在、サトウキビ収穫はほとんどが90何%ハーベスタ収穫となっています。農家が電話一本で作業を行えるし、やっぱり営農集団のほうも限界がありまして、やっぱり人手不足も足りないし、また機会の維持管理もなさねば、いろんな課題をともにまた農家、町単位全体となってこれからも考えていけたらと思います。よろしくお願ひいたします。

園芸振興について、2番、今期バレイショに対しても昨年と同様低水準となっておりますが……

○議長（美島盛秀君）

西君、答弁させようか。

○経済課長（仲島正敏君）

先ほど、最初ありました西議員の園芸振興につきまして答弁をさせていただきます。

本年度の野菜の価格に関しましては、暖冬による消費量の落ち込みに加え、生育の前進傾向によ

る出荷数量の増加により、全国的に安値水準で推移しております。

バレイショにおいても北海道の不作傾向であったものの消費の鈍さから在庫を抱えての販売となっており、苦戦が続いておりました。しかし、3月に入りまして、天候の影響で出荷量が少なく、引き合いが強くなってきているようで、3月6日の売立速報ではJAの平均で115円となっております。

これを含めまして、対策ということで、昨年度もありましたけれども、平成30年第4回議会の補正予算において、県の野菜価格安定制度における本年度産バレイショの資金造成を行っておりますが、生産量の増加により農家への補給金は十分でないと考えております。

今後につきまして、現在、JA徳之島事業本部と協議を行っておりますが、今まで2月の申込数量700tを1,000tに、3月の申込数量1,300tを2,000tに増加する予約をし、今後の価格低下に備えるよう、再検討を進めているところでございます。

また、共販以外の生産者に対しては、農業共済組合が推進しております収入保険制度への農家の加入促進に努めていくことも今後必要と考えております。

○3番（西 彦二君）

今季のバレイショに対しても昨年と同様に定数維持となっておりますが、3月に入りまして価格も上がってまいりましたが、天候のほうがすぐれず、作業の遅れ、疫病や品質の低下が見られますが、どう思われますか。

○経済課長（仲島正敏君）

疫病等、混入いたしますと、今後の価格にかなり大きな影響を与えますので、農家の方も各自圃場での一次選別の徹底をお願いしたいと思っております。

それと、また対策というところですが、平成31年度の当初予算のほうに、園芸振興費ということで、防風ネットの設置作業の労力を提言することを目的として、ネットを張る際の支柱を掘る機械、防風ネット支柱の穴あけ機械というのですかね、ホールティガーという機械があるそうなんですけれども、こちらを3機導入することを計画いたしております。

○3番（西 彦二君）

よろしく願いいたします。

また、3町で園芸作物及びバレイショの加工センターの建設はできないものか伺います。

○経済課長（仲島正敏君）

加工センターにつきましては、伊仙町は西犬田布に加工センターございます。天城町もございます。また、徳之島町におきましては美農里館がありましてというような感じで、3町ともに加工センターがございます。3町で整備するとなりますと、徳之島アイランドと広域での話し合いが必要ではないのかなと思われま。

○3番（西 彦二君）

加工センター建設によりますと、新たな商品の開発、また加工やいろんな面でも安定生産のでき

るような感じができますので、ぜひ検討をお願いいたします。

2番目に、教育関連施設についてお願いいたします。

○教育長職務代理者（直江宏晃君）

皆さん、こんにちは。学校施設の安全管理について課長が答弁いたします。よろしく申し上げます。

○教委総務課長（水本 齊君）

学校施設の安全管理については、各学校の教員の方が毎月安全点検を行っております。その中で、改善が必要と思われるところについては、教育委員会のほうに報告も出てきております。そこは、改善が必要と思われるところについては、順次、改善を行っていております。

あと、通学路については、社会教育課長が答弁いたします。

○社会教育課長（稲田良和君）

西議員の質問にお答えします。

集落内の通学路についてですが、1学期中に各学校にて安全指導担当の教委やPTAの係で校区を点検し、危険な場所を安全マップに記載し、児童生徒に指導を行うなど、各家庭に周知を行っているところでございます。

教育委員会では、教育委員会を中心とした通学路、安全推進協議会で点検を行っているところです。また、町郊外生活指導連絡会のほうでも、東部、中部、西部の各学校に分かれた危険箇所等の再確認を行っているところでございます。

○3番（西 彦二君）

先日、町小中学校PTA協議会がありまして、その中でも町内また子供たちの通学路に対しても、ブロック塀や危険箇所などいくつかの指摘がありました。どのように考えていますか。

また、現在、危険箇所は何件ほどあるか、お願いいたします。

○社会教育課長（稲田良和君）

先般、町生活指導連絡会の中でもありましたが、ブロック塀に関しては、個人所有ということでお願いをして改善を行うということになっております。

あと、先ほど申しました、通学路安全推進協議会の中で、町としてかかわるところを各課連携して、できるところは行っていく方向で進めています。

○3番（西 彦二君）

また、危険箇所には立て札など設置していただきたいと思います。町内の学校通学路など、危険箇所を早急に対応し、町民、児童の安全第一に努めていただきたいと思います。

○社会教育課長（稲田良和君）

質問にお答えします。

先ほど申した通りで、通学路安全推進協議会の中で議論を進めていますので、また今年度、31年度も学校から提出していただいた危険箇所等点検をしながら、対応を行っていきたいと思います。

○3番（西 彦二君）

よろしくお願いいたします。

最後になりますが、5月には元号が変わります。新たな年にかかります。施政方針にもあります。生涯活躍のまちづくり、全ての町民が主役のまちづくりを挙げ、大きく飛躍する年になりますようお願いしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（美島盛秀君）

これで西 彦二君の一般質問を終わります。

しばらく休憩します。

休憩 午後 2時30分

再開 午後 2時40分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

佐田 元君の一般質問を許します。

○4番（佐田 元君）

4番、佐田 元でございます。ただいま、議長のほうから、平成31年度第1回定例会の一般質問の許可がおりましたので、通告書に従いまして質問いたしたいと思っております。

まず、1番目に、災害復旧工事の進捗状況についてであります。木之香のゴルフ場横のちょうど木之香から糸木名線の路肩が6カ月余りも工事をせずに危険な状態であるが、その放置しているものであります。

2番目に、施政方針について、平成31年度施政方針の中で重要な社会基盤である町内の町道を順次整備していくと述べられているが、木之香糸木名線も早急に整備できないのか。また、整備するに当たり、優先順位などを決めているのか問います。

3番目に、指名競争入札についてであります。まず、1番目に、町内業者において、指名願を出さない業者はいるのか。また、指名願を出して指名を受けていない業者はいるのか。そうであれば、なぜ指名しないのかを問います。2番目に、町公共工事等に関し、指名競争入札、随意契約のみで行っている理由を問う。また、町内業者に限っても一般競争入札にすることはできないのかを問います。

2回目からは自席で質問をいたします。よろしくお願いいたします。

○町長（大久保明君）

佐田議員の質問にお答えいたします。

去年の、佐田議員も含めた町内視察のときにも区長と一緒にその線を視察しました。その後、また路肩が非常に危険であったということでもありますけれども、遅れた理由に関しましては、台風等が悪影響を及ぼして延びている状況だと聞いておりますので、詳細については課長のほうから答弁

をしていただきます。

○建設課長（松田博樹君）

佐田議員の質問にお答えします。

木之香ゴルフ場横の町道木之香糸木名線ですが、当初8月に災害査定の手続きでしたが、台風の影響により順延され、10月30日に災害査定が実施されました。その後、道路河川災害査定が12月5日でそれから12月14日に漁港施設災害査定、1月10日に港湾施設災害査定がありましたが、現在は、木之香糸木名線に関しては入札も完了しておりますので、3月中にも工事着工できると思います。

○4番（佐田 元君）

遅れた理由は台風の関係で遅れたということですが、また入札が行われて3月に着工する予定ということですが、この件に関しましては、そこを通る者の一人として、アスファルト、コンクリートのほうがひび割れし、中のほうは空洞になっており、本当に、先ほど清議員のほうからも質問がありましたが、2次災害が発生しないかという思いが非常にしておりました。今回の入札で工事請負ができるということは非常に喜んでおります。

そこでお伺いいたしますが、あの路肩、落ちていた箇所、あののぼりというか印、旗が立っていますよね。2本。あの部分だけ工事をされるのですか。

○建設課長（松田博樹君）

あの範囲だけが災害で認定されていますので、あの部分を修繕するようになります。

○4番（佐田 元君）

できたら、なんせゴルフ場があるという関係で、大変工事が難しいと思うわけですよ。それで、あの部分、残った部分、2mぐらいあるのではないかなと思いますけど、やるのであればついでにやったほうが、次災害が起きたときに、また同じことの繰り返しになるのではないかなという思いですが、これは災害ということで、予算面とかいろいろあるかと思います。

それで、この工事、本当に難工事になるかと思いますが、そのところはちゃんと地主、ゴルフ場のほうとも話などはついていますか。

○建設課長（松田博樹君）

当初、査定を受ける前にゴルフ場の地主さんとお話をさせていただいたところ、ゴルフ場内に重機、車等は入れてくれるなということだったので、工法を考えまして、違う工法でできないかということで国、県と相談をして、違う工法を設定して工事するようになっております。

○4番（佐田 元君）

そういう仕方、工法でやるというのであれば問題はないのではないかなと思いますが、何せあの道路は次の質問にも関連しますが、道路が1本しかないということで、恐らく工事期間中は通行止めになるのではないかなということは懸念されますが、そうすると非常に町民の方に迷惑というか、かかるとは思いますが、そこら辺のところはどういうふうな計画をされているのでしょうか。

○建設課長（松田博樹君）

工事自体がもう下に降りられないので、道を完全に通行止めをして工事に入ることになります。

○4番（佐田 元君）

完全に通行止めとなると、本当に不便を期すわけではありますが、迂回路も難しい道路ですので、そのところは仕方ないという考えをしております。

それでは、2番目をお願いします。

○建設課長（松田博樹君）

佐田議員の質問にお答えいたします。

平成24年度、28年度に実施している路面性状調査の結果とともに、交通量及び地元の要望を考慮し、優先順位を決め、整備を実施しています。また、平成30年度にも路面性状調査を実施しておりますので、順次整備していく予定にしております。

○4番（佐田 元君）

順次整備していくということですが、本当に先ほど町長のほうからもお話がありましたが、この道路は、本当に交通量が非常に多いところです。ゴルフ場もあるという関係もありますが、天城に高校に行かれる方、また集落内の方、亀津方面に行く方など、本当に交通の便が多いところがありますが、なんせ道路の幅員というか、幅がなくて、お互いに出会った場合にはどちらか一方の車がバックして道路を譲らなければいけないという、そういう状況のところでもあります。

そういうところの整備をやってもらえるということ、本当にまた集落に私帰ってもまた報告したいと思います。

そういうことで、ぜひ早急に工事にかかるように希望いたしたいと思います。

次、3番目お願いいたします。

○副町長（稲 隆仁君）

佐田議員の一般質問であります指名競争入札についてお答えいたします。

まず1番目の、町内業者において指名願を出さない業者はいるのか。また指名を受けていない業者はいるのか。あればなぜ指名しないのか問うとありますけれども、現在、伊仙町において一応、業者という形で、ここ近年に指名を出されていた業者が50業者ございますけれども、現在のうちの12業者については指名願を出されていない状況でございます。

なお、その指名を出されている業者の中で指名願を受けていない業者はいるかということでもありますけれども、残りの38業者のうち5業者について指名をしております。

その理由はなぜかということでもありますけれども、その業者の方々に伊仙町条例の中の伊仙町不当要求行為等の防止に関する要綱に抵触する違反行為があったことにより指名を控えていることとございます。

○4番（佐田 元君）

12業者出していないということ、またその中の、指名願は出してはあるのだけど5業者指名をし

ていないということのようですが、副町長のほうから説明、この違反行為ということはどういう違反行為でしょうか。説明をお願いします。

○副町長（稲 隆仁君）

伊仙町条例の中に、伊仙町不当要求行為等の防止に関する要綱というのがあるのですが、その項目の中で、その行為とは商社等の公共施設の保全を脅かす行為ということでもあります。なお、この伊仙町不当要求行為等の防止に関する要綱というのは、伊仙町に対するあらゆる不当要求及び暴力的要求行為に対しては、組織的に対処することにより職員の安全と公務の円滑かつ適正な執行を確保することを目的とするとうたわれている、この条文の適用でございます。

○4番（佐田 元君）

今、答弁によりますと、脅かす行為とか不当要求とかあります。これは、その5業者、全業者がそのような行為をされたということですか。それでよろしいですか。

○副町長（稲 隆仁君）

なお、発言、行動等個々の内容等につきましては、その業者の名誉にかかわることでもありますので、詳しい説明は控えさせていただきます。

○4番（佐田 元君）

こういうような行為があるということを、その行為はどういう行為なのか、脅かす行為というその中身はわかりませんが。たしかこれは、この5業者、いつごろから、こういうような指名から外すというか、指名しなくなったのでしょうか。そこのところをお願いいたします。

○副町長（稲 隆仁君）

一昨年12月からとなります、はい。

○4番（佐田 元君）

一昨年12月ということは、29年の12月。その年は、町長選挙があった年ですよね。これは、この町長選挙とは関係ないですか。その指名外したのは。

○副町長（稲 隆仁君）

直接的に、その町長選挙とは関係ないものと思っております。

○4番（佐田 元君）

たしか、ある業者のほうから聞いたところによりますと、「町長選挙に応援しなければ、一切、伊仙町の入札指名はさせない」という発言も、町長のほうにされているのも承知しております。こういう事実あったのですか。町長、お願いします。

○町長（大久保明君）

まさに寝耳に水でございます。そういった発言は、したことは全く記憶にありません。

○4番（佐田 元君）

町長に記憶がないということですが、それ、ちゃんとした証拠もありますので。もし、よろしければ、また後ほど詳しい説明をしていきたいと思っております。

この何年か、町内の業者、指名願を出しても指名がされない。こういうあれが、本当にこの近年、こういうような気がいたします。

ここに、資料があります。これは、ある議員が、平成29年第2回伊仙町議会定例会第2日目、平成29年の6月14日、そして第1回の3月8日、質問されているのがありますが。この中に、「指名委員会は、あくまでも業者を指名、推薦する委員会でございます、決定権は、あくまでも契約担当者いわゆる町長にあるわけで、決定の段階で変わると。ままある」という、このような答弁もされております。

指名委員会で指名をしても、途中で変わるということ。これは、町長の特権というかそういうことで、町長の権限でやっているという取り方をしておりますが。

この指名、これについて、何か契約規則とかそういうのがあるのではないかと思いますけど、もし、あるのであれば、説明をお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

しばらく休憩します。

休憩 午後 3時00分

再開 午後 3時01分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○副町長（稲 隆仁君）

指名競争入札の参加者の指名についてでありますけれども、伊仙町契約規則の第21条に、「契約担当者は、指名競争入札に参加させようとする者の指名をするときは、なるべく3人以上の者についてするものとする。この場合において、指名競争入札に参加する者に必要な資格に基づき、作成した名簿の中から、選考委員会に諮って指名するものとする」という条項がございます。

○4番（佐田 元君）

その規約の第21条、これには、3人以上の者にするものとなっております。この指名、これを3人以上の者にしているか、また、その1社だけに指名をしない。こういうことが、伊仙町では多々あるような感じがいたします。

先ほど、午前中、樺山議員の質問の中にもありましたが、次世代の問題、この件に関して、町長のほうは昨年6月議会で、「大変な失態である」と。「反省している」ということも述べられております。これが、この競争入札、こういうものに非常に問題があるのではないかという思いがいたしております。

ぜひ、町内業者の育成を図るために、公正に参加させるように希望いたします。先ほど、違法行為があったという話もありますが、これも、恐らく何らかの原因があって、そういうようなこともされたのではないかという思いがしておりますので、ぜひ、これから先は、町内業者の

育成のためにも公平にやっていただきたいと思います。

それでは、その2にお願いいたします。

○副町長（稲 隆仁君）

2番目の質問に、町公共工事等に関し、指名競争入札及び随意契約のみで行っている理由を問う。また、町内業者に限ってでも、一般競争入札にすることはできないのか問うということでありませけれども、一括してお答えしたいと思います。

一般競争入札は、地方自治法第234条の第1項にありますけれども、一般競争入札とは、地方公共団体が契約に関する公告により、一定の資格を持つ不特定多数の者の入札による競争に参加させ、町公共団体に最も有利な条件を提示した者との契約を締結するということでもありますけど。

この一般競争入札は、透明性にすぐれ、発注者のサイドの余地が少ない、客観性の高い方式ではありますが、不特定多数の業者が参加可能ということで、不良適格業者の参入を防止しにくく、また、入札参加者の質を確保することが困難であるということ等々を含めて、そしてまたさらに、工事を受注がしたいがために低価格で入札をし、手抜き工事等の事例も見られるということがあります。

そして、事務的な件に関しましては、入札参加者が多数になりますので、入札審査の事務量が膨大になるということで、非効率的ということになるかと思っているところであります。

それで、国と県におきましては、指名をするのが逆に大変な事務事業になるわけでもありますので、100%、一般競争入札で行っているところでもありますけれども、ほとんどの地方自治体においては、7割近くが指名競争入札を実施しているところでございます。

その指名競争入札については、メリッ的なことで、大体信頼できる業者等を発注できるということ。また、入札規約の、先ほどもありました事務の簡素化が図れる。さらには、一定の競争性は確保することができる。そしてさらには、地元の業者を優先的なという形の、地域要件等の考慮が可能となるということで、競争入札を採用しているところでございます。

そして、さらにもう一点、もう1つの契約方法として、随意契約があるわけでもありますけれども。

先ほどの、災害等の緊急な場合等によって、入札その他の時間等に緊急性を要する等におきましては、随意契約で、その業者に直接契約をするということ。そうすることによって、その業者をピンポイントで指定できるわけでもありますので、その業者の力量、そして、その工事のクオリティー等が把握できるというメリットがあるわけでもございますけれども。

そしてさらに、特殊な工法、今、一番わかりやすく言えば、文化財の調査とかああいう特殊性のあるもの。

そして、競争入札等の有利性をもって契約できるというもので、随意契約の制約としては、地方自治法第167条の2項にありますけれども、そこに載っている7つの要件のみに適用する事業について、随意契約ができるということでもあります。

○4番（佐田 元君）

今、国や県のほうでは、一般競争入札のほうをとっているという話であります。私が調べた中で、これは国交省のほうから出ているものでございますが、ここに、「国や地方自治体などの公的機関が契約を行うには、一般競争入札に移すことが原則」というようなことを書いてあります。その中で、この一般競争入札のメリットが載っております。一般競争入札方式には、3つのメリットがあると。

1つ目は、税金を節約して有効に使うことができるということです。競争によって、少しでも使われる公金が減るわけですから、それだけ税金を有効利用することになりますということが書いてあります。2つ目は、公平性の確保です。また、3つ目として、業者が均等に参加できるというメリットがあるということです。

先ほど、副町長のほうから答弁がありましたように、この指名一般競争入札の場合は、時間がかかるなど、いろいろ問題点もあるようです。

しかし、今、我が町で行っている指名競争入札、随意契約。これには公平性に問題が生じているということ。これは、先ほど説明していただきましたが、指名委員会での3人ぐらいにやっているという、少人数で入札するというので、一番問題になるのが、お互いの談合ではないかという思いがいたします。

このように、特に、我が町、小さな町では、顔見知りの方、全員が顔見知り。そういうことで、お互い話し合いをし、そして談合をし、そして入札すると、このように入札価格も若干、最低価格とそう変わらないような価格で入札されているのが現状ではないかという思いがします。

そこで、我が町、この伊仙町、先駆けて町長が施政方針の中にも入れてあります「全ての町民が主役のまちづくり」という観点からでも、先ほどもお話したように、伊仙町のこの全業者が、伊仙町の発注工事に参加できるようにしていただけないかという思いです。

午前中、町長のほうからもありましたように、今の、現代の時代に沿った、そういう入札の仕方もやってみて、そういうことをやって、「やっぱり今までどおりがよかった」ということであれば、そういうあれでも結構ですが。せっかくこのように入札の中身は、一般競争入札、指名競争入札、随意契約という3つの形式があるわけですから、そういうのを有効に使って、そして、我々の税金が無駄遣いにならないように切に希望いたしまして、私の質問を終わりたいと思います。よろしくお願いたします。

○議長（美島盛秀君）

答弁は要らないですか。

○4番（佐田 元君）

答弁、要らないです。

○議長（美島盛秀君）

これで、佐田 元君の一般質問を終了します。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次は、3月11日月曜日、平成31年度当初予算審査特別委員会による現地調査になりますので、議員の皆さんは現地用の制服を着用の上、10時までに議場へご参集お願いいたします。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

なお、この後、全員協議会を行いますので、議員の皆さんは議会委員会室へご参集をお願いします。

散 会 午後 3時13分

平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

第 3 日

平成31年 3 月11日

平成31年度伊仙町一般会計他 6 特別会計当初予算審査特別委員会

平成31年 3月11日（月曜日） 午前10時00分 開議

1. 議事日程（第3号）

○日程第1 平成31年度伊仙町一般会計予算他 6 特別会計当初予算審査特別委員会現地調査

1. 出席議員（12名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	杉山肇君	2番	牧本和英君
3番	西彦二君	4番	佐田元君
5番	清平二君	7番	牧徳久君
8番	上木千恵造君	9番	永田誠君
10番	福留達也君	11番	前徹志君
12番	明石秀雄君	13番	樺山一君

1. 欠席議員（1名）

6番 岡林剛也君

1. オブザーバー（1名）

14番 美島盛秀君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 穂浩一君 事務局書記 元原克也君

～平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査特別委員会～

△開 会（開議） 午前10時00分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまから平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査特別委員会を開会いたします。

当特別委員会は、平成31年3月7日の本会議において付託されました平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算の審査を目的としており、委員会の会期は本日3月11日から14日までの4日間を予定しております。詳細につきましては、お手元に配付してあります議事日程のとおりでございます。

また、委員の皆様におかれましては、同当初予算審査において慎重に審査を行った上で、委員会報告書を提出いたしますので、効率的かつ円滑な委員会運営を行えるよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

日程第1 委員の派遣について議題とします。

お諮りします。平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査に関する現地調査を実施するため、伊仙町議会会議規則第74条の規定に基づき、お手元に配付してあります委員派遣要求書(案)のとおり、議長へ委員派遣要求書を提出してもよろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

異議なしと認めます。したがいまして、委員の派遣についてはお手元に配付してありますとおり、委員派遣要求書を議長へ提出することに決定しました。

本日はこれで散会いたします。

次の特別委員会は3月12日午前10時より本議事堂において、平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査を行いますので、本議事堂にご参集ください。

なお、この後現地調査となりますので、役場前のマイクロバスに移動していただきますようよろしくお願い申し上げます。

散 会 午前10時05分

平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

第 4 日

平成31年 3 月12日

平成31年度伊仙町一般会計他 6 特別会計当初予算審査特別委員会

平成31年 3月12日（火曜日） 午前10時02分 開議

1. 議事日程（第4号）

- 日程第1 議案第14号 平成31年度伊仙町一般会計予算（補足説明～質疑）
- 日程第2 議案第15号 平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算（補足説明～質疑）
- 日程第3 議案第16号 平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算（補足説明～質疑）
- 日程第4 議案第17号 平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算（補足説明～質疑）
- 日程第5 議案第18号 平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算（補足説明～質疑）
- 日程第6 議案第19号 平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算（補足説明～質疑）
- 日程第7 議案第20号 平成31年度伊仙町上水道事業会計予算（補足説明～質疑）

1. 出席議員（12名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	杉山 肇 君	2番	牧本 和英 君
3番	西 彦 二 君	4番	佐田 元 君
5番	清 平 二 君	7番	牧 徳久 君
8番	上木 千恵造 君	9番	永田 誠 君
10番	福留 達也 君	11番	前 徹志 君
12番	明石 秀雄 君	13番	樺山 一 君

1. 欠席議員（1名）

6番 岡林 剛也 君

1. オブザーバー（1名）

14番 美島 盛秀 君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 穂 浩一 君 事務局書記 元原 克也 君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	大久保 明 君	副町長	稲 隆 仁 君
総務課長	池田 俊博 君	未来創生課長	久保 等 君
税務課長	名古 健二 君	町民生活課長	福司 銀二郎 君
保健福祉課長	澤 佐和子 君	経済課長	仲島 正敏 君
建設課長	松田 博樹 君	耕地課長	上木 正人 君
きゅらまち観光課長補佐	義 了 君	水道課長	福島 隆也 君
農委事務局長	元田 健視 君	教育長	直 章一郎 君
教委総務課長	水本 斉 君	社会教育課長	稲田 良和 君
学校給食所長	伊藤 勝徳 君	ほーらい館長	重村 浩次 君
総務課長補佐	寶 永英樹 君		

～平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査特別委員会～

△開 会（開議） 午前10時02分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまから、平成31年度伊仙町一般会計他特別会計当初予算審査特別委員会を開会いたします。審議を始める前に、委員並びに説明員の皆様に、議事運営方法についてお知らせいたします。

本日より一般会計他6特別会計当初予算審査を行います。会計ごとに審議を行いますので質疑並びに説明をする際には、各会計予算書、施政方針、歳入歳出事業費の明細書のページ数を提示した上で進めていただきたいと思います。

また、補足説明を行う際は、特に平成31年度の主要施策や前年度より予算額が著しく増減している項目を重点的に補足説明されますよう申し添えます。

さらに、質疑や答弁をされる場合は、簡潔、明瞭に発言されることとし、質疑におきましては、議会申し合わせ事項に基づき、1項目3回までの質疑を許可いたします。それ以上の質疑は、当初予算における審議能率低下するおそれがある関係上、ご遠慮いただきますようあらかじめ申し添えておきます。

なお、歳入については、総務課にて補足説明から質疑までを行い、歳出につきましては、総務課より順次各課ごとに補足説明を行います。質疑を行いますのでよろしくお願いいたします。

日程第1、議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算歳入について議題とします。補足説明があれば、これを許します。

○総務課長（池田俊博君）

それでは、平成31年度伊仙町一般会計予算について補足説明をいたします。

平成31年度伊仙町一般会計予算書の1ページをお開きください。

第1条歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ58億6,325万6,000円と定めるものであります。予算書9ページをお開きください。

歳入歳出予算事項別明細書により、まず歳入についてご説明いたします。

1款町税3億1,154万3,000円、前年度比167万8,000円の増額となっております。個人町民税等各種税目において、平成29年度決算、平成30年度見込み額等を勘案し、増額計上となっております。

2款地方譲与税7,917万3,000円、前年度比688万6,000円の増額となっております。平成30年度基準財政収入額の地方財政計画で定められた105.3%を見込んでおります。

3款利子割交付金57万7,000円、前年度比34万9,000円の増額となっております。平成29年度決算、平成30年度見込み額を勘案し予算計上してございます。

4款配当割交付金70万2,000円、前年度比13万3,000円の増額となっております。平成30年度基準財政収入額の地方財政計画で示された111%程度を見込んでおります。

5款株主等譲渡取得割交付金69万7,000円、前年度比37万3,000円の増額となっております。平成29年度決算、平成30年度見込み額を勘案し予算計上してございます。

6 款地方交付税交付金 1 億374万2,000円、前年度比299万8,000円の増額となっております。平成30年度基準財政収入額の地方財政計画で示された額を見込んでおります。

また、この地方消費税交付金の中におきまして、社会保障財源分に関しましては、事業費の明細書の 6 ページのほうに詳細を記してございますので、ご参照いただきたいと思います。

7 款自動車取得税交付金1,270万5,000円、前年度比366万1,000円の増額となっております。平成29年度決算、平成30年度見込み額を勘案し、予算計上してございます。

8 款地方特例交付金116万3,000円、前年度比69万6,000円の増額となっております。平成29年度基準財政収入額の地方財政計画で示された181.1%程度を見込んでおります。

9 款地方交付税31億1,879万1,000円、前年度比7,436万2,000円の増額となっております。普通交付税において、地方財政計画に示された103.1%の増、特別交付税においては、平成29年度実績及び平成30年度見込み額を勘案して予算計上してございます。

10款交通安全対策特別交付金144万5,000円、前年度比15万5,000円の減額となっております。平成29年度実績及び30年度見込み額を勘案し、予算計上してございます。

11款分担金及び負担金6,612万2,000円、前年度比1,184万2,000円の増額となっております。主なものとして、分担金において畑総事業負担金の増、負担金において、今年度10月に始まる幼児保育の無償化に伴い、私立保育所保育料の減及び財源内訳を地方財政状況調査、いわゆる決算統計に近づけるよう、臨時職員の雇用保険料の個人負担分を雑収入から振りかえた関係で、大きく増額となっております。

12款使用料及び手数料7,890万円、前年度比1,677万円の増額となっております。主なものとして、使用料において公営住宅使用料、定住促進住宅使用料、なくさみ館使用料であります。本年度から職員駐車場使用料、光伝送路 I R U 芯線使用料を雑収入から振りかえた関係で増額となっております。また、手数料におきましても、町税督促手数料を雑収入から振りかえてございます。

13款国庫支出金 8 億4,268万1,000円、前年度比 1 億540万6,000円の増額となっております。前年度と変わったものとして、国庫負担金において東部地区に私立保育所を建設するための保育所等整備交付金の計上、子供のための教育、保育給付費負担金、私立保育園認定こども園であります。国庫補助金において、教育費学校施設環境改善交付金、伊仙中学校10号棟大規模改造事業、へき地児童生徒援助費等交付金、高校生バス通学費補助金でございます。農地費水利施設等保全高度化事業、農村環境計画策定事業等の増となっております。国庫委託金におきましては、参議院選挙委託金を計上してございます。

14款県支出金 5 億4,360万8,000円、前年度比2,036万8,000円の増額となっております。前年度と変わったものとして、県負担金において子供のための教育、保育費給付費、私立幼稚園認定こども園でございます。保健衛生費として、若年末期がん患者に対する療養支援事業であります。県補助金において、農林水産業費補助金、産地パワーアップ事業の計上、奄美群島防災関連施設整備事業の減額であります。県委託金において、県議会議員選挙委託金、海岸漂着物地域対策推進事業費の

増及び社会教育費、遺跡調査関連事業の減によるものであります。

15款財産収入1,364万9,000円、前年度比121万円の増額となっております。JAC株主配当金の減、生産物売払収入として、伊仙小学校ソーラー発電収入を雑収入から振りかえてございます。

16款寄附金4,205万1,000円、前年度比205万円の増額となっております。主なものとして、きばらでい伊仙応援寄附金、企業版ふるさと納税寄附金であります。

17款繰入金9,263万2,000円、前年度比1億745万6,000円の減額となっております。財政調整基金から6,000万円、きばらでい伊仙応援基金活動事業財源として4,263万2,000円を繰り入れしてございます。

18款繰越金は前年度の1,000円をそのまま計上してございます。

19款諸収入2,990万2,000円、前年度比3,517万3,000円の減額となっております。前年度と変わった事項としては、徳之島コーヒー生産支援プロジェクト負担金の新規計上、雇用保険収入、職員駐車場個人負担金、IRU芯線使用料、売電収入等分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入へ振りかえた影響によるものであります。

20款町債5億2,317万2,000円、前年度比3億2,222万8,000円の減額となっております。主なものとして、国営徳之島用水一期地区の町負担金、公営住宅建設事業の1減、東部保育所建設事業、伊仙中学校10号棟大規模改造事業等によるものであります。

以上、歳入合計前年度比2億1,623万円減の58億6,325万6,000円とするものであります。

次に、予算書8ページをお開きください。

地方自治法第230条第1項の規定により、起こすことができる、第2表地方債についてご説明いたします。

起債の目的1、過疎対策事業債限度額3億5,140万円。

2、辺地対策事業債、限度額1,620万円。

3、公営住宅施設整備事業債、限度額800万円。

5、臨時財政対策債、限度額1億757万2,000円。

6、学校教育施設等整備事業債、限度額4,000万円。

いずれの起債におきまして、起債の方法、証書借入れまたは証券発行、利率5%以内、ただし利率見直し方式で借り入れる財政政府資金及び地方公共団体金融機構資金について、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の利率、償還の方法、政府資金については、その貸付条件により、銀行その他の場合には、その債権者と協議するところによる。ただし、町財政の都合により、繰上償還とすることがある。地方債合計5億2,317万2,000円となっております。

1ページにお戻りください。

第3条一時借入金、地方自治法第235条の3第2項の規定による。一時借入金の借り入れの最高限度額は10億円と定めるものであります。第4条歳出予算の流用、地方自治法第220条第2項ただし書きの規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定め

る。2、各項に計上した給料、職員手当等及び共済費（賃金に係る共済費を除く）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内での経費の各項の款の流用となっております。

以上、歳入関係についてご説明いたしました。ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

（「議長12ページから25ページまで、ご説明させてもらえませんか」と呼ぶ者あり）

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

池田総務課長、よろしくお願いいたします。歳入の説明。

○総務課長（池田俊博君）

それでは、歳入について、詳細に説明をいたします。

まず12ページ、1町税1款町税1項町民税1目個人、前年度比166万2,000円増額の1億2,217万6,000円、2目法人町民税前年度比9万5,000円増の9,236万円、計で先ほど説明したとおりでございます。

2項固定資産税、事業費の明細書において、7ページのほうに詳細は示してあります。固定資産税の現年度として、家屋、土地、償却資産等の合計の金額を計上してございます。また、滞納繰越分として300万円を徴収する予定で計算してございます。2目固定資産税等所在市町村交付金、これは国の資産及び県の固定資産税を交付金として入ってくるものでございます。

3項軽自動車税、詳細については、事業費の明細書8ページのほうに、原動機付自転車から2輪の小型自動車まで詳細に示してございます。

4項市町村たばこ税、これはたばこを買ったときの関節税が国のほうから入ってくる税目であります。

2款地方譲与税1項地方揮発油譲与税1目地方揮発油譲与税これはガソリン税の関節税なので、国のほうから入ってくる財源でございます。

2項自動車重量譲与税1目自動車重量譲与税5,723万2,000円、これは自動車重量譲与税として車検時等に受け取る譲与税のほうを配分して入ってくる譲与税でございます。

3款利子割交付金、この部分に関しては、銀行等の利子税を県のほうで取りまとめ、各市町村のほうへ配分しているものでございます。株式等譲渡5款株式等譲渡所得割交付金、これは株の取引税のほうを県のほうで取りまとめ、それを市町村のほうへ人口等の割合で配分しているものでございます。

6款地方消費税交付金、この中には、地方消費税交付金として本来分と社会保障財源交付金として4,786万円が計上されております。この部分については、先ほど6ページのほうに、その詳細の経費支出先を示してございます。

7款自動車取得税交付金1,270万5,000円この交付金は、自動車を取得した段階における取得税を県のほうで取りまとめし、各市町村のほうへ配分しているものでございます。

8款地方特例交付金、この交付金は国のほうで住宅減税等を行っておりますので、その部分に対して町のほうが税額のほうが少なくなるということで、交付金を国のほうで配分いたしているもの

であります。

9款地方交付税、普通交付税におきましては、国税のたばこ税、酒税等間接税を国のほうで集め、各地方公共団体の基準財政需要額から町の町税等基準財政収入額を差し引いた金額を国が補填するものであります。

特別交付税においては、普通交付税、国の財政計画の中における普通交付税の中の交付税の5%程度を特別な事情また災害等における事情等で国のほうで配分し、市町村のほうにまわってくるものであります。

10款交通安全対策交付金、これは交通安全の罰則による県の歳入で、各市町村のほうに人口割等を勘案し、配分しているものでございます。

11款分担金及び負担金、1項の分担金においては、県営畑総事業の個人負担金ということになっております。2項負担金の1民生費負担金、この中には老人福祉費負担金として、これは徳之島老人ホームの入所者の個人負担金でございます。2節私立保育所保育費負担金、これは町内3認可保育所がございますので、その保護者負担金ということになっております。また、滞納分として10万円ほどを計上してございます。2目衛生費負担金1節保健衛生費負担金といたしまして、保健センターで行われている検診事業の個人負担金を計上してあります。また、療育医療費自己付託金として4万5,000円計上してあります。

3目教育費負担金1節幼稚園負担金幼稚園の保護者負担金であります。また、預かり保育を実施しておりますので、その部分に関しての保護者負担金等も計上してあります。

2節小学校費負担金、3節中学校費負担金、幼稚園負担金にもございますが、日本スポーツ振興センター保護者負担金として、これは学校での損害というか、損害保険料、子供たちがけがをした場合における損害保険料を出して、それで賄っていただけるということです。

4目総務費負担金、先ほど申し上げましたが、臨時職員の雇用保険料、社会保険料の個人負担金を、この分担金及び負担金のほうに、今年度から計上したということでございます。

12款使用料及び手数料、事業費の明細書には12ページからございます。

農林水産業費使用料として、生活改善センター、西犬田布にございます生活改善センターの使用料、または旧農高跡地にあります農業支援センターの使用料であります。

2目土木費使用料、これは公営住宅の使用料及び定住促進住宅の使用料でございます。滞納繰り越し分として100万円を予算計上してございます。

3目教育費使用料、1社会教育費、2使用料として、社会教育施設体育館等の施設の使用料、公民館の使用料、歴史民俗館の入場料を計上してございます。

4目商工費使用料、1節観光施設使用料、これは徳之島地区文化情報発信施設使用料なくさみ館の使用料であります。また、2節に糸木名にあります貸し工場の使用料を計上してあります。

5目総務使用料、これは先ほど説明いたしました職員駐車場の使用料及びIRU芯線貸し付けの使用料であります。

2項手数料、手数料といたしましては、総務費手数料として、臨時運行許可手数料、仮ナンバーの手数料であります。そして、戸籍謄抄本その他の手数料及び今年度からは町税の督促手数料、滞納に対してはがき、滞納督促をした場合における100円を手数料として計上をしてあります。

2目衛生費手数料、これはきゅらまち観光課のほうで一般廃棄物の収集業許可手数料、犬の登録、猫の登録等の手数料でございます。

13款国庫支出金といたしまして、1項国庫負担金1目民生費国庫負担金1節社会福祉負担金、社会福祉負担金は国民健康保険の基盤安定負担金。障害者自立支援給付費負担金、障害者自立支援医療費の負担金、2節児童福祉負担金、子供のための教育、保育費給付費負担金、私立保育所分でございます。この中に先ほど説明いたしました保育所等整備交付金9,635万2,000円が含まれております。

同じくへき地保育所の負担金1,118万7,000円、そして新規計上としまして、認定こども園、これは4月から認定こども園「木らら」という施設が開設いたしますので、そこに対する負担金が、国のほうから入ってきます。

2目衛生費国庫負担金、1節保健衛生費負担金、養育医療費国庫負担金450万円を計上してあります。

4目教育費国庫負担金、これは私立幼稚園分と認定こども園分という形で216万4,000円を計上してございます。

2項国庫補助金1目民生費国庫補助金の中では、社会福祉費補助金として地域生活支援事業費補助金、児童福祉費補助金としまして、子ども・子育て支援交付金、この中では、乳幼児全戸訪問事業、放課後児童クラブ、病児保育事業の交付金でございます。

4節老人福祉補助金、介護保険低所得者保険料の軽減負担分の交付金でございます。

2目衛生費国庫補助金、1環境衛生費補助金といたしまして、国のほうからの合併浄化槽設置補助金、2節に感染症予防事業等補助金を計上してございます。3目土木費国庫補助金、1節社会福祉社会資本整備総合交付金、この中に公的家賃収入低廉化事業、公営住宅整備事業、特定地区公園整備事業、これは義名山運動公園の管理棟の建設でございます。あと防犯灯の整備事業、あと第2西下線、阿権馬根線、阿権中山線の事業交付金でございます。

2節防災安全社会資本整備交付金事業、道路整備事業として1億2,600万、橋梁整備事業として3,150万を計上してございます。

4目教育費国庫補助金、1節小中学校費補助金、これは小学校、中学校、へき地修学旅行費の補助金及び理科教育棟施設整備事業、特別支援教育就学奨励金、あと新規計上といたしまして、学校施設環境改善交付金、伊仙中学校10号棟大規模改善改造事業、へき地児童生徒援助費等補助金、高校バス通学補助でございます。

3節社会教育費補助金、例年行っています町内遺跡等確認調査事業補助金、文化財活用事業補助金を計上してございます。

4 節保健体育費補助金、児童生徒の心臓検診等事業の補助金、新規計上といたしまして、へき地児童生徒健康診断費補助金を計上してございます。

5 目総務費国庫補助金といたしまして、個人番号カード交付事業補助金64万円、地方創生推進交付金として2,928万円を計上してございます。

6 目農林水産業費国庫補助金、1 節老人補助金、新規事業として水利施設等保全高度化事業、農村環境計画策定事業補助金を計上してあります。

3 項国庫委託金事業費の明細書は17ページでございます。

総務費国庫委託金といたしまして、外国人登録事務委託金、中期在留者居住地届け出等事務委託金16万1,000円、参議院議員選挙委託金として665万7,000円を計上してございます。

2 目民生費国庫委託金として、国民年金事務交付金を計上いたしております。

14 款県支出金 1 項県負担金 1 目民生費県負担金、これは国庫負担金等と同様の形式でございます。1 節社会福祉負担金、2 国民健康保険基盤安定負担金、障害者自立給付費負担金、障害者自立支援医療費負担金、あと重度心身障害者医療費助成金は、県事業によって行っているため国庫にはございませんが、ここに計上してございます。

2 節老人福祉負担金、後期高齢者医療特別会計基盤安定負担金を計上してございます。3 節児童福祉負担金、先ほどの国庫負担金の県負担分を計上してございます。この中で、先ほど東部地区の保育所の建設費でございますが、県負担金のほうは保育所建設事業の部分に関してはございませんので、国が2分の1、町が4分の1、あと事業者が4分の1の負担でございます。あとは認定こども園関係に関しては、先ほど国庫のほうでも説明したとおりでございます。

あと2 衛生費県負担金、保健衛生費負担金、新規事業として若年末期がん患者に対する療養支援事業負担金72万4,000円を新規に計上してございます。

あと教育費県負担金においても、先ほど説明したとおり、私立幼稚園、認定こども園の国の2分の1、県の4分の1事業を計上してございます。

2 項県補助金、1 総務費県補助金、1 節土地利用対策補助金、例年どおり計上してあります。

2 節企画費補助金として、地方公共交通特別対策事業補助金、生活路線バスの維持、継続のための経費であります。

2 目民生費県補助金、1 節社会福祉補助金、地域生活支援事業ひとり親家庭医療費助成事業、民生委員推薦委員会補助、乳幼児医療費補助等を計上してございます。2 節老人福祉補助金、老人クラブの育成補助、介護保険低所得者利用者負担分の軽減措置事業補助金、介護保険低所得者の保険料軽減負担交付金、例年行っております元気度アップ地域包括ケア推進事業の補助金を計上してございます。

3 節児童福祉費補助金、子供・子育て支援交付金、多子世帯保育料軽減事業費補助金、上記の部分に関しては、先ほど国庫補助金のほうでも説明をいたしました。その4分の1県の負担分でございます。多子世帯保育費の補助金は、書いてあるとおり多いということで、その分の軽減の補助

金でございます。

3目衛生費県補助金、合併浄化槽設置費国2分の1、県4分の1の補助金530万円を計上してございます。

あと2節保健衛生費補助金、健康増進事業費補助金、地域自殺対策緊急強化事業補助金、離島地域不妊治療支援事業の補助金を計上してございます。

4目農林水産業費県補助金、1節農業委員会補助金、農業委員会の農業委員、農地利用最適化交付金、機構集積支援事業の補助金であります。

2節農業費補助金、サトウキビ優良種苗供給確保事業、食育推進事業、農業次世代人材投資事業、人・農地プラン推進支援事業、農地集積協力金交付事業、農産物輸送費助成事業、鳥獣被害対策事業、農業創出緊急資金事業交付金、新規計上として産地パワーアップ事業補助金を計上してございます。

3節農地補助金、地籍調査事業補助金、多面的機能支払い推進交付金を計上してございます。

4節林業費補助金、森林環境税直接支払い事業補助金、マツクイムシ防除補助金、里山林総合対策事業補助金等を例年のとおり計上してございます。4節水産業費補助金、離島漁業再生支援事業関連経費及びサンゴ礁保全対策事業を計上してございます。

5目商工観光費補助金、未来創生課において、消費者行政活性化事業を行っている関係の経費、またきゅらまち観光課において、景観形成環境保全活動支援事業の補助金を計上してございます。

6目教育費の県補助金、先ほどありました町内国庫補助金の中においても町内遺跡確認調査事業補助金が国庫でありましたが、県のほうでも19万円を計上してございます。

2保健体育費補助金として、地域ぐるみ学校安全体制推進事業補助金を計上してございます。

3項県委託金事業費の明細書で22ページからとなっております。

1目総務費県補助金、1節県税徴収委託金、これは県町民税県民税を徴収している関係、県のほうから、その徴収に関する委託金をいただいております。

2節人口動態委託金、これも人口動態調査の委託金ということで、毎月人口移動を県のほうに報告している委託金でございます。

3節統計調査委託金、今年度においては教育統計、工業統計、県人口移動調査、経済センサス調査と管理、経済センサス基礎調査、国勢調査調査区設定、農林業センサス、統計調査員確保対策事業を計上しております。大きなものとしては、農林業センサスを今年実施する予定にしております。

4節権限移譲交付金、総務費関係において県のほうから権限移譲を受けておりますので、新たに生じた土地の申請事務、公有地の拡大の推進に関する事務、旅券法に関する事務、これはパスポートの発行でございます。

6節選挙費委託金、4月7日投開票の県議会議員選挙委託金でございます。

2目民生費県委託金、1節権限移譲委託金、民生費関係で母子及び寡婦福祉法に関する事務、医療関係各種免許申請に関する事務等の権限移譲交付金でございます。

3目衛生費委託金、1節環境衛生費委託金、これは例年行っております海岸漂着物地域対策事業費の委託金であります。

2節権限移譲交付金、衛生費関係では墓地埋葬等に関する事務、水道法に関する事務、化製場等に関する事務、浄化槽法に関する事務、県ウミガメ保護条例に関する事務の委託を受けております。

4目農林水産業費県委託金、1節農業費委託金として、奄美群島移動寄生害虫特別防除事業、2節権限移譲委託金として、土地改良法に基づく事務、有害鳥獣に関する事務の委託を受けております。

5目商工費県委託金、1節権限移譲委託金として、屋外広告物、屋外広告物条例に関する事務、中小小売商業振興法に関する事務、自然公園法に関する事務の権限移譲を受けております。

6目教育費県委託金、社会教育費県委託金として、現在行われております第2面縄地区の発掘調査関連の経費等でございます。

7目土木費県委託金、1節道路管理事務委託金、県道管理事務として610万円の交付金を受け、県道の清掃等を行っております。

2節権限移譲交付金、土木費関係においては、建築基準法に関する事務、都市計画法に関する事務、鹿児島県福祉のまちづくり条例に関する事務、不動産登記及び国有財産法に関する事務、建築確認申請法取り扱い事務、高齢者等の移動等の円滑化の促進に関する事務の権限移譲を受けております。

8消防費県委託金、消防費においても、火薬類取締法に関する事務の権限を移譲されております。

15款財産収入、事業費の明細書は24ページ、25ページとなっております。

1目財産貸付収入、小学校、中学校教員宿舎の貸し付け、駐在所敷地の貸し付け、N T T無線局跡地の貸し付け、道路占用料保育所土地貸し付け、あと残り町有財産等の貸し付けを計上してございます。2目利子及び配当金として、各基金の利子、日本エアコンピューター株式会社の株主配当金295万9,000円、前年度よりは物すごい額が少なくなっておりますが、これは路線が縮小したということで、J A Cの売り上げが落ちている影響によるものだと思います。

15款財産収入、予算の措置として1,000円ずつしてありますが、今年度から先ほど説明したように、伊仙町のソーラー発電の電気料収入として45万円を財産、生産物売払収入として計上してございます。

16款寄附金、先ほど説明したとおりとおり、きばらでえ伊仙応援寄附金、企業版ふるさと納税寄附金でございます。

17款繰入金、基金繰入金として財政調整基金より5,000万、2節のきばらでい伊仙応援基金繰入金として事業活用のために4,263万2,000円を計上してございます。

18款繰越金においては、例年と同額を計上してございます。

19款諸収入、事業費の明細書25ページからでございます。

1目延滞金加算金及び過料といたしまして、これは税務課のほうで徴収しております延滞金を計上してございます。2目町預金利子、例年どおり1,000円を計上してございます。

3 項雑入として、総務費の雑入、2 市町村振興計画交付金として200万円、これは市町村の宝くじの売上金を各市町村のほうに県の町村会のほうからいただいております。出向職員清算金、これは後期高齢者医療広域連合のほうに1 名職員を派遣しておりますので、その職員の給与分をあと精算していただくものでございます。

3 目衛生費雑入として、ハブ駆除対策費、ヤスデ対策費を計上してございます。

4 目農林水産業費雑入といたしまして、これは農業費の雑入として、農地中間管理事業管理機構から事務委託金を受けております。また、徳之島コーヒー生産支援プロジェクトということで、A G F のほうから雑入として110万円を支援いただいております。

2 節畜産費雑入といたしまして、畜産基盤再編総合整備事業個人負担金884万円で、畜産基盤総合整備事業を行っているものであります。

5 節水産業費雑入として、漁業集落支援事業の違約金18万円を計上してございます。

4 項受託事業収入、農業者年金受託事業及び給食センター製パンの加工賃、米飯加工賃を計上してございます。

5 項貸付金収入といたしまして、農林水産業費貸付金の元金収入として直売所百菜としての運営資金貸付金の元金の収入を計上してございます。

20 款町債、過疎対策事業債といたしまして、総務費関連で地方公共交通特別対策事業、航路航空路運賃軽減事業、光伝送路保守委託料、民生費関連として子育て支援事業、乳幼児医療費助成事業、ひとり親医療費助成事業、重度心身障害者医療費助成事業、敬老祝い金事業、シルバー人材センター運営事業、義務教育就学児医療費補助事業、以上がソフトですけど、ハードとして東部保育所建設事業整備事業6,060万を計上してございます。衛生費債においては、ハブ買い上げ事業、農林水産事業債として、優良元牛保留事業、農林水産物輸送コスト支援事業、環境に優しい農業総合推進事業、サトウキビ増産推進事業、あとハード事業として特定地域振興生産基盤整備事業、これは畑総事業の負担金の部分です。あと堆肥、液肥センターの液肥散布車の購入事業をハードとして計上してございます。

5 節商工観光債、プレミアム付商品券発行事業トライアスロン大会運営補助事業を計上してございます。

6 節土木債、過疎対策道路整備事業、特定地区公園整備事業、防災安全社会資本整備交付金事業を計上してございます。

7 教育債として、町内遺跡確認調査事業、教科検定事業をソフトで計上し、学校 I T 環境整備事業、発電機購入事業をハードで計上してございます。発電機におきましては、給食センターの緊急時対応時の停電などに備えるために発電機を購入する事業であります。

2 目辺地対策事業債、これは土木債として社会資本整備総合交付金事業を計上してございます。

3 目公営住宅施設整備事業債、公営住宅の建設事業債として800万計上してございます。

6 節学校教育施設等整備事業債、これは伊仙中学校10号棟の大規模改修事業債でございます。

あと5節臨時財政対策債、今年度におきましては、金額的に少なくなりまして1億757万2,000円の予算計上を行っております。

以上でございます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

議員の皆様にお知らせ申し上げます。平成31年度の当初予算歳入歳出事業費の明細書の中に給与費以外については目的、備考欄のほうに詳しく載っておりますので、いま一度、ご熟読をお願いいたします。

ただいまの補足説明について質疑を行います。質疑はありませんか。

○13番（樺山 一君）

平成31年度一般会計予算の歳入について質疑をします。

駐在所のあれ何ページだったかな。22ページ、財産収入、目1財産貸付収入、節1土地建物貸付収入、駐在所敷地貸付収入面縄、伊仙、犬田布とありますが、現在面縄駐在所は誰か駐在員が常駐して住まわれていますか。

○総務課長（池田俊博君）

警察署の機構改革で、面縄の駐在所は亀津に統合されたんですけど、そんな中で1人面縄駐在所のほうには、常駐で住んでいるところがあります。

○13番（樺山 一君）

じゃあ駐在、警察の方が住まわれているということですね、わかりました。

それと、24ページ、款19諸収入目1農林水産業貸付金元利収入の直売所百菜運営資金貸付金元金240万とありますが、これは月20万ずつの12カ月240万で返すということでしょうか。

○経済課長（仲島正敏君）

直売所百菜のほうから、今年度は台風の被害等々でなかなかできていなかったんですけども、また返済したいということで、一応計画書はいただいておりますので、その予算を計上させていただきました。

○13番（樺山 一君）

平成29年度、平成30年度に関しては、こないだの補正でもありましたけど80万と、そして4月、5月か20万ずつ120万で、今現在、百菜に関しては残金が幾らあるか教えていただけないでしょうか。

○経済課長（仲島正敏君）

現在、残りが360万でございます。

○13番（樺山 一君）

ぜひ百菜の運営委託等という話も聞かれますが、こういうのは整理をして、確実にとるべきは、完全に整理するような形で運営委託等をできるように、ぜひしていただきたいと思います。

私からは以上です。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○5番（清 平二君）

平成31年度一般会計歳入について、お尋ねします。

22ページ、きばらでえ企業版ふるさと納税寄附金1,500万組んであります。去年は1,000万して、今年500万増額になっています。また、3月補正でも組み替え等がありましたけど、今年も増額になっています。これだけの増額見込まれますかね。

○未来創生課長（久保 等君）

ただいまの質問にお答えします。

先般の補正でも上げたのですが、今年の実績が1,400万の実績でありまして、30年度の実績に近い数字を計上してございます。これに対しまして、寄附金でございますので、この目標に達成するように頑張っていきたいと思っています。

○5番（清 平二君）

寄附金でありますので、3月の補正で何か△財源内訳していただきましたけども、今年もそういうことのないように、ぜひお願いしたいと思います。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

よろしいですか。他に質疑はございませんか。

○8番（上木千恵造君）

歳入の19ページお願いいたします。

県支出金の目4、農林水産業補助金の農業費補助金、産地パワーアップ事業補助金というのが計上されていますけれども、これは負担割合を見ますと、国が10分の6、南西糖業が10分の4、町の負担はないわけですが、これは予算上計上しなくちゃいけないのか、私ちょっと勉強不足でわかりませんのでお伺いいたします。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらに関しましては、事業の申請上、町が窓口になるということで計上させていただいております。

○8番（上木千恵造君）

これは、南西糖業さんで使用するわけですが、主にどういうものに使用するかお伺いします。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらは、国の働き方改革という中で、全国の黒糖工場は、特に鹿児島県と沖縄県ですが、収穫の時期に仕事が集中するというので、その軽減も含めまして、製糖工場に関しまして、こういう感じで国のほうから期間を決めて助成をするということで、今年度は今のところは、31年度は、結晶分離行程制御室の設置であったりとか、工場内の監視カメラの導入であったりとか、そういう

のを計上、計画いたしております。

○8番（上木千恵造君）

働き方改革の一環として、本年度から始まる事業ということですがけれども、これ例えば南西糖業他にも島には個人の製糖工場も幾つかありますけど、この個人の製糖工場等に対しては、こういう補助はできないものかお伺いをいたします。

○経済課長（仲島正敏君）

確か聞いているところでは、糖蜜工場というか大きな工場が対象と聞いております。

○8番（上木千恵造君）

事業の規模によって、ということだと思いますけれども、今後実際零細企業にも適用できるかどうか、また調べていってほしいと思います。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○10番（福留達也君）

明細書のほうでちょっとお願いします。明細書の12ページから13ページですけれども、いろんな施設の使用料収入がありましたけれども、犬田布岬にある喫茶店をしている資料館、あそこの使用料というのかな、あれは入ってこないのですか。

○きゅらまち観光課長補佐（義 了君）

現在のところ、使用料はとっておりません。

以上です。

○10番（福留達也君）

とるべきなのにとらないということですか。とらなくていいということなのですか。

○きゅらまち観光課長補佐（義 了君）

来年度に向けての契約等々に関して、昨日からちょっと課内のほうでもんで動いております。その方向性はまだちょっと課長等々出張で不在ですので、しっかりした方針を決めておりません。

○10番（福留達也君）

補佐に急に言って申しわけないですけど、きちんとすべきことはきちんとして、対応していただきたいと思いますよ。

15ページお願いします。

真ん中あたりの合併浄化槽設置補助金ですがけれども、今後は、これまだまだ続くのか、つい最近いろんな国の方針が変わって、新規に新築する家に対する合併浄化槽は設置義務になって補助は出さないと、むしろ単独浄化槽とか、そういったところに補助金を出しつつ、古いやつを改修していく、そういったところに補助を出すという話を聞いたりするのですがけれども、まだまだ新規の合併

浄化槽の補助金というのは続いていくのですか。

○きゅらまち観光課長補佐（義 了君）

いろいろ法令等が変わりつつあるので、ちょっと調べて、後ほどご報告でよろしいでしょうか。

○10番（福留達也君）

わかりました。16ページお願いします。

伊仙中学校の改修の件ですけれども、これはこの予算書見ると、耐震補強に行くのかなと思って
いるのですけれども、きのう視察しながら、いろんな話を聞きながら、まだはっきりしていないと
いう話を聞いたのですけれども、これ要するに耐震補強をしながら、また数年後にまた中規模な補
強をしながら、またさらに10年ぐらしながら、そういったので数十年先を見据えて、その経費
は幾らぐらいかかるのか、仮にじゃあ中学校側が必要としているのは、音楽室と技術工作の部屋と
あと何ですっけ、特別支援教室とその3つぐらいが必要だと言われてはいますが、仮に解体し
て、その3つを賄える、それを建てる費用と、そこを計算して、どれぐらいかかるかというのは試
算しておりますか。

○教委総務課長（水本 斉君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

ただいま伊仙中学校10号棟につきましては、設計、今後の改修工事をして、学校施設として使っ
ていけるのか、あと中の設備工事費用等の試算を行っている途中です。その結果が出次第、今後そ
の計画を立てていきたいと思っております。

○10番（福留達也君）

この予算書見たら、耐震補強にしていくのかなと思ったのですが、まだまだ検討していくと
いうことですね。

17ページの一番上の外国人登録委託費とありますけれども、実際に伊仙町に昨年の実績でいいの
ですけど、どれぐらいそういった登録されるというのかな、ありますか。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

ただいまちょっとすみません、手元に数字がないので、担当に確認をしてご報告いたします。

○10番（福留達也君）

19ページをお願いします。

真ん中あたりの老人福祉補助金の中の介護保険低所得者保険料軽減負担交付金ありますけれども、
介護保険というのは原則使った方が1割を負担する、その1割もその1割に対して1割負担するの
だけども、その1割に対して、またそれぞれの方の所得に応じて、また軽減でしていく事業だと思
うのですけれども、これまあ、仮に例えばいろんな施設、そういったところに入っている年寄り
の方は、きちんと事務員が申請して、軽減措置を受けられると思うのですけれども、一般の老人の
方、低所得者、そういった方たちは、そういったところに入っている年寄りの方は、きちんとこの
仕組みは分かって申請して、きちんとその人たちもこういった軽減策を行われているんですか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

ただ今のご質問にお答えいたします。

介護保険負担軽減ということですが、介護認定を受けた方に関しましては、申請に来られておりますので、情報もいきますし、また介護予防につきましても、包括支援センターのほうに相談いただいている方に関しては、そういう情報はいつていると思います。

○10番（福留達也君）

その福祉施設にいるときは、そういったことをしてよくわかっていたのですが、実際一般の方でそういった申請をしているという話は聞いたこともないし、余り見たこともないですが、実際にあるということなのですね。こういった申請をして軽減措置を受けられているということですね。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

そうですね。利用されるに際しまして、そういう情報いきますので、あと介護保険に関して、やっぱりよく情報がわからないという声も聞きますので、今回、各世帯に配布できるようなパンフレットも準備しておりまして、そういったものを配布しながら、周知はしていきたいと思っています。

○10番（福留達也君）

21ページをお願いします。

真ん中あたりの水産業補助金ですが、稚魚及び稚貝の放流及び祭りの経費となっているのですが、いろんな魚の稚魚なり貝なり、そういった放流を実際どんな種類の魚を年どれぐらいやっているのですか。

○経済課長（仲島正敏君）

今、手元に資料がないというのと、こちらの場合、年度によって4月に入ってから県の種苗センターとかいろいろ豊かな海づくり基金とかあるのですが、そのほうから、今年度この稚魚、稚貝の放流どうでしょうかという問い合わせがあるので、その数字をもとに検討するような形になると思います。詳細につきましては、調べて報告したいと思います。

○10番（福留達也君）

徳之島町は、結構組合長中心に盛んにそういったことを行われて、新聞記事なんかで見たことあるのですが、伊仙町もきちんとそういった取り組みをしてやっていただきたいと思っています。

22ページの統計調査のところで、農業センサス費というのがあるのですが、これはいろんな統計を取りながら、いろんなこの現状を報告することだと思うのですが、この前新規就農のための補正新規就農者のあれがかなり900万か何かされていて、その理由はといういろんな要件が厳しいということがありましたけれども、こういった統計調査、そういったところに要望事項等、この現状となかなか理想とするところがかみあわないと、そういったときに、こういったところでも今の伊仙の現状を書いて、こういったふうに改善していただければ、よりそういった制度が使えらる、そういったことは書いてありますか。

○未来創生課長（久保 等君）

ただいまの質問にお答えします。

当課で行っている、この統計調査の農林業センサスについて、5年ごとに実施する農林業に関する統計調査、農林業を総覧する唯一の全数調査として基本的役割を果たす必要があるということで調査を行っています。

この数値が他の事業等の申請のときに、この地方の状況を鑑みてというところではありますが、それをまた申請する課によって、そういう要望をしていただくものと考えております。

○10番（福留達也君）

これはまた別で申請するということなのですね、そういった要件が厳しいだ何だ、わかりました。

24ページの真ん中あたりの財産収入で、土地建物収入です。先ほど警察署のあれもありましたけれども、保育所土地貸付収入、わかば保育園と面縄保育園、これ年間3万ってなっていますけれども、これは相場というのかな、その基準で年間3万というと月2,500円、これぐらいの相場ということなのですか。

○総務課長（池田俊博君）

一応町のほうの財産貸付のそこで打ち合わせをして、これぐらいだったら相場でいいのではないかというような報告を受けて、この金額を提示してございます。

○10番（福留達也君）

やはり、以前も指摘されて、郵便局の裏にある畑を月1万とあれは年間1万ぐらいでいいところを月1万の年間12万払って借りていると。払うところばかり高くせずに、どっちもやはり基準を設けて話し合いで決めましたとかじゃなくて、基準をもとにやっていったらいいと思います。よろしくをお願いします。

27ページお願いします。

商工観光費のトライアスロン大会運営補助、これ毎年大きな大会のときは300万とか、毎年100万しているのですが、これ毎年伊仙町いろんな、徳之島一つという感じでこういった協力をしているのですが、この前のほーらい館バスもなかなか協力を得られずにカットされて、ほーらい館業者人数も減っていると。今後、この前天城町も町長変わられましたけれど、こういったお互い協力し合える部分は協力し合ってとか、そういった話し合い、ここだけ負担せずに、そういったバスのそういった補助、こういったのを今後要望していく考えはありますか。

○総務課長（池田俊博君）

昨年度、一応、天城と徳之島のほうには、バスの運営委託というかを打診し、徳之島町は了承をいただいて、年間100万という形で負担金という形で出ておまして、天城町のほうは、それも議会のほうに通さないと、ちょっと難しいということで、一応保留という形になってはいますが、またほーらい館の運営会議、またその会員増という観点等もありまして、また天城のほうにそこを打診していければ、また天城のほうとも協議の場を持ちたいと思います。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

先ほどの福留議員のご質問にお答えいたします。

きょう現在で、外国人の登録者数24名となっております。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ここでしばらく休憩します。午後1時から再開いたします。

休憩 午前11時34分

再開 午後 1時00分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

議案第14号の歳入について、他に質疑はございませんでしょうか。

○12番（明石秀雄君）

10ページ、説明資料の10ページの11負担金の分担金のところですか。滞納分で1,000万見ておりますけれども、過去の滞納額の総額は幾らか。または、徴収率は幾らかお伺いします。

○耕地課長（上木正人君）

ただいまの明石議員の質問にお答えいたします。

ただいま、すみません、申しわけないですが、手持ち資料が今ございませんので、後ほど資料をお渡ししたいと思います。収納率にしても同じく、今ちょっと手元にございませんので、後ほどお示ししたいと思います。

○12番（明石秀雄君）

それがないと次の質問ができないのでしばらく休憩してください。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

しばらく休憩します。

休憩 午後 1時02分

再開 午後 1時05分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

○耕地課長（上木正人君）

ただいまの明石議員の質問にお答えをいたします。

徴収状況についてなんですけど、29年度の滞納が5,538万1,422円、徴収率にしますと12.34%、30年度の滞納につきましては5,367万3,423円、徴収率にいたしますと6.92%でございます。

○12番（明石秀雄君）

これは過去の総額ですね、間違いはないですね。

○耕地課長（上木正人君）

そういうことです。

○12番（明石秀雄君）

徴収率が滞納額の徴収率が12%台、非常に低いわけです。この徴収できない理由、その対策についてお伺いします。

○耕地課長（上木正人君）

滞納の徴収ができない理由につきましては、まず一番言えるのが、滞納者の転居先の不明、死亡、あと個人同士の土地の売買、あと相続人の不明等で徴収が困難な状態が多くなっております。

また、土地改良後の土地の配分、また土地の湧水等の件もございまして、なかなかそのこのこの解決策には、まだまだ時間を要するものだと思っております。

○12番（明石秀雄君）

滞納者が転居先不明とか死亡とか売買とか、相続人不明というのは、そこまでなる前に、その対策をし、徴収するべきじゃないかと思いますが、どれぐらいの割合ですか、これは。死亡何人ぐらい、これ見当はわかっているでしょ。何件でどういう内訳されているか、お伺いします。

○耕地課長（上木正人君）

大変申しわけございません。何回も議会をストップさせるようで申しわけないのですが、件数に関しましては、すみません、戻らないとわかりませんが、転居先不明というのも死亡というのも、昭和50年代からさかのぼって、非常に難しいというふうなこともございまして、そういったので、滞納名簿に関しましては、やはり昭和50年代のものがまだあるというふうな状況でございます。

○12番（明石秀雄君）

50年代といいますと、もう50年ですよ。44、5年、恐らく当時の方は恐らくいらっしゃらない方多いのではないかなと想像はつきます。しかし、それまで至った理由というのは、なぜ払わなかったのか、その当時、徴収できなかったのか、そういった分析はできていないのですか。

○耕地課長（上木正人君）

これも先ほど申したように、土地配分の問題、また湧水等の問題、過去の耕地課の職員でもいろいろ努力はされたと思うのですが、引き続き私たちが努力をしてまいりたいと思っております。

○12番（明石秀雄君）

湧水とか配分とか、結局は受益者の納得のいかない土地改良が行われているということです。きょう行ってみましたよ。1カ所だけ不合理な工事が行われて、そのままにしている。これ一番の原因じゃないかなと思っておりますがいかがですか。

○耕地課長（上木正人君）

確かに、今、明石議員がおっしゃったとおり、昨日議員全員協議会というんですか、現地調査を行ったわけなのですが、今後も工事工法等に関しましては、県と詳しい協議をしながら話を進めたいと、また考えております。

また、地権者さんが納得いくように、また町としても農家の皆様の期待に沿うような形で、今後も努力してまいりたいと思っております。

○12番（明石秀雄君）

でしたら、もうきのう、今年やったものとか、過去にやった用水の問題、あれは執行部の責任においてできますか。

○耕地課長（上木正人君）

それは、きのうもお話されたとおり、国の補助、県の補助、また地元負担ということでやってはおりますけれども、これで町が責任を持てるのかというふうになりますと、私の口からは回答は控えさせていただきたいと思えます。

○12番（明石秀雄君）

一番の問題は、分配とかそういった問題なのです。それを過去はそれを置き去りにして前に進んでいる。そうでしょ。それを今回もあのまま行ったら払えません。また出る、滞納者ふえる。どうするのですか。県に向かって言えますか、ちゃんと工事をしてから前へ進もうと。でなきゃいつまでも解決しないですよ、これは。

○耕地課長（上木正人君）

ただいま明石議員おっしゃったとおり、私たちが引き続き県のほうと協議をし、粘り強く農家さんの気持ちに沿うような感じで進めていく他ないのではないかなと思っております。

○12番（明石秀雄君）

あの人たちはうそばかり言っているんだ。そこに石を割ったら金がかかるとか、金かからない工事は無いですよ。土はここからとなりのものに入れませんか、石も隣に入れませんかといったらウソなんだ。入れたのをぼくは見ている。あの人たちのような信用できん。ちゃんとどうするか、回答してください。責任ある回答。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

明石議員に申し添えます。3回です。

○12番（明石秀雄君）

3回か。ちゃんと答えられないからよ。

○町長（大久保明君）

きのう現場に行きまして、土地が非常に高いというのは明白でありました。また、その後の試験場の上の目手久の土地改良区も、あれも驚きましたけれども、要するに担当が変わったりして、その大きな課題が、次のかわった担当に十分伝わっていないとかそういうことは、これは県であっても国であっても、そのある意味その無責任さが常態化していれば、ああいうようなことが起きるわけでありまして、このことは私のほうから県の農地整備課、また県土地改良区のほうにこういうことがあって、徳之島ダムのスプリンクラーも灌漑も天城町のほうでかなり必要ないというふうな方々も出てまいりましたので、当初の説明と途中で、確かにきのう疑問に思ったのは、予想以上に

岩が多かったということなど、あらゆることが想定される中で、それをしたら予算が400万ふえると、もう1つのことをやれば500万ふえるということでしたけれども、それは彼らが県の部長ないしに、強力で説得をしていくという努力をどこまでやったかということなどもあるわけですから、これは私のほうから課長は答弁できる立場ではありませんので、私のほうから県とそれから農地整備課のほうに、農政部長も含めて、現実にはこのように泣き寝入りしているような地権者の方は、恐らく多くいらっしゃると思うので、柔軟に対応できるように説得も継続してできるようなシステムが弱いのではないかとすることは申し上げて、これからも、まだ完了していないわけでありますので、説明をして、説得をして、私はいきますので、ご理解いただきたいと思います。

○12番（明石秀雄君）

滞納がこれだけ5,000万もあり過去、44、5年、50年近い前からの滞納がそのままになって、亡くなっているとか、売買された、それは確かに売買されたらとれない、それわかります。それを早く解決する道を、どこかで誰かがやっていかないとこのままじゃ解決しないと思いますので、ぜひ町長のほうで、上のほうともお話をされて、少しでも解決できることと、今後やるところについては、十分受益者の意見も取り入れて、解決する道を見出して行ってほしいと、そのように思います。でないと、予算化しているのに、結局負担金がとれないような状態をいつまでも続けられないようお願いをして終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、歳出について総務課より細く説明をお願いします。

○総務課長（池田俊博君）

それでは、歳出につきまして、総務課関連経費について重点項目及び増減の大きなものをご説明いたします。

予算書は26ページ、事業費の明細書は29ページでございます。

まず1款1項1目議会費9,028万4,000円、前年度比242万4,000円の増額であります。増減の大きなものとして、7節賃金月10日程度勤務の事務職員の雇用経費9節旅費として、議員の皆様にも伊仙町のトップセールスマンとして、町のよさを大きくアピールしていただきたく、旅費について増額してございます。

18節備品購入費、議場音響設備マイク増設等であります。

予算書28ページ、事業費の明細書は、28から29ページでございます。

2款1項1目一般管理費3億8,397万円、前年度比375万4,000円の減額であります。主なものとして9節旅費において、内閣府広報室、県観光課、大島支庁、天城群島広域事務組合等への職員派遣

日額旅費、職員の資質向上のための研修旅費を計上してあります。13節委託料平成28年度より始まっている公会計制度導入指導助言業務委託、19節負担金補助及び交付金に平成28年度より実施していますががんばる集落支援事業補助金等を計上してございます。

予算書30ページ、事業費の明細書31ページ。

2目財産管理費1,828万7,000円、前年度比671万3,000円の増額となっております。主な支出としては、町有建物自動車等の共済分担金、公有財産の修繕費、国有林野駐車場借り上げ等経費であります。増減の大きな理由として、13節委託料に公共施設個別施設計画策定支援業務委託を今年度は予算を計上してございます。

次に、予算書30ページから31ページ。

事業費の明細書31ページ、3目交通安全対策費は昨年同様の計上であります。主なものとして、カーブミラー、ガードレール等交通安全施設整備の経費及び交通安全指導員の賃金等であります。

予算書31ページから32ページ。

事業費の明細書も31から32ページであります。

4目電算システム費3,412万2,000円を計上してあります。主なものとして、国や県とのネットワークの維持管理、庁舎内ネットワークの維持管理保守の経費であり、大きいものとしたしまして、18節備品購入費、老朽化等に対応するためパソコン購入400万円を計上してございます。

19節負担金補助及び交付金、役場備品の統一的管理を行うため、町村会の備品管理システムを今年度導入してまいります。その経費として281万円を計上してございます。

予算書32から33ページ、事業費の明細書も32から33ページ。

5目男女共同参画事業費21万6,000円、6目会計管理費1,990万5,000円、これは各事業執行経費として計上してございます。

予算書81から82ページをお開きください。事業費の明細書は79から80ページでございます。

8款消防費1億4,458万円、前年度比1億2,187万2,000円の増額であります。1日常備消防費は、主に徳之島地区消防組合へ対する負担金であります。前年度において、伊仙分遺所に水槽つき消防ポンプの導入が完了したことにより、事業費が平準化したものであります。

2目非常勤消防費1,014万5,000円を計上してございます。主に伊仙町消防団の活動経費であり、本年度は13節に委託料に防災マップ作成委託料を計上し、町民の防災意識の向上を図ってまいりたいと思います。3目防災まちづくり事業費342万9,000円を計上してございます。主な増減といたしまして、奄美群島防災関連施設整備事業行政無線デジタル化更新事業が国の補正予算で計上され、執行が31年度の執行になる予定であり、この部分と全国瞬時警報システム新型受信機導入事業が、平成30年度予算にて終了したことによる影響が大きいものであります。

予算書106ページをお開きください。事業費の明細書は、101ページとなっております。

11款公債費8億4,866万円、前年度比3,667万4,000円の減額であります。事業費の明細書で元金及び利子について、各借入先の償還金額を記載してございます。また、予算書114ページに地方債、各

事業債ごとの平成29年度末における現在高、平成30年度末見込み額、本年度増減見込み額を記載してございます。また、このことにより、平成31年度末現在見込み額が合計で79億5,793万8,000円の起債残高となる見込みでございます。

以上、総務課関係予算の説明を終わります。ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。質疑はありますか。

○10番（福留達也君）

前回に共通することだと思っておりますけれども、この前の一般質問でも出ていた、その働き方改革ということで、今役場勤務されている嘱託職員あるいは臨時職員、こういった人たちの福利厚生というのかな、待遇というのかな、これを今まで以上にきちんとしていかなきゃいけないということになっていくと思っておりますけれども、それに伴い役場職員、正規の職員の採用計画というか、それは今後、控えていくのか、予定どおり実施して臨時職員なり嘱託職員の待遇もよくしていくのか、それに伴って人件費というのかな、これがこれまで以上に上がっていくのかどうか、そこらあたりの説明をお願いします。

○総務課長（池田俊博君）

これからの役場の定員管理の計画ですけど、これまではしばらくの間140名をキープしながら、役場職員定員管理を進めていこうと計画をしていたところでありますが、今回ちょうど、次年度が定年退職11名ということで、ちょっと退職者数が大幅な増と退職者がふえるということで、しばらくの間、その部分を補充するためという形で少し採用計画、多めに計画をし、職員の資質向上等を図ってきておりますが、これが一段落つく予定としておりますので、これから先はまた従来の集中改革プランでやっております140名台を大体キープしていきながら運営を進めていきたいと思っております。

また、会計年度職員の採用ですけど、これに関しましても、1年ごとの年度の更新ということであり、その都度にまた時代の流れというか、経済の状況によって変動することもありますので、そこら辺のところは、また注視しながら職員数は一定の段階でやっていながら、そこら辺を抑えるとかふやすとか、そういうふうな考え方で定員の管理、進めていけたらと思っています。

○10番（福留達也君）

ちょっとわかりづらかったですけど、要するに役場全体の中で人件費の占める割合というのを、今現在のまま据え置いていくのか、今後はそういった職員を減らさず、そのまま嘱託職員なり臨時職員を厚遇していくことによって人件費の割合がふえていくと思っておりますけれども、そこはふやしていくのか、そのままの状態ですべて正規職員を抑えるのか、そこを聞きたいのです。

○総務課長（池田俊博君）

行政の経費として一番大きなのは、やっぱり人件費のほうが一番大きいと思っておりますので、できるなら今の状況の人件費の%割合等を勘案しながら、できるだけ抑えていく方向性は持って、町民の福祉の向上のための経費に充てられるように一般財源を抑えていければと思っています。

○10番（福留達也君）

明細書の80ページをお願いします。

19節の負担金補助金及び交付金のところに上から4、5行目ですけど、県消防防災ヘリコプター運行連絡協議会負担金とありますけれども、こういったところに負担をするのでしょうか、例えば緊急搬送で大けがをして緊急搬送で大島に鹿児島に運ばれることがあると思うのですが、こういったときの費用というのは、けがをした人がもつのか、それとも町がもつ、これはどうなっているのですか。

○総務課長（池田俊博君）

このヘリコプターの運営負担金ということで、搬出した方が伊仙町の町民でしたら、伊仙町のほうでヘリコプターの搬出の経費は伊仙町のほうでもっております。医者と看護婦の付き添いの費用的なもの、一応町のほうで負担はしております。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

総務課関係の質疑は他にございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ないようでありますので、次に進みたいと思います。

続きまして、未来創生課より補足説明をお願いいたします。

○未来創生課長（久保 等君）

それでは、平成31年度伊仙町一般会計予算における、未来創生課の歳出について補足説明をいたします。

予算書については33ページ、明細書も同じく33ページをお開きください。

2款総務費2項総務管理費7目文書広報費としまして363万6,000円を計上してあります。前年度比較で215万8,000円の増額計上ではありますが、要因としましては、現在年6回の基数月に発行していましたが広報紙を毎月発行することによる、印刷製本費の増額によるものであります。

続きまして、予算書33ページから34ページ、明細書においても33ページから34ページになります。

8目の企画費の主なものについて説明いたします。9節需用費の光熱水費171万5,000円については、サーバー室の電気代であります。修繕費の120万円につきましては、前年度より70万円増額計上しております。これはサーバー室の空調設備の故障による取りかえ費用であります。13節委託料のホームページ改修委託料900万円につきましては、セキュリティ強化のための委託料であります。光伝送路施設保守委託料は、前年度と同じ約1,240万円の計上をしております。14節電柱使用料646万円、19節負担金補助及び交付金に4,768万1,000円、主なものといたしまして、奄美群島広域事務組合負担金987万8,000円、路線バス移譲のための地方公共交通特別対策事業補助金1,060万円、離島割引カードに関する航路、航空路運賃軽減等事業負担金2,622万6,000円を計上しております。

続きまして、予算書35ページ、明細書については、34ページをお開きください。

9目企業誘致対策事業費、13節新しい働き方を実現し、雇用に結ぶ目的のふるさと雇用再生事業委託料100万円、これは地方創生事業の1つであります。19節クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した、企業化支援事業補助金300万円を計上しております。

続きまして、10目きばらでい伊仙応援基金事業費の主なものについては、ふるさと納税に関する経費、人件費193万1,000円、返礼品代1,500万円、送料代500万円、決済手数料150万円等を計上しております。

予算書は同じページ、明細書については35ページをお開きください。

11目企業版ふるさと納税事業費については、需要費の図書購入500万円、備品購入に1,000万円を計上しております。続いて12目地方創生推進事業費の主なものについて4節、7節については、事務員の人件費386万1,000円、8節については、検討委員効果検証委員の報償費60万円、9節については、この検証委員、検討委員の費用弁償及び関東、関西地方での地方創生による伊仙町の取り組みのセールスのための旅費190万4,000円を計上しております。13節委託料につきましては、生涯活躍のまちづくりに関する調査及び総合戦略策定委託料として650万円、子供たちの学習支援に関する人材交流育成事業委託としまして1,000万円を計上しております。

予算書36ページ、明細書については35ページをお開きください。

主なものとして14目地域おこし協力隊推進事業費については、隊員3名分の人件費及び活動経費を計上しております。

予算書37ページ、明細書36ページをお開きください。

15目長寿とこれからのまちでサテライトオフィス事業としまして、首都圏からのお試し体験をいただき、町内への品質と雇用の促進を図る経費を計上、13節におきましては、サテライトオフィス誘致戦略策定委託310万円を計上しております。この長寿と子宝のまちサテライトオフィス事業につきましては、29年度実施しました特別交付税措置によるものとして計上しております。

続きまして、予算書42ページから43ページ、明細書につきましては、39から40ページをご参照ください。

2款総務費5項統計調査費1目統計調査総務費から15目経済センサス基礎調査までは、各種統計調査に関する経費を計上しております。その中で主なものとしましては、統計担当者の人件費と、今年度、調査実施します農林業センサス調査費を計上しております。

続きまして、予算書74ページ、明細書については、73ページをご参照ください。

6款商工費1項商工費、3目消費者情勢推進費につきましては、相談員の人件費及び研修旅費、弁護士相談会に関する経費等を計上しております。

以上、未来創生課に関する平成31年度伊仙町一般会計補正予算の補足説明であります。ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。質疑はございませんか。

○1番（杉山 肇君）

予算書の35ページをお願いします。

款2項1目9のこの企業化支援事業補助金というのがありますけど、この事業は一体わかりやすく言ったらどういう感じの事業なのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

ただいまの質問にお答えします。

この事業はですね、ふるさと納税を利用したクラウドファンディング型のふるさと納税を利用して新たに伊仙町で企業化する人にふるさと納税をしていただきまして、その企業化を支援するという形でありまして、財源はふるさと納税を財源として、一応今年度300万を目標としているのですが、これはこのクラウドファンディングですので、支援される方が、例えば300万を超えて400万になる可能性もあるし、100万円になる可能性もありますが、この入った寄附金をこの企業化をする方に支援するという形になります。

○1番（杉山 肇君）

これ、現状の今の伊仙町では、この支援を受ける対象者はいるのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

ただいま伊仙町の地域おこし協力隊としまして、コーヒー栽培に関する地域おこし協力隊が、今活動しているところですが、そこに草取りのものとかいうものにふるさと納税を利用して徳之島に來られたり、そのおかげでテレビ局、放送関係とか新聞関係の方が、年間におよそ100名程度来島したりしています。そういう中で、企業化に進めていくという観点は持っていますので、そこにこのクラウドファンディングをして雇用に結びつけたり、そのコーヒー関係の事業がさらに進化して伊仙町のものとして動くようにということで、企業化支援のプロジェクトを立ち上げております。

○1番（杉山 肇君）

わかりました。ありがとうございます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○4番（佐田 元君）

予算書の35ページをお願いします。

目10きばらでい伊仙応援基金事業費についてであります。これの内訳、本年度予算の財源内訳その他5,195万9,000円となっておりますが、当初予算では2,705万1,000円となっておりますが、この2,705万円しかないのに5,195万9,000円、その他財源で組まれているようですが、このその他財源、どういうふうにしてこの財源を持っていかれるのか説明お願いしたいと思います。

○総務課長（池田俊博君）

ただいまの佐田議員のご質問にお答えいたします。

きばらでい伊仙応援基金事業のその他財源の内訳でございますけどここできばらでい伊仙事業の

事務賃金で雇われている方の雇用保険料収入が2,000円、社会保険料の雇用収入が24万円、そしてきばらでい伊仙応援基金利子1,000円、あときばらでい伊仙応援寄附金、これはそのまま積立金に回るのですけど2,705万円、そしてきばらでい伊仙応援基金繰入金、これは今年まで平成30年度までに、きばらでい伊仙応援基金をいただいた基金で積み立てている金額がございますので、そこのほうから2,466万6,000円を繰り入れして、財源内訳に充てたものであります。

○4番（佐田 元君）

そういうような説明があれば、ちょっとわかりやすい説明で本当にありがとうございます。この内訳がちょっとおかしいのではないかなという思いで質問いたしました。質問を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○5番（清 平二君）

今、きばらでい伊仙応援基金とありますけども、この中で2,705万1,000円積み立ててありますけれども、過去にどのくらい積立基金になっているのか。

○総務課長（池田俊博君）

これは、平成29年度の決算のときに説明申し上げたと思いますが、平成29年度の歳入歳出決算における主要施策の成果説明書の32ページ帰られたらご参照いただきたいと思いますが、平成29年度末の現在の残高として3,904万6,000円の積立金の現在高があります。またこれは、30年度においても、そこから取り崩しをし、また寄附金をして集める金額をそのまま積立金として積み立てをしてございます。

○5番（清 平二君）

先ほどきばらでい基金の2,705万足りない2,409万9,000円ですか、これは基金から取り崩してやったということですが、その次にある企業ふるさと納税事業、去年より500万ふえています。備品購入として1,000万、18の備品購入としましては図書1,000万、1,500万の図書費購入になっています。これはどういう図書を買うのでしょうか。去年もこの予算が1,000万ぐらい出ていたと思うのですが、本当に図書購入費なのか、その図書がどういう図書なのか、ご説明をお願いします。

○社会教育課長（稲田良和君）

ただいまの質問にお答えします。

30年度も企業版ふるさと納税を活用いたしまして、本購入、棚を整備していますが、まだまだ本も古いものを破棄しながら、新作等を購入していますので、これは学習支援センターが建設を見込みまして、この企業版ふるさと納税を活用いたしまして、事業を進めているところでございます。

○5番（清 平二君）

また企画創生課かなと思ったのが、これは社会教育課の本ですか、備品ですか。

○社会教育課長（稲田良和君）

30年度も社会教育課のほうで、企業版ふるさと納税を活用して、本の購入と棚の購入を行ってお

ります。31年度もこのような形で進めていきたいと思ひます。

○5番（清 平二君）

ちょっと未来創生課の節かなと思ひて質問したのですが、これ去年1,000万、今年1,500万、ちょっと説明が前後になりますけども、どのくらいこの本を利用されているのか。その子供たちにやっているのだったら、子供たちにどのくらい利用されているのか。その効果等あるならば教えていただきたいと思ひます。

○社会教育課長（稲田良和君）

ただいま資料手持ちがございませんので、後ほど資料提出したいと思ひます。

○5番（清 平二君）

その下に、地方創生推進事業とありますけども、新設で1,650万、今年になっているのですか。人材育成委託料、先ほど子供たちの人材育成ということですが、具体的にわかるように説明していただきたいと思ひます。（「36ページ」「36ページ」と呼ぶ者あり）

○未来創生課長（久保 等君）

今回の地方創生推進事業であります、日本各地が抱える少子化対策や住民の幸福度向上など、伊仙町はモデル地域としての役割を果たすことが見込まれております。集中から分散へ、また生涯の活躍のまちづくりを目標に掲げ、住民が主役となり、自主自立の精神をさらに高め、各集落小学校区単位の活力、特色をさらに発揮できるまちづくりを目指す、そして変革社会へ対応可能な体勢、地域の仕組みづくりを目指すということで、地方創生事業の推進事業を立ち上げております。

その中で、先ほどの人材交流育成事業委託料であります、30年度も実施した、その都会体験プログラム、それから海外体験プログラムそういうものを体験しまして、各これは小中学高校生を対象とした事業でありましたが、30年度につきましては、小中学生が応募してきて、体験をしてきたところであります。その中で3月の3日にその体験報告会も行つたところ、今回は初めてでありましたが、次年度31年度におきましては、希望者もふえるということを見越しまして、そういったものを事業化するということで、今回計上してあるものであります。

○5番（清 平二君）

30年度は都会とか海外とかいうことだった。これ小中学生が海外に何名行つたのか、都会に何名行つたのか、その人数をわからないですか。

○未来創生課長（久保 等君）

都会体験には3名、海外には6名参加しました。

○5番（清 平二君）

都会に3名、海外に6名、1,000万、今年30年度は1,000万くらい使いました。31年度はもうちょっとふえるということでやっていますが、本当にこういうお金があれば、もっと小中学生全体に行き渡らせる方法がいいのかなと思ひます。これを3名、10名余りで1,000万くらい使つてやるわけですね。やっぱりこれをもっともっと伊仙町の教育委員会のほうに全部利用してやる

ほうが効果あると思うのですが、そういうのをやはり教育委員会あたりとも協議をしたり議論をしたりしているのかどうかお尋ねします。

○教育長（直章一郎君）

お答えします。

この件については、その事業が決まって、海外派遣あるいは首都圏派遣の以前には、未来創生課と教育委員会の私と事前の打ち合わせをして、こういった子供たちを募集したりしています。

○5番（清平二君）

いや私が言うのは、募集しているとかそうじゃなくて、極端に言ったら、これだけ1,000万という大きなお金がありますよね。これを小中学生の教育費が足りないと言うときに、今言われている中で、数名の方、10名近くの方だけにやると言うのは、私はもっと考えて、そういう点議論したことがあるのかどうかということを私は聞いているのですけども。

○未来創生課長（久保等君）

先ほど申しあげました、首都圏であったり、海外交流とあわせて、今まで継続してきました、その学習支援センターの立ち上げの検討、それから、それを組織化して事業運営化することもこの1,000万の委託事業費となっております。

また、この今回実施しました体験型のプログラムであります。これをさらにどうやったら浸透していけるかということも議論になっているところであります。これをさらに利用者をふやしていく、そういう目線も持って、また教育委員会等とも協議をしているところであります。

○当初予算審査特別委員長（牧徳久君）

清議員にお伝えします。先ほどもありましたが、3回、1項目について3回としてありますのでよろしくお願ひします。

○5番（清平二君）

次に、地域おこし協力隊推進事業についてですけども、これに1,100万、去年も1,100万使っていますけども、旅費の50万とかこういうのが非常に見受けられますが、今後この地域おこし協力隊に伊仙町がどのくらい期待するとか、効果があるとか、その辺はどのくらい見込んでいるのでしょうか。

○未来創生課長（久保等君）

30年度におきましても、3名を予定して予算を計上してありましたが、30年度におきましては、情報あとコーヒー等の2名でありましたので、12月議会とあと3月先般の補正のほうで1名分は減額させていただきました。今回、先ほどもちょっとお話しましたコーヒー関係の協力隊が、来島者が多いというので、この分が将来企業化できるのではないかということを見込んでおります。

こういった関係で、最終的3年を経過した後は、伊仙町に起業をしてくれるものだというので、今その協議も進めていっております。その葉っぱとかコーヒーを利用した商品づくりを目指して、今回地域おこし3名ということで計上してありますので、31年度に対しては、この3名が地域

おこし協力隊として、伊仙町の隊員として活躍していくようになります。

○5番（清 平二君）

伊仙町で地域おこしをするというのは、大変難しいかなと思いますけども、それに対して少しでも希望があるということですので、ぜひこういう人たちを雇用して、また伊仙町の出資者のほうもまだまだいれるようにしていただきたいと思います。

次に、ページ37ページ、13委託料ですか、サテライト誘致の委託料ですけども、もうちょっと詳しい話をして説明していただきたいと思います。

○未来創生課長（久保 等君）

29年度には、お試しサテライトオフィスのモデル事業として実施したのですが、そこを通じまして、また新たな事業、企業を狙いまして、首都圏企業への誘致活動、それからニーズ調査、お試し勤務の体験、そういうものをフォローアップしましての、あとその経験を生かして、どうすれば伊仙町に企業が移ってきてくれるのか、前回したところで、今西伊仙のほうに新たに1社企業が来ていただきましたので、そういう形を、また今回も1社、2社とふやせるように戦略を策定すること、お試しで、また新たな企業に来てもらうという経費の中であります。

○5番（清 平二君）

これは今何社か、そのオファーは来ていますか。それとも今から探すのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

一応、首都圏から希望はありますが、31年度の予算でありますので、4月以降に受け付けを行うといえますか、この委託されたところと調整をしまして、ちょっと台風の多い時期になりますと、予定が狂ったりしますので、その辺を避けて11月ごろに実施できるものかなというふうを考えております。

○5番（清 平二君）

非常に伊仙町に企業が少ない、そういう中でありますので、大変難しい問題だと思いますけども、やっぱり伊仙町の出身者の子供たちが、そこで働けるような企業誘致をしていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に。

○10番（福留達也君）

明細書の35ページ、お願いします。

先ほどの企業版ふるさと納税きばらで伊仙応援基金のところですけども、執行部の皆さんの努力下、その企業版ふるさと納税事業受けとれる団体に、全国でも数少ない団体になっておりますけれども、これ指定されているのですけれども、これは何年間とかそういった期限があるのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

すみません、きばらでい伊仙応援基金の期限ですか。

○10番（福留達也君）

企業版ふるさと納税。

○未来創生課長（久保 等君）

企業版ふるさと納税においては、当初3年間というくくりの中であったんですが、今回総務省のほうから通達が来まして、この3年間をあと2年間延ばす5年間ということで、今実施しているところであります。

○10番（福留達也君）

余り詳しくはわからないですけれども、都会にいる出身者が企業起こしている方がメインだと思うのですが、そういった方たちが、企業版ふるさと納税で寄附をするということと、きばらでい伊仙応援基金ですること、その差というのかな、全然違うメリットが物すごくあると、この2つの違いはどういった感じなのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

きばらでい伊仙のほうは、個人が寄附していただく、この企業版ふるさと納税という形になりますと、企業が6割の控除を受けられるという形で、例えば100万の寄附でありますと60万円に関しては会社が控除を受けられる、あと40万に対しては会社の地域貢献であるとか、そういうものの寄附になります。

○10番（福留達也君）

先日友人が、そのきばらでい伊仙応援基金事業に寄附あれをするとしたときに、いろいろ自分のマイナンバーを書かなきゃいけないとか、そういったのが出てきて、面倒くさいというのかな、伊仙町役場へも自分のマイナンバーをもとに自分のいろんな個人情報が見られてしまうのではないかと、そういう心配をして、見られてもいい人なのではと思うけど、単なる寄附をしたと、そういった話があったのですけれども、これマイナンバーを書く欄があるのですけれども、ここの税務課なり何なりで、マイナンバーから寄附をした人の所得なり何なりというのがわかっていく仕組みなのか、それともそういったのをここで見ることはできないのか、そこらあたりはどうなのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

今現在、マイナンバーを書くということもあるのですが、逆にそれを気にしないで直接寄附をして、伊仙町からこれだけの寄附がありましたよということを寄付者のもとに送りまして、その寄附者がそれを持って申告をするという形が多いです。ですから、そういう欄があるからちょっと情報が漏れてしまうという危惧したと思うのですが、今の時点ではその2段階、マイナンバーを記入するという方法と、あとこちらから寄附額を個人さんのもとへ送付して申告をしてもらうということで対応しております。

○10番（福留達也君）

その欄にマイナンバーを記入して寄附をしたとしても、伊仙町役場税務課からは、本土にいるその人のいろんな情報までたどり着くことはできないということですね。わかりました。

35ページの地域おこし協力隊をお願いします。

今いるのは写真の方とコーヒーの宮出君の2名だと思ったのですが、今3名いるということなのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

30年度については、今2名です。31年度に対しまして3名の計上をしているのですが、そのような想定をして3名でいく体制で、予算を計上しているということになります。

○10番（福留達也君）

これはそのなりたい方が採用の仕方というのは、希望する方がいて、その人が申請して採用していくのか、それともまた役場でこの人すごいなとか、そういった人を見つけ出して、応募させてやっているのか、これどういう感じでのこれ隊員になっていくのですか。

○未来創生課長（久保 等君）

伊仙町におかれまして、こういう人材がいて、協力隊として欲しいのだということをご公募しまして、それに応募してくる形をとっております。そこで面接をして、この地域おこし協力隊の目的に沿っている、合っているという方をこの地域おこし協力隊として採用するという方法をとっております。

○10番（福留達也君）

今、隊員としてやられている方、本当にこの間の議員の大会での発表でもすばらしかったのですが、彼のコーヒーは、またうわさによるとこの4月には、皇室にも献上できるほどになっていると、そういう話も聞きますし、こういった人たちのおかげでいろんな取材班が来て、この徳之島伊仙町を宣伝しているのかなと思っていますので、まず大切にして活躍していただきたいと思います。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○13番（樺山 一君）

36ページ、地方創生推進事業費の節13委託料について質疑をします。

こないだの町の広報紙で、30年度は国内3名、海外6名、海外はニュージーランドって書いてありましたけども、何名希望されてそして3名、9名に決まったのかお尋ねします。

○未来創生課長（久保 等君）

首都圏と海外、それぞれ6名ずつを募集したのですが、首都圏3名の応募で海外もその人数の6名の応募でありました。

○13番（樺山 一君）

やはり伊仙町全体から小中高生の応募をとるわけです。どういう公募をしたのか、そしてまた自己負担金とかそういうのもあるのか。それから、首都圏に行く3名の方々が去年漏れておりますが、その3人今年はまだ1,000万も使って人材交流事業があるわけですので、優先的に行かせてあげようと考えているのか、そして何名ぐらい今年に応募があるのか、そして何名ぐらい行かせようと思っているのかお答えください。（「すみません、ちょっと個人負担の資料を持ってきますので」と呼ぶ者あり）

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

しばらく休憩いたします。

休憩 午後 2時20分

再開 午後 2時30分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

○未来創生課長（久保 等君）

30年度におかれましては、この都会体験に対しまして自己負担分が3万円、あと海外体験が個人負担10万円ということになっております。今回の事業費が300万でありまして、今回1,000万の計上ではありますが、今回都会体験6名、そのかわり、また個人6名が行くだけではなくて、双方交流、都会からも、また島に来ていただいてホームステイなりを経験するなど、海外も同じように双方交流を目指しております。そういった受け入れをすることにより、海外の教育先進国であるニュージーランドでありますので、その波及効果が大きいのは、やっぱり来てもらって、ホームステイなり子供たちとの交流を進めていただくことによって、その6名だけじゃなくて、伊仙町全体の子供たちに、その効果をもたらすために相互交流ということを目指しております。

今回、それとあわせて学習支援ということで、寺子屋とか、今学習支援を社協のほうで行っているのですが、それを役場の中で事業をするのではなくて、それが組織化してできるような形も今回考えて、この委託という形になっております。

○13番（樺山 一君）

30年度は、首都圏は3万円、そして海外は10万円だったのですが、今年31年度は、交流事業に300万円を予算化して、都会との交流で6名、じゃあ海外はもう今年はないということですか、海外から来てもらうわけですか、それとも。

○未来創生課長（久保 等君）

お互いに相互交流しますので、都会6名、海外も6名行くこともあるし6名来させるということです。

○13番（樺山 一君）

6名伊仙町から派遣する、そして逆にニュージーランドから来てもらう。それも伊仙町のこの地方創生推進事業費でニュージーランドの方の旅費も持つということですか。

○未来創生課長（久保 等君）

先ほどもお伝えしましたが、6名が行って体験して、この間の報告会、また学校に帰っての近い存在、学級だったり友達だったり、こういうところがあるということを経験することも大事でありますし、逆に受け入れをして、海外、世界を視野に入れてということで交流、この海外からの受け入れもこの事業費で、全体で海外の交流が500万円、あと先ほど言いました学習支援につきまして、寺子屋とかその辺の運営、組織化というところに500万の委託という形であります。

○13番（樺山 一君）

理解できたのか、自分でもちょっとわからないのですが、他の方が理解できればいいと思いますけど、じゃあ国内、海外で500万円を使って、あとは交流事業に500万円を使って、あとはその寺子屋とかそういう組織的なのに500万円使う、とにかく、決算等で後から出てくるわけですので、そういうのは明確に説明できるようにしていただきたいと思います。私は余り理解できませんでした。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑ございませんので、次に移りたいと思います。これで質問を終わります。

続きまして、税務課長より補足説明をお願いいたします。

○税務課長（名古健二君）

続きまして、税務課関係の歳出予算の説明をいたします。

ページ数は予算書37から38ページ、明細書36ページから37ページであります。

2款2項1目の税務課総務費につきましては、前年度と比較しまして606万4,000円の減になっております。主なものといたしましては、給料、職員手当、共済等であります。そして、昨年度と比べて新しく計上してあるのが、13節の委託料の固定資産税標準宅地鑑定評価業務委託料224万9,000円です。内容は3年に1度の宅地の鑑定評価であります。

事業費明細書の37ページ、2款2項2目9節の旅費は、関東地区への県外徴収であります。土日を利用して3泊4日の計画をしております。滞納者41名、滞納額は522万円です。内訳は、国保税260万円、固定資産税61万4,000円、町民税180万円、軽自動車税20万6,000円です。あとは税務課業務の事務経費です。

以上、ご審議賜りますようによろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、町民生活課より補足説明をお願いいたします。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

続きまして、町民生活課関係の支出歳出のご説明をいたします。

予算書39ページ、お願いします。明細書は、37ページから38ページです。

2款総務費3項戸籍住民基本台帳費1目戸籍住民基本台帳費、前年度と比較いたしまして1,555万2,000円の減額になっておりますが、主なものは人件費の減額であります。主な内容としましては、職員関係の他、戸籍総合システム関係の委託料、リース料などがございます。

次に、予算書の45ページ、明細書は42ページでございます。

3款民生費1項1目社会福祉総務費、この中の19節負担金補助金及び交付金、この中の上から4行目、保護司会補助金8万円となっております。

次に、予算書の47ページ、明細書は44ページです。

3款1項社会福祉費5目国民年金事務費、本年度370万6,000円、昨年よりも223万3,000円の減額になっておりますが、この主なものは人件費でございます。

続きまして、予算書48ページ。

同じく民生費の3款民生費1項7目福祉援護費、明細書、同じく44ページです。

この19節戦没者遺族会負担金22万円、昨年度につきましては、このこれともう1つ災害見舞金10万円が計上されておりましたが、今年度は、その災害見舞金が別のほうに移りまして、今回町民生活課では19負担金、この戦没者遺族会負担金のみであります。

続きまして、予算書49ページからでございます。明細書は46ページからになります。

3款民生費2項児童福祉費1目児童福祉総務費、これが前年度と比較して8万8,000円の減であります。職員の給与関係を除きました他は、子育て関係の費用になります。大きなものとして、13節委託料596万1,000円、このうちの280万2,000円は、児童館の管理運営委託料、140万子育て支援病児保育委託料、それと本年度は、子ども・子育て支援事業計画の策定業務として175万9,000円を計上してあります。

続きまして、2目へき地保育所費、明細書46ページから47ページでございます。

主なものといたしまして、予算書、次の50ページの役務費に関する浄化槽検査手数料、それから、7節賃金保育士の賃金、こういったものでございます。

続きまして、51ページ、3目私立保育所費、明細書は47ページ、48ページ。

こちらは19節負担金補助金及び交付金ということで、幸徳保育所、わかば保育所、いせん保育所、

その保育給付費、それから、今回初めて認定こども園「木らら」がスタートいたしますので、こちらの保育給付費あと新しい項目といたしまして、私立保育所の整備負担金、これが1億5,701万4,000円となっております。

続きまして、予算書52ページ。

民生費3項生活保護費1目生活保護事務費、需用費3万円であります。

以上、ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。質疑はございませんか。

○10番（福留達也君）

明細書の42ページをお願いします。

負担金及び交付金、シルバー人材センター運営補助金400万であります。これ……。 （発言する者あり）これ……。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑はございませんか。

○4番（佐田 元君）

50ページをお願いします。明細書のです。

この目4の節1報酬費、地域おこし協力隊員報酬となっておりますが、これの説明をお願いしたいと思えます。これまだか、いいです、いいです、ごめんなさい。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑はございませんか。

○5番（清 平二君）

ページ45ページ、負担金補助及び交付金のところになりますけども、社会福祉協議会補助金と420万8,000円とありますけども、これも。 （発言する者あり）

50ページ、私立保育所になりますけども、今年3月補正で広域保育は1,000万ぐらいですか、落としたのですけども、31年度は全然見込んでいないのですけども、これはやはり広域入所というのは、少しは見積もらないといけないと思えますけども、その辺のところはいかがでしょうか。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

お答えいたします。

次年度に向けての希望者が数名いたところでありましたが、こちらのほうから入所が可能かどうかということで、事前に希望する町外に紹介の文書をかけたところ、いずれも定員オーバーで、今は入所が認められませんという返事が来たために、今回は当初には組んでおりません。

○5番（清 平二君）

それは現在のことですよね。やはり子育て、伊仙町は子育てとかいろいろ子供たちの支援とか打ち出していますので、今後1年間、やっぱりそういう広域の入所が可能性はあると思えますので、

予算に少しは上げておかないと、もしそういう人が来た場合、予算がないから対応できませんという事ですか。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

今、現在のところは、先方のほうから、もう向こうのほうでも待機者がいて、そちらを優先していくために、今のところ受け入れのめどは立たないという、そのようなあれであります。

○5番（清平二君）

質問している意味が、今現在でなくて、あと半年後にその対象者が現れたら、やっぱり予算で少し対応して行って、予算不足とかあるいは、そういう今みたいに入れないとか、広域入所ができないとか、いうのであればいいのですけども、やはり予算の項目としては、私は少しでも残しておくべきだと思うのです。対象者がこれから出てきた場合どうするかと私は聞いているのです、現在じゃないで。

やはり、伊仙町は子育てのまちと言われておりますので、そういうことがもし出てきた場合、それはやっぱり断るわけにはいけないと思いますので、今後、補正で対応するのかどうか。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

今後の状況を、また担当者とも、今までの状況、今後見込めそうな状況、また相談をして、補正などで場合に、また対応を考えていきたいと思っております。

○5番（清平二君）

ぜひ、これはそういう対応をしていただきたいと思います。そういう対象者が出てきた場合に、ややもすると町内にいる入所の方だけを対象にするのではなくて、やはり実家に行ってお産をして、子供を向こうに預けたいという方が出てきた場合、やっぱり広域入所が必要ですので、ぜひ予算として、消化しなくてもいい、今年3月は1,000万ぐらい落としていたのだけでも、そんなに予算オーバーしなくても、せめて、そういう人たちのために50万ぐらいでも補正をしておいて、予算をしておいて、足りなくなれば補正、補正でいくと。この予算を見ますと、これは全然入っていないから、非常にこの子育てに対しては寂しい思いはしますので、今後の対応していただきますようお願いいたします。

へき地保育所についてですけれども、今現在、ページ数50ページ。

へき地保育所31年度で終わりということで、認可保育所ができるから終わりということですが、今現在、何人ぐらいの募集がきているのか、そして今何カ所ぐらい運営しているのか、お尋ねします。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

お答えいたします。

現在3カ所で90名の定員に対して、およそ30名程度入所しております。平成31年度新年度の申し込み数は、およそ16名の申し込み者でございます。

○5番（清 平二君）

この今現在でもよろしいのですけども、町内に住んでいる方だけを募集しているのか、入っているのか、31年度も町内だけなのか町外からも来ているのか。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

へき地保育所については、町内だけでございます。

○5番（清 平二君）

へき地保育所は、来年32年度から閉鎖ということですが、やはり保護者が認可に入れるというところと保育料が非常に高くなるという観点なんか出てきますけども、32年度から保育料が無料になるのかどうか分かりませんが、その辺のところの何ていいますか、やっぱり保護者が認可に入れたら、非常に保育料が高くなっては入れないという都合等が出てくるのかどうか、全部それとも32年度からは保育料無料化になるのかどうか、お尋ねします。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

お答えいたします。

これまでもへき地保育所、その希望としては、どちらかというところと認可のほうが多くて、その認可が定員を超過しているということで、へき地保育所に最終的にへき地保育所に入所することになった、そういったような事例が多かったということでございます。

10月からの保育所無償化については、国の動向を見ながら、そのような方向でも動けるような形にしたいと思っております。

○5番（清 平二君）

やはり若い人たちが伊仙町に住んで、非常に保育料が認可保育所に入れられない人たちが出てくる可能性があった場合、やはりへき地保育所は、32年度からでも1カ所ぐらいでも残す必要があるのかどうか、もう全部認可保育所に任せて、へき地は完全に廃止するのかどうか、お願いします。

○総務課長（池田俊博君）

ただいまの清議員にお答えしたいと思います。

平成32年度4月1日からは、へき地保育所においては、保育園は可能ではあると思います。これを可能にするためには、そのへき地保育所に給食施設を設置しなければならないというのが、これが最低の条件でありますので、これができればへき地保育所も可能ではあると思いますが、31年度において、東部地区に認可保育所、定数40人規模ですので、これが現在、へき地保育所30名ほどの定数ということですので、定員ということですので、これが32年度4月1日から稼働ということで、これから先はへき地保育所の場合には閉鎖という方向で、伊仙町としては進んでいきたいと思っております。

これもう1つの考え方として、へき地保育所をするとどうしてもやっぱり弁当の持参というのが今まであって、それもなかなか最近の保護者のニーズからは、弁当を保育所がつくっていただけるということで、そのほうで認可保育所のニーズのほうが随分高まってきているところは事実だと思

っております。

○5番（清 平二君）

ごめんなさい、51ページにもう1回戻りますけども、認定こども園木ららが開設しますけども、これは何名ぐらいで募集して、これはまた1人当たり子供負担がどれくらいなるのか、何歳から何歳までなのか、お尋ねします。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

お答えいたします。

現在事業所内保育所としての「木らら」の定員は19名でありましたが、平成31年4月1日からは、認定こども園「木らら」ということで、定員を20名にしております。認定こども園でありますので、4歳児、5歳児の幼稚園の対象の園児も含まれます。

○5番（清 平二君）

31年度は20名を定員に対して、4歳、5歳児、これは現在何人申し込まれていますか。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

お答えします。

今、手元に詳細な数字がございませんので、確認をして報告いたします。

○5番（清 平二君）

今、保育所が伊仙、わかばありますけども、これからまた東部地区に保育所を建てるということですけども、伊仙町の子供たちの出生率と、今後この保育所の運営が本当に私立保育所と認定こども園「木らら」がやって、今後の子供たちの確保といたしますか、それぞれの保育所で安定的な運営ができるのか、その辺のところも議論したのかどうかを両方伺います。

○総務課長（池田俊博君）

このことに関しまして、平成30年度の第2回伊仙町の行政運営調査会の中においても、意見が出ました。今、3認可保育所がありますが、定数をオーバーして一応入所をしている状況だと。そして、3へき地保育所がありますと、そしてこの新たに東部地区のほうに40名定数の認可保育所、あと認定こども園ですけど、一応この5園で、これから先のしばらくの間というか、今現在わかっている段階における保育所、保育園児に関しては、そのまま進める状況だと思えます。

また、これからそのまま行ったとしても、定数が3園であれば60人規模ずつだったのかな、それで大体オーバーしている部分を60人でしっかりと抑えると、あとその保育の質の向上、そういう面も十分考えられるということで、これから先しばらくの間は、この5保育園で運営が十分にやっけていけるものだと思っています。

また、さらに、これから先も伊仙町は子育てを支援してまいりますので、保育園、保育所等への入所に関しては、できるだけ支援はしてまいりたいと思っております。

○5番（清 平二君）

やはり、今後子供たちのために保育所はそれぞれ必要であると思えますけども、やっぱりそれぞ

れの保育所が安定して運営できるように、人口の増とか子供たちの出生数とか、やはり若者が住みやすいまちづくりになるよう努力してほしいと思ひまして、私の質問は終わります。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

すいません、よろしいでしょうか。

先ほどの認定こども園の入所児童に関するご質問にお答えします。

きょう現在で、全部で16名、ゼロ歳1名、1歳が3名、2歳3名、3歳6名、4歳3名、合計16名でございます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○8番（上木千恵造君）

1点だけお願いします。49ページ、50ページか。

へき地保育所の件についてお尋ねします。今の議論では、4月1日からへき地保育所は廃止になると、新しい認可保育所ができれば。現在、へき地保育所には何名の方が勤務されて、新しい認可保育所が開設した場合に、働いている、皆さんの今後、身分というのはどうなるのかお伺いします。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

お答えいたします。

現在、3カ所のへき地保育所におきましては、30名ほどの入所者がおります。（「保育士」と呼ぶ者あり）

○8番（上木千恵造君）

へき地保育所が廃止になれば、その人らの働く場所があるのかどうかと。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

保育士については、新たにできる認可の保育所、それから現在ある保育所など、保育士の募集が随分あるということで、そちらのほうに行けるようなことであります。

○8番（上木千恵造君）

ぜひあの失業とかさせないように、町内の保育所で雇えるような対策を考えてほしいと思ひます。終わります。

○総務課長（池田俊博君）

1つ追加で補足しておきます。今、あの喜念、古里、阿三の保育所で保育士のほうは8名で運営をしています。また東部の保育所の建設予定者の方とも、またこういうふうへき地保育所の方々を、できるだけ採用していただけるように、また協議していきたく思ひています。

○8番（上木千恵造君）

お願いします。終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。伊仙町議会会議規則第25条第2項の規定により、本日の会議はこれで延会したいと思いますが、ご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

異議なしと認めます。

したがいまして、本日はこれで延会することに決定いたします。

なお、次の会議は3月13日水曜日、午後1時に再開いたします。

本日はこれで延会いたします。

延 会 午後 3時08分

平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

第 5 日

平成31年 3 月13日

平成31年度伊仙町一般会計他 6 特別会計当初予算審査特別委員会

平成31年 3月13日（水曜日） 午後 1 時02分 開議

1. 議事日程（第5号）

- 日程第 1 議案第14号 平成31年度伊仙町一般会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第 2 議案第15号 平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第 3 議案第16号 平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第 4 議案第17号 平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第 5 議案第18号 平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第 6 議案第19号 平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第 7 議案第20号 平成31年度伊仙町上水道事業会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）

1. 出席議員（12名）

1番	杉山肇君	2番	牧本和英君
3番	西彦二君	4番	佐田元君
5番	清平二君	7番	牧徳久君
8番	上木千恵造君	9番	永田誠君
10番	福留達也君	11番	前徹志君
12番	明石秀雄君	13番	樺山一君

1. 欠席議員（1名）

6番 岡林剛也君

1 オブザーバー（1名）

14番 美島盛秀君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 穂 浩一君 事務局書記 元原克也君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	稲隆仁君
総務課長	池田俊博君	未来創生課長	久保等君
税務課長	名古健二君	町民生活課長	福司銀二郎君
保健福祉課長	澤佐和子君	経済課長	仲島正敏君
建設課長	松田博樹君	耕地課長	上木正人君
きゅらまち観光課長	佐藤光利君	水道課長	福島隆也君
農委事務局長	元田健視君	教育長	直章一郎君
教委総務課長	水本斉君	社会教育課長	稲田良和君
学校給食所長	伊藤勝徳君	ほーらい館長	重村浩次君
総務課長補佐	佐寶永英樹君		

～平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査特別委員会～

△開 会（開議） 午後 1時02分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまから平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査特別委員会を開会いたします。
昨日に引き続きまして、平成31年度伊仙町一般会計歳出について、保健福祉課の補足説明を求め
ます。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

平成31年度、保健福祉課における一般会計当初予算歳出についてご説明申し上げます。

主に、昨年度と比較して、増減額の大きい事業と新規事業についてご説明いたします。

予算書は45ページ、お開きください。明細書は42ページになります。

3款民生費1項社会福祉費1目社会福祉総務費19節負担金補助及び交付金において、社会福祉協
議会補助金他シルバー人材センター運営補助金等は前年度同額となっております。

次に、特別会計の繰出金について説明いたします。

まず、国保会計繰り出しについて、国民健康保険財政運営の主体が県に移管して1年になりますが、
同日28節国民健康保険基盤安定繰出金が前年度比3.3%減の5,917万2,000円、国保会計財政安定
化支援事業繰出金が前年度比4.4%減の2,159万円、助産費等補助金繰出金が6.3%減の420万円、国
民健康保険事務費繰出金が前年度比1.8%増の719万円となっております。

前年度同様、法定外繰出金については、予算計上しておりません。

介護会計につきましては、予算書46ページ、事業別明細書は43ページになります。

3款1項3目28節介護保険給付費繰出金は、前年度比0.5%減額の1億1,336万2,000円、地域支援
事業費繰出金も9.6%減額の627万8,000円、介護保険事務費繰出金も2.6%減の1,386万5,000円を計
上しています。

消費税10%に伴う法改正があり、低所得者介護保険料軽減措置繰出金については、これまで保険
区分の第1段階が対象でしたが、平成31年度より第1段階から第3段階までが対象となることから、
前年度比より大幅増額の1,456万3,000円になっています。

次に、後期高齢者医療特別会計につきましては、3款1項4目28節繰出金、事務費繰出金が前年
度比0.6%増の100万2,000円、後期高齢者医療特別会計基盤安定繰出金が前年度比2.4%減額の4,253
万2,000円となっております。

また、後期高齢者医療特別会計療養給付費繰出金も、2.7%減額の9,954万9,000円を計上していま
す。

また、予算書47ページから、事業費は44ページになります。

6目障害者福祉費20節扶助費、障害者自立支援給付費として前年度同額の2億6,000万円を計上し
ていますが、障害者自立支援給付費は前年度比2.5%増の1,500万円、医療支援や生活用具給付等の
事業費にかかわる地域生活支援事業費補助金は前年度比33.3%増額の800万円となっており、障害者

福祉費については増加している状況です。

予算書へ戻りまして、45ページから46ページになります。事業明細書は42ページから43ページになります。

3款民生費1項社会福祉費3目老人福祉費については、目内事業費が前年度より1,767万2,000円増額となっております。13節委託費において、第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定に向けての実態調査委託料として110万円を計上しています。

また、地方創生推進交付金事業を活用しての事業としましては、介護予防強化として実施しているほーらい館での教室にかかわる事業費の計上や、生涯活躍のまちとして、ほーらい館に一般社団法人長寿子宝社を4月1日に開設し、まずは生活支援体制整備事業や介護予防にかかわる事業費を委託していただくと考えております。そのスタートアップ支援事業として、主に事務費用負担として105万円を計上しています。

また、事務所をほーらい館内に開設し、ほーらい館機能の強化や人材育成、健康増進の地域展開を含めて、健康増進コミュニティデザイン事業を委託事業費として600万円を計上し、支援いただく計画です。

また、これまでほーらい館を拠点に行っていたむっじいらん園芸教室を農福連携事業として34万8,000円を計上し、農業支援センターとの連携教室を月1回は農業支援センターも活用して、野菜づくりや花卉栽培体験などを計画しています。

予算書は49ページ、事業明細書は45ページをお開きください。

3款民生費1項社会福祉費13目元気度アップ地域包括ケア推進事業12節損害賠償保険料は、地域の困り事など、地域の方々に支え合うグループ活動支援として、活動にかかわる保険料として8万8,000円を計上しています。

予算書51ページから、事業明細書は48ページになります。

3款民生費2項児童福祉費4目子育て支援事業について説明いたします。

子育て世代の多様な問題に対応し、子宝のまちとして子育て支援を充実させる取り組みを推進する目的から、子育て世代に向けた自然環境教育の教室等に向けた、環境教育を中心とした子育てサポートを計画しております。事業費としましては215万7,000円を計上し、内訳としまして、半年間の報酬として96万円、保険料として27万9,000円、教材費や印刷製本費、需用費が21万4,000円、役員費が2万7,000円、車の借上料やパソコンリース、施設使用料などで47万7,000円を計上しております。

続きまして、予算書52ページになります。

3款民生費2項児童福祉費8目子供医療費につきまして、款項目を今年度まとめておりますが、20節扶助費の中の義務教育就学児医療費助成事業につきましては、子育て世帯の負担軽減として、子供医療費の助成をこれまで就学前から中学校卒業までの医療費の無償化を図るため、300万円を計上しています。

次に、予算書は52ページ、事業明細書は49ページをお開きください。

3款民生費4項1目災害救助費については、昨年の台風の災害などを踏まえ、災害時の対策として、11節需用費5万円と、避難所としてほーらい館使用料50万円を計上しております。

次に、保健センター事業について説明いたします。予算書54ページ、事業明細書は50ページからになります。

4款衛生費1項保健衛生費5目保健センター運営費7節賃金216万9,000円については、子育て世代包括支援センター開設に向け、保健師1名、助産師1名を配置し、さまざまな子育てにおける相談業務などを充実させていきますが、育休職員の補填もあり、1名を臨時職員として雇用するものであります。

また、予算書55ページになりますが、事業明細書は51ページです。

同目19節負担金補助及び交付金における医師修学助成金45万円につきましては、島内の他町を参考に、伊仙町の医療機関に従事する医師の確保を図り、地域医療の充実に資するため、将来、医師としてその業務に従事しようとする者に対し、修学に要する修学資金を貸与するものであります。

続きまして、その下の20節扶助費、若年末期がん患者に対する療養支援事業費144万9,000円は、若年の末期がん患者が住みなれた自宅で最期まで自分らしく安心して日常生活が送れるよう在宅における生活を支援し、患者及びその家族の負担の軽減を図ることを目的に計上するものであります。

続きまして、予算書55ページから、事業費明細書は52ページからであります。

7目健康増進事業費につきましては、がんによる死亡者数を減少させるために、がん検診の受診率向上を目指し、早期発見に努めるために、賃金や広告料、委託料を合わせて481万9,000円を計上しております。

また、本町の創生対策や健康増進を図るため、10月より地域おこし協力隊として、大学でこれまで保健学研究室を開き、専門的に取り組んできた協力隊を協力隊として招致し、住民の健康づくりをバックアップし、健康増進の推進強化を図ります。これに係る事業費として、報償費96万円、保険料27万9,000円、教材費、燃料費等21万4,000円、役務費8,000円、施設使用料12万円や普及啓発にかかわる備品購入費15万円を計上し、合わせて保健学普及促進事業費193万1,000円を計上しております。

次に、予算書57ページ、事業費明細書56ページをお開きください。

4款衛生費1項保健衛生費9目自殺対策緊急強化事業費として381万2,000円を計上し、本町においては中高年に対する対策として、臨床心理士による相談会の開催や電話相談、気づき、つないでくれるゲートキーパーなどの人材育成や啓発用のパンフレット作成、講演会の実施などを計画しています。

また、子供たちを取り巻く環境の変化により、臨床心理士による相談件数も増加しており、若年層対策として、学校との連携による事例検討会議の開催や、児童生徒だけでなく先生や大人を対象に小中学校へ専門の講師派遣などを計画し、30年度策定し、31年から推進する自殺対策計画に基づ

き展開していきたいと考えております。

予算書58ページ、事業費明細書58ページの11目子育て支援推進事業費430万円につきましては、地方創生推進交付金事業の一環として実施するものであり、1つは認知行動事業として100万円を計上し、本町の子育て支援の取り組みの中で課題となっている子供の自己肯定感の向上のため、不登校や発達におくれを持って悩んでいる子供たちやその保護者への支援として、講演会や啓発活動を行うものであります。

13節の委託料330万円につきましては、子育て支援として、30年度に引き続き、親子のつどい広場、われんきや広場を月2回開催、子育て支援誌発行を年3回、家庭訪問型子育て支援として訪問相談支援を実施し、また土曜日、夏休みの学習支援や体験活動事業、乳幼児親子の舞台鑑賞、中学生の演劇鑑賞、親子が楽しめるイベントアートフェスタ、子育て世代のワールドカフェ開催、年3回実施や、療育研修会の開催などを事業委託するものであります。

保健福祉分野におきましては、健やかな子供の育成を願う中で、複雑な社会情勢の中で、不登校や発達のおくれに悩むお子さんや保護者、もしくは学校現場の支援体制などの強化や、健康増進の観点からは、メタボや糖尿病の重症化予防対策としての強化や、がん予防対策、また地域においては高齢者の認知症対策や、独居高齢者、老老介護の問題他、生活の困り事に対する相談が増加しております。

こうした複雑多岐にわたる現状から、4月からは課の再編を実施し、業務の効率化を図りますが、こうした課題に関しましては関係部署連携をさらに強化し、住民ニーズや課題に対応できる体制づくりを構築し、社会保障費抑制に向けた予防活動にも重点を置いて取り組んでいきたいと考えております。

以上、保健福祉課管轄分野の説明を終わります。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。

○2番（牧本和英君）

予算書の51ページ、55ページ、3款民生費、目4の子育て支援事業の報酬の地域おこし協力隊員報酬と、55ページ……

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

1件ずつ。

○2番（牧本和英君）

地域おこし協力隊員が2カ所に6カ月分ずつ入っているのと、未来創生課の地域おこし協力隊員とは別なのかどうかをお伺いしたいと思います。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

ただいまの質問にお答えいたします。

まず最初に、未来創生課の3名とは違う協力隊であります。子育て支援に対する地域おこし協力

隊を1名と、健康増進にかかわる地域おこし協力隊を1名ずつお願いする予定にしております。

○2番（牧本和英君）

地域おこし協力隊は、半年で2名入れるということですかね。通しで1年とかではなくて。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

これは、別々の方です。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○10番（福留達也君）

明細書のほうで、またお願いします。明細書の42ページですね。

負担金補助及び交付金のところのシルバー人材センター運営補助金ですけれども、今現在、シルバー人材センターには登録されているという方と、そこで事務を行っている職員は何名いらっしゃるのですか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

平成30年度は60人を目指しておりましたが、登録されている方が男性で22名、女性で21名の43名であります。職員は2名おります。

○10番（福留達也君）

設立当初から、こういった補助金を出してやっているのですけれども、シルバーさんが働いたら、そこからいろんな事務手数料なりなんなりを引いて、原則は自分たちで運営していくのが原則だと思うのですけれども、これ今後も、43名いらっしゃるというのですけれども、実際、自分の忙しい時期、ジャガイモの時期とか、自分のがあつてなかなか半分ぐらいだということもあるのでしょうか、1人は朝夕の送迎をして、あと1人は電話等あるのですけれども、その人たちの賃金を賄うためというのがメインでこれ補助しているのですか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

まず、生涯活躍のまちということで、高齢者の働く場の創出が目的ではありますので、そこを行うシルバーさんの運営に関して、2名今いらっしゃいますので、人件費相当ということで29年度お出ししましたけれども、手数料の問題もありまして、30年度から400万円を計上させていただいています。

○10番（福留達也君）

設立当初の補助額からふえてきているわけですか、減ってきているわけですか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

すいません、設立当初のそこまでは経過を見ておりませんので、申しわけありません。この3年間では、29年度が324万で、30年がおります400万で、31年度も同額の400万を計上しております。

○10番（福留達也君）

他の町のシルバーセンターもこういった補助金を出していると思うのですけれども、原則、自主

運営というのをやっていくのが原則だと思いますよ。なるべくどんどんうまく運転してもらって、補助金を減らす方向にしていっていただきたいと思います。

次に、この前の一般質問でもあったのですけれども、老人福祉施設、徳之島老人ホームと、また介護保険施設の仙寿の里と、入所者の施設がありますけれども、これらの待機者数、どれぐらい今いらっしゃるのですか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

仙寿の里に関しまして、両方ですけど、約30名ずついらっしゃるのではないかと思います。その中には、仙寿の里は30名ほどと聞いています。老人ホームに関しましても30名ほどいらっしゃると思いますが、いざ順番が回ってきたときに、まだいいですとかいうこともあったりとかします。大体30名ずつぐらいだと思っています。

○10番（福留達也君）

いろんな相談を受けたり、そういった入所したいとかいう話があるのですけれども、なかなか入れなくて困っているという方々が多い感じなんですね。実際問題、実際の現状を見ると、老老介護というんですか、ひとり暮らしの人もいるんですけど、夫婦とも年をとって、1人が大変になったら、例えば旦那さんが、具合が悪くなって、その人の介護をすると、お嫁さんも仕事にも行けずに困って、介護しながら自分もおかしくなったとか、そういうのがあるんですけれども、今後、地方創生事業で都会の介護難民の方、そういった方たちも呼び寄せて、ここで元気に暮らしてもらうという計画もあるんですけれども、そういった人たちを受け入れるにしても、普通の住宅だけではなくて、こういった福祉の施設に入所希望という方もあると思うのですけれども、そういったものを含めて、今後はこういった入所者施設をふやしていく考えはありますか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

ただいまの第7期の介護保険計画を推進中であります。次の第8期が平成33年度からスタートしますけれども、平成33年度以降の施設に関しては検討していくことができるのではないかなと思います。

あと、人口推移としましては、後期高齢者のシミュレーションを見ますと、数は今が言えばピークで、今後は減少していくであろうということも出ておりますので、今、施設をつくって、それがずっと継続していけるのかということもあると思います。

あとは、施設介護でなく、在宅のほうで居宅介護を受けていらっしゃる方もいらっしゃいますけど、その方々にはそれに応じたサービス、お仕事をされている方とか、そういった方に関してでもできる限りの、ケアマネさんからの相談もありますので、ショートステイだとか、いろんな介護を使っていただいているような状況であります。

○10番（福留達也君）

わかりました。

明細書の44ページをお願いします。

障害者福祉費に関して、真ん中あたりですけれども、現在、伊仙町において、障害をそういったハンディを抱えて、担当のケアマネさんみたいな方がプランを立ててやっている方というのはどれぐらいいるのか。それとまた、それを担当する職員はどれぐらいいらっしゃるのか、お願いします。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

障害者の計画策定につきましては、社会福祉協議会にいらっしゃる今まで2名の方が策定を行っておりました。また、島内におきましては、南恵会さん、事業所のほうにも1名おりますので、こちらのほうにもお願いしている分もあるかと思えます。

あと、障害者ですので、障害者に関しては、伊仙町におきましては社会福祉協議会さんと福祉法人さんの3人でされていますけれども、あと去年設立しました1事業所ありますので、その4名の方で障害者のプラン作成を行っているところであります。

この3月1日に1名が施設のほうに行かれましたので、現在3名でその体制になっていると思えます。

○10番（福留達也君）

これまで4名でやっていたのですが、必要とされているハンディを持っている人、プランを立てなきゃいけない対象になる障害を持った方というのはどれぐらいですか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

先日、体制が変わるといえるときに把握した時点では、110件ぐらいあったのではないかと思います。

○10番（福留達也君）

今、課長がおっしゃったように、110名程度のそういったハンディを持った方を、これまでは社協が2名のあと2名の計4名でやっていたと。今、話があったように、今まで社協でメインになって抱えていた方が他の部署に異動になったということで、残りの1名が今アップアップしているという話を聞くのですけれども、こういったプランを作成するとか、こういった人たちの配置というのかな、後継者というのかな、そういったのもきちんと、急に誰かが抜けたからそこが大変になるとかじゃなくて、後継者の育成とか、そういったのも考えながら人員配置は行っておりますか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

先日の理事会の中でも、その辺につきまして、私のほうからも会議の中で、体制についてもぜひ体制をとっていただきたいということで申し述べさせていただきました。ですので、今、1人にかかる負担が大きくなりますので、他にお願いできる分はお願いしながら、1人の負担が大きくなれないように、また利用者さんに困ることがないように、その辺は社協さんですので、町でそこが体制とかは申し述べることはできませんので、要望としましては、町からはそういう体制はしっかりとってくださいという要望はいたしました。

○10番（福留達也君）

町のほうからも、また指導なり要望なりしていただいて、1人がいなくなったからそこがうまく回らないとか、そういった事態はないようにしていただきたいと思えます。

58ページをお願いします。

ここで、子育て支援推進事業が出ているのですけれども、これとはちょっと別なのですけど、子育て等、そういったものに関してはいろいろあると思うのですけれども、最近、いろんな話を聞くと、大人のひきこもりという、そうになっている方も結構いらっしゃるという感じなのですけれども、こういったのに対する対策というのかな、あれはどこにありますか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

そういった方に関して相談があった場合には、就労支援とかいうところに関しては暮らしサポートセンターということで、これも福祉法人のほうでされているのですけれども、伊仙町のほうに毎週金曜日の午後いらっしゃって、相談室を開いております。そちらのほうに相談するように、その件数も大分ふえておりますの

○10番（福留達也君）

なかなかどこかに出てきてくれと言っても、障害というか、そういったハンディではないのですけれども、いろんな都会に出て挫折を味わって帰って、またひきこもっていると、本当はいろんな能力もあるのにひきこもっていると、そういった方の話をちらほら聞くのですけれども、どこかにまた出て行って何かをしてくれと言ったってなかなか出ないと、そういった人に対する対応というのは今後大きな課題となっていくと思いますので、またそこいらあたりも含め、目配りのほうをよろしくお願ひしたいと思います。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑ございませんか。

○13番（樺山 一君）

50ページ、牧本議員が質問した子育て支援事業の地域おこし協力隊の報酬96万掛ける半年分が組まれているわけですが、半年働く協力隊が本当にどういう内容の仕事をするわけですかね。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

子育て支援に関しましては、今、少し連絡をとっている方もいらっしゃいましてなんですけども、自然観察要員とか自然観察指導、今現在、子育て支援ということで、子育て世代の環境教育ということで、自然観察指導員を持っていらっしゃる方なのですけれども、余り詳しい個人的な内容までは伝えられないのですけれども、自然観察教育をなさって、親子の自然観察教育とか、そういったことをされている方に対して、伊仙町で子育て支援の充実に向けて、これ今後、世界自然遺産登録もありますし、あと社会教育課とか教育部局とタイアップして、子供だけでなく、親世代に対しての支援もできるような、情操教育も兼ねての子育て支援のサービスができるようお願いしたいと思っております。

○13番（樺山 一君）

これは、そうしたら半年間で支援をして、もちろんこれ赴任旅費等が組まれているのですが、島

外かどこかから来て、半年支援をして帰るということですか。

それと、55ページの健康増進事業の地域おこし協力隊も含めて、どういう資格を持って、どういうことをするのか、またこれも半年しか報酬が組まれていないのですが、その件についても説明をお願いいたします。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

すいません、半年と申しましたけども、10月1日から3年間、お願いする予定であります。

あと、内容につきましては、子育て世代に関しましては、先ほど申しました環境教育の方をお願いできればと思っています。もう一人が健康増進ということで、大学でそういう保健体育にかかわる授業をされていまして、伊仙町にも何回かいらっしゃったこともあるのですけれども、講師として、ポールウォーキングだったりとか、あとはいろいろな運動指導の資格も、スクエアステップ指導員とかも持っておられまして、あとは教員ということで、大人のための保健体育講座とか、メタボ対策とか糖尿病対策とやっておりますので、その辺に対する指導的にもかかわっていただける。

あとは、3年間、地域おこし協力隊として、今、いろいろな事業を奄美群島でもされていらっしゃいまして、その方が都市圏からいらっしゃる方を地域おこし協力隊ということで対象になりますので、そういった方々に協力していただければと思っております。

○13番（樺山 一君）

子育て支援、そして健康増進の地域おこし協力隊は、大体の当てがあると考えてよろしいわけですね。

それから、57ページ、項1保健衛生費の目8母子衛生費、毎年、産科医確保支援事業補助金として600万円予算化されていますけども、これは何名の産科医で、そしてこれは未来永劫にするわけですか、それとも期限があるわけですか、お伺いします。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

産科医確保支援事業につきましては、一度、徳之島で産科医がいない状況がありまして、子宝の島においてそういう状況が大変だということで、3町で徳之島の医療と福祉を考える会の中で話し合いが持たれまして、3町600万ずつ出し合って、産科医2名の確保のために、それぞれ600万ずつを補助しているものであります。

まだ、体制的に応援しているところでありまして、ずっと継続してというところはまだ協議はしておりませんが、その辺に関して、体制的にそういう状況がなくなるようなことがあれば、それは補助する必要はないかなと思いますけれども、現在のところ、これで体制がとれているところと思っております。

○13番（樺山 一君）

子育て支援ということですし、産婦人科医がいらっしゃらなかつたら、島の病院で子供が産めないわけですから、必要だとは思いますが、どういうふうになるか、打ち合わせ等をして、これからはずっとしなければいけないのか、病院で単独でまた医者が確保できるのか、そういうところも打

ち合わせ等をしていただきたいと思います。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑は。

○5番（清 平二君）

ページ52ページの子供医療の20扶助費の中で、義務教育費の就学児医療300万とありますけども、何か根拠があって300万と組まれたのか、今後また補正をするのか、これだけで足りるのかどうか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

この事業につきましては、シミュレーションをしまして、ある程度の額を出しましたが、初年度でありますので、他町さんでこれぐらいかかったという情報をいただいています、1年間で、そこに合わせて一応計上させていただきました。もしかしたら、不足するので、補正をお願いすることもあるかと思えます。

○5番（清 平二君）

子育てには非常にいいあれですので、もしこれ不足する場合は補正をして、執行していただきたいと思えます。

それから、45ページ、社会福祉総務費の19の中に、社会福祉協議会補助金とありますけれども、今、社会福祉協議会に仙寿の里を委託していますけれども、福祉法人として自主運営しているものかなと思うんですけども、毎年、この補助金が必要なのかどうか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

社会福祉協議会に関しましては、法人運営の部につきまして補助金ということで出させてもらっています。設備のほうは別になります。

○5番（清 平二君）

仙寿の里のほうはしていないということですね。その辺のところも早目に解決して、自主運営ができるような指導をしていただけたらなと思えます。

もう一つ、ページ数55ページ、扶助費、若年末期がん患者に対する事業費とありますけども、どういふものでしょうか。末期がんに対して、若年だけでいいのかどうか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

これは12月議会のほうでお願いしたものであります。がんの方で、40歳以上の介護保険を利用される方は、介護保険でそういう身体介護とか必要なサービスを受けられますけれども、それ以前の若年の方々が、介護が必要になったときに、介護を受ける今サービスがないということで、県のほうからこういう事業をしませんかということでありまして、細かく言いますと、ゼロ歳から19歳までの方に関しては居宅サービス月5万円ほど、20歳から39歳につきましては居宅のサービスと福祉用具サービスとして月額8万円ほど、あと福祉用具購入費として1人当たり5万円ほどを計上しているものであります。

○5番（清 平二君）

144万9,000円と、対象者はいるということですね。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

現在のところ、いらっしゃいません。説明を前回したのですけれども、そういった方が出てきた場合に対応できるようにということで、計上させていただきます。12カ月分、計上させていただいています。

○5番（清 平二君）

40歳以上の方は介護を受けてやるということですが、対象者もいないということを出してあるみたいですが、いない方がいいと思いますので、もし出てきたら、そういう方をフォローしていただきたいなと思います。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、経済課より補足説明をお願いいたします。

○経済課長（仲島正敏君）

補足説明をいたします。予算書61ページ、明細書は60ページからになります。

まず、5款農林水産業費 1項農業費 4目農業総務費です。前年と比較いたしまして、1,318万4,000円の減額予算要求になっております。

主な原因といたしましては、昨年度、備品購入費で堆肥センターの堆肥散布車の予算を計上いたしておりましたが、その分が購入いたしたということで減額になっております。

また、新たな事業といたしましては、13節委託料、農業課題試験研究委託料といたしまして、面縄にございます鹿児島県の農業開発総合センター伊仙支場に、コーヒー栽培体験の確立や、防風対策に対しましての研究委託を予定しております。こちらにつきましては、AGFさんよりも助成をいただいております。

続きまして、予算書62ページ、明細書61ページの5目特殊病虫害防除対策につきましては、昨年とほぼ同額の4万7,000円の増額になります。

続きまして、糖業振興費、62ページですけれども、明細書が61ページからになります。こちらは、前年と比較いたしまして、3,816万9,000円の増額になっております。昨日も説明をいたしましたけれども、こちらのほう63ページの19節負担金補助及び交付金の一番最後でございます産地パワーアップ事業補助金4,200万を計上しております関係上、この項目の増加が大きくなっております。

こちらのほう、昨日も説明いたしましたとおり、南西糖業の伊仙工場に対しまして、国より働き

方改革が求められる中、工場内の機械の機能向上等を図りながら、労働力の軽減を努めるとともに、早期製糖開始や機械化収穫により左右される日々の原料搬入等の増減を吸収し、安定的な操業を実現することを目的といたしまして、同事業を予定しているということで、5年間の予定で、今年度は結晶・分離工程の制御室の設置工事であったり、監視カメラの導入工事などを予定いたしております。

続きまして、63ページ、明細書62ページ、7目有機物供給センター管理運営費ですが、昨年度に比べまして2,642万8,000円の増額になっております。主な理由といたしまして、18節の備品購入費1,905万7,000円、こちらは有機物供給センターの液肥散布車の新規購入に伴う予算計上となっております。

続きまして、8目園芸振興費、昨年と比べまして810万円の増額になっております。主な事業といたしまして、19節負担金補助及び交付金、町園芸振興会負担金246万のうち210万円は、園芸作物反収向上対策支援補助金といたしまして、防風ネットの設置作業の労力を軽減するために、ネット設置率を上げることで、町全体の園芸作物の反収向上に資するというので、トラクターにアタッチメントとして取りつけることができる暴風ネットの支柱の穴あけ機、ホールティガーを3機導入することを計画いたしております。

その下の簡易ハウス設置事業補助金は、従来型の鉄骨型園芸ハウスは近年の鋼材単価の上昇にもより農家の負担が大きく、施設園芸への取り組みを困難なものにいたしております。そこで、簡易ハウス、ミニハウスを設置することに対しまして補助をすることにより、高収益のある施設園芸の新規参入で、気象状況に左右されない安定した生産と品質の向上を図るとともに、農家の所得向上と園芸振興のためにということで、この補助金を交付することを目的といたしております。こちらは、2パターンの簡易ハウス、210m²、間口6mの奥行35mと、間口5.4m、奥行き20mの2つのパターンのハウスを用意して、こちらを、今後募集をかけていきたいと思っております。

続きまして、その下、9目畜産振興費です。前年と比較いたしまして660万5,000円の減額になっております。主な事業といたしましては、今年度、7節事務賃金144万6,000円を計上いたしております。現在、伊仙町結サポートクラブという、畜産農家に対してのヘルパーという事業を行っておりますのですけれども、こちらの管理や業務量が増加の一途をたどる畜産事務の補助のための臨時職員の賃金でございます。こちらを計上いたしまして、31年度中に町の畜産振興会を中心に、伊仙町の畜産事務の処理の仕方や業務に対しましての話し合いを重ねて、今後、どのようなふうにして畜産向上を図っていくかは決めていきたいと考えているところでございます。

続きまして、予算書64ページ、10目生活改善センター運営費、こちらは前年と比較いたしまして116万6,000円の減額になっておりますが、昨年度は備品購入を132万ほど計上いたしておりましたが、今年度は今のところ故障もなく、30年度で備品等を購入させていただきましたので、今年度、当初では備品購入の予算計上がなく、それがほぼ同額でございます。

続きまして、65ページ、説明書は64ページでございます。11目農林水産物輸送コスト支援事業費、

こちらは前年と比較いたしまして824万3,000円の増額になっております。こちら、現在、ご承知のとおり、ジャガイモ、バレイショ等の出荷量が増加になっているということで、そのための措置ということで、負担金が増額になっております。

その下の12目農業担い手育成確保事業ですが、前年と比較いたしまして845万3,000円の減額になっておりますが、この目ですが、30年度までは担い手の育成事業として、国庫補助事業で新規就農者対象の農業次世代人材投資事業を主に予算化いたしておりましたが、その他の事業も、新規就農者の育成や、担い手農家、認定農家等の事業もこちらのほうに集約をした関係上、このような予算措置になっております。

続きまして、13目人・農地プラン推進支援事業ですが、前年と比較いたしまして239万7,000円の減額になっております。主な要因といたしましては、14節の使用料及び賃借料のうち、水土里情報システムという畑等の情報システムの使用料がこちらから農業総務費のほうに組みかえになりまして、それに伴う減額と、また、あとなかなか農地集積の同意が得られないということで、なかなか農地集積が進まないということで、予算の配分がこのような感じになっており、予算減になっております。

続きまして、66ページの鳥獣被害対策事業費、前年と比較いたしまして553万2,000円の減額になっております。主な原因といたしましては、30年度予算までは徳之島全体の山沿いを取り囲む事業、イノシシ防護柵の設置補助金で整備してはいたしましたが、こちらが30年度で完了したため、その分の予算の減額が主な要因でございます。

今年度は、新たに19節に負担金補助及び交付金といたしまして、イノシシ対策資材補助金50万円を計上いたしておりますが、こちらはイノシシ被害対策への資材購入に対する補助でございますけれども、なかなか30年度も一般質問等を受けておりますけれども、有効な資材がどれかというのがわからない中で、他町の動向なども確認しながら、予算立てを今いたしているところでございます。

続きまして、その下、16目農業創出緊急支援事業費ですが、30年度は当初で予算を計上できずに、補正対応したポテトハーベスターの導入事業費でございます。1台導入する予定になっております。

その下の17目農業支援センター運営費ですが、前年と比較いたしまして740万9,000円の増額になっております。主な要因といたしましては、次ページになりますので、67ページの19節負担金補助及び交付金、新規就農研修支援事業補助が昨年度は年度の途中で補正対応をしており、当初予算には載っておらずにございました。この予算が400万前後です。

あと、前後いたしますけれども、8目の報償費ということで、外部から指導講師をお招きしての謝金であったりとか、それに伴う旅費等の予算立てをいたしております。

続きまして、26目ふるさとレストランプロジェクト事業費ですが、前年と比較いたしまして45万8,000円の増額になっておりますが、主な要因といたしましては、昨年度も途中で補正いたしましたとおり、当初で1回だった農家など地元生産者との話し合い等が2回行われるということになり、旅費等の増額でございます。

続きまして、飛びまして、予算書は71ページ、明細書は70ページ、同じく5款農林水産業費3項林業費1目林業振興費でございます。前年と比較いたしまして414万4,000円の減額になっておりますが、主な要因といたしましては、昨年度は森林所有者情報活用推進事業を活用いたしまして、約300万でシステム及び附属ソフト等の整備を行いました、30年度で整備済みになり、その分の減額になっております。

他に、松くい虫の伐倒委託料などが、昨年度に比べまして大幅に減額になっております。こちらは、経済課サイドでできる松くい虫の補助というのは、県の林務駐在事務所等と協議の上、事業ができる箇所が決定しますけれども、その補助の対象となる地域がなかなか林業サイドのほうではないということで、その分の予算の減額になっております。

最後、72ページ、5款農林水産業費4項水産業費、こちらは1目水産振興費が前年度と比較いたしまして1万1,000円の増、2目離島漁業再生支援事業費が前年と比較いたしまして21万の減ということで、20万弱の金額の増減でございますけれども、こちらのほう、30年度、離島漁業再生支援事業が実施できないでいるわけなのですけれども、31年度に関しましては、今いろいろ問題になっている点を速やかに解決して、この事業が実施できるように努力してまいりたいと思っております。

以上、経済課所管の当初予算の補足説明を終了いたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。質疑ございませんか。

○3番（西 彦二君）

63ページ、1項19負担金補助及び交付金です。産地パワーアップ補助事業金、これは違いまして、ビレットプランターの南西サービスさんの支援事業になりますけど、バレイショの件でもポテトハーベスターの導入を今回やっていますけど、サトウキビのビレットプランターのほうも900万前後の予算ですけど、ぜひチャレンジしてもらったら、増産のほうにできるかなと思っていますので、よろしく検討をお願いいたします。

○経済課長（仲島正敏君）

ビレットプランターは、今、西議員から質問がありましたけれども、こちらのほうは南西サービスさんのほうで所有をしているかと思うのですけれども、この機械が補助金ベースにのるのかどうかというのは、糖業部会等で会議をしてみて、のるようであれば、また次年度に向けて予算計上等も含めて検討してみたいなと思っております。

○3番（西 彦二君）

よろしくをお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○10番（福留達也君）

明細書の62ページをお願いします。下のほうの19負担金補助及び交付金のところ、防風ネットの

支柱をあれするという町園芸振興会負担金、いろんな作物の風対策ということで、防風ネットを立てるための穴をあける機械を3台導入するということらしいのですけれども、これ東部、中部、西部にそれぞれまた場所を決めて設置して、それぞれ希望者が借りに来るといった形をとるのですか。

○経済課長（仲島正敏君）

今後、要項等を担当のほうで作成をしておるのですけれども、一番問題になるのが管理ですので、管理する場所をどこにするのがいいのかというところが今問題になっております。最初の計画では3台ということで、東部、中部、西部を考えておりますけれども、保管場所を今どこにするのがいいのかというのを、今後、農協さんの倉庫等、保管ができる場所、雨ざらしになりますと、機械導入いたしましても故障の原因になりますので、そういう場所がないかというのを担当のほうに確認をさせているところでございます。

○10番（福留達也君）

確かに、貸し出すとなった場合に、管理をきちんとしてもらわないと大変なことになると思うのですけれども、またいろんな畜産振興なりなんなりで、いろんなブルドーザーみたいなのか、堆肥を運ぶトラックとか、それぞれ農家の要望があつて、配置したらいいなという話も聞いたことがあるのですけれども、それぞれジャガイモ時期には掘り取り機とかトラクターとかあればいいんですけど、これまた3台、東部、中部、西部に1台ずつあつても、使う時期というのがほぼみんな重なって、それこそまた順番争いのようなことになりかねないのかなとか思ったりするけど、そういった対策というのは大丈夫ですか。

○経済課長（仲島正敏君）

そのような危惧される点も含めまして、園芸振興会のほうで、また協議をしていただければなと思っております。

○10番（福留達也君）

こういった事業を導入するのは本当に素晴らしいことなのですけれども、その後の使い方とか、そこいらあたりで混乱を来さないようにやっていただきたいと思えます。

64ページをお願いします。明細書の64ページ、下から3段目ぐらいの町農業青年クラブ育成助成金が7万ですか、これはどういったことに使われているものなのですか。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらのほうは、通称4Hクラブと言われている農業青年に対する助成金でございます。農業青年、農業ということで、個々の事業主ということで、人によってはなかなか横のつながりがとれない青年等いらっしゃいますので、定期的に会を行ったりとか、またきずなを深めるために産業祭等でお店を出したりとかしながら、伊仙町のみならず徳之島3町の4Hクラブ、また大島郡内の4Hクラブと交流を重ねながら、そこらで切磋琢磨していただきながら情報交換もしていただくということで、そういう団体に対しまして助成をいたしております。

○10番（福留達也君）

わかりました。

明細書の66ページをお願いします。農業支援センター運営費、賃金のところで、新規就農者指導として、これは2名分計上されていますけれども、今、あそこは現在、所長さんと技師指導者というのか、女の子が1人と、あと研修生がいるのですけれども、もう1名、新たに指導者が入ることなのですか。

○経済課長（仲島正敏君）

こちら、30年度も2名で予算を計上していたのですけれども、なかなかこちらのほうもハローワーク等にも募集をかけておりますけれども、なかなか応募がないという中ですけれども、引き続き、新規の就農者の指導をできる方を募集いたしておるということで、一応2名計上させていただいております。

○10番（福留達也君）

その下の指導者謝金というのがありますけれども、96万8,000円、これはあそこの所長さんが何か講演をするということなのですか、それとも外から誰か講師を依頼ということですか。

○経済課長（仲島正敏君）

先ほど、私の説明がちょっとあやふやだったかもしれないのですけれども、こちらは外部講師をお招きしてできないかなということで、まだ具体的にどの方というのは決まっていないのですけれども、今後、その道の専門家の方をお招きして、考えているのは、研修生のみならず広く町内の農家の方々にもできるような研修ができないかなと思って、このような予算を計上させていただいております。

○10番（福留達也君）

こういったのは、あそこに入った所長さんがまずいろんなそういった研修をさせたりとか、まずそんなのを積み重ねて、それで足りないという部分をこういったことをすればいいと思うのですけれど、今、そういったことがあそこの所長さんはやられていますか。

それと、これの財源は一般財源ですか。

○経済課長（仲島正敏君）

支援センターの経費につきましては、漏れておりましたので、こちらは至急調べまして、ご報告をいたしたいと思います。事業が2つ、町単と、また補助が入っておりますので、どちらか確認をいたしたいと思います。

○10番（福留達也君）

次のページの備品購入費ですけれども、産業用空撮機、要するにドローン、30万とかありますけれども、去年は地方創生事業であって、トラクターを購入されていますけれども、それはジャガイモを栽培するということで、予定してそういったのを使うということだったのですけれども、それもまたつくらなかったと、それも活用されていないと思うのですけれども、さらにこういったドロー

ンなんか、何をするんですか、こういったのは。

○経済課長（仲島正敏君）

ドローンは、町費の町単独になるのですけれども、こちらは農業支援センターのほうに配置をいたしますけれども、今後、ドローンを活用いたしまして、畑の情報だったりとか、いろんなことができないかなという思いで、今、予算を計上いたしております。

なお、ドローンに関しましては、補助事業でドローンを購入できないかということで事業申請をしておりますので、もしそちらのほうが採択になりましたら、この予算は減額をまたしたいと思っております。

○10番（福留達也君）

余りうるさくは言いたくないのですが、農業支援センターというのは、きちんとそういった方が来て、いろんなものを活用して、周知して、研修なんかに行きたくなるような雰囲気をつくりながらしなきゃいけないと思うのだけれど、普通の役場職員の余りわからない人が行って、そこにいろいろまた町がこれもよかれ、あれもよかれと思って、そういったことだけをしているのではないかなといううわさというのか、感じをしますけれども、まずはトラクターなんかを購入したら、それをきちんと充実させるぐらい使って、本当に必要な部分に関して、いろんな補助なりなんなり購入していくようにしていただきたいと思いますよ。よろしくお願いします。

終わります。

○12番（明石秀雄君）

説明資料の62の5、1の9、普通旅費の中でトップセールス、パレイショ販売促進ということで、備考欄を見てみると、県外2回、県内3回、郡内4回と書いてあります。トップセールスというのは、誰が何をするのか。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらは、以前も町長が産地に赴きまして、ジャガイモの市場等で、徳之島「春一番」パレイショの価格が上がるようにということで、要請活動をいたしておりましたけれども、現在、この業務というか、この行程がかなりハードというか、3日ほどで幾つもの市場を回ったりとかいうのもありますし、またなかなか3町の町長さんの都合等が調整もできない中、現在、農協、生産者、役場の課長がまず1回は市場を回って、大阪、京都、岐阜、名古屋、関東の各市場の徳之島パレイショの販売を促進するように、協議を毎年行っているのと、もう一つは、名古屋のほうで年に1回、徳之島「春一番」のパレイショのセールス展開をする店頭に立ちながら、担当が行ってやる旅費を、すいません、トップというのは文字が抜けずに残っておりました。申しわけなかったと思います。そういうような販売促進の旅費等でございます。

○12番（明石秀雄君）

トップではない、担当者が行かれるのですが、郡内など行ったら、これは何もならないと思うんですよ。売るところもないし、買うところもない。

○経済課長（仲島正敏君）

すいません、こちらは並んでいる順番が悪かったというところもあるのですが、郡内は園芸担当者のいろんな会の旅費と、旅費の中の書いた順番がまた紛らわしい書き方だと思いますので、申しわけなかったです。

○12番（明石秀雄君）

説明書にやはりそういうことを書かないと、誤解を受けたり指摘を受けるので、今後の見直しをしてください。

それから、予算書62ページ、経済課の他のところも全部聞きたいのだけど、とりあえずそこに入っているのを申し上げますが、19節の負担金補助の仕方、これを今後改めていかないと、何でもかんでも負担でいくと、出したら出しっ放し、これは効果とか、そういったものの実績とかの評価ができない。補助金であれば、実績報告もしますので、ある程度は評価ができるのですけれども、その仕方を真剣に考えてから、補助なり負担金を出すような予算にしていきたいと思います。

その中で、特に産地パワーアップ補助金と書いてあるのですが、4,200万ほど載っているのですが、これはパワーアップって何をどのようにするのですか。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

さっき申しあげました南西糖業の。

○12番（明石秀雄君）

南西糖業もお金をもうけるところなので、機械補助も全て地元に入ってくる企業に全部面倒を見ることがには少し抵抗がある。もっと今後考えてやってほしいと私は思います。設備の向上を云々するのではないのだけれども、南西糖業には国からも補助が別に入っているはずで。単価とか、いろいろなもので。そういったことをもうちょっと検討していただきたいと思います。

特に、負担金などのものについては、今後、十分気をつけて、歳出のほうで頑張っていただきたいと思います。

終わります。

○経済課長（仲島正敏君）

ただ、今回の産地パワーアップにつきましては、私の説明も不足だったと思うのですけれども、62ページにありますとおり、国が10分の6、南西糖業が10分の4ということで、今回は町の負担はなしということでございますので、そこはご承知おきをお願いしたいなと思います。今後、また議員のご指摘のとおり、いろんな補助金とか交付金の効果等も考えながらしてまいるように考えていきたいです。

○2番（牧本和英君）

今の産地パワーアップ事業で、自分が調べたのでは、南西糖業さんは機械を修理とか運営の関係に持っていけることで60%補助、そしてまた農家個人でもとれる目の範囲が広いんですよ、地域パワーアップ事業というのは。機械のリース事業もみんな含まれておるみたいで。そして、園芸

とか畜産、糖業問わずに、全てその事業でトラクターなりいろんな機械、収穫機なりが2分の1で入る事業だそうです。

それで、本当に、今、経済課がいっぱいいっぱいしているのはわかりますが、人員をちょっとふやして、こういった国の事業ですので、どうか町長のほうで人員をふやしてもらって、今後の対策に取り組んでもらいたいなと思いますが、どうでしょうか。

○経済課長（仲島正敏君）

産地パワーアップ、確かに牧本議員がおっしゃるとおりに、幅広くできる事業ではございますけれども、まずパワーアップ事業のイメージといたしまして、地域の農業再生協議会などということのほうがあたっているのですけれども、伊仙町の場合は伊仙町担い手協議会等が該当するのかなと思っるところなのですけれども、そちらのほうで農家さんが参加して、産地パワーアップ計画というのをまずつくりまして、こちらが鹿児島県から認定を受けた後に、いろんな事業が今後とれていくということでございます。

伊仙町といたしましては、今まで、平成28年度、29年度ぐらいまでは農業創出緊急支援事業のほうで、ポテトハーベスターだけじゃなく、トラクターとか、そういうのがとれたのですけれども、30年度にそういう事業がいろんな機械がとれなくなったという流れの中で、今後、この事業も検討していかなければいけないのかなと思っるところでございますけれども、前提といたしましては、補助事業、要望でとることはできるのですけれども、その後、毎年、使用実績や事業効果の確認のための実施状況報告書の提出が義務づけられておりますし、今年も会計検査等が入っておりますけれども、事業実施されている主体からの作業日誌の提出や収支の報告、根拠資料の提出等がきちとなされないと、今後、事務執行に非常に支障を来してまいるということをもた担当のほうも申しておりますので、補助事業を上げる際にはそこら辺ができるような農家、もちろん経済課のほうでも指導はしてまいりますけれども、二人三脚でそういう事業ができるような、意欲のある農家に対しましてまた補助をして、計画をできればなと思っております。

○2番（牧本和英君）

ぜひ、取り組んでいただきたいと思います。

そして、先ほど明石議員がありましたドローンの件なのですが、ドローンは今からもドローンの時代になるだろうと自分も思います。それで、講習会なんかをするのもいいことだし、一番、自分は農業委員会におったとき、耕作地の調べに行くときに大変難儀をした思いがあるので、農業委員会等とかと共同で購入して、耕作地の調査なり災害地の調査なり、そういったものに使えるような名目にしたらどうかと思いますが。

○経済課長（仲島正敏君）

先ほども説明いたしましたけれども、ドローンに関しましては、今、スマート農業というところで、急に国のほうから各自治体に対しまして、今後、ドローンを活用したICTとか、いろいろ横文字が流れているのですけれども、そういう流れの中で、農業もそういうICTという流れの中で、

実証試験ということで補助事業が出てきておりますので、そちらのほうの補助がとれた暁には、経済課サイドで購入いたしましたも、活用はまた農業委員会とか関係する耕地課、そういう農業関係のまずは団体というか課で、共同で運用するような感じで進めてまいりたいなと思います。

○2番（牧本和英君）

ありがとうございます。

○3番（西彦二君）

65ページのさっきの町農業青年クラブ助成金のことで、今回7万円ということで出ていますけど、今の聞いた話で、女性の生産農家が3名か4名、また伊仙町のほうでふえたと聞きますけど、こういった女性の研修だとしますと、その倍の15万円程度の研修費、また活動費は見込めないでしょうかと思うのですよ。

○経済課長（仲島正敏君）

議員おっしゃるとおり、ただいま伊仙町の農業青年クラブ、4Hクラブに昨年度から女性の4Hクラブ員が入って活動をされていて、活性化しているところでございます。こちらは当初予算でございますので、また活動に応じまして、次年度以降、要望等が来れば、そこら辺はまた検討してまいりたいなと思います。

○3番（西彦二君）

町長のほうからも、女性の加入、また伊仙町の農業の行方を担った方々へ一言をお願いいたします。

○町長（大久保明君）

都会から3名ほど、新しい農業新人が来ております。また、先ほど牧本さんに答えなかったのですけども、台風災害等で大変な打撃を受けました。人員増ということでもありますので、これは、今はそういう形で経済課を強化していくふうな状況はつくり上げていきますので、今でもかなり強化していますけれども、農業生産を安定させるためにも、そしてドローンとか、スマート農業というのは本当に今畜産のほうでもかなり進んでおりますし、去年、農家視察をしたときも、完全にIT化したような農業がどこまで徳之島で推進していけるか、また土地の利用もですけれども、ハウス園芸をどこまで推進していくか、例えば野菜は通年通して温室の中で、水耕栽培でやっていくとか、そういうふうな時代にいかに農家の方々、町行政もどのようにしてマッチしていくのかということ考えたときに、サトウキビをいかにして反収を上げていくかと同時に、スマート農業というのはしっかり研究してやっていかなければいけないと思いますし、それから農業支援センターの役割については、県のほうともいろんな県のOB等、また現職も含めて、何とか支援センターに雇用して、より充実した形で研修ができるようなことはやっていきたいとは、これはやっていきますので、その辺はまたいましばらく、なかなか来てくれる方がいないと、島出身者の県の農政部のOB2人ぐらいお願いしましたけれども、なかなか説得は今のところできないという状況でありますので、せっかくなつくた農業支援センターがどこにも負けないぐらいの密度のある、計画性のある農業支援

センターに、皆さん方の意見も聞きながら、強力にやっていきたいと考えております。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○8番（上木千恵造君）

1点だけ、確認いたします。72ページをお願いします。

72ページの水産振興費の節19離島再生支援補助金812万円について質疑をいたします。

漁業集落再生補助金については、平成29年度の予算でいろいろ問題点も指摘されており、このような観点から、今後、原因として考えられるのは会計システムのあり方じゃないかなと思います。現在、役場職員が会計を兼務しているわけですが、兼務している会計を漁業集落自体に移すことはできないのか、そうすれば明朗会計ができて、問題点もなくなると思いますけれども、今後、この会計自体を漁業集落自体に移す考えはないのか、お伺いをいたします。

○経済課長（仲島正敏君）

ただいまの質問にお答えをいたします。

こちらにつきましては、本来ならば漁業集落みずからがし、またそこはどこか事務のできる団体に委託をするというのが筋でございます。そこができていなかったということで、いろいろ問題が起きております。申しわけなく思っております。

今後、29年度の問題が解決しました暁には、それぞれの業務、役場が補助を出す団体に対しましての指導・助言という立場を堅持して、要綱・要領にのっとって、事務ができていくかどうかをちゃんと審査する、そういう立場を粛々と進めてまいりたいと思っております。

○8番（上木千恵造君）

このことについては、うわさかどうかわかりませんが、漁業協同組合のほうに会計を委託して、委託料を払っているという話もございます。これについては、うわさ話なのか、本当なのか、知っている範囲内でお答えいただければと思います。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらにつきましては、平成29年度におきましても事務委託はしておりましたけれども、漁業民の方たちの利便性等を考えまして、役場のほうで役場の担当が手伝いをしていたというような感じでございます。

○8番（上木千恵造君）

そうしたら、委託料として払っておった金額は、また集落のほうに返還されていますか。

○経済課長（仲島正敏君）

そちらにつきましては、返還はされておられません。

○8番（上木千恵造君）

これは新年度予算のあれですので、余り追及してもあれですけども、なるべくだったら指導して、返還する方向に持っていかなければいけないと私は思います。

今後、この事務については、ぜひ改善していただいて、今後このような問題が二度と発生しないように、努力していただきたいと思います。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんでしょうか。

○5番（清 平二君）

ページ61ページ、農業課題試験研究委託料150万とあります。明細書の60ページのほうに、コーヒー防風や「イサク」及び栽培体系確立試験研究委託とあります。この「イサク」というのは何ですか。

○経済課長（仲島正敏君）

すいません、こちらは最初で私がおわびをしておけばよかったと思います。手前どもの入力での変換ミスで、こちらは防風対策及び栽培体系確立試験ということで、入力ミスでございます。

○5番（清 平二君）

これは徳之島支場とありますけど、これはどこにあるのですか。

○経済課長（仲島正敏君）

先ほど補足で説明をさせていただいたと思うのですが、面縄にあります農業開発総合センター、昔、試験場と言われていたところが、現在、このような農業開発総合センター徳之島支場という、こちら「支」が、「市場」の「市」じゃなくて、「支える」の支場でございます。まことに申しわけないです。

○5番（清 平二君）

ここに委託するということですが、効果が見込まれるのかどうか、その辺はどこまで検討しているのかどうか。

○経済課長（仲島正敏君）

先ほどご説明いたしましたとおり、こちらは今AGFさんと一緒にコーヒーの栽培、徳之島コーヒー、国産コーヒーの栽培ということで取り組んでおるのですが、こちらにつきましてはAGFさんからもお金をいただいております、まずコーヒー栽培の栽培技術の栽培体系というのが確立できておりませんので、ここをこのような県の公的機関に栽培方法等をお願いいたしまして、その効果をもとにいろんな展開を進めるためのまず第一歩になるのかなということで、今まで農家の方の勘だけでやったところを、こういう形で試験場のほうにお願いをして、そこで実証試験をしていただくということで、そこであらわれた効果は研究を重ねていく上で出てくるものだと思っております。

○5番（清 平二君）

この前の徳之島の3町の議員大会の中で、伊仙町のほうから協力隊のほうの話がされていたと思うのですが、コーヒー栽培をして、これで農業の確立というのはちょっと難しいという話だったので、これは産業として農業の所得としてどう役場内で共有しているのかどうか、

お尋ねします。

○経済課長（仲島正敏君）

確かに、地域おこし協力隊の方がそのような発言をされているのかもしれませんが、それはそれでございますし、また今回、そういう考えもあるかと思えます。それで、それと別に、今回はまずは栽培体系ができるかという点、もう一点、この事業で平張りハウス、こちらを活用して防風対策ができれば、風に対する防御になるということで、そこができないかということもあわせて研究をしたいなと思っておりますので、それを見ながら今後のことを検討してまいりたいと思っております。経済課の中では、まずは栽培体験の確立並びに防風対策ということで、今、平張りハウスを含めたいろんな方法ということの試験をお願いするところでございます。

○5番（清 平二君）

いろいろ町の農業施策に対して模索しているというのはわかりますけども、今現在いる若者に模索するのではなくて、若い方々を育成するように努めていただきたいと思います。

ページ66ページ、鳥獣被害対策事業ですけども、これは経済課のほうではどのぐらいの被害状況を把握しているのか。施政方針の中でも、集落の駐在員ととり合っているとありますけども、どのぐらい被害の把握をしているのか。

○経済課長（仲島正敏君）

どれぐらいというか、金額等というのは今手持ちにはないのですけれども、特に山手の農家を中心にイノシシが来て畑を荒らしている、ジャガイモ畑等々であったり、また里のほうにもおりてきているというようなことで連絡をいただいております。そこで、山手に関しましては、徳之島の山裾を全部つなぐような感じのイノシシの防護柵を設置したところなのですけれども、それにかかわる事業を今後検討できないかということで、被害が増加しているというのは承知をいたしております。

○5番（清 平二君）

山手のほうで被害が広がると、山手のほうじゃなくて、私たち西部、崎原、上晴、小島、河地、糸木名、非常に夜走っていてもイノシシと出くわすことが多々あります。これを早くしないと、サトウキビもつくりたくない、ジャガイモ畑だったら皆ジャガイモを荒らし、それから畜産の牧草を植えてもやられる状態ですけども、こういうのが把握しているのかどうか。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

経済課長、山手は全部網で昨年まで塞いだけど、下にすみついているイノシシがいるわけです。それについてどうか。

○経済課長（仲島正敏君）

確かに、私の住んでいる阿権とかでも、たまに道路からイノシシが走っているのを見たり、また実際、どこどこ集落からということで連絡を受けておりますので、そちらについては承知をしているところでございます。

○5番（清 平二君）

これは、対象者が猟友会だけとありますけども、対象者は猟友会だけですか。ページ65ページ、補助金助成をするのは。

○経済課長（仲島正敏君）

15日の鳥獣被害対策事業費の19の50万ということでしょうか。

○5番（清 平二君）

報償費147万5,000円組んだでしょう。65ページ、事業説明書の中の。

○経済課長（仲島正敏君）

そちらにつきましては、猟友会、資格を持っている人に対しての補助になります。

○5番（清 平二君）

今、猟友会が何名ぐらいいらっしゃいますかね。もう高齢者になって、対象ができるのかどうかと思うのですけども、猟友会にどのぐらい把握しているのか。実際に動ける猟友会が何名ぐらいいらっしゃるのか。

○経済課長（仲島正敏君）

すいません、今現在、猟友会の人数については手持ちの資料がございませんので、こちらはまた後ほど調べまして、議員のほうにお答えをしたいと思います。

○5番（清 平二君）

本当に駆除をするというのであれば、そのようなところを一般の方々にできるかどうか、検討していただきたいと思います。

それと、予算書の66ページ、農業支援センター、先ほどから出ていますけども、この方は所長はするだけ、指導する、助言する、いろいろ能力はあると思いますけども、説明書の事業明細書の66ページの報償費に組んでありますけれども、外部の講師8,000円掛ける2回掛ける週4回ですか、12カ月、下のほうに、講師1、講習会の5万円掛ける4回とかありますけども、12カ月、上はする予定で、下は4回だけするというのがありますけども、この辺の関連は。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらは、週4回というのは、島内の各いろんな作物があると思うのですけれども、こういった物づくりの上手な方というのですか、そういう方を招聘してする分と、また島外から講師を全体的に先ほどしたように、そういう講師と両方を分けて予算立てしていると思います。

○5番（清 平二君）

所長はそのぐらいできないのですか。そういう人を雇っているのではないのですか。指導とか、こういうのはできない、ただ所長は名前だけですか。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらで上げている分野分野で、支援センターの所長の範疇外の分野につきましては、いろいろと島内のそういう講師をお招きしてできればなというふうに考えております。

○5番（清 平二君）

私にはちょっと理解できないのだけでも、施政方針の中にあるように、財政分野においては財政再建を喫緊の課題と捉え、常にコスト意識を持ちながら、職員一人一人が職務に遂行することで支出削減に努め、財源の確保に取り組んでまいりますとありますが、何かこれただ言葉で書いただけじゃないかなと思いますけど、こういうのをきちっと人材をして、そこでそういう農業支援センター、本当に他の市町村に来ても恥ずかしくないような方向で進めていただきたいと思いますが、町長はどうお考えでしょうか。

○町長（大久保明君）

当初、和泊町の農業支援センターなどを視察して、天城町で県のOBを招聘してやったりしているのを参考にして、伊仙町も立ち上げたわけであります。だから、これは今後ますます重要になってきますので、先ほど申したように、人員も多岐の農業に精通した方とか、いろんな例えばJAとの関係とか、行政とのいろんな政策提案とか、そういうものをしっかり理解した方を、今は経済課の中でもまたそういう人材育成なども進めていく中で、もちろん清議員の申した目的で私たちは立ち上げたわけでありますので、それを時間は、今はかかっていますけれども、着実に推進していけると私は思っているし、そのための今回は講師を呼ぶとか、そういうこともそれは絶対必要なことですし、予算の優先順位というものはなかなか各課、それは県でも国でも縦割りの行政があって、その中での予算をどういうふうにして優先順位をしていくかということでありますので、これは即効果が出るための予算もあるし、また長期的に人材育成から含めて、農業の基盤整備などもあるし、ハウス、これは例えば飛行機から見ますと、台風の常襲地域である沖縄県南部においてはほとんどハウスをつくっているわけですね。

また、沖永良部においてもそういう状況ですので、そういった農業に切りかえていくというふうなことは絶対に必要だと思いますので、まだ伊仙町の農家の多品目をいろいろ果樹も含めて、野菜も含めてやっていくような多品目農業というものに、今後またしっかりと挑戦していかなければいけないとも思っております。

今は、バレイショ、畜産、サトウキビ3つを基幹として、これが3つとも倒れたら大変な状況になるので、それを補完するというか、むしろ先ほどコーヒーの話もありましたけれども、これも単なるアピールだけじゃなくて、彼は本当に皇室にコーヒーを献上するという、我々もびっくりしましたけれども、それほど評価されている方が、農業として育てていくのは難しいという発言をしたかどうかわかりませんが、ただ1つは温暖化の流れの中で、国産コーヒーというのはこれから間違いなくもっと可能になるだろうと。

例えば、本土でもハウスでコーヒーをつくるとかということなども今は挑戦しているわけですから、そういう伊仙町の土は間違いなくいいわけですから、それも含めて、みんなで島の農業をどうしたら、どういう方向に持っていくかということを考えていくためにも、農業支援センターのこれからの充実には絶対に必要だと思っております。

○5番（清 平二君）

農業支援センターは本当に充実させてほしいと思うのですが、私は余りうわさ話とか、そういうのは聞きたくはないし、聞いても言いたくはないのだけでも、皆さん聞いていると思います。あそこの中で、植物を育て、野菜を育て、最初はジャガイモと言ったけどもジャガイモはしていない、またあれだけのトラクターを使って稼働を何時間ぐらいしているのか、トラクターも使った様子があるのかなと思うぐらいですけれども、もうちょっと指導するなら指導して、充実させてほしいと思います。

では、67ページ、ふるさとレストランプロジェクト事業とありますけれども、これはどこに委託して何をしているのか。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらは、東京のガイドで1つ星とか、そういう星がついたりといういろんなものがあるのですが、そういう東京の一流レストランのシェフ、料理人の方たちを徳之島にお越しいただいて、徳之島の食材を使った料理、また徳之島で生まれた畜産等を使ったりとか、そうした徳之島産というものを使った料理をふるさと納税の返礼品として、金額に応じてクーポン券が出されるようなのですが、それを持った方がレストランに行くという形の徳之島の食材を使ったレストラン、提供していただけるレストランをふやすための試みでございます。

○5番（清 平二君）

試みですか、これから実施、今しているのか。去年もたしか118万1,000円組んでありますよね。試みなのか、実施をしているのか。

○経済課長（仲島正敏君）

今、担当から資料をいただいておりますけれども、30年度のふるさと納税で、ふるさとレストランのチケット申し込み件数、3月7日現在なのですけれども、寄附金で、これが全額町に入ってくるのではないと思うのですけれども、1,600万ほど、この事業を使いましてレストランのほうに申し込みがあるということでございますので、事業効果があるのかなと思っております。

○5番（清 平二君）

1,600万、ふるさと納税でチケットを持っていったということですが、これは確立というか、間違いないということですね。

○経済課長（仲島正敏君）

毎年、変動はあるかと思うのですけれども、ふるさと納税される方の寄附金に応じましてあると思うのですけれども、一応来ていただいて、徳之島のものを実際に見てもらった上で、創作というか、料理をつくっていただくということなので、その年によって金額に変動はあるかと思っておりますけれども、今申し上げているのは30年度のふるさと納税のふるさとレストランチケットの申し込みの金額ということでございます。

○5番（清 平二君）

この資材は伊仙町から購入しているのですか。

○経済課長（仲島正敏君）

基本的には、伊仙町内、パパイヤであったり、ゴマ、ショウガとか、ピタヤ、ドラゴンフルーツですか、そういうのでございます。

○5番（清 平二君）

何かちょっと意味がわからないけど、一流レストランで使う肉を買うと言ったら、今度はパパイヤに変わってきて、いろいろやったのだけでも、本当に伊仙町の農産物を1,600万円程度効果があるのかどうか。

○経済課長（仲島正敏君）

私が申し上げているのは、ふるさと納税が1,600万あったということで、島の食材を購入したのが1,600万あったというふうに言っているわけではございません。

○5番（清 平二君）

ふるさと納税で使うから、こうやるということみたいですが、伊仙町の農業生産物を販売するんだったら、もうちょっと真剣に、そして私たちにわかりやすい説明をしてほしいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ここでしばらく休憩します。

休憩 午後 3時01分

再開 午後 3時15分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほど、清議員が経済課の質問の中で、地域協力隊云々ということでありましたが、その場合、名前が出ておった場合には削除いたします。

他に質疑はございませんか。

○13番（樺山 一君）

67ページ、ふるさとレストランプロジェクト事業について質疑をします。

これは、ふるさと納税を使った返礼品という形で、島の食材を使ったレストランで食事をするという形のクーポン券を差し上げる事業だと思いますけども、そのレストランが東京に何軒のレストランと契約しているのか、そしてどういう料理をつかって出しているのか、そしてまた、去年、30年度は何件の申し込みがあったのか、お伺いします。

○未来創生課長（久保 等君）

ただいまの質問にお答えします。

現在、東京のほうで3軒のレストランと契約をいたして、実施しているところであります。今、レストランで出す食事の内容としましては5つ種類があるのですが、5万円の納税に対しましてペアチケット、返礼額が2万円、それが156件、それから33万円の寄附に対しまして10万円のペアクーポン券が11件、20万円の寄附に対しまして6万円のペアクーポンが9件、15万円の寄附に対しまして4万のペアチケットで9件、10万円の寄附に対しまして3万のペアチケットで14件ということになっております。総額で、寄附額が1,598万円、それから返礼の額が554万円という件数になっております。

○13番（樺山 一君）

ふるさとレストランプロジェクトで利用されるレストラン名等がわかれば、町内の方に周知していただいて、東京に行くときは行ってみたいと思うかもしれませんので、ぜひ周知していただきたいと思っております。

それと、61ページ、農業総務費の13委託料、農業課題試験研究委託料、徳之島支場のほうにコーヒーの栽培のやり方、方法等、そういうのを委託して、向上に資するというのを経済課長がさっき答えていましたが、防風に関してはもちろん、できればコーヒー栽培について、鹿児島県の試験場がそんなに詳しいとは私は思わないのですが、そういう委託をして十分な成果が得られると思えますかね。

○経済課長（仲島正敏君）

委託をして、いろんな課題につきまして、栽培実験をしながら試験研究をするということでございます。

○13番（樺山 一君）

先ほども清議員からもありましたが、コーヒーに関しては農産物として収益が上げにくい、農産物というよりも、徳之島コーヒーをつくって徳之島で製造して、それを店等で出して、観光の事業としてはいいかもしれませんが、農産物として農家がつくって、そのコーヒーの豆を本土に販売して、利益を上げるのはなかなか難しいという話を私も聞いています。

そしてまた、AGFが支援してくれておりますが、ミニハウス等いろいろ支援しておりますが、なぜAGFは徳之島かと聞いたら、AGFとしても社員の研修の一環として、徳之島でコーヒーの栽培、社員研修という一環で、果たしてAGFが徳之島でコーヒーを栽培させて、それを全部引き受けて、それで事業としてできるかどうか、考えているかどうかもわかりませんし、もう一度、本当にコーヒーが農産物としてできるかどうか、綿密に打ち合わせして、そのような形にして新規作物を進めていかなければ、植えて採算がとれなかった、そういうことがないような形で、ぜひ課内、役場内で検討して進めていただきたいと思っております。その件についてどう考えているか、町長にお伺いします。

○町長（大久保明君）

AGFと丸紅さんが、コーヒーベルトというのを前に一遍示してもらいまして、その北限がちょ

うどこの緯度になります。何はともあれ、彼らが一番徳之島のコーヒーが、小笠原、沖縄、沖永良部の中で、最もコーヒーソムリエの方が見ても物すごく上質であるというふうな評価を受けました、吉玉さんのコーヒーがですね。

そういうことで、国産コーヒーというネームバリューというか、ブランドというのは大変な価値があると彼らは考えておりますので、それを大量生産というのは難しいかもしれませんが、現実に国産コーヒーという形で、永良部の方と、それから吉玉さんが世田谷区で1杯1,000円という形で、あそこにコーヒーを送っていますけれども、そういうことなどを考えたときに、付加価値が圧倒的に高いということで、商業ベースに乗るだろうということですが、それを鹿児島県が最近、徳之島と、それから和泊のコーヒーも含めて、本土、種子島あたりでもやっていこうということで、これは県が鹿児島県産コーヒーというブランドをつくりたいというふうな状況にもなってきておりますので、その一環として、農業支場、昔の試験場、そこが県のそういう意向を酌み取って研究していこうということではないかと思っておりますので、もちろん観光産業として、島で国産コーヒーが飲めるということもありますけれども、それだけではなくて、本土に出して、付加価値をつけてブランド化していこうというのがAGFの戦略であるし、もちろん来週もまた何人か来てコーヒーを植えますけれども、今回の台風でサトウキビほどは歩どまりがよくないけれども、かなりのコーヒーが予想以上に残ったということで、この前も吉玉さんの農場で、3人で先週ですか、収穫をして、それをコーヒーの今回の豆を手作業じゃなくて、ブラジルのような機械を導入してやることをAGFの方がまた来てやるそうですので、職員の研修という意味も確かにあると思いますけども、それだけではなくて、あれだけの企業が町に来るとするのは、それだけの意思もあるし、それから全国的な宣伝もしていただいておりますので、それに私たちは無理だろうと思うこともできるけれども、しかしひょっとするとこれは大きな可能性があるのではないかと、それに挑戦していくということは重要であると思っておりますので、そういう意味で、30年間、細々つくってきたコーヒーが、今、島に合った品種として、この地に新しいブランドをつくっていける可能性が出てきたということですので、町としては、以前、沖縄からコーヒーを大量に持ってきて、農家の方々に町で配布して、台風で一網打尽とは言いませんけれども、そのような被害を受けたこともありますけれども、そういう失敗を繰り返している中で、どんどん新たにまた大企業がやってきたということは、私たちは一緒になって信頼感をつくり上げていくことは可能であると思っております。

○13番（樺山 一君）

ぜひ、失敗は許されたいわけですので、私どもも見守っていきたく思いますので、ぜひ努力していただきたいと思っております。

以上で終わります。

○4番（佐田 元君）

明細書の67ページ、お願いいたします。

備品購入費、苗づくり棚で、これ15万円の6基つくるといような予算でございますが、これは

この金額でよろしいですかね。

○経済課長（仲島正敏君）

こちら確認をとってみます。4基なのか、60万なのか、確認をとってみます。

○4番（佐田 元君）

4基なのか6基なのかということなのですが、これはたしか私の計算では、15万円で6基つくるのであれば、90万予算計上しなければいけないのではないかなという思いです。それで、この金額は恐らく間違いだろうと思います。

私が聞きたいのは、苗づくり棚、これは4基か6基かわかりませんが、もしわかれば、どのような苗をつくるのか、わかる範囲で結構ですので、お願いします。

○経済課長（仲島正敏君）

こちらは、ハウスと別に育苗を自分なんかで準備ができれば、手作業でして、育苗用のそういうハウスをつくって、そこに育苗棚を設置したいというふうに聞いております。

○4番（佐田 元君）

これは、支援センターだけで使うのか、また町内の各町民の皆さんにも苗を分配して販売するか、そういうことは考えているのですか、伺います。

○経済課長（仲島正敏君）

先ほど来、農業支援センターのあり方云々ということでご指摘を受けておまして、今、課長補佐を中心に、今後、農業支援センターの事業、特に知られていないとか、いろいろ問題がございますので、今後、次年度に向けて、今、議員ご指摘の点などもしながら、そういう方向も考えていければなと思っております。

○4番（佐田 元君）

できたら、天城のほうにあります農業支援センター、こちらのほうは一般の方も参加して苗づくりをし、そして野菜をつくったり、いろいろやっているようですので、我が町でもぜひそういうふうな方向で行ってほしいと思います。

あと、この金額、これだけはぜひしっかりまた報告をお願いいたします。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

執行部にお願いしたいと思えます。先ほど来、字句の訂正やら、今、佐田議員がおっしゃいました数字の過ち、こういったのが多々見受けられますが、今までやった分は終わった分として、これから何回かありますが、自分の課においては課長が責任を持って精査して間違いのないように、間違いがあれば事前に報告して、聞かれる前に報告していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

他に質問ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、建設課より補足説明をお願いします。

○建設課長（松田博樹君）

平成31年度、建設課における一般会計予算について説明いたします。予算書76ページをお開きください。明細書は75ページです。

7款土木費 1項土木管理費 1目土木総務費、31年度予算4,612万1,000円、30年度予算が5,418万4,000円、比較806万3,000円の減額となっております。人件費が主な減額の要因となっております。

次に、77ページをお開きください。明細書77ページ。予算書77ページです。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

明細書は75。

○建設課長（松田博樹君）

77ページと75ページです。すいません。

7款土木費 2項道路橋梁費 1目過疎対策事業費、31年度予算924万2,000円、30年度が7,689万8,000円、比較6,765万6,000円減額になっておりますが、昨年度は6目防災・安全・社会資本整備事業で道路補修・舗装を実施していましたが、交付金の対象外となりできなくなったために、ミノハナ線他4路線を過疎対策事業で実施しましたが、31年度は防災・安全整備事業の交付金の対象となり復活したため、減額となっております。

次に、道路維持費、31年度予算1,631万3,000円、30年度予算1,064万1,000円、比較567万2,000円となっており、主な増額の原因は、道路台帳の作成業務委託料が入っているためであります。

次に、4目県道路維持管理費、今年度予算638万円、前年度予算627万6,000円、10万4,000円の増額となっております。

次に、5目社会資本整備交付金事業、予算額5,799万2,000円、30年度予算1億8,078万2,000円、比較1億2,279万円の減額となっております。主な原因としまして、測量設計業務委託がなくなったというか、今年度はないためです。昨年度、7,000万円の測量設計業務委託がありましたので。

次に、6目防災・安全・社会資本整備交付金事業、今年度予算2億3,784万4,000円、前年度予算1億6,541万8,000円、比較7,242万6,000円の増額となっております。これは、先ほども申したとおり、過疎対策事業で行った道路補修・舗装工事が交付金の対象となったため、増額となっております。

次に、7款土木費 3項港湾費 1目港湾管理費、31年度予算45万6,000円、30年度予算も45万6,000円です。

次に、79ページをお開きください。

4項住宅費 1目住宅管理費、本年度予算2,916万1,000円、30年度予算が1,987万6,000円、928万5,000円の増額となっております。主な増額の理由としまして、被災住宅解体賃金の364万8,000円、

被災住宅解体重機借上料が392万円となっております。

次に、公営住宅建設事業費、31年度予算で1,302万円、30年度予算が1億9,309万2,000円、比較1億8,007万2,000円の減額となっております。これにつきましては、31年度は住宅の建築を見送ったためであります。

次に、3目定住促進住宅運営費、予算額2,179万1,000円となっております。

予算書105ページをお開きください。

10款災害復旧費2項公共土木施設災害復旧費1目公共土木施設災害査定費、31年度予算20万3,000円、30年度予算20万3,000円となっております。港湾災害査定費も、前年度と一緒にとなっております。

以上で、建設課の補足説明を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明につきまして質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、耕地課より補足説明をお願いします。

○耕地課長（上木正人君）

それでは、耕地課管轄の一般会計予算書の歳出予算の説明をいたします。予算書の67ページから68ページをお開きください。明細書は67ページでございます。

款5農林水産業費、項2農地費、目1農地総務費、本年度予算1億3,726万8,000円、前年度比2億5,116万8,000円減額でございます。主なものといたしましては、国営かんがい排水事業徳之島用水第1期地区の地元負担金の繰り上げ償還によるものでございます。

それでは、節ごとに説明をしてみたいと思います。

11の需用費の中の光熱水費、修繕費につきましては、昨年度同様、計上させていただきました。

予算書はそのまま下段のほうに移っていただきたいと思います。明細書は68ページです。

13委託料、一筆測量図合成図面作成業務委託料120万円でございますが、畑総完了後の地区ごとの図面作成業務でございます。

次の農道台帳作成委託料170万円につきましては、畑総完了後の農道の路線名変更や農道延長の修正に伴う台帳作成業務でございます。

次の水利施設等保全高度化事業委託料500万につきましては、今年度、新規事業で鹿児島県農業試験場裏手の目手久地区5.4haにございます土水路を改修する測量委託料でございます。国60%、町40%でございます。

次の農村環境計画策定事業委託料572万円につきましては、本町農業農村整備事業10カ年計画に基づきまして、平成36年度事業採択に向けたもので、農業農村整備環境対策指針に基づき、地域の適切な環境への配慮や地域住民の多様なニーズに配慮するために、環境に対する総合的調査委託料で

す。こちらのほうは、国庫50%の補助がございます。

次の保全対策工事調査計画作成委託料750万につきましては、伊仙町畑総東部地区の水利施設等の老朽化に伴うファームポンド、水環境の機能診断・保全計画業務策定委託でございまして、平成33年度事業の採択に向けて、計画策定の委託料でございます。

続きまして、県営事業代表者選任調査業務委託料700万につきましては、県営畑総で整備されました伊仙中部地区、こちらの右側のほうなのですが、平成16年度に事業が完了しておりますが、十数年たった現在でも計画変更に伴う同意取得が低くて、法手続の完了がまだなされていない状況でございます。昨年の9月に同意取得の通知が県のほうから参りまして、中部地区1工区から9工区の3条資格者の調査業務委託料でございます。

続きまして、14使用料及び賃借料の車借上料でございますが、公用車の老朽化に伴います車借上げ、リース料でございます。

その下の工事請負820万円は、先ほど水利施設等高度化事業に付随するもので、農業試験場の裏にございます土水路をコンクリート水路に改修する工事請負費でございます。

予算書69ページをお開きください。明細書はそのまま68ページでございます。

19負担金補助及び交付金ですが、主立ったものについて説明をいたします。

多面的機能支払い交付金町負担金3,334万8,000円は、広域1組織に対する負担金で、国50%、県25%、町25%の負担金を合わせたものでございます。昨年度より242万円の増です。今後も、面積拡大に努めてまいりたいと思います。

次に、徳之島用水土地改良区負担金318万7,000円です。昨年度より73万1,000円の増ですが、面積拡大と、臨時職員を1名雇うというふうなことで、その分に関しての負担増でございます。

次の徳之島ダム基幹水利運営負担金462万3,000円でございますが、昨年度より362万円の減でございます。理由につきましては、点検業務、国より毎年点検、5年点検、10年点検の案をいただきましたが、3町、また徳之島用水土地改良区、県と協議をし、今年度は毎年点検の分を不要と判断したため、減額とさせていただきます。

続きまして、予算書はそのままですね。

目2特定地域振興生産基盤整備事業、本年度予算1億2,500万2,000円、前年度比2,050万円増でございます。主なものといたしましては、節19負担金補助及び交付金の各地区の事業料の増でございます。負担金の事業料1億1,849万円でございますが、内容といたしましては、第2面縄2期地区につきましては7haの区画整理の予定をいたしております。喜念地区につきましては、圃場内畑かん8haを予定しております。糸木名地区におきましては枝線5km、畑かん3haを予定いたしております。第2面縄1期地区につきましては、地区内整備確定測量を予定しております。

予算書70ページに移ります。明細書は69ページで、そのままです。

基幹水利施設ストックマネジメント事業、伊仙中部ダムの安全施設、フェンス交換を予定をいたしております。木之香地区、阿権地区につきましては、畑かんの15haを予定しております。崎原地

区につきましては、畑かん、同じく18haを予定いたしております。西部地区につきましては、枝線3kmを予定しております。東部地区、測量設計業務を予定いたしております。こちらも、東部地区スプリンクラー、水利施設が老朽化をいたしておりますので、設計面積は今後調整というふうなことで進めてまいりたいと思います。

予算書70ページをお願いします。

目、ダム管理費、これは昨年度同様、予算を計上させていただいております。

目5の多面的機能支払い交付金事業、こちらも昨年度同様、予算計上させていただいております。

同じく予算書70ページ、明細書は70ページ、地籍調査事業費、節13、1,867万8,000円ですが、31年度は古里、上面縄、中山の3カ所、約47ha、30年度の残りの目手久の工程を行う予定でございます。

以上、耕地課管轄の歳出予算の説明を終わります。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、選挙管理委員会について補足説明をお願いいたします。

○総務課長（池田俊博君）

それでは、選挙委員会関係の予算の説明をいたしたいと思います。予算書41ページ、事業費の明細書は38から39ページとなっております。すいません、予算書は40ページのほうをお願いいたします。

2款総務費4項選挙費1目選挙管理委員会費、本年度予算額9,946万円、前年度比2万5,000円の増額であります。994万6,000円、2万5,000円の前年度よりの増額でございます。この経費は、選挙管理委員会の事務の運営経費でございます。

目、選挙啓発費、本年度予算額22万円、前年度比2万7,000円の減額となっております。この事業は、明るい選挙推進協議会関連の事務経費でございます。

6目参議院議員選挙費665万7,000円、本年度の新規計上の経費でございます。本年度7月ごろに予定されております参議院議員の通常選挙の経費となっております。

予算書41ページ、事業費の明細書は39ページでございます。

7目県議会議員選挙費、本年度予算額326万8,000円、これも新規の計上でございます。今現在、3月の29日から一応告示で選挙は始まっているのですが、補正予算で計上したために、全額増額となっております。この経費は、県議会議員選挙が4月7日の日曜日に投開票が執行される経費であります。

ご審議賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、農業委員会より補足説明をお願いいたします。

○農委事務局長（元田健視君）

それでは、伊仙町一般会計予算、農業委員会関係の補足説明をいたします。予算書59ページから60ページをごらんください。あと明細書の59ページになります。

5款農林水産業1項農業費1目農業委員会費、本年度事業2,284万円に対しまして27万3,000円の昨年より減額となっております。主な部分は、職員の給料等となっております。

続きまして、2目農業者年金事業、本年度予算62万6,000円に対しまして22万7,000円の増額となります。この増額につきましては、主なものとして、職員の研修のための旅費の増となっております。

続きまして、3目機構集積支援事業、今年度298万1,000円に対しまして12万7,000円の増となっております。この分に対しましても、旅費及び借上賃の増となっております。

続きまして、67ページをごらんください。明細書も67ページになります。

5款農林水産業費1項農業費21目農地利用最適化交付金事業、本年度予算405万4,000円、前年より261万4,000円の増となっております。この分に関しまして、農業委員、あと推進委員等の報酬となっておりますが、昨年度は報酬に対しまして基本報酬のみを計上して、あとの分は成果報酬を補正予算で対応しておりましたが、今年度から当初予算に計上したための増額となっております。

以上で、農業委員会の補足説明を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。

○10番（福留達也君）

明細書の59ページをお願いします。

真ん中の農業者年金に関してなんですけれども、これは農業者年金に加入させるために、こういった活動をなさっておりますか。

○農委事務局長（元田健視君）

農業者年金に加入推進につきまして、新規農業者のほうにパンフレットの配布、それと認定農業者の会合の後にパンフレットの配布及び推進、あと年1回、農業委員会だより等でその分の推進を行っております。

○10番（福留達也君）

農業をなさっている方が結構多い町であります。国民年金の方が結構多いと思いますが、聞いてみると、農業者年金をまた受給するときになると、やはりありがたいという話を結構聞くんですけども、これは実際幾ら掛けて、いつから幾らぐらいもらえるという制度ですか。

○農委事務局長（元田健視君）

農業年金掛金は、国民年金と一緒に、二十を過ぎてから60までという形になります。年金の受給は65からという形になります。年金加入に関しましてなんですが、いろいろ国民年金との兼ね合いもありまして、国民年金を全額支払いしている人じゃないと加入ができないという制約等がありますので、伊仙町のほうでも新たに加入する人がなかなかいないというのが状況です。

以上です。

○10番（福留達也君）

十数年前、農業委員会が活発にこれを推進していたときには、なかなか加入率もよかったという話を聞くのですが、これは農業委員さんの活動によって大分違ってくると思うのですが、なかなか先のことがわからずに払わない、そういったのを掛けない方がいると思うのですが、実際に受け取ってみるとありがたいという話を結構聞きますので、こういった活動をもうちょっと一生懸命やって、加入率を上げる努力をやっていただきたいと思います。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

続きまして、きゅらまち観光課より補足説明をお願いいたします。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

きゅらまち観光課の予算のほうをご説明いたします。主に、大まかな動きのあるものを説明したいと思います。予算書の52ページから53ページにかけてでございます。明細書のほうは49ページのほうであります。

4款衛生費1項保健衛生費1目衛生総務費、4,967万8,000円を計上してございます。主に、給料、旅費、それから食肉センター運営でございます。前年度と比較いたしまして、給料以外は同額でございます。

53ページ、2目環境衛生費、3,782万7,000円を計上してございます。これは、ハブ買い上げ代、ハブ咬傷費、合併浄化槽設置費、3町ネコ対策協議会の負担金でございます。前年度と比較いたしまして、2,989万円増となっております。この要因といたしましては、3町ネコ対策協議会の負担金でございまして、ご存じのとおり、2月に世界自然遺産の推薦書を提出して、これに向けての猫の

捕獲作業員を増員することで、負担金の支払いでございます。

次に、予算書の57ページをお願いします。明細書のほうは、これも57ページです。

4款1項、款項は一緒でございます、10目海岸漂着物地域対策推進事業2,507万6,000円を計上してございます。これは、喜念から小原までの海岸に漂着している、海外からと思われまます漂着物の回収作業を行ってまいります。今回は作業員をふやして行いますので、前年度と比較いたしまして589万増になっております。

次に、予算書のほうの58ページであります。

4款衛生費2項清掃費1目清掃総務費、1億3,746万1,000円計上してございます。ごみの収集運搬委託料、徳之島愛ランド広域連合への負担金でございます。前年度と比較いたしまして、ほぼ同額でございます。

予算書の59ページをお願いします。予算書の59ページで、明細書が58ページでございます。

4款衛生費2項清掃費2目美しい村づくり総合整備事業、159万4,000円計上してございます。主に、不法投棄の回収作業でございます。前年度と比較して、ほぼ同額でございます。

続きまして、予算書の73ページのほうをお願いいたします。明細書は71ページから72ページです。

6款商工費1項商工費1目商工振興費、531万5,000円計上してございます。主な補助といたしましては、商工会への補助金等が主でございます。前年度と比較いたしまして43万1,000円増額になっておりますが、商工会は、商店街の衰退、また個人消費の低迷により、厳しい状況であります。このような状況の中、経済効果を高めるには、行政及び商工団体が一体となって実施することが必要とのことで、商工会議のほうから予算要望がございましたので、今回増額した次第でございます。

6款商工費1項商工費の2目観光費、1,655万1,000円計上してございます。これは、観光連盟、また夏まつり等に主な支出でございます。前年度と比較して、54万7,000円減額になっております。これは、トリアスロンへの負担金の減額によるものでございます。

次に、74ページから75ページのほうで、明細書のほうが74ページであります。

6款商工費の1項商工費の4目徳之島地域文化情報発信、670万5,000円を計上してございます。これは、なくさみ館の運営等の支出でございます。前年度と比較いたしまして75万9,000円増額になっておりますが、資料館内にあるプロジェクターの備品購入等でございます。今の既存の資料館にプロジェクターの交換する時期があり、もし故障した場合には入れかえに時間が要するため、今回、新しい機種に交換するものでございます。

次に、予算書の75ページのほうをお願いいたします。

5目世界自然遺産推進事業費、世界自然遺産に向けて、今さっきも言いましたように、IUCNに2月1日に推薦書を提出いたし、最終決定は2020年の夏に可否が決定になりますが、これに向けての取り組み等の費用でございます。前年度と比較いたしまして、167万1,000円増額となっております。増額になった原因といたしましては、外来種駆除並びに自然保護協会への負担金が主であります。

同じ75ページの目、景観形成・環境保全活動支援事業であります。これは前年度と比較して同額でございます。

以上でございます。審議よろしく願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。

○5番（清 平二君）

ページ58ページ、明細書の58ページ、ごみ委託料ですけれども、これは燃やせるごみとか燃やせないごみ、資源ごみ、粗大ごみ、違反ごみとありますけれども、これは、業者は何業者ぐらいでやっているのか、お尋ねします。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

現在、6業者で運営しております。

○5番（清 平二君）

各項目、燃やせるごみは何業者、燃やせないごみ、資源ごみというのは何業者。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

今、資料が手持ちにございませんので、後からまたご報告いたします。

○5番（清 平二君）

それがないと、質問が進まないけど。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

しばらく休憩します。

休憩 午後 4時19分

再開 午後 4時26分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

ただいまの質問にお答えいたします。

燃やせるごみが3業者、燃やせないごみ、資源ごみが3業者であります。そして、6業者のうちの違反ごみが3業者であり、6業者のうちの1件が粗大ごみでございます。

○5番（清 平二君）

30年10月11日、施設整備基本構想計画検討委員会の中での資料によりますと、資源ごみが減少していますが、この辺のところは把握しているのでしょうか。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

30年度でございますかね。

○5番（清 平二君）

毎年、減少している傾向があるが、それを把握しているのかどうか。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

今のところ、把握していないですね。

○5番（清 平二君）

把握していないですか。資源ごみは各学校でも集めたりしているので、愛ランドの資料で見ると、これは見て把握していないのですか。学校でも缶集めをしたりして、資源ごみが減少していますよね。本当に把握していないのかどうか、それか知っていないのかどうか。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩します。

休憩 午後 4時28分

再開 午後 4時29分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

資源ごみでございますね。

○5番（清 平二君）

資源ごみです。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

少し把握はしているのですが、内容的にも把握しているのですが、なかなか難しい問題があります。

○5番（清 平二君）

これを見てやったほうがいいのかな。資源ごみ、平成15年に伊仙町は21万4,890kg、そして平成20年12万6,230kg、平成25年12万8,330kg、平成27年10万2,930kg、平成29年6万7,007kg、平成15年から比べると半分、7割減になっているのではないですか。15年から比べると、この資料によりますと7割減になっていますよね。

この原因というのは、各学校で集めたら、資源ごみは金になるということで、学校で集め、婦人会でも集めていますよね。そういうことで、資源ごみはそういう団体が金になっているからということになっていますけれども、これに対して予算の支出はどうなっていますか。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

今の質問については3回目でございますので、あと1回ぐらいで変えていただきたいと思います。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

今の資源ごみが減少しているということですが、各地域団体がお金になるということで婦

人会などが集めておりますが、他にもあるだろうとは思っておりますけど、そこまではまだ把握してございませんが、支出については年間、広域と協議をしながら、繰り入れをしているところであります。

○5番（清 平二君）

ごみ処理については、非常に現在問題が多岐にわたっています。それで、検討委員会でもどうしようかということで非常に議論をしていますけども、場所についても議論をしているところでもありますので、そういうところをきちっと各町でも把握をしていただきたいと思います。

また、私は広域議員として、今後またいろいろ議論をしていきたいと思っておりますので、その辺のところもまた副町長も町長も副連合長も、一応いろいろ資料等を見て、3町全体で考えていただきたいなと思っておりますので、ごみの問題、大変だろうと思っておりますけども、やっていただきたいと思っております。

それから、猫の問題がありましたけども、去年より800万ぐらい、400万が倍にふえていますよね。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ページ数を指定して。

○5番（清 平二君）

予算書の54ページ、30年度は488万3,000円、今年は887万2,000円です。これが今後も倍々でふえていくのかどうか、この辺の対策は非常に難しいと思っておりますけど、どういう対策をするのか。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

この件に対しましては、28年度ですか、地域再生加速化交付金を活用いたしまして100%ございまして、去年は、それは補助金がちょっとつかないという状況であったものですから、それで今回、奄振のほうにまた計上してあります。それで、奄振に計上した分もまだ確定はしていないのんですけども、これを見込んで今回計上した次第であります。

○5番（清 平二君）

非常に自然遺産登録と猫の問題、難しい問題が出てきていますけども、これも県、国と相談をして、今後、町政の財源にも非常に響いてくると思っておりますので、猫問題をしっかり取り扱っていただきたいなと思っております。

以上をもって、私の質問を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○4番（佐田 元君）

今の質問に関しまして、質問いたしたいと思っております。

今、答弁によりますと、6業者、契約されているということですが、この契約はどのようなふうな方法で契約されたのか、教えてください。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

従来、ずっと随意契約でしております。というのも、私たちも、この前、監査のほうから指摘が

ございまして、ちょっと調べたのですが、廃棄物は市町村が固有事務であるということで、一般廃棄物処理の方向性を考えると、業務の確実な成功を重視する観点から、各大島郡の市町村にお願いして聞き取ったところ、随意契約しているところが多いようです。

○4番（佐田 元君）

随意契約でやっているということのようですが、これは見積もり等とか、そういうのを換算して、6業者に随意契約されているのか。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

今のところ、見積書などは提示してございません。

○4番（佐田 元君）

見積書もなく、ただ随意契約で、6業者を決めている。その根拠は、またいつかの機会でまた一般質問などでもただしていきたいと思います。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

他に質疑はございませんか。

○10番（福留達也君）

世界自然遺産について聞きたいと思います。

先ほど課長が、今年2月1日に推薦書を提出したと、今後、今年の8月から10月に、ユネスコの諮問機関というのですか、ICUNというのが視察に来て、来年の2月ぐらいにいろんな指摘事項を出されて、順調に行けば来年の夏、7月ぐらいに登録になっていく、そういったスケジュールだと思うのですけれども、この前、去年ですか、世界自然遺産にならなかった大きな理由としている挙げられていましたけれども、遺産の範囲が大き過ぎたり小さ過ぎたりと、あと外来種対策をきちんとするようとか、あと観光行政、観光客対策、そういったのがあったと思うんですけれども、遺産範囲の大小とか、そういったものは解決されて、あと外来種対策に関しても今年度予算できちんと対応しているのかなと思っています。

観光客対策、これに関してはいろんなコースの設定をしたりとか、ガイドの養成をしたりとか、普及啓発活動をしたりとか、そういったことだと思うのですけれども、この予算書を見てみると、町長の施政方針にもあったのですけれども、「エコツアーガイドの育成やトレイルコースへの観光客向けのガイド育成、既存の観光施設の現状や課題の整理が必要です。世界自然遺産登録を目指す地域として、課題解決に取り組み、魅力ある観光地づくりを進めてまいります」と、こういったふうに書かれていますけれども、エコツアーガイドの養成はどこに載っておりますか。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

ただいまの質問にお答えいたします。

エコツアーガイドの育成等につきましては、広域等のほうで進めておりますので、今回のほうには載せてございません。

○10番（福留達也君）

以前の一般質問でも聞いたことがあって、エコツアーガイドの養成は広域事務組合というのですか、そこがするのと、またそれぞれ徳之島独自に、広域事務組合がするエコツアーガイドの養成というのは基本的な事項が多くて、ここで養成しようが、北海道でしようが、同じようなことしか基本的なこととして教えないと、そういったことらしいですよ。

事徳之島に関して、それとは別にある団体が育成しているのですけれども、そういったところに力を入れていくという発言があったのですけれども、それは考えていないのですか。

○きゅらまち観光課長（佐藤光利君）

この件に対しましては、各団体、協議会と、まずは協議してみたいと思います。

○10番（福留達也君）

現在、エコツアーガイドというのは徳之島に15人程度いるらしいのですけれども、登録になった暁にはまた30人ぐらいは必要じゃないかという話があります。

また、徳之島のそういった広域事務組合で育成するガイドじゃなくて、徳之島の動植物、あるいは地理、伝統文化、そういったのを丁寧に説明できる、そういったガイドというのはNPO法人団体等がやっていると思うのですけれども、そこいらともうちょっと連携をとらないと、何か両方の言い分を聞くと、どうもうまくいっていないのかなと思ったりしますけれども、世界自然遺産登録は本当今回を逃したらほぼないのだろうと言われていたのですけれども、それに対する対応をきちんと対応していかなきゃいけないいろんな課題が多いと思うのですけれども、以前質問した、きゅらまち観光課の仕事はかなり幅があって、人員的にもきついという話があって、町長も人員増を検討しておくという話がありましたけれども、きゅらまち観光課全体はどうですか、世界自然遺産担当者は何名いますか。

○町長（大久保明君）

エコツアーガイドは広域事務組合がやっていますけれども、実際に説明とか、各島ほとんどが島内の方がエコツアーガイドになっているし、通訳士もほとんど島の方でありますので、広域事務組合が自治体から予算を集めて、向こうで効率的にやろうということが広域事務組合の役割でありますので、自然遺産を自治体ごとにやると、またそこで予算の差が出たり、意識の差が出たり、いろいろしますので、広域事務組合はそういう役割をやっているわけでありますので、この前、確認したら、徳之島は比較的エコツアーガイド、通訳士の養成は、目標の半分近くになっていますので、順調ではないかと認識しておりますけども。

きゅらまち観光課は本当に今企画の一部を統合したりして、環境課が非常に多忙でありますけれども、人員の配置は数だけでなく、いろいろ経験とか、個人の意欲、能力などを加味して、庁舎全体がバランスのとれたような形にしていくということで、今回、再編の対象にはなっていないのですけれども、そこも含めて、今まで以上に充実した各課にしていくように努力をしてみたいです。

○10番（福留達也君）

広域事務組合が中心になって、徳之島は一つということで、まとめていっているという認識だと思うのですが、この前、徳之島町議会でのやりとりを聞いたら、ガイドブック等をつくっていますかとか、そういったことが全体のあれをつくっていますかとかあった場合に、徳之島町だけのやつでいいとか、そういった答弁があったらしいのですね。

島内の人だったらそれでもいいかもしれないのですが、島外から来る人は、徳之島には町が3つあるとか、そういうふうに分かれているとか全く関係なくて、徳之島全体を1つとして見ると思うのですよ。団体がつくったこういったガイドブックですけど、これは徳之島全体のことを載せてあるのですが、こういったのを徳之島町がどう考えているかという、徳之島町だけのやつでいいと、それぐらいの感覚でやっているんですね。

以前、3町長と語る会というのが天城町であって、そのときにある方が提案されていて、こういった世界自然遺産推進に向けては3町が1つになって、どこか1つのところでまとまっているんなことを進めていったらどうかという提案があって、それはいい話だというふうに進んでいたのですが、その話はどうなりましたか。

○町長（大久保明君）

3つの自治体があって、共通の課題、目的に関しては、これは自然遺産に関しては観光連盟が1つになりましたので、そういった方向でパンフレットなどは3町公平に行っています。

ただ、今度の自治体も全部そうですけれども、各自治体のパンフレットというのはまた独自につくっているというのが普通でありますので、それは今できる範囲での協力体制というのはやっていると思うし、徳之島町が徳之島町独自のパンフレットをつくっていくということは、それは自由でありますから問題ないし、ただ島全体のやつはちゃんと自然遺産のパンフレットはしっかり徳之島版というのはできていますので、そこを優先していかなければなりませんけれども、3つあると、もしかすると2自治体のほうがやりやすいのではないかなという気もしますけれども、それは観光問題だけでなく、農業政策にしても、例えば各自治体の特産品も違うし、しかし百菜においては3町の特産品全てを販売していくということになっておりますので、お互いに島が一緒になってやるべきことはしっかりやると。

しかし、自治体として、いろいろ当然競争もありますので、それはしっかりとやっていくというのは、非常にある意味では少し矛盾したことにもなっていますけれども、それはそれで知恵を出してやっていくしかないと思います。

ただ、この前、広域事務組合の会議の中で、南6町が、永良部、与論、徳之島が広域とは全く関係なく、沖縄で物産展をしたということとか、それから呼び込んでやるとか、今週末には尼崎でやるかという徳之島フェアという形で完全にまとまっておりますので、自然遺産もそれは共通認識を持ってやっていると思いますし、奄美という言葉が奄美大島に本当に都合のいいように使われていることはみんな理解していますけれども、それはそれで、南3島が組んで、観光も沖縄からの誘

致という話なども今議論が出てきて、奄美大島対南3島という形がだんだんつくられつつありますが、それはそれで悪いことではないし、切磋琢磨していくということでもありますので、LCCの誘致にしてもそういう形でいろいろやってきていることですから、ガイドの養成は、私は比較的順調にやっているし、特に徳之島は、皆さんご存じのように、虹の会はあそこの中でも特筆すべく影響力を持っているということでは、徳之島が自信を持っていいのではないかとは思っております。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

福留議員にお知らせします。時間も押し迫ってまいりましたので、3回目ですので、今度でよろしく願いいたします。

○10番（福留達也君）

終わります。今、町長のおっしゃった虹の会の方とこの前話しての今質問というのか、やっているのですけれども、一方が正しいという話でもないと思うのですけれども、こういう話を聞くと、お互いきちんと言いたいけど言っていないなという、そういったので何かうまくかみ合っていない部分もあって、ちょこっとこういった話が、全体としてはかなりうまくいっているのだろうけども、いろいろあと聞きたいこともあったのですが、細かな話でぎくしゃくしているところがかなりあるのかなとか思って聞いております。

今回の世界自然遺産に関しては、大勢の方が本当に期待して、どうにか登録になってほしいと要望しておりますので、お互い協力して、全力でそれに向かってなし遂げていっていただきたいと思っております。

終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

お諮りします。伊仙町議会会議規則第25条第2項の規定により、本日の会議はこれで延会したいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

異議なしと認めます。したがって、本日はこれで延会することに決定いたしました。

なお、次の会議は3月14日木曜日、午前10時に再開いたします。お疲れさまでした。

延 会 午後 4時53分

平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

第 6 日

平成31年 3 月14日

平成31年度伊仙町一般会計他 6 特別会計当初予算審査特別委員会

平成31年 3月14日（木曜日） 午前10時00分 開議

1. 議事日程（第6号）

- 日程第1 議案第14号 平成31年度伊仙町一般会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第2 議案第15号 平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第3 議案第16号 平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第4 議案第17号 平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第5 議案第18号 平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第6 議案第19号 平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第7 議案第20号 平成31年度伊仙町上水道事業会計予算（補足説明～質疑～討論～起立採決）

1. 出席議員（12名）

1番	杉山肇君	2番	牧本和英君
3番	西彦二君	4番	佐田元君
5番	清平二君	7番	牧徳久君
8番	上木千恵造君	9番	永田誠君
10番	福留達也君	11番	前徹志君
12番	明石秀雄君	13番	樺山一君

1. 欠席議員（1名）

6番 岡林剛也君

1. オブザーバー（1名）

14番 美島盛秀君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 穂 浩一君 事務局書記 元原克也君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	稲隆仁君
総務課長	池田俊博君	未来創生課長	久保等君
税務課長	名古健二君	町民生活課長	福司銀二郎君
保健福祉課長	澤佐和子君	経済課長	仲島正敏君
建設課長	松田博樹君	耕地課長	上木正人君
きゅらまち観光課長	佐藤光利君	水道課長	福島隆也君
農委事務局長	元田健視君	教育長	直章一郎君
教委総務課長	水本斉君	社会教育課長	稲田良和君
学校給セ所長	伊藤勝徳君	ほーらい館長	重村浩次君
選挙管理委員会書記長	喜昭也君	総務課長補佐	佐寶永英樹君

～平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計当初予算審査特別委員会～

△開 会（開議） 午前10時02分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまから、平成31年度伊仙町一般会計外6特別会計当初予算審査特別委員会を開会します。
昨日に引き続きまして、平成31年度伊仙町一般会計予算（歳出）について、きゅらまち観光課の
質疑を行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

なしと認めます。

続きまして、教育委員会総務課より補足説明をお願いします。

○教委総務課長（水本 斉君）

それでは、教育委員会総務課の31年度予算について説明いたします。主に、新規事業、また予算
額が増大にふえている事業についてご説明いたします。

予算書は83ページ、お開きください。明細書は80ページでございます。

では、9款教育費1項教育総務費2目事務局費7節賃金、31年度事務職員賃金は、1名増で計上
してあります。

続きまして、13節委託料、ごみ収集委託料。昨年も計上してございますが、本年度も百十六……
百十一万六千……百十……（「6万7,000」と呼ぶ者あり）百十……116万7,000円を計上してござい
ます。すいません。これは、小中学校より幼稚園のごみ回収する委託費でございます。その下に、
学校施設計画策定支援業務委託費を300万円計上してございます。

これは、学校施設の長寿命化計画の策定業務です。2年間の業務委託でございます。

続きまして、予算書の85ページ、明細書は82ページでございます。

5目学力向上プログラム、14節使用料及び賃借料です。パソコンリース料627万1,000円、これは
昨年に引き続き電子黒板、職員公務用パソコンのリース料でございます。

続きまして、15節工事請負費、小中学校の校内ネットワークの工事費になります。

続きまして、予算書の91ページ、明細書は87ページです。

3項中学校費6目学校建築費、この目は、予算書は全て、伊仙中学校10号棟の大規模改修費にか
かる予算です。補助率は3分の1でございます。

続きまして、予算書104ページ、明細書は100ページです。

9款教育費7項高等学校費1目高等学校総務費19節負担金補助及び交付金、この予算は離島高校
生就学支援費でございます。この予算は、伊仙町から徳之島町にあります県立徳之島高等学校へ進
学する生徒の通学費によせる交通費に対しまして補助する事業であります。財源といたしましては、
国庫支出金が2分の1でございます。

教育委員会総務からは以上です。御審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。

○8番（上木千恵造君）

予算書の91ページ、款9教育費項3中学校費目6の学校建築費節15工事請負費についてお伺いいたします。

先般、現場調査の際に、校長先生やら教育委員会から説明を受けて、事業の緊急性は理解しました。そういうことで、緊急を要する事業ですので、早々と着工していただきたいと思いますが、これ年度内に完工できるのか、できないのか、お尋ねいたします。

○教委総務課長（水本 斉君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

現在、耐震または学校施設として耐震補強して教室として使えるのかどうかを設計委託を依頼しているところです。その結果をもちまして、今後また協議して31年度に着工できるかどうかということも計画していきたいと思っております。

○8番（上木千恵造君）

この詳細については、たしか30年度予算に100万調査費が計上されていたと思います。その100万の調査費で現在調査して、その結果によって、今後、方針を決めるということですかね。

○教委総務課長（水本 斉君）

そのとおりでございます。30年度予算で調査委託を予算計上しておりまして、それを今回依頼して、調査を今進めているところでございます。

○8番（上木千恵造君）

何でもこういう質問をするかといいますと、これ平成29年度予算で1回計上してあって、それを30年度に明繰りした金額がそのまま流れた経緯があるものですから、この予算を計上、当時3,400万ぐらいの予算の計上がありましたけれども、それそのまま流したという経緯がありますので、これぜひ努力して今年度内に終わらせないと2度と過去の過ちを犯さないようにぜひ年度内に完工していただきたいと思いますが、再度、ご決意のほうでお伺いして質問を終わります。

○教委総務課長（水本 斉君）

今、現在、調査を進めて今月内にも報告が出てくると思っております。報告が出てまいりますので、それをもとに今後の改修予算、また建てかえ予算のほうを考慮して、今後計画をして、町執行部とかご相談しながら進めていきたいと思っております。

○8番（上木千恵造君）

お願いします。終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに。

○5番（清 平二君）

84ページ、目5学力向上プログラム、去年よりも355万5,000円減額になっていますけれども、これはどうしてでしょうか。

○教委総務課長（水本 斉君）

これは、ITで学校後援支援等の予算を計上してございまして、今年度は多少減額に、導入校が去年よりも減少したために予算額が減少しております。

○5番（清 平二君）

ページ27ページ、施政方針の中に、新学習要綱の実施に伴い、新たに新設された外国語教育の実施に伴うデジタル教科書など各種必要機種の整備、平成31年度から開始されるプログラミング教育に備え、学校の環境を整えていきますということで。これ減額になっても実施は可能ということですね。

○教委総務課長（水本 斉君）

そうですね。繰り越し事業にもIT環境整備計上してあります。それとともども今後、31年度の新規予算でも電子黒板、公務内容、パソコンの整備等行ってまいりますので、実施は可能だと考えております。

○5番（清 平二君）

予算とはちょっとかけ離れますけれども、ちなみに、各小中学校の学力指数というのですか、こういうのがわかれば教えていただきたいと思います。

○教育長（直章一郎君）

お答えします。

各学校の学力向上については、7月、ごめんなさい、1月の鹿児島定着状況調査ですか、その結果を見ると、小学校では、理科以外全ての県の平均で上回ったそういう結果が出ています。中学校の場合は、28、29、30年度と、それこそ3カ年間の推移を見てみると、県の平均値には達していませんけれども、ただ縮まったという結果が出ていますので、それが例えば、ITとですか、電子黒板ですか、それを各学校に入れたのが去年の9月ですから、その電子黒板の結果が学力向上にあらわれているというか、それはまだわかっていません。常日頃の校長会とかいろんな研究会では、1月にはそういった鹿児島県の定着度調査があるということがわかっていますので、ぜひ各学校で計画して子供たちの学力向上が向上するようということを校長会等で行っていますので、その辺も結果としてあらわれて、特に小学校の学力が、定着度調査が向上したということは確実に言えるのではないかと思います。

○5番（清 平二君）

昨年度から電子黒板とかパソコンとか入れていますけれども、これは十分活用されているのかどうか。

○教育長（直章一郎君）

特に、電子黒板については、教科では社会とか理科が中心になりますけれども、各学校、現在、配置しているところはほとんど学校が活用していると、そういうことを聞いています。

○5番（清 平二君）

現在、不足しているということはないですか。各学校で。

○教育長（直章一郎君）

去年は全部で22台入れていますんで、全体的からすると不足しています。その不足分を31年度入れるように計画しています。

○5番（清 平二君）

こういうやはり教育現場で備品が不足するとか、電子黒板がないために伊仙町の児童生徒が学力向上非常に難しくなってきたりとかいわれないようにしっかりと教育面においては投資をして、子供たちのためにしっかりと頑張っていただきたいと思います。ぜひ鹿児島県下の学力を上回るように期待して、私の質問を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

○10番（福留達也君）

明細書の81ページお願いします。

真ん中あたりの節13委託料。委託料、その中の学校施設等計画策定支援業務委託料。2年間で300万という説明ありましたけれど、これはどういったことを委託するのか。それと、町内にある全て全小中学校のいろんな施設のそういったことを改善していくような委託なのですか。どういった内容ですか。

○教委総務課長（水本 斉君）

ただいまのご質問にお答えいたします。

この委託費ですが、現在、実際に町の小中学校、あと教員宿舎、あと給食センター、これが今後、まあ老朽化しておりますので、今後改修して、学校施設として運営できるかどうか調査するものです。主に、RC構造につきましては、中の鉄筋が腐っているかどうかというそういう調査を全体的に行うものでございます。

○10番（福留達也君）

そういったものは町の建設課あたりとかそういった町の職員で、何というのかな、対応できないレベルのものなのですか。

○教委総務課長（水本 斉君）

この調査項目は文科省のほうに参考資料とありまして、莫大な量でございます。建設課にも技術職員がおりますけど、今の町の住宅等で業務が大変忙しいということで、鹿児島市とか専門業者、そういう経験を持った業者が何業者かいらっしゃいますので、そちらのほうスムーズに進むので

はないかと思いますが、今後そういう町の職員のできるのであれば、またこの後協議して進めてまいりたいと思います。

○10番（福留達也君）

この委託費に関しては、いろんなほかにも結構あるのですけれども、すぐに委託、コンサルトに投げているのかなというイメージがあります。総合政策とかいろんなものがあるのですけれども、その下地調査から策定から一部はかかわるのでしょうけれど、ほぼそういった丸投げで全国的にそういった傾向があって、いろんなその戦略、総合戦略や何なりの金太郎アメ的なものが多いという話を聞いて、そういった中で独自に本当苦勞しながらつくり上げていくと、その地域に合った、その町に合った効率的、何というかな、きちんとしたそうした計画ができて実施して効果も上がっていると。ただただそのコンサルトに投げると、形はいいのだろうけど、何も伴わずにただ終わってしまう、そういったのが多いという話を聞いておりますので、全課にいえることだと思うのですけれども、きちんとできることは職員を使って苦勞しながら、それでまた職員も成長していくと思いますので、そういったことも検討していただきたいと思います。終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

○2番（牧本和英君）

予算書の91ページ、款9教育費項4幼稚園費ですが、現在、幼稚園児は何名おるのか。そしてまた、今後の運営等をちょっとお聞かせください。

○教委総務課長（水本 斉君）

31年度の幼稚園申し込み人数については、全体で60名申し込みがございます。今後、多少の保育園移動とかあると思いますから、2月時点ではそういうことです。

○2番（牧本和英君）

30年度はわかりませんか。30年、各伊仙、面縄、犬田布の幼稚園の人数など。

○教委総務課長（水本 斉君）

しばらくちょっとお時間ください。担当に……。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

しばらく休憩します。

休憩 午前10時21分

再開 午前10時24分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩前に引き続きまして会議を開きます。

○教委総務課長（水本 斉君）

失礼しました。先ほどの牧本議員の質問にお答えいたします。

今現在で、伊仙幼稚園が34名、面縄幼稚園が25名、犬田布幼稚園が5名でございます。

○2番（牧本和英君）

犬田布幼稚園では預かりというか、午後からのあれはなかなかできない状態ですけど、ほかのところは午後の預かりもされているのですかね。

○教委総務課長（水本 斉君）

3幼稚園につきましては、午後の預かりも希望者には対して行っております。

○2番（牧本和英君）

ありがとうございます。保育所とか認可が、保育所などに5歳児の預かりは何名ほどおられるのですかね。

○町民生活課長（福司銀二郎君）

ただいまの質問にお答えいたします。

今現在、幼稚園に4歳、5歳から通えるということに、今手持ちの数字は4歳児と5歳児を合わせた数字ですが、僻地が8人、それから幸徳保育園が23人、わかば保育園が35人、伊仙保育園が20人になっております。

○2番（牧本和英君）

まあ本当もう、なぜそういう、こういう質問したかと言うと、やはり幼稚園側が、父兄側から子供を連れて行って、そしたらもう弁当持たさんといかんとか、それでもう弁当持たせなかったらもう12時前に戻ってくる、本当にもうそうするよりか認可保育所などに預けたほうが良いという意見があったりして質問したのですが、今後、幼稚園等に給食等を取り入れたり、学習支援プロジェクト事業などで学力向上などの考えなどはないのか、また、幼稚園の存続にもつながると思いますので、町長の意見をお伺いしたいと思います。

○教育長（直章一郎君）

質問にお答えします。

もういろいろ考え方がありますがけれども、今の質問については、ちょっといろいろ今後検討してみたいと思います。

○2番（牧本和英君）

町長さんはどう思われますかね。

○町長（大久保明君）

詳しくは、今総務課長からあったのですが、教育基本法の中でこれを改正すると、そういうことがなければ難しいのかもしれませんが、町独自で幼稚園生に給食をできるようにするためにはそれだけのまた設備なども必要になってくるし、町の給食センターでそういうことが可能かどうかなども調査等またそういう例があるかなどを検討していくことが重要だと思います。

○2番（牧本和英君）

給食センター側は、もしこういう案があった場合は取り入れることができるのですかね。それを

聞いて私の質問を終わらせていただきたいと思います。

○学校給食センター所長（伊藤勝徳君）

今までの事例としましては、小学校からの分で、今のセンターとしましては、コンテナ含めて施設の内にその分の余裕がないものですから、恐らく今のところはできないと思います。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

○12番（明石秀雄君）

予算書93ページ、負担金、亀津カトリック幼稚園運営負担金、それと天城のカトリック幼稚園にも負担金が出ておりますが、これは何名ぐらいもう超えているのかお伺いします。

○教委総務課長（水本 斉君）

明石議員の質問にお答えいたします。

31年度の予算計上の予定では、天城カトリック幼稚園には1名、亀津カトリック幼稚園には4名でございます。

○12番（明石秀雄君）

ちなみに、そうすると、町内の保育園行くと、児童1人当たりどれぐらいの経費がかかるのかお伺いします。総額でいいです。人数で割ってごらん。

○教委総務課長（水本 斉君）

ただいまのご質問にお答えします。

幼稚園費の費用は定額でございます。カトリック幼稚園に対しましては、4歳、5歳児年齢で6万から7万円と月となっております。幼稚園生に対しては。

○12番（明石秀雄君）

これは、負担金を出す義務がありますか。

○教委総務課長（水本 斉君）

これ幼稚園費に対しましては、そういう保護者負担の割合で出すようになっております。

○12番（明石秀雄君）

町内の保育園とカトリック幼稚園との教育の差というのは、ちゃんとはっきりと出ていますか。それともその旨わからないのか、どちらですか。

○教委総務課長（水本 斉君）

幼稚園児に対しましては町内、町外かかわらず教育に関しましては大差ないと思っております。

○12番（明石秀雄君）

これで終わりますからね。町内の幼稚園も5人とか少人数になってきました。しかし、そのかわり保育所、何というの、幼稚園までできるような制度があるでしょう。そこに、さっきのものとも結びつくのですが、移管するような方法はできないのかお伺いします。私立保育園では園になって

できるでしょう。幼稚園までも面倒が見られるものが。（「こども園というのがあるよね」と呼ぶ者あり）認定こども園とか、保育園とかいう……。

○総務課長（池田俊博君）

ただいまの明石議員のほうの質問にお答えしたいと思います。

今、徳之島老人ホームにおいては認定こども園として、あと保育所、そして幼稚園機能も兼ね備えた施設でございます。また、わかば保育所においては、5歳保育まで一応できるということ、あとは私立の保育所ですけど。その認可保育所が認定保育園に切りかえていければ、またそういうような形ができるとは思いますが、今の段階においても5歳児保育まではできると、そして、あと認定こども園においても5歳児保育で、そこで、厚生労働省の基準の保育所と、あと文部科学省のほうの幼稚園というその2つがあるのですが、どちらがいいのかというのをまたこれから考えていかなければいけないと思っています。

○12番（明石秀雄君）

ぜひそういった総合的に幼稚園のことも考えていただいて、できればそういうところに特色ある幼稚園教育などができるような状態をつくっていただければいいかなと思いますので、検討していただきたいと思います。終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

○13番（樺山 一君）

明細書の81ページ、教育費の事務局費13委託料について質疑します。

ごみ収集委託料とありますが、このごみ収集は、ごみにも可燃ごみ、資源ごみいろいろありますが、どのごみを収集するわけですか。それとも全体的なごみを収集するのかをお尋ねします。

○教委総務課長（水本 齊君）

ただいまの樺山議員のご質問にお答えいたします。

各小中学校、幼稚園が出しているごみを全て回収いたします。不燃ごみ、可燃ごみ、資源ごみも学校側から出てきたものを回収いたしております。

○13番（樺山 一君）

これは、今きゅらまち観光課で収集している、そこに出して収集はできないわけですか。去年あたりからこれ組まれているみたいなのですが、この予算が組まれる前は、またどのようにしていましたか。

○教育長（直章一郎君）

今までは各学校から、特に粗大ごみで早く学校にあるものをもってほしいとそういうずっと要望がありました。それで、教育委員会だけではとてもじゃないけれどもできなかったから、こうして委託料ですか、それを組んだとそういうことを理解しています。

○13番（樺山 一君）

じゃあ、この委託料が組まれる前は、学校のほうではとっていなかったわけですか。

○教委総務課長（水本 斉君）

粗大ごみは定期的に学校側から要望がございましたので、定期的にこちらのほうで業者を委託して粗大ごみについては回収しておりました。あと、可燃ごみ等につきましては、学校が収集所まで持っていったんですけど、やはりその場所が遠いとやはり先生の公務中にそこに持っていくという業務がちょっと学校の業務に差し支えがあるということでこういうような予算を組んでおります。

○13番（樺山 一君）

それは、とういのはね、みんな町民も一緒です。収集場に持っていけたら。そして、この116万7,000円、これはどういう基準で見積もりしたわけですか。

○教委総務課長（水本 斉君）

業者さんのほうから見積もりをもらいまして、運搬に対します車代、人夫代などを含めて計上してございます。

○13番（樺山 一君）

随意契約にしておるのか、相見積もりをとっているのか。そしてまた、116万7,000円だけ、このごみだけ収集している方はとっているのか。質問回数が限られていますので、まず、相見積もり等とってしているのか、1社だけの随意契約なのか。また、これを収集している業者さんは、これだけをなりわいとしているのか、質問します。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

3回超えていますので、要約して質問したら、3回目は要約して……（発言する者あり）（笑声）

○教委総務課長（水本 斉君）

31年度に対しましては見積もりを徴収して委託業者を決めたいと思っております。現在、この業者さんはこれ以外の事業も行っていると思っております。詳細につきましては、その業者さんのことなのでこちらで把握しておりません。

○13番（樺山 一君）

委託料の質問回数がオーバーしていますので、委託料についてはこれで終わりたいと思います。

明細書の100ページ、項7高等学校費19節負担金及び補助金交付。樟南高等学校の300万円、そして、徳之島高等学校の通学補助の453万円組んでおりますが、去年までは樟南高等学校の校舎改築の補助金を出していなかったと思うのですが、なぜ今年から出すのか。また、通学補助として徳之島高等学校に、これは1年生だけになのか。また、バス通学している3年生までの生徒さんに補助するのか、お尋ねいたします。

○教委総務課長（水本 斉君）

ご質問にお答えいたします。

教育委員会といたしましては、離島高校生就学支援費についてご説明いたします。

この支援費は1年生から3年生までバス通学をしている生徒が対象でございます。全ての生徒が対象です。

○総務課長（池田俊博君）

樟南第一高等学校のあの学校建築に関する補助金ということですが、ここ5年間ほど町内のほうからは補助金の交付の申請をずっとしていたのですが、昨年度とか30年の6月、7月あたりで時任学園の理事長、校長のほうからも今回はどうしてもお願いしたいということで、また補助金の交付の申請をいただきました。

その中で、今までなぜ伊仙町が樟南第二のほうに補助金の交付をしなかったかということですが、かねがね町長のほうから樟南第二高等学校と旧高等学園の運営に関する件について、地域協議会でもやられて伊仙町のほうの意見等も受け入れられないかというような協議の場を設けるような形ができないかというような形でずっと言っていたのですが、今回、理事長いらっしやいまして、そこら辺のところを何とか考えるようにするという形ができ上がりましたので、今回、実際の補助金の交付の申請額は800万円ほどなのですが、徳之島町に合わせて300万円の補助をするように決定した次第でございます。

○13番（樺山 一君）

今答えていただきましたけど、300万円ずつ、まず31年度単体で終わるのか、これからも何年か続くのか、それからまた、徳之島高等学校のバス通学の支援は、各中学校入学する生徒さんが補助を受けられるということを知っているのか、お尋ねします。

○教委総務課長（水本 斉君）

お答えいたします。

31年度の予算がもう確定しましたら、各中学校にご案内いたしたいと思っております。既に、徳之島高校のほうとは打ち合わせ済みで説明はいたしております。

○総務課長（池田俊博君）

樟南第二高等学園の補助金ですが、これは学校建設関係の施設の整備という形で、樟南第二は借入金をしている関係上、その借入金の返済が終わるまではある程度の300万あたりの補助金のほうは計上していきたいと思っております。

○13番（樺山 一君）

やはりある程度、町の予算もありますしね、めどをつけていつまでするのか、それぐらいはやはりね、樟南第二とも打ち合わせをして決めていただきたいと思います。要望しておきます。

そして、来年からこの通学助成は、31年度、そして来年度も継続的にしていくつもりなのか。また、していくのであれば、各中学校に、徳之島高校に通学する場合はバス代が補助されますよと、そういうことをすれば徳之島高校に進学する生徒も多くなります。島外、今、大島高校に進学する生徒も多いようですので、寮代とバス通学代が一緒だと、飯を食べて寮に入って伊仙から亀津まで

の通学費と同じぐらいということで、大島高校に進学させる親御さんもいらっしゃると思いますので、ぜひそれ来年度からもするのでしたら、全中学校に知らせて生徒さんの進路決定のする要因にしていだければと思います。そして、定期代の何%ですかね、これは、この補助率は。

○教委総務課長（水本 齊君）

定期代の半分でございます。

○13番（樺山 一君）

来年からもしますか。

○教委総務課長（水本 齊君）

すいません。これはもうこのままずっと継続していく考えでございます。

○13番（樺山 一君）

ぜひ補助を継続していただいて、島外の高校に進学するより、やはり島内の学校という形で樟南高校と徳之島高校が存続できるような形を行政のほうが支援していただきたいと思います。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

○11番（前 徹志君）

ちょっと先ほどの明石議員の質問と重なりますけど、カトリック幼稚園、天城のカトリック幼稚園の運営費の負担金ですけど、ページ数93ページ、明細書は88ページ、開けましたか。これは、1人当たり天城が1名、亀津のカトリック幼稚園が4名ということですけど、1人当たり70万ちょっととなっていますけど、これは両幼稚園生が通っているわけですけど、これは通っていれば毎年こういう予算がつけられるのですか。

○教委総務課長（水本 齊君）

前議員の質問にお答えいたします。

幼稚園費の委託につきましては、年齢で6万、7万と多少誤差がございますが、月に7万程度、伊仙町に在住している幼稚園生がその町外の幼稚園に通っている以上はその金額が発生いたします。

○11番（前 徹志君）

親御さんはこういう予算がついているのをわかっているのか、お伺いします。

○教委総務課長（水本 齊君）

それはもちろん、その幼稚園のほうから案内があって承知しているものだと思っております。

○11番（前 徹志君）

伊仙町内にも幼稚園がありますけど、ここの幼稚園にという、やはり宗教上の問題かなと。カトリックちゅうのがついているから、そういう考えでよろしいですかね。

○総務課長（池田俊博君）

今幼稚園のほうに、天城、徳之島町のほうに通っていますが、これは職場関係のほうが徳之島町、天城町にあるということで、通勤、通学の便が一番考慮されていると思います。

また、この幼稚園への補助ですけど、実際として、この方々が伊仙町にいた場合においては伊仙町のほうで全部面倒を見るということなのですけど、私学助成金というような形で幼稚園のほうにも、私立幼稚園のほうには一応国のほうからも出ています。国が2分の1、県が4分の1。そして、実際として、伊仙町のほうにおいても、この伊仙町の幼稚園の生徒に関しては普通交付税の中でこの部分のほうは措置をされているので、実際として、彼らが伊仙町にいても天城町の幼稚園を受けたとしても、実際の伊仙町の一般財源に関しては変わらないものだと思います。これは、保育所においても隣町に行ったときには、隣の町のほうの分を伊仙町が負担する、そして、隣町の方が伊仙町のほうに入所をすると、すると、隣の町のほうはその部分において負担をするという形で、それに関してはウイン・ウインの関係で、実際としては、何も一般財源のほうに関しては移動はないものと思っています。

○11番（前 徹志君）

余り意味がわからないですけどね。（笑声）パッと見れば、徳之島町、天城町に町の負担金をやっているような見ばえがしますが、大体意味はわかりました。ありがとうございます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。（「手だけお願いします」と呼ぶ者あり）

○9番（永田 誠君）

町外からは伊仙町のほうにそういった子供達は、いるのでしょうか。お伺いします。

○教委総務課長（水本 斉君）

幼稚園は町立幼稚園ですので、私立幼稚園が伊仙町にはございませんので、町外から伊仙町立の幼稚園に通っている子供はいらっしゃいません。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

続きまして、社会教育課より補足説明をお願いいたします。

○社会教育課長（稲田良和君）

それでは、社会教育課関係の歳出予算の説明をいたします。

予算書80ページ、明細書79ページです。

7項土木費5項公園費1目特定地区公園整備事業費15節工事請負費3,400万円は義名山グラウン

ドの管理棟の改修費でございます。

続きまして、予算書95ページ、明細書90ページです。

9款教育費5項社会教育費3目学習支援プロジェクト費13節委託料400万円は、ネットを活用した遠隔双方向ライブ授業の委託料でございます。

同じく、予算書95ページ、明細書91ページです。

4目社会体育費8節報償費61万円は、町民体育祭駅伝準備費及び各種大会等の審判謝金でございます。

予算書96ページ、明細書92ページ、19節負担金補助及び交付金712万1,000円は、各関係団体への負担金でございます。

予算書98ページ、明細書93ページ、8目図書室運営費12節役務費のソフト導入手数料192万3,000円は、徳之島3町の情報を搭載し島内の町民の方が3町共有ホームページ等を通して検索ができ、3町の図書館どこでも貸し出し返却ができるシステム導入手数料でございます。

予算書100ページから101ページ、明細書96ページから97ページです。

15目第2面縄2期地区本調査事業費17目第2面縄2期地区試掘確認事業費については、30年度に引き続き上面縄地区の土地改良に伴う遺跡の発掘調査事業でございます。

以上、社会教育課関係の説明を終わります。御審議賜りますようお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。

○5番（清 平二君）

今説明はなかったのだけれども、101ページ、予算書の101ページ、施政方針演説の中に伊仙寺子屋事業云々とありましたけれども、これに対して廃目になった理由。

○社会教育課長（稲田良和君）

31年度より学習支援プロジェクト事業費の中に組み込んでおります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質問、質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

続きまして、給食センターより補足説明をお願いいたします。

○学校給食センター所長（伊藤勝徳君）

それでは、平成31年度給食センターの補足説明をいたします。

予算書は102ページから104ページです。明細書につきましては、98ページから99ページに移ります。

9款教育費6項保健体育費2目給食センター運営費、本年度予算は6,648万9,000円、前年比と比べまして662万3,000円の増額となっております。

主な要因といたしましては、11節需用費の食糧費、18節備品購入費の400万円によるものであればほとんどであります。あとの項目は例年どおりの計上となっております。9節の旅費が5万6,000円の減額ですが、内容といたしましては、大島地区の持ち回りで平成31年第43回大島地区学校給食センター連絡協議会が本町で開催されますので、普通旅費はそちらのほうから支出いたします。ちなみに、平成19年度第31回大会が本町で開催されております。

続きまして、11節の需用費の食糧費の43万7,000円が新たに計上いたしました。内容といたしましては、防災給食事業費です。目的といたしましては、昨年10月に発生しました台風24号による停電等なのですが、この昨今の自然災害に鑑み、被災時に各インフラ、電気とか水道が断たれた状態にありまして、食事のとり方及び給食の影響について考え、給食センターが被災した場合に提供できる食品として備蓄しておきたいと思っております。小学校分が580食、中学校分が210食、合計790食分です。これは2年、2回分ということで提供は救急カレーといたします。これは保存が3年半可能ということになります。

あと18節の備品購入費の150万ですが、これは去年、おとしも計上いたしました各小中学校の牛乳保冷庫の分であります。今年は5カ所の学校に分でありまして、本年度は、面縄中学校、犬田布小学校、犬田布中学校、馬根小学校、あと糸木名小学校の分に当たります。これで、一応3年間で各学校の保冷庫は全部新しいのに入れかわりますということです。

あと18節の備品購入費の250万円ですか。これが一応発電機の予算になります。これが毎年計上しておりました14節の使用料及び賃借料の重機借上料が10万ほど計上しておりましたが、これを廃止いたしましたして発電機の予算を計上いたしました。これが今年度あたりから、去年からなのですが、台風がもう地球温暖化に伴う台風といたしまして、通常の台風より大きくなったスーパー台風というのに変化しておりますので、これに伴いまして、去年は電気が一週間ほど給食センターできなくて給食ができない状態になりましたものですから、電気がとまりますと、中の食料、冷蔵庫の食料が全部だめになるということで、こういうことも加味いたしまして、発電機の導入を計上いたしました。

以上で、給食センターの補足説明を終わりたいと思っておりますので、御審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明について質疑を行います。質疑はございませんか。

○3番（西 彦二君）

島内でできた農産物も一応利用をしている状況ですかね。給食の内容について。（「食料ですか」と呼ぶ者あり）

○学校給食センター所長（伊藤勝徳君）

一応センターのほうでは食料品に関しましては、受け入れ可能になっております。

○3番（西彦二君）

町外から何%の食料品が納入されているのですか。

○学校給食センター所長（伊藤勝徳君）

今手元に資料がございませんけど、大まかに町外といいますから、鹿児島県のほうの給食会のほうからその食料が7割近くですかね、準備しております。

○3番（西彦二君）

町内のほうの食料もまた利用して、利用価値をお願いいたします。（「はい」と呼ぶ者あり）

○学校給食センター所長（伊藤勝徳君）

地産地消ということでありまして、地元の食料を第一に考えておりますけど、要望がありましたら給食センターは受け入れておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○当初予算審査特別委員長（牧徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

○10番（福留達也君）

すいません。歳入のところでちょっと聞き忘れていたもので、ちょっとだけ聞きたいと思ひますけど、明細書の26ページお願ひします。

明細書の26ページの下のほう、製パン加工賃となっておりますけれども、これはパンとかご飯とかそういった細かい、これ給食費の内訳だと思ひますけれども、例えば、小学生、町内全域で566名、中学生212名で、パンの場合は27.9円、米の場合はその下の段の26.4円とかなっておりますけれども、これ給食費ということですね。この設定すると、1食当たり27、30円弱、これは県内で何か基準があつてのこの設定ですか。この30、27.何円というのは。

○学校給食センター所長（伊藤勝徳君）

ただいまの質問にお答ひいたします。

この製パンと米飯の加工賃ですが、この様式の内容の金額等がこの範囲内で設定をされておりますので、毎年、小学校と中学校の生徒数は変動いたしますけど、ここにパンの場合は一週間に2回、ご飯の場合は一週間に3回ありますんで、通常、1年間190日を予定しております。この中の振り割になっております。

以上です。

○10番（福留達也君）

ですから、27円としているとか26円としている、それは何をもってこんなにしてはいるのですかということですか。

○学校給食センター所長（伊藤勝徳君）

すいません。これは単価基準を、単価を基準にしています。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

一般会計については全て終了いたしました。

これから、議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算を採決します。この採決は起立によって行います。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いします。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

起立多数です。したがって、議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算は、原案のとおり可決することに決定いたしました。

日程第2 議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算について議題とします。

補足説明があればこれを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算について、補足説明をいたします。

平成30年度から都道府県が財政運営の責任主体となり、市町村とともに国保の運営を担うようになって1年になります。診療等に係る医療給付費は、全額県から国庫補助金保険支出金をもとに交付金として各市町村へ入ってきますが、県国保特別会計の財源を担うため県が算出した標準保険料率に基づき、各市町村が医療費の動向や取得などに応じた保険料率を決定し収納対策に努め、県が決定した納付金を県に納めなければなりません。

平成30年度におきましては、医療費の給付状況や事業の取り組み状況、収納額や各交付金予算額の見込みなどから、一般会計からの法定外繰り入れは免れそうであり、また、31年度保険料率につきましても改定を行わずにスタートをさせる計画であります。

しかし、現在でも台風災害などの影響もあり、農業所得の伸び悩みがある中、納期内納付をお願いしておりますが、厳しい状況にあります。今後も納税に関する町民の理解と協力をいただき、収納率を向上させるとともに健診受診や糖尿病など重症化予防等に努め医療費の伸びを抑え、また、

重複頻回受診対策や第三者行為求償事業の推進など適正化事業に力を入れていく必要があります。

現在はばらつきがある保険料率も年次標準化が今後は予測される中、県内でも下位にある本町の保険料率ですが、今後保険料率は上げざるを得ず、こうした中、今後も国保財政のさらなる健全化に向け、国保会計の運営状況等に応じた適正な賦課徴収、収納率向上や保険者努力支援制度事業の推進等で歳入の確保、また、保健事業による特定健診受診者をふやし、疾病予防を図るとともに医療費の伸びを抑制するための医療費適正化対策の強化など、31年度におきましても、一層、赤字解消に向けた抜本的な対策を講じていき、職員共通理解のもと、運営協議会において活発な協議の上運営方針を決定し、先を見据えて改革推進を図っていきたいと思っております。

予算書1ページをお開きください。

平成31年度歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ対前年度比、当初比較4.1%増額の10億5,078万6,000円となっております。

まず、歳入につきまして、6ページお開きください。事業費明細書は1ページからになります。

1款国民健康保険税、対前年度比0.3%減となる1億642万8,000円、事業明細書は2ページ、2款一部負担金としては、診療費、個人負担分の徴収金として科目存置の1,000円、3款分担金及び負担金は、特定健康診査受診自己負担金という1,000円の自己負担を500円に減額したことにより前年度より約半額の34万円、4款使用料及び手数料は、国保税督促手数料として5万円減額の25万円、6款県支出金としては、1節普通交付金として、前年度比3.4%増額の7億9,586万円、2節特別交付金として保険者努力支援分が、前年度比45.8%増の490万4,000円、特別調整交付金市町村分が、前年度比68.5%増の3,457万1,000円、県繰入金2号分が、前年度比17.3%増の888万1,000円、特定健康診査等負担金が41.1%増の693万円、全体として8億5,114万6,000円となっております。

明細書は3ページ、8款財産収入は準備基金積立金利子として国保会計に2,000円を科目存置するものであり、10款繰入金は1節保険基盤安定繰入金として保険税軽減分が4.1%減の4,233万円、2節保険者支援分が、前年度比1.4%減の1,684万2,000円、3節職員給与費等繰入金として1.8%増の719万円、4節出産育児一時金繰入金として、前年度比6.3%減の420万円、5節財政安定化支援事業繰入金が、前年度比4.4%減の2,159万円となり、合わせて前年度比3.3%減の9,215万3,000円となっております。2項の基金繰入金は、基金繰入金伊仙を科目存置にするものであり、11款繰入金は前年度決算収支による次年度繰入金として1,000円を科目存置するものであり、明細書は4ページ、12款諸収入については、1項1目延滞金は延滞金加算金及び過料として一般保険者延滞金として45万4,000円を平成29年度決算ベースで計上し、退職被保険者の延滞金として1,000円を科目存置するものであり、2目加算金は一般及び退職者等加算金として1,000円を科目存置、3目過料については1,000円を科目存置、12款2項1目預金利子として1,000円を、3款自宅事業収入として1,000円を科目存置、4項雑入は1目滞納処分費として、5目と6目は一般と退職被保険者の第三者納付金として、7目と8目は一般、退職被保険者返納金として、12目雑入はその他雑入として1,000円を科目存置するものであります。

歳入合計は、前年度比4.1%増額の10億5,078万6,000円となっております。

歳出につきましては12ページ、事業費明細書は5ページからになります。

予算額や増減額の大きいものや事業内容に改正があったもの等について説明いたします。

1 款総務費 1 項総務管理費 1 目一般管理費 9 節旅費につきましては、30年度より県が財政運営主体となったことから、運営に当たって県内市町村が3部会に分かれ、年数回の会議への出席や担当課長の連絡会が年数回開催されます。離島の負担を考慮し、離島からの出席に関しては県に負担をいただいております。同目12節役務費の増額は、平成29年度まで国保連合会へ業務委託しておりましたが、30年度からは手数料として役務費に計上することから、13目委託料については減額となっております。2目国民健康保険団体連合会負担金については、収納対策アドバイザー経費負担金、新規計上である新医療費分析システム負担金他各負担金増により、前年度比18.5%増の106万1,000円となっております。

2 款保険給付費 1 項療養諸費につきましては、前年度比が、1 目一般被保険者療養給付費が0.9%減の6億3,600万円、被保険者数は減少していますが、前年度実績などにより、2目の退職被保険者等療養給付費は大幅増額の720万円、療養費や審査手数料についてはほぼ同額となっております。同款2項高額療養費につきましては、前年度比が、1 目一般被保険者高額療養費が20%増の1億4,400万円、2目退職被保険者等高額療養費も前年度実績より被保険者数が減少はしていますが、大幅増の300万円となっております。

予算書15ページ、事業費明細書は8ページになります。

3 款国民健康保険事業納付金 1 項医療給付費分については、県が示す算定額により、一般被保険者医療給付費が8%増額の1億3,789万4,000円、退職被保険者医療給付費分が大幅減額の14万1,000円となっております。同款2項後期高齢者支援金分、1 目一般被保険者後期高齢者支援金分が11.1%増額の5,020万5,000円、2目の退職被保険者等後期高齢者支援金等分は、大幅減額の5万1,000円となっております。同款3項1目介護納付金分については、前年度比12.2%増額の2,244万2,000円となっております。

次に、予算書16ページ、事業費明細書は8ページのままでありますが、6 款 1 項保健事業費 2 目疾病予防経費については、全体として13.4%の減の458万4,000円となっております。主には、7 節の賃金を前年度比39.6%減額し、13 節委託費を若年者検診や重症化予防対策に係る委託料として23.5%の増の261万9,000円としております。同款同項3目の医療費適正化対策経費については、全体として2.3%減額の523万2,000円となっておりますが、主には、保健師、看護師の重症化予防に係る7 節旅費を58万6,000円と増額し、13 節委託料についても重症化予防の観点から頸動脈エコー検査委託料を増額し、18万9,000円としております。また、18 節備品購入費につきましては、医療費等のデータ分析用に用いますパソコンを県内全市町村バージョンアップするために購入するものであります。同款2項1目特定健康診査等事業費は、前年度とほぼ同額の事業費を計上しております。

今年度の予算組みとしましては、特に高額療養費が一般、退職ともに増加していることから、さ

らに特定健康診査受診者をふやし、結果に応じた重症化予防や特定保健指導を効果的に実施できるよう、保健事業費等を計上しております。国保税収の収納率向上に努め、重複受診や第三者行為求償事務など医療費の適正化を図り、医療費の伸びの抑制に努めていきたいと考えております。

以上、国保特別会計当初予算について補足説明を終わります。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいま補足説明の議案第15号案について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算を採決します。この採決は起立によって行います。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いします。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

起立多数です。したがって、議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定いたしました。

ここでしばらく休憩します。

休憩 午前 11時24分

再開 午後 1時30分

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

休憩前に続きまして、会議を開きます。

日程第3 議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算について議題とします。

補足説明があればこれを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算について、補足説明をいたします。

現在、本町におきましては、平成30年度から高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画を推進

しております。

今年度は32年度策定予定の高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画策定に向け、実態調査や見直しを行います。

保険料につきましては、介護予防や重度化予防に力を入れ、適正化を図ることで、平成30年度から32年度まで基準額保険料を月6,200円と据え置きにしています。

今後も高齢者人口の伸びから介護給付費も増加が予想され、介護予防の充実や適正化に向けた取り組みなどを強化し、介護を必要としない介護度を重度化させない取り組みとして庁舎内の連携や体制強化、また今後も動向が懸念される認知症への予防と、その対応に関して認知症初期集中支援チームや認知症カフェなどの取り組みも推進していきます。

島内各町や医療・介護関係機関との連携を強化しつつ、また、予防重視の観点から介護予防の拠点となっているほーらい館での予防教室などの充実を図り、さらには地域の拠点づくりとしてサロン活動に力を入れ、地域創生推進交付金事業を活用し、地域包括ケア体制整備を強化し、地域の支え合いの拠点づくりや介護予防や健康増進の人材育成、体制強化を図っていきます。

課の改変により4月から新設された健康増進課や関係各部署機関と連携を強化し、地域包括ケアシステム充実を図り、安心して暮らせるまちづくりを目指すとともに介護保険事業の健全運営を図っていきます。

予算書は1ページをお開きください。

平成31年度歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ対前年度比0.9%減額の9億6,147万4,000円となっております。

予算書4ページ、事項別明細書をお開きください。明細書は1ページからになります。

歳入につきましては、対前年度の増減の主なものといたしまして、1款保険料1項介護保険料1目第1号被保険者保険料1節第1号被保険者保険料現年度分保険料特別徴収が前年度から402万7,000円の増額の1億1,689万1,000円、第1号被保険者保険料現年度普通徴収が前年度から374万9,000円減額の1,202万3,000円を計上し、滞納分については前年度から121万1,000円増額の134万7,000円を計上しています。ちなみに、平成31年2月28日現在の介護保険料徴収率は、前年度同規模と比較してほぼ微増の特別徴収が84.01%、普通徴収が60.73%、滞納分については0.64ポイント低い3.94%となっております。滞納分含め夜間徴収などを実施し、収納率向上に努力しています。

予算書6ページから7ページになりますが、事業費明細書は2ページから4ページになります。

2款国庫支出金1項国庫負担金1目介護給付費負担金の施設介護サービスが、前年度2.2%増の5,058万円となっておりますが、居宅介護サービスは、前年度比2.1%減額、同款2項国庫補助金のうち、1目調整交付金、3目、4目の地域支援事業交付金も減額となっており、3款支払基金交付金1目介護給付費交付金2目地域支援事業支援交付金及び4款県支出金1項県負担金と2項県補助金についても、介護給付費の削減効果もあり減額となっております。

5款繰入金1項一般会計繰入金につきましても、3目低所得者保険料軽減措置繰入金は、消費税

増税に伴う軽減措置対象がこれまでの第一段階から第三段階まで引き上げられたことにより、前年度より991万3,000円多い1,456万3,000円と大幅増額となっていますが、軽減分については交付金として入ってきます。その他の一般会計繰入金、介護保険料事務繰入金も減額になっております。

6款諸収入2項雑入において、新予防給付支援費として84万円を計上しています。

歳出につきましては、前年度と増額が大きいものと改正のあったものについて説明をいたします。予算書9ページ、明細書は5ページをお開きください。

1款総務費1項1目一般管理費については、地域包括ケア支援センターシステム保守委託料として13節に13万1,000円を、システムリース料として14節使用料及び賃借料に55万7,000円を計上しております。

予算書9ページから10ページになりますが、明細書は5ページから7ページになりますが、30年度の実績を鑑みまして、2款保険給付費1項介護サービス当初費については、前年度とほぼ同額を計上しております。

予算書11ページ、明細書は7ページから10ページになります。

2款保険給付費2項介護予防サービス等諸費1目介護予防サービス給付費については、総合事業の推進で介護認定を受けずにほーらい館などでの各教室や地域でのサロンへの参加者の増加などによる利用者の減少により、前年度比23.1%減額の1,000万円とするものであります。その他予防サービスについては、前年度と同額を計上しております。

予算書12ページお開きください。事業明細書は9ページをお開きください。

2款4項1目高額介護サービス費は、前年度実績より9.1%減の200万減額の2,000万円を計上しています。

続きまして、予算書13ページ、事業明細書は11ページになります。

3款地域支援事業費1項介護予防生活支援サービス事業1目サービス事業につきましては、前年度比31.7%減額の813万になっていますが、主なものとしましては、19節負担金補助及び交付金で通所介護負担金が20.6%減額の600万円に、訪問介護負担金が54.5%減の120万円などであります。利用者数の減少や各予防教室の利用の増もあり、落ち着いてきているようなところにもあります。

予算書13ページ、事業明細書11ページからになります。

3款地域支援事業2項一般介護予防事業費につきましては、前年度比43.5%増の1,189万8,000円となっております。ほーらい館で30年度まで地方創生推進交付金事業を活用して、いきいき教室とむっじらん園芸教室を開催しておりましたが、ここに係る事業費として、7節賃金98万円や8節報償費に84万円、12節役務費に34万2,000円を増額し、13節委託費でうりたわっきゃ教室、週につき2回分を減額にしております。さらに、14節使用料及び賃借料をほーらい館使用料として176万円を計上しております。

予算書14ページ、事業費明細書は13ページからになります。

3款地域支援事業費3項1目の総合相談事業費が、前年度比40.8%減額の365万3,000円を計上し

ていますが、主な理由としましては、7節賃金や9節旅費の減額、また、19節の負担金補助及び交付金におきまして、各協議会の負担金の減額等によるものです。同項4目任意事業につきましては、前年度比実績などにより、9%減額の854万4,000円を計上しています。また、5目在宅医療介護連携推進事業費と7目の認知症総合支援事業費においても、2目とも、現在、重点施策としまして取り組んでいますが、他町や関係機関、関連事業との連携等により、前年度事業費の歳出状況から減額としております。7目13節委託料のにこにこ認知症カフェ、委託料6万円につきましては、認知症介護の相談がふえる中、支える家族などへの支援として、30年度より試行的に始め、31年度より事業所へ委託して実施するものであります。

最後に、予算書15ページ、事業費明細書は15ページになりますが、5目生活支援体制整備事業につきましては、前年度比43.1%増の351万円を計上しています。平成30年度から地域包括支援センターにおいて、直営で生活支援コーディネーター2名を雇用し、地域サロンや区長、民生委員などと連携し、集落の要支援者、見守りなどに関するマップづくりや各地域サロンやほーらい館においての介護予防教室、認知症カフェの支援他、関連する高齢者の元気度アップポイント事業のグループ活動の支援などを行い、地域における独居高齢者などの困り事を地域で支え合う仕組みづくりを行っております。

こうした取り組みをさらに推進し、地域包括化システムの体制づくりを強化していきたいと考えています。

また、事業運営に当たり、健全運営を図るためにも財源確保としての保険料の徴収についても滞納対策含め努力していきたいと考えております。

以上で、介護保険に関する説明を終了します。御審議のほどよろしくお願ひ申し上げます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいま補足説明がありました議案第16号案について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

○10番（福留達也君）

今の課長の説明で、伊仙町の介護保険料の基準額が6,200円ですか、になっていると。今後も重度化を防ぐために介護予防策とか生活支援策を取り入れていっていると思うのですが、現在、伊仙町で行われているそういったいろんな教室とかサロンとか、そういったものの数はどれぐらいあるのか。また、それを、伊仙町は、そういった取り組みは県内でも先進的な取り組みをされていると評価されておりますけれども、そういった取り組みの現状というのかな、課題等何かあれば教えていただきたいと思ひます。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

ありがとうございます。予防教室に関しましては、ほーらい館のほうで4教室。あと、施設のほ

うにお願いしまして、認知症予防の教室を1教室お願いしています。あと、地域サロンに関しましては、あと2集落がまだちょっと動いていませんが、今24集落サロンを展開しております。ほとんどの集落がサロンも行っていますし、サロンを拠点にさっき申しました生活の困り事であったり、マップづくりとか、今後、防災とかその辺含めての体制のほうにも努めていけたらというふうに思っています。

あと、もう課題に関しましては、そうですね、伊仙町だけでなく、天城町、徳之島町もサロン活動に関しては活発に行われておりまして、総合事業が27年度から試行的に始まりましたが、その時点から徳之島3町ともにそういった取り組みに関しては、県内のほうでも進んでいるというふうに聞いております。

○10番（福留達也君）

本当にすごい取り組みを一生懸命やられているなど、いろんな評価もあるのだろうなと思っております。

ひとつまあこう言ったものは難しいとは思いますが、こういった取り組みというのは、要するに、サロンなり、いろんな教室なり、そういった人たちをこう出てきてもらって、そこでいろんな活動をしてもらって元気になっていくということだと思えるのですが、特殊な、特殊なというか、中にはそういったところに行きたがらない人というのもちろほらいると思うのですよ。また、そういった人たちはまだ若いというのかな、それほど年をとっていないときにはそれでもまたやっつけていける方がいると思うのだけれども、だんだんと年をとるにつれて1人で出たがらない人でも急激にこう落ちていくの、そういった人に対する対応は難しいと思うのですが、何か取り組み策とかそういったのを考えておりますか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

個々いろいろ考え方がありますが、なかなかそういう集団の教室とかサロンとかに参加しにくい方もいらっしゃると思います。そういった引きこもりじゃないですけども、そういった方々に関して元気でひとり暮らしでしたりとか、高齢者世帯とかそういうところに関しまして、地域での見守りというところで、今、元気度アップポイント事業を行っておりますが、1つは、ご自分たちの健康増進とかに含めての個人へのポイント、あとはグループポイントとしまして、3人、若い方も含めてなんですけども、3人以上でグループを組みまして、そういう声かけとか見守りとか、例えば、そういうひとり暮らしのもうごみを出せないとか、顔をのぞきながらごみ出しを手伝ってあげるとか、そういうところにポイントがついて商品券が返ってくるというようなところを、今、これは県内行っておりますけれども、そういった事業を今行い始めています。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

○5番（清 平二君）

明細書の12ページ、報償費がありますけれども、元気度アップ事業商品券、これは町負担なのか、

その事業の負担割合を教えてくださいたいと思います。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

個人ポイントにつきましては上額5,000円まで、先ほど申しましたグループポイントに関しましては、30年度は10万円、上限ということで実施しておりますが、この負担割は、県2分の1、町2分の1でございますが、事業費でして、商品券に関しましては100%県から下りています。

○5番（清平二君）

商品券については県から全額。今、グラウンドゴルフですか、盛んに行われていますけれども、非常に介護予防にいいと思いますけれども、こういうグループに商品券、この元気度アップ事業のポイントをあげているのかどうか。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

そういう声をいただきまして、そこに向けて少し動き始めて、まだ加算はしていないのですが、少し課題がありまして、ただ集まって運動されて健康増進につながっているのですけれども、例えば、他の集落で血圧測定をして健康管理チェックをした後にウォーキングをしたらポイントをつけるとか、そういったことをしてポイントをするところもありますし、ほーらい館の教室に関しても出向いて行って、血圧とか管理をしながら防ぐということに関しては1ポイントつけています。そういうことで、もう週に3回ぐらいでしょうか、多分、グラウンドゴルフされるかと思うのですけれども、その都度すると、上限がもう5,000円ですので、すぐ埋まってしまいますけれども、月1回とか週1回とかそういう形でもいいかということで、ちょっとその辺の調整をしようということで話を、たしか11月ぐらいに少し話があったのですが、それは進んでなくて、今年度、31年度に関してはそういった方向についても話し合いを持っていきたいと思っております。

○5番（清平二君）

やはり介護保険事業保険料を少なくするのだったら、やはり予防をしないとこれは保険料が下がりませんので、そういう予防にはぜひそういう経費を投資して参加者を多くするようにしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上で終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧徳久君）

ほかに質疑はございませんでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算を採決します。この採決は起立によって行います。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いします。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

起立多数です。したがって、議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定いたしました。

日程第4 議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算について議題とします。

補足説明があればこれを許します。

○保健福祉課長（澤佐和子君）

議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算について、補足説明をいたします。

後期高齢特別会計予算の編成に当たりましては、医療費の伸びも安定してきており、保険料の納付収納につきましても年々徴収収納率は上がっており、29年度は初めて不納欠損を行いました。滞納分につきましても調定額も減少しております。

しかし、全体的に見ますと、他地域より収納率がまだ低い状況にあります。今後も収納対策につきましては努力するとともに、後期高齢者医療保険被保険者の方々の健康増進を支援し、適正受診やまた重症化予防に努め地域包括支援センターや保健センターと連携を図り、予防を図るとともに医療機関や介護事業所などとも連携を図り、地域サロンやほーらい館での介護予防事業の活用促進や29年度から取り組んでいる保険事業も広域連合との連携を図りながら推進し、後期高齢者医療保険制度の円滑な運営に努めていきたいと考えております。

予算書をお開きください。

平成31年度歳入歳出予算総額は、歳入歳出それぞれ対前年度比3.6%、695万5,000円減額の1億8,195万3,000円となっております。

予算書4ページをお開きください。明細書は1ページになります。

歳入につきまして、1款後期高齢者医療保険料については、前年度比4.4%減の3,620万6,000円となっております。

2款1項後期高齢者医療費保険料1目特別徴収保険料につきましては、前年度比0.6%減の17万3,000円を減額し2,769万8,000円を計上、2目普通徴収保険料は、前年度比12.2%減の747万8,000円を減額して計上しております。2節滞納繰越分につきましては、前年度比21.6%減の28万3,000円を減額し103万円を計上しております。平成31年3月1日現在、前年度徴収率が特別徴収と普通徴収合わせて98.6%、滞納徴収率については、前年度より4.15ポイント減の40.25%となっております。

今後も収納率向上に努めてまいりたいと思っております。

3款繰入金につきましては、前年度比2.6%、382万5,000円減額の1億4,353万7,000円となっております。主なものとしましては、1項一般会計繰入金2目保険基盤安定繰入金が、前年度比2.4%、104万7,000円の減額の4,253万2,000円を計上し、3目療養給付費繰入金についても、前年度比2.7%、280万5,000円減額の9,954万9,000円となっております。

4款繰入金につきましては、前年度決算による一般会計からの繰入金を、余剰金は一般会計へ繰出しすることにより減額となっております。

5款諸収入につきましては、前年度比33.9%、113万2,000円減額の220万8,000円となっておりますが、主な理由は、4項受託収入において、平成30年度実施しましたいきいき教室委託事業費110万円を31年度は実施しないことによるものであり、2目要医療者等訪問指導事業費収入については、対象者増加により、前年度より19万7,000円増額の58万9,000円となっております。

歳出につきましては、増減が大きいものについて説明いたします。

予算書8ページ、事業費明細書は3ページからになります。

1款1項1目一般管理費におきましては、9節の訪問指導研修費費用弁償旅費の増加や、13節委託料において、電算室の補修委託料の増額により、前年度より7万2,000円増となっております。

2款1項1目後期高齢者医療広域連合納付金19節療養給付費は、280万5,000円、率にして2.7%減額の9,954万9,000円を計上し、保険基盤安定金安定負担金は、前年度比2.3%減の104万7,000円を減額して、4,253万2,000円を計上しております。被保険者保険料特別徴収については、前年度0.6%減の2,769万円、普通徴収分については12.2%減の747万9,000円を、滞納繰越分については収納対策に努めたことから、21.5%減額の103万1,000円を計上しています。

予算書9ページ、事業費明細書は4ページです。

3款1項健康保持増進事業においては、前年度比29.7%減額となっておりますが、主な理由としまして、4目平成30年度実施しましたいきいき教室を31年度は実施しないことにより110万円が減額になったことによるものであり、2目要医療者等訪問指導事業費収入につきましては、対象者増により、20万4,000円増額の60万2,000円を計上しております。

後期高齢者医療特別会計保険事業につきましても、ほーらい館や関係部署、関係団体と連携を図り、健康運動インストラクターや食生活改善推進員の方々の協力をいただき、31年度におきましても低栄養の改善や運動支援など予防に力を入れていき、医療費の抑制効果や元気高齢者の健康増進を図っていきたいと考えております。

以上で、後期高齢特別会計の補足説明を終わります。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいま補足説明がありました議案第17号案について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。この採決は起立によって行います。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

起立多数です。したがって、議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定いたしました。

日程第5 議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算について議題とします。

補足説明があればこれを許します。

○ほーらい館長（重村浩次君）

それでは、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計の予算説明を行います。

1 ページ目をお願いします。

第1条、歳入歳出予算額総額は、それぞれ1億3,778万9,000円と定めるものです。

2 ページ目をお願いします。

歳入、1款使用料及び手数料については、予算額4,565万2,000円で、主なものとして、会員、月会員、都度会員、文化施設の使用料です。

2款繰入金は、7,783万1,000円で運営繰入金の6,343万円と職員給与の1,440万1,000円になります。

4款諸収入については1,430万6,000円で、主なものとして、ショップの売り上げ、保健事業収入であります。

次に、歳出について、8ページ目をお願いいたします。

1款総務費1項総務管理費1目一般管理費の報酬の3,018万円については、嘱託職員13名分の給与になります。なお、賃金の796万6,000円については清掃スタッフ2名、スタッフ賃金3名分です。

8目報酬費については163万2,000円については、フリーインストラクター6名分でエアロスタートとヨガ等を行っております。9目旅費の83万6,000円については、運動指導者講習や運動指導者研修等の旅費になります。11需用費については5,656万円について、主なものは、燃料費、光熱費、

修繕費、また、給水施設についている使用代、衛生薬品代です。

予算に関する説明の9ページをお願いします。

13の委託料、運転管理費953万2,000円については、運転管理業務委託、高圧電流設備管理と浄化槽の委託料です。新しく今回設けました16原材料費については、今まで修繕費の中で組んでおりましたが、今回、原材料、浴室の蛇口とかシャワーとかああいうものは購入をして自分たちで買えるために原材料として新たに設けさせていただきました。

以上、御審議のほうよろしくお願ひいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明がありました議案第18号について質疑を行います。

○13番（樺山 一君）

平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計について、質疑をいたします。

予算書の6ページをお願いします。

款2繰入金項1繰入金目1繰入金、繰入金が7,783万1,000円、30年度当初と比較して1,236万6,000円増えております。そしてまた、使用料に関しては、484万1,000円減っております。このままいけば、来年も1,200万ふえたら、8,900万、9,000万、2年でいけばもう1億ですよ。この抜本的な解決方法を考えておりますか。お答え願ひます。

○ほーらい館長（重村浩次君）

やはりこの484万1,000円に関しては、会員の昨年度有料教室の子供たちのキッズダンス、それと天城町の30名、約60名の有料会員が減ったことによるものだと考えております。今後は、補正のほうでも言いましたけど、スタッフのスキルアップ、指導力を重点にしてよりよい教室をふやし、皆さんに魅力あるほーらい館をアピールできるように努力していきたいと思っております。

○13番（樺山 一君）

7,700万というのが、町民1人あたり1万円負担しているわけですよ。

最初、ほーらい館はオープン当初は正月の1日ぐらいの休みで年中無休、そしてそれから、週1回の月曜日休み、またそれから、10時までしていたのを9時まで時間の縮小、もう経費はこれ以上減らせない運営経費、減らせないのか、またその経費を減らす努力はしているのか。それからまた、民間委託等具体的に考えているのか、お願ひします。

○ほーらい館長（重村浩次君）

経費削減については、今ほーらい館、ご存じのとおり、10年目がたちましていろんな施設の故障等修理、また、交換等が余儀なくされているところでもあります。そういった中で、今、機械をそのまま入れかえをすると、1台何百万というポンプなどがかかりますので、それを毎日月曜日にメンテナンスしながら悪いものに関しては取り外して、やはり今2台で運営しているわけなのですが、それを1台外してメンテナンスを頼んで、1週間おきにそれを取りかえて交互運転をしている状況でございます。（「民間委託」と呼ぶ者あり）

○ほーらい館長（重村浩次君）

民間委託に関しましては、また、町長、総務課長と相談して、今後そちらのほうに向けて動けるような形を今模索中でございます。

○13番（樺山 一君）

古くなった施設をなかなか民間が引き受けてくれるのも難しいと思いますけれども、9ページの委託料、運転管理業務委託料763万円、これに関してはね、28年度703万7,000円、29年度709万8,000円、30年度749万8,000円、そして、31年度に関しては763万円、徐々に上がっています。これは、委託契約をしていると思いますが、どういう形の契約をしていますか。委託契約は。

○ほーらい館長（重村浩次君）

契約するときは見積書をいただいてしております。

○13番（樺山 一君）

何社からか見積もりをいただいてしていると理解してよろしいですか。

○ほーらい館長（重村浩次君）

はい。これは3社からしております。

○13番（樺山 一君）

これ29年度から30年度にかけて委託契約者が変わったと思いますが、そういうかわるときには、やはり値段的に安くしてもらおうとか、そういう方法をやはりしないとね、もう建設業はできないんですよ。向こうが見積もりを出すその言うとおりにしたら、ほーらい館はいつまで経ってももう負担金1億円入れても足りなくなりますよ。それよりね、ほーらい館を利用している人、そして、利用していない人、利用していない人から文句出ますよ、これ。偏った予算の使い方も1億円になれば、それよりは、もうみんなただにして町民全体でね、2億円ぐらい負担したほうがいいと思いますよ。それぐらいのやはり抜本的な改革を考えないと、町長、これ絶対一般財源からの繰り入れは来年もふえるし、もちろん再来年もふえるし、そういう抜本的な考え、町長にはないですか。お答えください。

○町長（大久保明君）

樺山 一議員もずっと利用しております。そういった中で、いろんな老朽化、そして、インストラクターを安定して雇用ができないとか、いろんな課題が出ておりますので、いよいよ10年経過いたしまして、運営審議会のほうでもあらゆる民間活力ということも重要でありますので、例えば、スイミングスクールは独立して、今成功しているような状況でありますので、ああいう形も含めて抜本的な改革ということはもちろん考えていかなければなりません。今まで以上にこのほーらい館の役割、例えば、隣の百葉に関しましては、民間委託という形で、本議会で追加提案する予定でございますけれども、そういった形の民間移管ができるだけの体力のある組織があるかないかも含めて検討していくことも重要であり、さらに内部においてこれこそ民間の会社の経営努力というものは、組織の中で公的機関というものは根本的に利益を上げて行こうという努力に関しては、ある意

味、聖域のようなやっつけられないというふうな感覚が潜在的にあるかもしれません。そういうところがやはり株式会社伊仙町という表現も過去に何回かやっつけまいりましたのでそういったことも含めて、そして、これは今全町民が参加するというふうな話がありましたので、そういった形でいかに町民上げてほ一らい館を運営するような気持ちで盛り上げていこうという気運を出していくことも重要であると思いますので、今すぐどのような改革をするかも含めて、これは、今、運営審議会がありますけれども、その組織も拡大、拡大というか、いろんな町民の意見を聞くような審議会とか、そのほ一らい館運営審議会の名称をほ一らい館経営改善委員会等の積極的な名称にもしてやっつけていくことがしなければならないと思っておりますので、今までこの当初は、ほ一らい館建設のときは、県からもかなり厳しい意見をいただきましたし、当時の議会でも今よりさらにもっともっと厳しい意見をいただいて、それを払拭するためにも営業活動はしてきた中で、経営が比較的安定した中で少しやはり経営に対する意識、認識が緩んできたことはあると思いますので、当初、開館、オープン当時の危機感とところ、ほ一らい館が、例えば、徳之島交流ひろばとなったことに満足した面もあるかもしれません。それは過去のことであって、これからはそういうふうなわけにはいかないと。今は10年たって老朽化したものをいかに維持管理していくかと、いかにまた新しいステップでリニューアルしていくかなども考えていかなければなりません。今、伊仙町の今後のまちづくりの中でほ一らい館周辺をさらに健康長寿の町として、そして、健康増進を推進していくと。厚労省の認定を受けた施設というのを余りない中で離島において受けたこともしっかりとその意味を考えながら新しいまちづくりの拠点、中心としてやっつけなければならないわけでありますので、今、まちづくりをこの委員会の中でも今度のエリアを中心としてどのようにしていくかということをしつかりと議論している状況でありますので、今日はこのような厳しい意見が出たことを感謝して取り組んでいかなければならないと思いますので、だから、全町民がほ一らい館をしっかりとどのようにしたら安定した設備ができるかをしていきたいと思うし、その都度、質問の中で職員の参加が少ないということもありました。それだけ重要な施設であり、誇れる施設でありますので、今まで以上に努力をして、今、指摘のあった課題を解決すべく取り組んでまいりたいと思います。

○13番（樺山 一君）

やはりほ一らい館は伊仙町で一番人が集まる場所です。しかし、繰入金で毎年1億になれば、やはり町民は人が集まる場所であっても納得いかなくなりますので、ぜひ繰入金がこれ以上ふえないように、また民間委託等ができて、民間活力を入れた形でできるよう検討して、来年はこのような指摘がされないようお願いいたします。

以上です。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんでしょうか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算を採決します。

この採決は起立によって行います。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

起立多数です。したがって、議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定しました。

日程第6 議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算について議題とします。

補足説明があればこれを許します。

○水道課長（福島隆也君）

議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算の補足説明をいたします。

予算書の1ページをお願いいたします。

歳入歳出予算、第1条、歳入歳出の総額それぞれ4億4,644万5,000円とするものでございます。

7ページをお願いします。明細書は1ページです。

歳入のほうからご説明いたします。

1款使用料及び手数料6,151万9,000円を計上しております。主に、水道使用料でございます。前年度比264万2,000円の増額を見込んでおります。

次に、2款国庫支出金9,100万を計上しております。これは、東部地区基幹改良事業の継続事業費と東部および西部地区の台帳整備事業に充てるものであります。

次に、3款繰入金9,412万2,000円を計上しております。前年度比に比べて904万1,000円の増になります。これにつきましては、一般会計の繰入金でございます。

8ページをお願いいたします。

6款町債目の辺地対策事業債及び公営企業債合わせて1億9,980万円を計上しております。前年度比3,630万円の減でございます。これにつきましては、基幹改良事業の減によるものです。

続きまして、9ページをお開きください。明細書は2ページでございます。

歳出についてご説明いたします。

1 款水道事業費 1 項一般管理費5,609万4,000円を計上しております。前年度に比べて1,266万増額になっております。これにつきましては、事業等に係る認可申請の委託料の増額によるものであります。

次に10ページをお願いいたします。明細書は2ページ、3ページになります。

2 項原水浄水費3,505万7,000円を計上しております。前年度比と比べまして49万6,000円の減額となっております。主に、11節需用費2,336万1,000円は電気代、薬品代、12節の役務費、835万1,000円は主に水質検査費でございます。

次に11ページをお願いします。明細書は3ページ、4ページになります。

3 項排水給水費577万3,000円を計上しております。前年度比は61万2,000円の増額になります。主に、11節の需要費、用水機取りかえ費用と公用車リース料になります。

次に、3 目東部地区基幹改良事業 2 億7,004万8,000円を計上しております。前年度比と比べて1億3,001万9,000円の減になります。この基幹改良事業費は31年度の終了年度、終了の事業であり、主に喜念地区及び中山地区を行う予定であります。

5 目、6 目の西部地区、東部地区の施設台帳整備費事業費、それぞれ200万円を計上しております。これは水道法改定により施設台帳の整備を行うことを義務づけようとする事による委託料でございます。

次に12ページをお願いします。

2 款公債費元利元金利子合わせて7,547万3,000円を計上しております。前年度比1,574万5,000円の増額をとなっております。

以上、簡易水道特別会計予算の補足説明を終わります。御審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明がありました議案第19号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算を採決します。この採決は起立によって行います。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

起立多数です。したがいまして、議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算は、原案のとおり可決することに決定いたしました。

日程第7 議案第20号、平成31年度伊仙町上水道特別会計予算について議題とします。

補足説明があればこれを許します。

○水道課長（福島隆也君）

議案第20号、平成31年度伊仙町上水道特別会計予算について補足説明いたします。

3ページをお願いいたします。事業明細書は1ページでございます。

収益的収入及び支出でございます。

まず、収入のほうからご説明いたします。

1款水道事業収益1項営業収益と営業外収益合わせて1億2,812万7,000円を予定しております。これにつきましては、主に、水道料金の収益と賦課会計からの負担金でございます。

次、支出についてご説明いたします。

明細書は2ページからになります。

1款水道事業費1項営業費用及び営業外費用を合わせて1億1,605万円の支出を予定しております。詳細は明細書にあるとおりであります。

主なものについてご説明いたします。

明細書は2ページ、2節の修繕費1,019万1,000円、主なものに、中部浄水場の活性炭入れかえ681万円、3節の動力費1,723万5,000円、これは主に電気代であります。

次に、4ページをお願いいたします。明細書は5ページになります。

資本的収入及び支出について。

まず、収入のほうからご説明いたします。

1款資本的収入1項の営業企業債と他会計出資金合計4,862万円を予定しております。他会計出資金については一般会計からの繰入金であります。

次に、支出についてご説明いたします。

明細書の6ページになります。

1款基本的支出1項建設改良費1目原水施設費1,000万円については、主なものに、中部ダムの整備工事費用に係るものであります。2目の排水施設費3,054万2,000円については、中部地区の排水管布設替え工事に充てるものでございます。2項の企業債還金1,207万8,000円については、排水管工事等の償還分でございます。

以上、御審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ただいまの補足説明がありました議案第20号について質疑を行います。

○5番（清 平二君）

今予算面じゃなくて、今伊仙町の水道の質といいますかね、やはり給水を、原水をきれいなところから持ってきて給水してほしいと思いますけれども、その辺のところの計画があるのかどうか、お尋ねします。

○水道課長（福島隆也君）

今計画というか、長期的な計画は私の頭の中にはありますけれども、何せ予算が伴うものでありますので、今やっている東部地区の配管改良の事業が終わり次第、何か策を練りたいと思っております。

○5番（清 平二君）

今、大体、町内に回しますと、水道水じゃなくて飲み水は購入してやっている世帯が大分あるんじゃないかなと思います。そういうことで、ぜひ早急に水道の質の向上に努めていただきたいと思っております。もうそろそろ排水、そういう工事は終わると思っておりますので、水道の質の向上を図るようにお願いしたいと思っておりますけど、町長はどうお考えでしょうか。

○町長（大久保明君）

島の水はカルシウムが多いと、これは本当メリットでもあります。ただ、やかんが詰まるとかそういうことであるし、マグネシウムが多いということも高く評価されております。その最大の要因は、地下水、地下水というか、泉、湧き水にあるわけです。今そういうものが完全に抜き去った飲料水が多く出ているというのは、それだけのきれいな、汚れていない水、しかもカルシウム、マグネシウム、鉄などが豊富にある水というのが理想だと思いますけれども、今購入している水にはそういうのはほとんどないわけですから、健康のことを考えた場合には、蒸留水もそれはあれだ、地下水じゃなくてもカルシウムは他の地域よりは多いわけですから、そこのところも含めて水質改善ということは重要であると思っております。だけど、いろんな台風等上回るときは、濁ったりすることがあっていろんな苦情も出てまいりますけど、今の東部地区の配管が終了したり、あとは中部浄水道などがさらにどんな台風が来てもきれいな水を供給できるような形をしていくということは重要でありますので、今課長が話したこの工事の終了次第、次の段階の中でいろいろ考えていると思っておりますので、そのことは時間かかるかもしれませんが、断行していきたいと思っております。

○5番（清 平二君）

やはり原水、とっている、地下水でとれば、その山手のほうで農業していたら、そこにやはり農薬、除草剤、そういうのも使われている。それが地下水となって入ってきて町民にそれをするというのがあるかもしれませんが、そういうのはあるのかないのかどうか、お尋ねします。（「水道課長、西部地区は地下水をウワナル川の水に変えたじゃないですか」と呼ぶ者あり）

○水道課長（福島隆也君）

西部地区に関しましては、もうほぼ杉原川と屋久田川の水を使っております。多少、足りないときに応援で川東ですか、川東の地下水を上げている状態であります。大分、水質的にはよくなったと思っております。これもまた改善していくようには持っていくようにまた計画は上げております。

○5番（清 平二君）

やはり私たち町民に安心して飲める水が第一だと思いますので、早目にそういう対策をとって、今それぞれが水を買っているのではなくて、水道水からおいしい水が飲めるような施策をしてほしいと思いますので、早目にそれができるようにお願いをして私の質問を終わります。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

ほかに質疑はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから、議案第20号、平成31年度伊仙町上水道会計予算を採決します。この採決は起立によって行います。

本案を、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

起立多数です。したがって、議案第20号、平成31年度伊仙町上水道会計予算は、原案のとおり可決することに決定いたしました。

これで、当特別委員会に付託されました7会計当初予算審査を全て終わりました。当特別委員会に付託されました7会計当初予算の審査結果と委員長報告については、伊仙町議会会議規則第77条の規定により、議長に提出いたします。

お諮りします。当特別委員会はこれをもって解散することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

異議なしと認めます。したがって、平成31年度伊仙町一般会計外6特別会計当初特別審査特別委員会は、本日をもって解散することに決定いたしました。

なお、次の議会は3月20日水曜日、午前9時より全員協議会、その後、最終本会議を行います。
お疲れさまでした。

閉 会 午後 2時35分

平成31年第 1 回伊仙町議会定例会

第 7 日

平成31年 3 月20日

平成31年第1回伊仙町議会定例会議事日程（第7号）

平成31年3月20日（水曜日） 午前10時53分 開議

1. 議事日程（第7号）

- 日程第1 議案第14号 平成31年度伊仙町一般会計予算（当初予算審査特別委員長報告～質疑～討論～起立採決）
- 日程第2 議案第15号 平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算（当初予算審査特別委員長報告～質疑～討論～起立採決）
- 日程第3 議案第16号 平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算（当初予算審査特別委員長報告～質疑～討論～起立採決）
- 日程第4 議案第17号 平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算（当初予算審査特別委員長報告～質疑～討論～起立採決）
- 日程第5 議案第18号 平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算（当初予算審査特別委員会委員長報告～質疑～討論～起立採決）
- 日程第6 議案第19号 平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算（当初予算審査特別委員長報告～質疑～討論～起立採決）
- 日程第7 議案第20号 平成31年度伊仙町上水道事業会計予算（当初予算審査特別委員長報告～質疑～討論～起立採決）
- 日程第8 議案第21号 30災第4号 前泊漁港沖防波堤災害復旧工事請負契約（提案理由～補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第9 議案第22号 30災第5号 鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事請負契約（提案理由～補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第10 議案第23号 徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定（提案理由～補足説明～質疑～討論～起立採決）
- 日程第11 議員の派遣について（採決）
- 日程第12 議会運営委員会の閉会中の所管事務調査の件
- 日程第13 常任委員会の閉会中の所管事務調査の件

1. 出席議員（13名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	杉山 肇 君	2番	牧本 和英 君
3番	西 彦 二 君	4番	佐田 元 君
5番	清 平 二 君	7番	牧 徳久 君
8番	上木 千恵造 君	9番	永田 誠 君
10番	福留 達也 君	11番	前 徹志 君
12番	明石 秀雄 君	13番	樺山 一 君
14番	美島 盛秀 君		

1. 欠席議員（1名）

6番 岡林 剛也 君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 穂 浩一 君 事務局書記 元原 克也 君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	大久保 明 君	副町長	稲 隆 仁 君
総務課長	池田 俊博 君	未来創生課長	久保 等 君
税務課長	名古 健二 君	町民生活課長	福司 銀二郎 君
保健福祉課長補佐	富山 勇生 君	経済課長	仲島 正敏 君
建設課長	松田 博樹 君	耕地課長	上木 正人 君
きゅらまち観光課長	佐藤 光利 君	水道課長補佐	徳永 正大 君
農委事務局長	元田 健視 君	教育 長	直 章一郎 君
教委総務課長	水本 斉 君	社会教育課長	稲田 良和 君
学校給セ所長	伊藤 勝徳 君	ほーらい館長	重村 浩次 君
選挙管理委員会書記長	喜 昭也 君	総務課長補佐	寶 永英樹 君

△開 会（開議） 午前10時53分

○議長（美島盛秀君）

ただいまから、本日の会議を開きます。

お諮りします。ただいま、伊仙町長から議案第21号、30災第4号、前泊漁港防波堤災害復旧工事請負契約、議案第22号、30災第5号、鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事請負契約、議案第23号、徳之島交流ひろば「農林水産直売所」の指定管理者の指定が提出されました。

これを日程に追加し、日程第8、日程第10までとして議題にしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

異議なしと認めます。

議案第21号、30災第4号、前泊漁港沖防波堤災害復旧工事請負契約、議案第22号、30災第5号、鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事請負契約、議案第23号、徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定を日程に追加し、日程第8から第10として議題とすることに決定しました。

- △ 日程第1 議案第14号 平成31年度伊仙町一般会計予算
- △ 日程第2 議案第15号 平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算
- △ 日程第3 議案第16号 平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算
- △ 日程第4 議案第17号 平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算
- △ 日程第5 議案第18号 平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算
- △ 日程第6 議案第19号 平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算
- △ 日程第7 議案第20号 平成31年度伊仙町上水道事業会計予算

○議長（美島盛秀君）

日程第1 議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算、日程第2 議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算、日程第3 議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算、日程第4 議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算、日程第5 議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算、日程第6 議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算、日程第7 議案第20号、平成31年度伊仙町上水道事業会計予算の7件を一括して議題とします。

本件について、当初予算審査特別委員長の報告を求めます。

○当初予算審査特別委員長（牧 徳久君）

平成31年度伊仙町一般会計予算他6特別会計当初予算審査特別委員会審査報告を申し上げます。審査期間といたしましては、平成31年3月11日から14日までの4日間に審議いたしました。

それでは申し上げます。去る3月7日の本会議において、当初予算審査特別委員会が設置され、

当該委員会へ「平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計予算」を付託し、3月11日から14日までの4日間審議いたしました。

まず、3月11日に行いました現地調査について、議員並びに議長を含む13名と事務局職員2名、執行部からは大久保町長が同行し、当初予算に関しまして、主に現地調査を要する箇所をあらかじめ選定し、担当課長始め担当職員から詳細な説明を受けました。

1件目は、一般会計における9款3項6目15節で計上されました。伊仙中学校校舎10号棟大規模改修工事請負費について調査を行いました。現在、10号棟にある特別教室の音楽室、技術室等が危険なため使用できず、多目的ホールを臨時に使用して授業を行っている現状であるとの説明がありました。平成30年度に実施しています校舎改修調査の結果報告があり次第、財政及び学校や生徒の意見を踏まえ、早急に改修工事か新築工事を実施し、従来通り特別教室での授業ができますよう要望いたします。

次に、7款2項5目15節伊仙馬根線道路照明整備工事請負費は、本年度に7基を予定しているとの説明でありましたが、健康増進のため多くの町民が夜間のウォーキングコースとして利用していること等を考慮し、JAあまみ伊仙支所までの早期完成が図られますよう、切に要望いたします。

次に、7款5項1目15節義名山運動公園管理棟改修工事請負費について、義名山運動公園利用者の利便性確保のため利用者の意見も聞きながら、利用しやすい管理棟の改修を要望いたします。

次に5款2項2目19節、県営畑総事業第二面縄2期地区町負担金について、埋蔵文化財調査や客土、サンゴ礁破碎等で事業費が増加しているとの説明がありました。また本地区は、丘陵地のため山成り工法が取り入れられ、3段法面と極端に高台となっている農地もあり、防風などの対策上、受益者から苦情もあり、受益者分担金の滞納につながっているとの指摘もありました。工事費増大等との関係もあるとは思いますが、受益者の意向も考慮していただくことと、大雨などの豪雨時に下流域が被災しないよう排水流末の分散対策も要望いたします。

次に、5款2項1目15節県営畑総事業目手久地区の排水路工事について、県と町の連携不足により、排水路にコンクリート側溝を設置せず土側溝のまま事業を完了したことが要因のようですが、今後は連携を密にしまして、大雨で圃場が流出してから町単独事業などで排水路工事をするようなことがないよう要望いたします。

次に、7款2項6目15節、第2鹿浦橋橋梁上部工について、平成31年度末で完成し、共用できるとの説明でありました。架橋の早期完成と台風時の流出対策、あわせまして昨年も要望いたしましたが、工事現場出入り口に漁業者等の利用者に事業期間と進捗状況を周知するため、立て看板を設置する要望をいたします。

次に、本町における歳入状況については、地方交付税及び国・県支出金など財源に依存する構成となっており、歳入を占める自主財源の割合についてはわずかなことから、非常に厳しい財政状況の中で財政運営を強いられることが推測される中で、平成33年度の国営徳之島用水事業町負担金償還を始め、多額の公債償還は町財政を圧迫するものでありますが、平成32年度に予定されておしま

す伊仙町役場庁舎新築は急務であり、先延ばしをせず、本年度から着実な実施に向けての財源確保と庁舎の建設場所を含め、高齢者やバリアフリー対策など利便性を重視し、町民のニーズに応えた庁舎建設計画の策定を要望いたします。また、老朽化した小規模小学校、体育館の改修も急務であり、児童生徒が安全・安心して過ごせる教育環境整備のため、年次計画を策定し、順次進めていきたい。

その他にも、各集落公民館など老朽施設、道水路の改善等を着実に進めるとともに、財政調整基金並びに減債基金の積み立てが重要となってまいります。不要不急な事業の実施は控え、優先順位をつけ峻別し、事業完了とともに効果検証作業を行うことが重要であり、また度重なる災害等の非常時に備えた堅実な財政運営を行うことが重要であります。また、年々上昇する経常収支比率に対しまして、人口減少からなる地方交付税や地方税などの減収を勘案し、目下の財源確保の方策として、ふるさと納税のさらなる宣伝や周知活動の徹底、地方創生推進関連予算の獲得と各種税、負担金、使用料の徴収率向上を目指すとともに、施政方針にもありますようにコスト意識を持ちながら職員一人一人が事業の緊急性、必要性を考慮し、職務を遂行することが大切であります。

また、今後の健全財政に向けては町執行部と議会が車の両輪となり、率先して取り組むことが重要であります。

以上、当特別委員会の財政の安定化に向けた見解と本町の財政状況を踏まえて、当初予算に関する審査を行いましたので、順次ご報告と要望を申し上げます。

3月12日から14日の3日間、本議事堂内で実施されました当初予算審査特別委員会質疑の詳細についてご報告を申し上げます。

まず、議案第14号、平成31年度一般会計予算の歳入について、町税につきましては3億1,154万3,000円、対前年比167万8,000円の増額でございます。地方交付税におきましては31億1,879万1,000円、対前年比7,436万2,000円の減額でございます。国庫支出金8億4,268万1,000円、対前年比1億540万6,000円の増額でございます。県支出金5億4,360万8,000円、対前年比2,036万8,000円の増額と昨年度より増額されており、財政調整基金繰入金は9,263万2,000円、対前年比1億745万6,000円の減額となっております。町債においても5億2,317万2,000円、対前年比3億2,222万8,000円減額されており、昨年度より改善が見られます。

町税、分担金、使用料は貴重な自主財源でございますので、引き続き、適正な所得申告の推進や徴収の強化が図られますよう要望いたします。

次に、ぎばらでい伊仙応援寄附金については、PR活動の強化や返礼記念品の充実を図るとともに、お礼状の工夫等を行い、次回への寄附にもつながるよう要望いたします。

次に、歳出であります。総務課関係については職員定数が増加傾向に見えますが、職員のスキルアップを行い、集中改革プラン目標の140人規模の職員定数管理が期待できるよう要望いたします。

未来創生課関係については、さきにも述べましたが、地方創生推進交付金や「ぎばらでい伊仙応援寄附金・企業版ふるさと寄附金」を確保し、施政方針に示された常総性関連事業の推進を図り、

町の活性化を目指すこと。地域おこし協力隊については、町民への活動状況を広く周知することや協力隊員が活動成果を上げ、3年後は本町に定住し、さらには充実した活動が展開できるよう要望いたします。

次に、保健福祉課関係について、平成31年度、課の再編を契機に、さらなる町民福祉の向上に努め、子育て世代や障がいを持った方、介護を要する方の家族が安心して生活できるようサポート体制の充実を要望いたします。

次に、町民生活課について、2020年度のへき地保育所の廃止に伴う保育士の就職確保を要望いたします。

また、へき地保育園児の受け皿となる東部地区認可保育園が、確実に2020年度に開園できますよう要望するとともに、保護者のニーズに対応できるよう幼稚園児の預かり保育の充実や延長保育、認定こども園設置なども要望いたします。

次に、きゅらまち観光課関係について、本年度に予定されております世界自然遺産登録に向けて、エコツアーガイド育成はもちろんでございますが、増加が見込まれる観光客に対応できる国・県、徳之島3町、観光協会、NPO等などの関係機関とも十分協議を重ね、野猫対策や外来植物の排除、空き缶のポイ捨て、不法投棄問題を喫緊の課題と捉え、町民への周知徹底を要望申し上げます。

徳之島愛ランド広域連合のごみ焼却施設は、耐用年数の15年が過ぎましたが、毎年度修繕費を計上し、現焼却施設の延命を行いながら当分は運用するようですが、燃料費などのコスト削減のため、さらなるごみの減量化とリサイクルの確立を目指すとともに島民の意識改革を樹立させ、焼却施設建設基金積み立てができますよう要望申し上げます。

次に、経済課関係について、昨年度も要望いたしましたが、松くい虫駆除委託については、通学路である町道や農道沿いに枯れた松が多数あり、倒木による事故が懸念されますので、倒木による事故がないよう関係各課が連携し、安全を確保していただきたい。

産地パワーアップ補助金につきましては、南西糖業施設整備の他にもさまざまな補助メニューがありますので、課の体制を強化し補助金の獲得を検討することが望ましいと思われます。

平成30年度に問題のあった離島漁業再生支援事業を、平成31年度も引き続き実施するには、本事業の事務を漁業集落組合員側で責任を持って遂行できるよう指導することや、不適正な事案が発生しないよう注意喚起することを要望申し上げます。

次に、平成30年度より始まりました農業支援センターについても、事業費に見合った充実した農業指導体制構築を要望いたします。

次に、耕地課関係について、農業基盤整備事業に関しましては、同意取得等の問題で厳しい状況と思われますが、農業基盤整備は農業振興に欠かせないものでありますので、受益農家の要望や意見を最大限に取り入れながら、積極的に事業推進されるよう要望申し上げます。

次に、建設課関係については、道路、水路の改善等のインフラ整備や港湾、漁港の整備、住宅の建設を進め、町民の利便性向上に資するとともに、県委託の県道管理作業はもちろん、町道の維持

管理作業も同時並行に実施するよう強く要望いたします。

次に、教育委員会関係について、老朽化し危険な小規模校の喜念、鹿浦、馬根、阿権小学校や体育館の建てかえが急務と考えますので、建てかえ計画を策定し、順次建設を進めることと、学力向上のためIT環境整備を始めとした教育環境の整備充実と教育予算の確保を要望いたします。

次に、ほーらい館関係について、歳入面では会員数が伸び悩み、（昨年より）町からの繰入金那年々増加していますので、教室の充実等で会員をふやす工夫と、歳出面では、今後施設の老朽化と更なる維持管理費の増大が予想されますので、日常の保守点検、細部にわたるコスト削減を図り、繰入金を減らす経営を目指すことや民間委託等について利用者などの意見も拝聴しながら、ほーらい館運営審議会で検討し、早急な経営改善が望まれるものと思われま。

6 特別会計予算への一般会計繰入金を見ますと、対前年度比減となっておりますが、今年度も各特別会計においては一般会計からの多額の繰入金計上されております。また、各種運営補助金も運営状況を精査し見直しを検討することなど、引き続き負担金・補助金の事業実績に応じた見直し、徴収徹底とコスト削減を要望申し上げます。審査の結果、平成31年度伊仙町一般会計予算他6特別会計予算は、原案可決すべきものと決定いたしました。指摘事項や要望事項は、毎年同事案であり検証する必要があります。

本年度は、以上の要望を踏まえて改善され、来年度は同じ要望が繰り返されないよう申し添えまして、当委員会に付託されました平成31年度伊仙町一般会計予算他6特別会計予算について、審査結果報告といたします。

平成31年3月20日、平成31年度伊仙町一般会計他6特別会計、予算審査特別委員会委員長、牧徳久。

終わります。

○議長（美島盛秀君）

これで委員長報告を終わります。

これから、議案第14号の委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

この採決は起立によって行います。

議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算は委員長の報告のとおり決定するこ

とに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第14号、平成31年度伊仙町一般会計予算は委員長の報告のとおり原案可決することに決定しました。

これから、議案第15号の委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

この採決は起立によって行います。

議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算に対する委員長の報告は原案可決です。お諮りします。議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第15号、平成31年度伊仙町国民健康保険特別会計予算は委員長の報告のとおり原案可決することに決定しました。

これから、議案第16号の委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

この採決は起立によって行います。

議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算に対する委員長の報告は原案可決です。お諮りします。議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第16号、平成31年度伊仙町介護保険特別会計予算は委員長の報告のとおり原案可決することに決定しました。

これから、議案第17号の委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

この採決は起立によって行います。

議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算は報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第17号、平成31年度伊仙町後期高齢者医療特別会計予算は委員長の報告のとおり原案可決することに決定しました。

これから、議案第18号の委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

この採決は起立によって行います。

議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって議案第18号、平成31年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計予算は委員長の報告のとおり原案可決することに決定しました。

これから、議案第19号の委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

この採決は起立によって行います。

議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第19号、平成31年度伊仙町簡易水道特別会計予算は委員長の報告のとおり原案可決することに決定しました。

これから、議案第20号の委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

この採決は起立によって行います。

議案第20号、平成31年度伊仙町上水道事業会計予算に対する委員長の報告は原案可決です。

お諮りします。議案第20号、平成31年度伊仙町上水道事業会計予算は委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第20号、平成31年度伊仙町上水道事業会計予算は委員長の報告

のとおり原案可決することに決定しました。

△ 日程第8 議案第21号 30災第4号前泊漁港沖防波堤災害復旧工事請負契約

○議長（美島盛秀君）

日程第8 議案第21号、30災第4号前泊漁港沖防波堤災害復旧工事請負契約を議題とします。
提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

おはようございます。平成31年度第1回伊仙町議会定例会追加提案いたしました議案につきまして、提案理由の説明をいたします。

議案第21号は、30災第4号前泊漁港沖防波堤災害復旧工事の請負契約を締結いたしたく、地方自治法第96条第1項第5号並びに議会の議決に付すべく契約及び財産の取得または処遇に関する条例第2条の規定により議会の議決を求めます。

ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

議案第21号について、補足説明があればこれを許します。

○建設課長（松田博樹君）

追加議案第21号について、補足説明をいたします。

台風24号の波浪により被災した上部ブロック及び消波ブロック等を原型復旧する工事となります。

工事名、30災第4号前泊漁港沖防波堤災害復旧工事。

工事場所、大島郡伊仙町犬田布地区。

請負金額、1億4,999万400円。

契約相手、大島郡徳之島町亀津5150番地、洩上建設工業株式会社、代表取締役、洩上平八郎となります。

ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

議案第21号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、議案第21号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第21号、30災第4号前泊漁港沖防波堤災害復旧工事請負契約を採決します。この

採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を可決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第21号、30災第4号前泊漁港沖防波堤災害復旧工事請負契約は可決することに決定しました。

△ 日程第9 議案第22号 30災第5号鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事請負契約

○議長（美島盛秀君）

日程第9 議案第22号、30災第5号鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事請負契約を議題とします。提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第22号は、30災第5号鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事の請負契約を締結いたしたく、地方自治法第96条第1項第5号並びに議会の議決に付すべく契約及び財産の取得または処遇に関する条例第2条の規定により議会の議決を求めます。

ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

議案第22号について、補足説明があればこれを許します。

○建設課長（松田博樹君）

追加議案第22号について、補足説明いたします。

台風24号の波浪により被災した昭和ブロックの飛散、破損等を原型復旧する工事となります。

工事名、30災第5号鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事。

工事場所、大島郡伊仙町阿権地内。

請負金額、1億746万円。

契約相手、奄美市名瀬小俣町29番地25号、竹山建設株式会社、代表取締役、竹山博昭となります。

ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

議案第22号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、議案第22号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第22号、30災第5号鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事請負契約を採決します。この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を可決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第22号、30災第5号鹿浦港防波堤（西）災害復旧工事請負契約は可決することに決定しました。

ここでしばらく休憩します。1時から開会します、全員協議会。

休憩 午前11時33分

再開 午後 4時00分

○議長（美島盛秀君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

△ 日程第10 議案第23号 徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定

○議長（美島盛秀君）

日程第10 議案第23号、徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

議案第23号は、徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定について、伊仙町公の施設における指定管理者の指定の手續等に関する条例第4条の規定により提案してあります。

ご審議賜りますようお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

議案第23号、徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定について、補足説明があればこれを許します。

○経済課長（仲島正敏君）

追加議案第23号につきまして、補足説明を行います。

- 1、施設名、徳之島交流ひろば農林水産物直売所。
- 2、団体名所在地、鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1405。
名称、徳之島ビジョン株式会社。
代表者、三須久。

指定期間、平成31年4月1日から平成36年3月31日までになります。

ご審議賜りますようお願いいたします。

○副町長（稲 隆仁君）

ただいまの仮基本協定書の指定でありますけれども、仮基本協定書の条文にお手元に配付してあります指定管理を行うにあたって、「乙は家賃、車両代その他指定管理業務を遂行するに乙が負担すべきものについて、甲乙は事前に十分協議をし適切な処理を行うものとする。もしくは同家賃、車両代は乙の負担とし、その価格は甲乙事前に十分協議をし決定するものとする」という条文を付け加えて本基本協定書としたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（美島盛秀君）

議案第23号について質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、議案第23号について討論を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第23号、徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定を採決します。この採決は起立によって行います。

お諮りします。本案を可決することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（美島盛秀君）

起立多数です。したがって、議案第23号、徳之島交流ひろば「農林水産物直売所」の指定管理者の指定は可決することに決定しました。

△ 日程第11 議員の派遣について

○議長（美島盛秀君）

日程第11 議員の派遣について議題とします。

お諮りします。議員の派遣について、お手元に配付してあります議員派遣予定表のとおり議員を派遣したいと思っておりますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

異議なしと認めます。

したがって、議員の派遣については議員派遣予定表のとおり、議員を派遣することに決定しまし

た。

△ 日程第12 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件

○議長（美島盛秀君）

日程第12 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件を議題とします。議会運営委員長から会議規則第75条の規定により、お手元に配りました本会議の会期日程等、議会の運営に関する事項について、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

異議なしと認めます。

したがって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査をすることに決定しました。

△ 日程第13 常任委員会の閉会中の所管事務調査の件

○議長（美島盛秀君）

日程第13 常任委員会の閉会中の所管事務調査の件を議題とします。総務文教常任委員長、経済建設常任委員長から伊仙町議会会議規則第75条の規定により、お手元に配りました所管事務調査事項について、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（美島盛秀君）

異議なしと認めます。

したがって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

これで、本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

平成31年第1回伊仙町議会定例会を閉会します。お疲れさまでした。

閉 会 午後 4時07分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

伊仙町議会議長 美 島 盛 秀

伊仙町議会議員 牧 本 和 英

伊仙町議会議員 西 彦 二